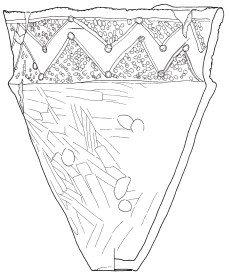
市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第25集

上総国分寺台遺跡調査報告XXⅢ

市原市天神台遺跡Ⅰ

（本文篇１）



２０１３

市 原 市 教 育 委 員 会



住居跡内の貝層（セ28地区）



大型の住居跡・33号住居跡（セ28地区）



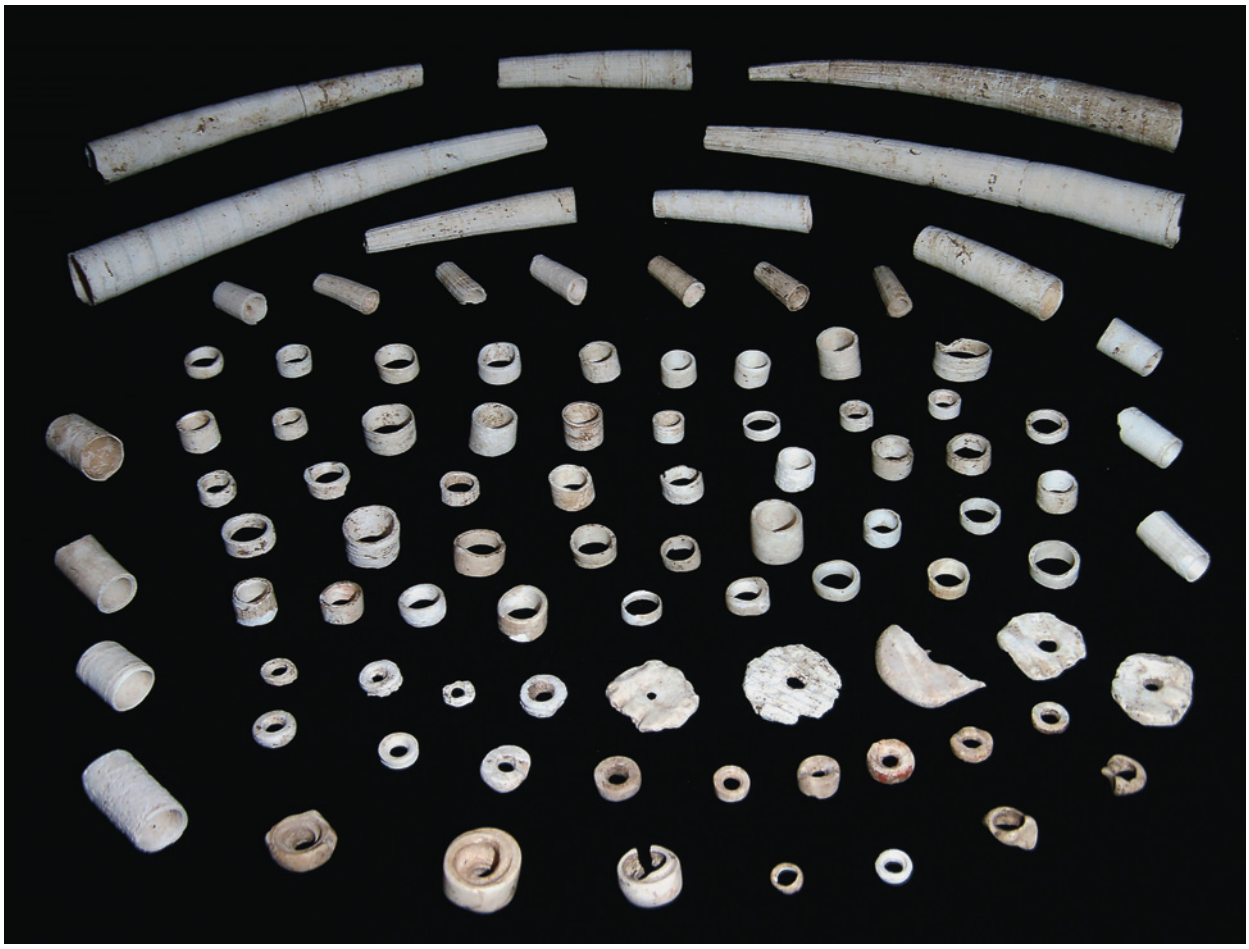
遺構出土の主要土器（早期後葉）



遺構出土の主要土器（前期前葉）



主要剥片石器類



貝塚出土の貝製品

序　　文

温暖な気候に恵まれた房総半島には、古来より多くの人々が暮らしてきました。その中央に位置する市原の地にも、豊かな森と養老川や海がもたらす大自然の恵みを求めて、たくさんの人々が集い、先人たちのその営みの痕跡は遺跡となっていまも市内各地に残されています。とくに、上総国分寺跡を擁するここ国分寺台の地には、西広貝塚・神門古墳群・稲荷台１号墳など、全国にその名が知られる遺跡が数多くあり、文化や政治の中心地としての役割を担ってきました。

そして現在、この地は市内屈指の大きな街として生まれ変わり、市原の中心地の一つとしてその歩みを続けています。街づくりの過程では、貴重な文化財を記録として後世に伝えるため、長い年月をかけた遺跡発掘調査がおこなわれ、その成果をまとめる作業は今も続けられています。

ここに報告する「天神台遺跡」は、国分寺台にあった遺跡の中でもとくに規模が大きく、時代や内容も多岐にわたる複合遺跡です。今回はそのうちの縄文時代に焦点をあて、その内容を記録しました。舞台はおよそ七千年前、気候が今より温暖で海はずっと内陸地まで入り込んでいた時代です。ここに残された市内最古・唯一の縄文早期貝塚は、この地で初めて海と関わりをもった人びとの生活の証です。縄文のムラとここから出土した数々の遺物の記録が、学術的な資料としてはもとより、市民の方々に広く活用され、市原の歴史の一つとしてずっと伝えられていくことを願ってやみません。

また、遺跡の発掘調査から報告書刊行にいたるまで、多大なご尽力をいただきました文化庁、千葉県教育庁、旧市原市国分寺台土地区画整理組合、旧上総国分寺台遺跡調査会をはじめとする関係各位に対しまして、深く感謝の意を表します。

平成25年２月

市原市教育委員会

教育長　白鳥秀幸

例　　言

1　本書は、国分寺台地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書の第25集である。

2　本書は、千葉県市原市村上1018番地他、村上902番地他、西広895番地他、村上字諏訪台1662番地他などに所在した天神台遺跡の発掘報告書である。

3　本書には、昭和49（1974）年から昭和63（1988）年まで13次にわたる調査の記録を所収した。
本遺跡は、全体の発掘調査面積が146,890㎡におよぶ、広大な範囲内に所在する縄文時代から中・近世までの複合遺跡である。遺跡名称については、最上層に位置する古墳群に対し「諏訪台古墳群」と呼称し、その下位に位置する縄文、弥生、古墳、奈良・平安、中世などの集落関係のものについては「天神台遺跡」として区別した。今回は、天神台遺跡のうちの下層、縄文時代の遺構・遺物などをとりあげ、「Ⅰ」として報告する。したがって、上層の遺構・遺物については「Ⅱ」で、古墳群とそれ以前・以後の墓関係については諏訪台古墳群としてそれぞれまとめて報告する予定である。

4　発掘調査は、市原市教育委員会の委託を受け、千葉県教育委員会・市原市教育委員会の指導の下、上総国分寺台遺跡調査会、財団法人市原市文化財センターが実施した。各調査の調査年、面積、担当者等は別表のとおりである。

5　整理・報告事業は、市原市教育委員会・埋蔵文化財調査センターが実施した。期間、担当者は次のとおりである。
平成18年４月１日～平成20年３月31日　浅利幸一（図面・遺物の基礎整理、貝層サンプルの水洗、内容物の分類・集計等）
平成20年４月１日～平成25年３月31日　忍澤成視

6　本書の執筆・編集は、忍澤成視がおこなった。なお、貝塚検出の微小貝類の一部については、千葉県立中央博物館黒住耐二氏に分析を依頼し、第３章第６節を執筆いただいた。貝塚検出の魚類・動物骨類については、東京国立博物館特別研究員金子浩昌氏に分析を依頼し、第３章７節を執筆いただいた。埋葬人骨については、聖マリアンナ大学解剖学教室平田和明氏・長岡朋人氏・筑波大学大学院人文科学研究科清家大樹氏に分析を依頼し、第３章第８節を執筆いただいた。石器石材および礫類の肉眼鑑定を、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、分析結果を同社が第４章第４節（１）に執筆した。石器石材の黒曜石については、明治大学黒耀石研究センター池谷信之氏に産地分析を依頼し、第４章第４節（２）を執筆いただいた。これらに関する図面・表などの一部については忍澤が作成、または改変した。魚類骨の基礎的な分類・同定については、忍澤と鶴岡英一がおこなった。

7　本書は、本文篇１（１・２章）、本文篇２（３・４・５章）、写真図版篇の３分冊からなる。

8　本書に掲載した出土遺物および図面・写真等の記録類は、市原市教育委員会埋蔵文化財調査センターで収蔵・保管している。

9　整理・報告書作成において、以下の方々にご指導・ご協力を賜った。記して謝意を表します。
池谷信之、小笠原永隆、大内千年、金子浩昌、上森秀明、黒住耐二、清家大樹、長岡朋人、西川博孝、西野雅人、早坂廣人、平田和明、廣田吉三郎、領塚正浩（五十音順）

●諏訪台古墳群・天神台遺跡調査一覧

調査年度		調査区呼称	調査面積（㎡）	主な検出遺構	文献	調査担当者
1974	昭和49	ＳＷ74	1,900	縄文：（早期）炉穴９ 弥生～古墳：住居11 古墳：方墳１・円墳１・前方後円墳１・造出し付円墳１	国分寺台調査概報1975	須田　勉 田中新史
1974	昭和49	ＴＪ	18,700	縄文：（早期）炉穴13 弥生～古墳：住居161（内84弥生）、方形周溝墓３ 古墳：方墳10	国分寺台調査概報1975	平野元三郎 谷島一馬 對島郁夫
1979	昭和54	ＳＷ79	890	縄文：（早期）炉穴15・陥穴２ 弥生～古墳：住居32 古墳：（前期）前方後方墳１	国分寺台調査概報1980	田中新史
1980	昭和55	ＳＷ80	19,700 地形測量 6,500	縄文：（早期）炉穴13、（前期）住居４ 弥生：住居１ 古墳：方墳10・円墳１　地形測量・確認調査（９・10・11号墳） 中・近世：塚１	国分寺台調査概報1981	深沢克友 白井久美子 早稲田大学 考古学研究室
1981	昭和56	ＳＷ81	2,200	古墳：方墳６	国分寺台調査概報1982	白井久美子 長沼律朗
1982	昭和57	064	6,000	縄文：（早期）炉穴 弥生～古墳：住居110、木棺墓 古墳：方墳３、円墳３ 中世：地下式土壙、地下式壙		長沼律朗 石坂俊郎 半田堅三
1982・1983	昭和57・58	099	13,800	縄文：（早期）陥穴５・炉穴40＋、（前期）住居17 弥生：（中期）方形周溝墓20・住居１、（後期）方形周溝墓12		浅利幸一 鈴木英啓
			30,200	弥生～古墳：住居140 古墳：（前期）方墳５、（後期～終末）円墳10・前方後円墳３・前方後方墳２・方墳14 奈良・平安：方形周溝状遺構35、木棺墓・土壙墓・地下式改葬墓・地下式壙	（財）文化財センター年報57・58年度	浅利幸一 鈴木英啓 高橋康男
1983	昭和58	ＳＷ83	4,100	縄文：（早期）炉穴４ 古墳：（終末期）方墳６・前方後方墳１	国分寺台調査概報XⅡ1984	米田耕之助 半田堅三
1985	昭和60		12,000	古墳：住居４・土壙墓・溝 古墳：（終末期）前方後方墳１・方墳14		須田　勉
1985・1986	昭和61・62	セ28	20,000	縄文：（早期）住居11・炉穴362・陥穴２・地点貝塚23・人骨１、（前期）住居６ 弥生：（中期）方形周溝墓23、（後期）方形周溝墓２ 古墳：（前期）方形周溝墓18・前方後方墳１、（後期～終末期）円墳14・前方後円墳５・方墳７ 奈良・平安：方形周溝状遺構14・住居13・掘立柱建物跡14・井戸３・木棺墓・土壙墓・地下式改葬墓・地下式土壙	（財）文化財センター年報60・61年度	浅利幸一 田所　真 米田耕之助 高橋康男
1987	昭和62	セ54	12,300	縄文：（早～前期）炉穴９・住居13・陥穴11・土壙36 弥生：（中期）方形周溝墓７ 古墳：（終末期）方墳21・前方後方墳１ 奈良・平安：方形周溝状遺構８・地下式改葬墓１・土壙墓・地下式土壙	（財）文化財センター年報62年度	清藤一順 宮本敬一 加藤正信 高橋康男 木對和紀 浅利幸一
1988	昭和63	セ72	2,000	縄文：（早期）住居３・炉穴43・土坑５・地点貝塚10 弥生：（後期）住居１・方形周溝墓３ 弥生～古墳：墳墓６ 古墳：（前期）前方後方墳１・方墳１・土壙墓５ 奈良・平安：地下式土壙墓２ 中・近世：土坑16・井戸１・土壙14	（財）文化財センター年報63年度	加藤正信
1988	昭和63	セ73	3,100	縄文：（早期）住居２・炉穴14・土坑５ 弥生：（後期）住居２ 古墳：（前期）前方後方墳１、（後期）方墳４・前方後方墳１・木棺墓・土壙墓14 奈良・平安：住居１ 中・近世：溝４・土壙墓１	（財）文化財センター年報63年度	宮本敬一
			計　146,890			

凡　　例

1　本書で使用した図面の方位は、すべて座標北であり、日本測地系による。

2　本遺跡の水準は、すべて海抜高である。

3　遺構実測図の縮尺は、竪穴住居跡1/80、炉穴・土坑など1/60を基本とするが、必要に応じ適した縮尺を採用した。

4　遺物実測図の縮尺は、概ね以下のとおりであるが、必要に応じ適した縮尺を採用した。
土器：1/3、礫石器類：1/3、剥片石器類：4/5、骨角貝製品：1/2、貝玉類：1/1

5　遺物写真図版の縮尺については、貝玉類を1/1に統一したほかは任意である。必要に応じてスケールを付した。

6　注および参考文献については、各節末に掲載した。

7　石器実測の一部（剥片石器等）の実測については、アイシン精機株式会社および創和システム株式会社に委託した。また、石器･礫類の石材肉眼鑑定を、パリノ･サーヴェイ株式会社に委託した。

8　挿図中のスクリーントーンやインスタントレタリングの用例は以下のとおりである。

＜遺構＞

炉燃焼面
貝層
● 土器
▲ 礫
△ 石器
○ 骨

＜遺物＞

赤彩
● 摩耗痕
▼ 凹み状の摩耗
○ 敲打痕

9　遺物類のうち、土器・石器、貝・骨など動物遺存体に関するデータの一部については、本篇中には収録せず付録のＤＶＤ内のみに納めたものがある。なお、このＤＶＤ内には、本篇全てのＰＤＦファイルと遺物データを収録してある。

本 文 目 次

（本文篇１）
巻頭図版
序文
例言
凡例
目次
第１章　はじめに
　第１節　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 1
　第２節　調査の経過と方法 …… 5
　第３節　遺跡の概要 …… 6
第２章　遺構と遺物
　第１節　竪穴住居跡 …… 12
　第２節　その他の遺構 …… 241
（本文篇２）
第３章　貝塚
　第１節　分析の方法 …… 711
　第２節　貝塚の概要 …… 711
　第３節　貝層内容物の様相 …… 745
　第４節　骨角貝製品 …… 752
　第５節　軟体動物（貝類） …… 792
　第６節　軟体動物（微小貝類） …… 816
　第７節　動物遺存体 …… 828
　第８節　人骨 …… 913
第４章　遺物包含層
　第１節　土器と礫類 …… 918
　第２節　土製品 …… 1143
　第３節　石器・石製品 …… 1145
　第４節　石器石材の分析
　　⑴石材肉眼鑑定 …… 1310
　　⑵黒曜石の産地分析 …… 1325
第５章　まとめ
　第１節　縄文早期・前期の集落について …… 1332
　第２節　遺構・貝層、遺物包含層の土器について …… 1334
　第３節　焼礫・石器について …… 1354
　第４節　貝塚と動物遺存体、貝製品について …… 1361

挿図目次（本文篇１）

第１図　国分寺台地区の旧地形と
　　調査遺跡（1/12,000）…… 2
第２図　市原市内の縄文時代早期・前期の主な遺跡 … 3
第３図　調査前地形図 …… 7
第４図　調査区の配置図 …… 8
第５図　調査区別グリッド配置図 …… 9
第６図　遺構分布図 …… 10
第７図　貝層分布図 …… 11
第８図　遺構全体図（1:4,000）…… 14
第９図　遺構全体図・① …… 15
第10図　遺構全体図（1:500）・②、③ …… 16
第11図　遺構全体図（1:500）・④ …… 17
第12図　遺構全体図（1:500）・⑤ …… 18
第13図　遺構全体図（1:500）・⑥ …… 19
第14図　遺構全体図（1:500）・⑦、⑧ …… 20
第15図　遺構全体図（1:500）・⑨ …… 21
第16図　遺構全体図（1:500）・⑩ …… 22
第17図　遺構全体図（1:500）・⑪ …… 23
第18図　遺構全体図（1:500）・⑫ …… 24
第19図　遺構全体図（1:500）・⑬ …… 25
第20図　１号住居跡実測図・遺物出土状況図
　　および出土遺物実測図⑴ …… 26
第21図　１号住居跡出土遺物実測図⑵ …… 28
第22図　２号住居跡実測図 …… 28
第23図　３号住居跡実測図
　　および出土遺物実測図⑴ …… 29
第24図　３号住居跡出土遺物実測図⑵ …… 30
第25図　４号住居跡実測図 …… 30
第26図　５号住居跡実測図 …… 30
第27図　６号住居跡実測図
　　および出土遺物実測図⑴ …… 32
第28図　６号住居跡出土遺物実測図⑵ …… 33
第29図　６号住居跡出土遺物実測図⑶ …… 34
第30図　６号住居跡出土遺物実測図⑷ …… 35
第31図　６号住居跡出土遺物実測図⑸ …… 36
第32図　７号住居跡実測図
　　および出土遺物実測図⑴ …… 37
第33図　７号住居跡出土遺物実測図⑵ …… 39
第34図　８号住居跡実測図 …… 39
第35図　９号住居跡実測図および出土遺物実測図 … 39
第36図　10号住居跡実測図
　　および出土遺物実測図⑴ …… 40
第37図　10号住居跡出土遺物実測図⑵ …… 41
第38図　11号住居跡実測図および出土遺物実測図 … 43
第39図　12号住居跡実測図
　　および出土遺物実測図⑴ …… 44
第40図　12号住居跡出土遺物実測図⑵ …… 45
第41図　13号住居跡実測図および出土遺物実測図 … 46
第42図　14号住居跡実測図・遺物出土状況図
　　および出土遺物実測図⑴ …… 47
第43図　14号住居跡出土遺物実測図⑵ …… 48
第44図　15号住居跡実測図・遺物出土状況図
　　および出土遺物実測図⑴ …… 50
第45図　15号住居跡出土遺物実測図⑵ …… 51
第46図　16号住居跡実測図・遺物出土状況図
　　および出土遺物実測図⑴ …… 51
第47図　16号住居跡出土遺物実測図⑵ …… 52
第48図　17号住居跡実測図・遺物出土状況図
　　および出土遺物実測図⑴ …… 54
第49図　17号住居跡出土遺物実測図⑵ …… 55
第50図　18号・19号住居跡実測図 …… 55
第51図　20号住居跡実測図および出土遺物実測図 … 56
第52図　21号住居跡実測図・遺物出土状況図
　　および出土遺物実測図⑴ …… 58
第53図　21号住居跡出土遺物実測図⑵ …… 59
第54図　21号住居跡出土遺物実測図⑶ …… 60
第55図　21号住居跡出土遺物実測図⑷ …… 61
第56図　21号住居跡出土遺物実測図⑸ …… 62
第57図　22号住居跡実測図
　　および出土遺物実測図⑴ …… 63
第58図　22号住居跡出土遺物実測図⑵ …… 64
第59図　23号住居跡実測図・遺物出土状況図
　　および出土遺物実測図⑴ …… 65
第60図　23号住居跡出土遺物実測図⑵ …… 66
第61図　23号住居跡出土遺物実測図⑶ …… 67
第62図　23号住居跡出土遺物実測図⑷ …… 68
第63図　24号住居跡実測図および出土遺物実測図 … 70
第64図　25号住居跡実測図 …… 70
第65図　25号住居跡出土遺物実測図 …… 71
第66図　26号住居跡実測図および出土遺物実測図 … 73
第67図　27号住居跡実測図⑴ …… 74
第68図　27号住居跡実測図⑵ …… 75
第69図　27号住居跡実測図⑶ …… 76
第70図　27号住居跡遺物出土状況図⑴ …… 77
第71図　27号住居跡遺物出土状況図⑵ …… 78
第72図　27号住居跡出土遺物実測図⑴ …… 79
第73図　27号住居跡出土遺物実測図⑵ …… 80
第74図　27号住居跡出土遺物実測図⑶ …… 81
第75図　27号住居跡出土遺物実測図⑷ …… 82
第76図　27号住居跡出土遺物実測図⑸ …… 83
第77図　27号住居跡出土遺物実測図⑹ …… 84
第78図　27号住居跡出土遺物実測図⑺ …… 85
第79図　27号住居跡出土遺物実測図⑻ …… 86
第80図　27号住居跡出土遺物実測図⑼ …… 87
第81図　27号住居跡出土遺物実測図⑽ …… 88
第82図　27号住居跡出土遺物実測図⑾ …… 89
第83図　27号住居跡出土遺物実測図⑿ …… 90
第84図　27号住居跡出土遺物実測図⒀ …… 91

第85図　27号住居跡出土遺物実測図⑭ …… 92
第86図　27号住居跡出土遺物実測図⑮ …… 93
第87図　27号住居跡出土遺物実測図⑯ …… 94
第88図　27号住居跡出土遺物実測図⑰ …… 95
第89図　28号住居跡実測図・遺物出土状況図
　　および出土遺物実測図 …… 96
第90図　29号住居跡実測図・遺物出土状況図
　　および出土遺物実測図(1) …… 98
第91図　29号住居跡出土遺物実測図(2) …… 99
第92図　29号住居跡出土遺物実測図(3) …… 100
第93図　29号住居跡出土遺物実測図(4) …… 101
第94図　30号住居跡実測図および遺物出土状況図 … 102
第95図　30号住居跡出土遺物実測図 …… 103
第96図　31号住居跡実測図 …… 105
第97図　31号住居跡遺物出土状況図
　　および出土遺物実測図(1) …… 106
第98図　31号住居跡出土遺物実測図(2) …… 107
第99図　31号住居跡出土遺物実測図(3) …… 108
第100図　31号住居跡出土遺物実測図(4) …… 109
第101図　31号住居跡出土遺物実測図(5) …… 110
第102図　31号住居跡出土遺物実測図(6) …… 111
第103図　31号住居跡出土遺物実測図(7) …… 112
第104図　32号住居跡実測図(1) …… 113
第105図　32号住居跡実測図(2) …… 114
第106図　32号住居跡遺物出土状況図(1) …… 115
第107図　32号住居跡遺物出土状況図(2)
　　および出土遺物実測図(1) …… 116
第108図　32号住居跡出土遺物実測図(2) …… 117
第109図　32号住居跡出土遺物実測図(3) …… 118
第110図　32号住居跡出土遺物実測図(4) …… 119
第111図　32号住居跡出土遺物実測図(5) …… 120
第112図　32号住居跡出土遺物実測図(6) …… 121
第113図　32号住居跡出土遺物実測図(7) …… 122
第114図　32号住居跡出土遺物実測図(8) …… 123
第115図　32号住居跡出土遺物実測図(9) …… 124
第116図　32号住居跡出土遺物実測図⑩ …… 125
第117図　32号住居跡出土遺物実測図⑪ …… 126
第118図　32号住居跡出土遺物実測図⑫ …… 127
第119図　32号住居跡出土遺物実測図⑬ …… 128
第120図　33号住居跡実測図(1) …… 130
第121図　33号住居跡実測図(2) …… 131
第122図　33号住居跡遺物出土状況図(1) …… 132
第123図　33号住居跡遺物出土状況図(2) …… 133
第124図　33号住居跡出土遺物実測図(1) …… 135
第125図　33号住居跡出土遺物実測図(2) …… 136
第126図　33号住居跡出土遺物実測図(3) …… 137
第127図　33号住居跡出土遺物実測図(4) …… 138
第128図　33号住居跡出土遺物実測図(5) …… 139
第129図　33号住居跡出土遺物実測図(6) …… 140
第130図　33号住居跡出土遺物実測図(7) …… 141
第131図　33号住居跡出土遺物実測図(8) …… 142
第132図　33号住居跡出土遺物実測図(9) …… 143
第133図　33号住居跡出土遺物実測図⑩ …… 144
第134図　33号住居跡出土遺物実測図⑪ …… 145
第135図　33号住居跡出土遺物実測図⑫ …… 146
第136図　33号住居跡出土遺物実測図⑬ …… 147
第137図　34号住居跡実測図(1) …… 149
第138図　34号住居跡実測図(2) …… 150
第139図　34号住居跡遺物出土状況図(1) …… 151
第140図　34号住居跡遺物出土状況図(2)
　　および出土遺物実測図(1) …… 152
第141図　34号住居跡出土遺物実測図(2) …… 153
第142図　34号住居跡出土遺物実測図(3) …… 154
第143図　34号住居跡出土遺物実測図(4) …… 155
第144図　34号住居跡出土遺物実測図(5) …… 156
第145図　34号住居跡出土遺物実測図(6) …… 157
第146図　34号住居跡出土遺物実測図(7) …… 158
第147図　34号住居跡出土遺物実測図(8) …… 159
第148図　34号住居跡出土遺物実測図(9) …… 160
第149図　34号住居跡出土遺物実測図⑩ …… 161
第150図　34号住居跡出土遺物実測図⑪ …… 162
第151図　34号住居跡出土遺物実測図⑫ …… 163
第152図　34号住居跡出土遺物実測図⑬ …… 164
第153図　34号住居跡出土遺物実測図⑭ …… 165
第154図　34号住居跡出土遺物実測図⑮ …… 166
第155図　35号住居跡実測図および遺物出土状況図 … 168
第156図　35号住居跡出土遺物実測図(1) …… 169
第157図　35号住居跡出土遺物実測図(2) …… 170
第158図　35号住居跡出土遺物実測図(3) …… 171
第159図　35号住居跡出土遺物実測図(4) …… 172
第160図　36号住居跡実測図および遺物出土状況図 … 174
第161図　36号住居跡出土遺物実測図(1) …… 175
第162図　36号住居跡出土遺物実測図(2) …… 176
第163図　36号住居跡出土遺物実測図(3) …… 177
第164図　37号住居跡実測図・遺物出土状況図
　　および出土遺物実測図(1) …… 178
第165図　37号住居跡出土遺物実測図(2) …… 179
第166図　38号住居跡実測図および遺物出土状況図 … 181
第167図　39号住居跡実測図・遺物出土状況図
　　および出土遺物実測図(1) …… 181
第168図　39号住居跡出土遺物実測図(2) …… 182
第169図　40号住居跡実測図・遺物出土状況図
　　および出土遺物実測図(1) …… 184
第170図　40号住居跡出土遺物実測図(2) …… 185
第171図　40号住居跡出土遺物実測図(3) …… 186
第172図　41号住居跡実測図・遺物出土状況図
　　および出土遺物実測図(1) …… 186
第173図　41号住居跡出土遺物実測図(2) …… 187
第174図　42号住居跡実測図および出土遺物実測図 … 189
第175図　43号住居跡実測図 …… 189
第176図　43号住居跡出土遺物実測図 …… 190
第177図　44号住居跡実測図 …… 192

第178図　44号住居跡遺物出土状況図
および出土遺物実測図(1) …… 193
第179図　44号住居跡出土遺物実測図(2) …… 194
第180図　45号住居跡実測図
および出土遺物実測図(1) …… 194
第181図　45号住居跡出土遺物実測図(2) …… 196
第182図　46号住居跡実測図 …… 196
第183図　46号住居跡出土遺物実測図 …… 197
第184図　47号住居跡実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図 …… 198
第185図　48号住居跡実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図(1) …… 199
第186図　48号住居跡出土遺物実測図(2) …… 200
第187図　48号住居跡出土遺物実測図(3) …… 201
第188図　48号住居跡出土遺物実測図(4) …… 202
第189図　48号住居跡出土遺物実測図(5) …… 204
第190図　49号住居跡実測図 …… 204
第191図　49号住居跡出土遺物実測図 …… 205
第192図　50号住居跡実測図および出土遺物実測図 … 207
第193図　51号住居跡実測図 …… 207
第194図　51号住居跡出土遺物実測図 …… 208
第195図　52号住居跡実測図 …… 209
第196図　52号住居跡遺物出土状況図
および出土遺物実測図(1) …… 210
第197図　52号住居跡出土遺物実測図(2) …… 211
第198図　52号住居跡出土遺物実測図(3) …… 212
第199図　52号住居跡出土遺物実測図(4) …… 213
第200図　52号住居跡出土遺物実測図(5) …… 214
第201図　52号住居跡出土遺物実測図(6) …… 215
第202図　52号住居跡出土遺物実測図(7) …… 216
第203図　53号住居跡実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図(1) …… 218
第204図　53号住居跡出土遺物実測図(2) …… 219
第205図　54号住居跡実測図 …… 220
第206図　55号住居跡実測図および出土遺物実測図 … 220
第207図　56号住居跡実測図および出土遺物実測図 … 222
第208図　57号住居跡実測図 …… 223
第209図　57号住居跡出土遺物実測図 …… 224
第210図　58号住居跡実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図 …… 225
第211図　59号住居跡実測図および出土遺物実測図 … 226
第212図　60号住居跡実測図 …… 227
第213図　61・62・63・64・65・66・67・68号遺構
実測図 …… 248
第214図　69・70・71・72号遺構実測図 …… 250
第215図　73号遺構出土遺物実測図(1) …… 251
第216図　73号遺構出土遺物実測図(2) …… 253
第217図　75・76号遺構実測図 …… 253
第218図　77・78・79号遺構実測図、80・81号遺構
実測図および出土遺物実測図 …… 255
第219図　82・83号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図(1) …… 256
第220図　82・83号遺構出土遺物実測図(2) …… 257
第221図　84号遺構実測図および出土遺物実測図(1) … 259
第222図　84号遺構出土遺物実測図(2) …… 260
第223図　84号遺構出土遺物実測図(3) …… 261
第224図　84号遺構出土遺物実測図(4) …… 262
第225図　85号遺構実測図および出土遺物実測図(1) … 263
第226図　85号遺構出土遺物実測図(2) …… 264
第227図　86・87・88・89号遺構実測図、90号遺構
実測図・遺物出土状況図 …… 266
第228図　90号遺構出土遺物実測図(1) …… 267
第229図　90号遺構出土遺物実測図(2) …… 268
第230図　91号遺構実測図および出土遺物実測図 … 268
第231図　92・93・94・95・96・97号遺構実測図 … 270
第232図　98号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図 …… 270
第233図　99・100・101・102・103号遺構実測図
および出土遺物実測図 …… 272
第234図　104・105・106・109号遺構実測図
および出土遺物実測図 …… 275
第235図　107・108号遺構実測図
および出土遺物実測図 …… 276
第236図　110・111・112・113・114号遺構実測図 … 276
第237図　115号遺構実測図
および出土遺物実測図(1) …… 278
第238図　115号遺構出土遺物実測図(2) …… 279
第239図　116号遺構実測図
および出土遺物実測図(1) …… 280
第240図　116号遺構出土遺物実測図(2) …… 281
第241図　117号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図(1) …… 281
第242図　117号遺構出土遺物実測図(2) …… 282
第243図　117号遺構出土遺物実測図(3) …… 283
第244図　118・119号遺構実測図
および出土遺物実測図 …… 285
第245図　120・121・122号遺構実測図
および出土遺物実測図、123号遺構実測図
および出土遺物実測図(1) …… 287
第246図　123号遺構出土遺物実測図(2) …… 288
第247図　123号遺構出土遺物実測図(3) …… 289
第248図　123号遺構出土遺物実測図(4) …… 290
第249図　123号遺構出土遺物実測図(5) …… 291
第250図　123号遺構出土遺物実測図(6) …… 292
第251図　124号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図(1) …… 294
第252図　124号遺構出土遺物実測図(2) …… 295
第253図　125号遺構実測図および出土遺物実測図 … 296
第254図　126・127・128号遺構実測図 …… 296
第255図　126・127・128号遺構出土遺物実測図(1) … 297
第256図　126・127・128号遺構出土遺物実測図(2) … 299
第257図　129号遺構実測図

および出土遺物実測図(1) …… 299
第258図　129号遺構出土遺物実測図(2) …… 300
第259図　129号遺構出土遺物実測図(3) …… 301
第260図　130号遺構実測図
および出土遺物実測図(1) …… 301
第261図　130号遺構出土遺物実測図(2) …… 302
第262図　131号遺構実測図および出土遺物実測図 … 304
第263図　132号遺構実測図および出土遺物実測図 … 305
第264図　133・134・135・136号遺構実測図 …… 307
第265図　137・138・139号遺構実測図 …… 308
第266図　140・141・142号実測図
および出土遺物実測図 …… 310
第267図　143号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図 …… 312
第268図　144・145号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図 …… 312
第269図　146・147・148・149・150号遺構実測図 … 313
第270図　151号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図 …… 315
第271図　152・153号遺構実測図
および出土遺物実測図 …… 315
第272図　154号遺構実測図および出土遺物実測図 … 317
第273図　155・156号遺構実測図・遺物出土状況図 … 317
第274図　156号遺構出土遺物実測図 …… 318
第275図　157・158・159・160・161号遺構実測図
および出土遺物実測図 …… 320
第276図　162・163・164・165・166・167号遺構
実測図および出土遺物実測図 …… 322
第277図　168号遺構実測図 …… 324
第278図　169号遺構実測図
および出土遺物実測図(1) …… 324
第279図　169号遺構出土遺物実測図(2) …… 325
第280図　170号遺構実測図および出土遺物実測図 … 325
第281図　171・172号遺構実測図
および出土遺物実測図 …… 327
第282図　173号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図(1) …… 328
第283図　173号遺構出土遺物実測図(2) …… 329
第284図　174号遺構実測図 …… 330
第285図　174号遺構出土遺物実測図 …… 331
第286図　175号遺構実測図 …… 333
第287図　175号遺構遺物出土状況図 …… 334
第288図　175号遺構出土遺物実測図(1) …… 335
第289図　175号遺構出土遺物実測図(2) …… 336
第290図　175号遺構出土遺物実測図(3) …… 337
第291図　175号遺構出土遺物実測図(4) …… 338
第292図　175号遺構出土遺物実測図(5) …… 339
第293図　176号遺構実測図および出土遺物実測図 … 340
第294図　177号遺構実測図・遺物出土状況図 …… 342
第295図　177号遺構出土遺物実測図(1) …… 343
第296図　177号遺構出土遺物実測図(2) …… 344
第297図　177号遺構出土遺物実測図(3) …… 345
第298図　177号遺構出土遺物実測図(4) …… 346
第299図　177号遺構出土遺物実測図(5) …… 347
第300図　178号遺構実測図および出土遺物実測図(1) … 348
第301図　178号遺構出土遺物実測図(2) …… 350
第302図　179・180号遺構実測図
および出土遺物実測図 …… 350
第303図　181号遺構実測図 …… 351
第304図　181号遺構内貝層実測図 …… 352
第305図　181号遺構内貝層サンプル採取地点
および遺物出土状況図 …… 353
第306図　181号遺構出土遺物実測図(1) …… 354
第307図　181号遺構出土遺物実測図(2) …… 355
第308図　181号遺構出土遺物実測図(3) …… 356
第309図　181号遺構出土遺物実測図(4) …… 357
第310図　181号遺構出土遺物実測図(5) …… 358
第311図　181号遺構出土遺物実測図(6) …… 359
第312図　181号遺構出土遺物実測図(7) …… 360
第313図　181号遺構出土遺物実測図(8) …… 361
第314図　181号遺構出土遺物実測図(9) …… 362
第315図　181号遺構出土遺物実測図(10) …… 363
第316図　181号遺構出土遺物実測図(11) …… 364
第317図　181号遺構出土遺物実測図(12) …… 365
第318図　181号遺構出土遺物実測図(13) …… 367
第319図　182号遺構実測図(1) …… 367
第320図　182号遺構実測図(2)および出土遺物
実測図(1) …… 368
第321図　182号遺構出土遺物実測図(2) …… 369
第322図　183号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図 …… 370
第323図　184号遺構実測図・遺物出土状況図 …… 372
第324図　184号遺構出土遺物実測図(1) …… 373
第325図　184号遺構出土遺物実測図(2) …… 374
第326図　184号遺構出土遺物実測図(3) …… 375
第327図　185号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図(1) …… 377
第328図　185号遺構出土遺物実測図(2) …… 378
第329図　185号遺構出土遺物実測図(3) …… 379
第330図　185号遺構出土遺物実測図(4) …… 380
第331図　185号遺構出土遺物実測図(5) …… 381
第332図　185号遺構出土遺物実測図(6) …… 382
第333図　185号遺構出土遺物実測図(7) …… 384
第334図　186・187号遺構実測図
および出土遺物実測図 …… 384
第335図　188・189・190・191号遺構実測図
および出土遺物実測図 …… 385
第336図　192･193･194号遺構実測図および出土遺物
実測図 …… 387
第337図　195号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図 …… 388
第338図　196号遺構実測図

および出土遺物実測図(1) …… 390
第339図　196号遺構出土遺物実測図(2) …… 391
第340図　196号遺構出土遺物実測図(3) …… 392
第341図　197・198・199・201号遺構実測図
および出土遺物実測図 …… 394
第342図　200号遺構実測図および出土遺物実測図 … 395
第343図　202号遺構実測図および出土遺物実測図 … 395
第344図　203・204号遺構実測図
および出土遺物実測図 …… 397
第345図　205・206号遺構実測図
および出土遺物実測図 …… 399
第346図　207・208号遺構実測図 …… 399
第347図　207・208号遺構出土遺物実測図 …… 400
第348図　209･210･211号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図(1) …… 402
第349図　209・210・211号遺構出土遺物実測図(2) … 403
第350図　212・213号遺構実測図
および出土遺物実測図 …… 404
第351図　214号遺構実測図および出土遺物実測図 … 406
第352図　215号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図 …… 407
第353図　216号遺構実測図および出土遺物実測図 … 408
第354図　217号遺構実測図 …… 408
第355図　217号遺構遺物出土状況図 …… 409
第356図　217号遺構出土遺物実測図(1) …… 410
第357図　217号遺構出土遺物実測図(2) …… 411
第358図　217号遺構出土遺物実測図(3) …… 412
第359図　218号遺構実測図および出土遺物実測図 … 414
第360図　219号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図 …… 415
第361図　220号遺構実測図
および１号人骨出土状況図 …… 416
第362図　220号遺構遺物出土状況図
および出土遺物実測図(1) …… 417
第363図　220号遺構出土遺物実測図(2) …… 418
第364図　221号遺構実測図 …… 420
第365図　221号遺構遺物出土状況図 …… 421
第366図　221号遺構出土遺物実測図(1) …… 422
第367図　221号遺構出土遺物実測図(2) …… 423
第368図　221号遺構出土遺物実測図(3) …… 424
第369図　222号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図(1) …… 426
第370図　222号遺構出土遺物実測図(2) …… 427
第371図　223号遺構実測図および出土遺物実測図 … 428
第372図　224号遺構実測図および出土遺物実測図(1) … 429
第373図　224号遺構出土遺物実測図(2) …… 431
第374図　225・226・227号遺構実測図 …… 431
第375図　225号遺構遺物出土状況図
および出土遺物実測図(1) …… 432
第376図　225号遺構出土遺物実測図(2)・
226号遺構出土遺物実測図 …… 433
第377図　228号遺構実測図・遺物出土状況図 …… 434
第378図　228号遺構出土遺物実測図 …… 435
第379図　229・230号遺構実測図
および229号遺構出土遺物実測図(1) …… 437
第380図　229号遺構出土遺物実測図(2)・
230号遺構出土遺物実測図 …… 439
第381図　231号遺構実測図、232号遺構実測図 …… 439
第382図　232号遺構出土遺物実測図 …… 440
第383図　233号遺構実測図 …… 440
第384図　233号遺構出土遺物実測図(1) …… 441
第385図　233号遺構出土遺物実測図(2) …… 443
第386図　234・235号遺構実測図 …… 443
第387図　234号遺構出土遺物実測図・
235号遺構出土遺物実測図(1) …… 444
第388図　235号遺構出土遺物実測図(2) …… 446
第389図　236・237・238号遺構実測図
および遺物出土状況図(1) …… 446
第390図　236・237・238号遺構実測図
および遺物出土状況図(2) …… 447
第391図　236号遺構出土遺物実測図 …… 448
第392図　237号遺構出土遺物実測図(1) …… 448
第393図　237号遺構出土遺物実測図(2) …… 449
第394図　237号遺構出土遺物実測図(3) …… 450
第395図　237号遺構出土遺物実測図(4) …… 451
第396図　237号遺構出土遺物実測図(5) …… 452
第397図　238号遺構出土遺物実測図 …… 453
第398図　239号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図(1) …… 454
第399図　239号遺構出土遺物実測図(2) …… 455
第400図　240・241号遺構実測図・
遺物出土状況図 …… 457
第401図　240号遺構出土遺物実測図・
241号遺構出土遺物実測図(1) …… 458
第402図　241号遺構出土遺物実測図(2) …… 459
第403図　241号遺構出土遺物実測図(3) …… 466
第404図　245号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図 …… 466
第405図　242・243・244・251号遺構実測図 …… 467
第406図　243号遺構出土遺物実測図・
244号遺構出土遺物実測図(1) …… 468
第407図　244号遺構出土遺物実測図(2)・
251号遺構出土遺物実測図 …… 469
第408図　246号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図(1) …… 470
第409図　246号遺構出土遺物実測図(2) …… 471
第410図　247・248・249号遺構実測図
および出土遺物実測図 …… 472
第411図　250・254号遺構実測図・遺物出土状況図
および250号遺構出土遺物実測図(1) …… 473
第412図　250号遺構出土遺物実測図(2)・
254号遺構出土遺物実測図 …… 474

第413図　252号遺構実測図および出土遺物実測図 … 475
第414図　255号遺構実測図および出土遺物実測図 … 475
第415図　253・256・257号遺構実測図
　　および出土遺物実測図 …… 476
第416図　258・259・260・261号遺構実測図 …… 478
第417図　258・259・260・261号遺構出土遺物
　　実測図 …… 479
第418図　262・263・264・265号遺構実測図・
　　遺物出土状況図 …… 482
第419図　262号遺構出土遺物実測図 …… 483
第420図　263号遺構出土遺物実測図(1) …… 484
第421図　263号遺構出土遺物実測図(2) …… 485
第422図　264号遺構出土遺物実測図 …… 486
第423図　265号遺構出土遺物実測図 …… 487
第424図　266・267号遺構実測図
　　および出土遺物実測図 …… 489
第425図　269・268号遺構実測図
　　および出土遺物実測図 …… 490
第426図　270・271・272・273号遺構実測図・
　　遺物出土状況図および出土遺物実測図 … 492
第427図　272号遺構出土遺物実測図 …… 493
第428図　274・275・276号遺構実測図
　　および出土遺物実測図 …… 495
第429図　277号遺構実測図および出土遺物実測図(1) … 497
第430図　277号出土遺物実測図(2) …… 498
第431図　278・280号遺構実測図
　　および出土遺物実測図 …… 498
第432図　279号遺構実測図
　　および出土遺物実測図(1) …… 499
第433図　279号遺構出土遺物実測図(2) …… 500
第434図　281号遺構実測図および出土遺物実測図 … 502
第435図　282号遺構実測図および出土遺物実測図 … 502
第436図　283・284号遺構実測図
　　および出土遺物実測図 …… 503
第437図　285・286・287号遺構実測図 …… 505
第438図　285・286号遺構出土遺物実測図 …… 506
第439図　288・289・290・291号遺構実測図
　　および出土遺物実測図 …… 508
第440図　292号遺構実測図・遺物出土状況図
　　および出土遺物実測図(1) …… 509
第441図　292号遺構出土遺物実測図(2) …… 510
第442図　293号遺構実測図・遺物出土状況図
　　および出土遺物実測図(1) …… 512
第443図　293号遺構出土遺物実測図(2) …… 513
第444図　293号遺構出土遺物実測図(3) …… 515
第445図　294号遺構実測図および出土遺物実測図 … 515
第446図　295号遺構実測図・遺物出土状況図
　　および出土遺物実測図(1) …… 516
第447図　295号遺構出土遺物実測図(2) …… 517
第448図　296号遺構実測図・遺物出土状況図
　　および出土遺物実測図(1) …… 518
第449図　296号遺構出土遺物実測図(2) …… 519
第450図　297・298号遺構実測図・
　　遺物出土状況図 …… 521
第451図　297号遺構出土遺物実測図 …… 522
第452図　298号遺構出土遺物実測図(1) …… 523
第453図　298号遺構出土遺物実測図(2) …… 525
第454図　299号遺構実測図・遺物出土状況図
　　および出土遺物実測図(1) …… 525
第455図　299号遺構出土遺物実測図(2) …… 526
第456図　300号遺構実測図・遺物出土状況図
　　および出土遺物実測図(1) …… 527
第457図　300号遺構出土遺物実測図(2) …… 528
第458図　301号遺構実測図・遺物出土状況図
　　および出土遺物実測図 …… 530
第459図　302・303号遺構実測図
　　および出土遺物実測図 …… 531
第460図　304号遺構実測図および出土遺物実測図 … 533
第461図　305号遺構実測図 …… 533
第462図　305号遺構出土遺物実測図 …… 534
第463図　306号遺構実測図・遺物出土状況図 …… 535
第464図　306号遺構出土遺物実測図(1) …… 536
第465図　306号遺構出土遺物実測図(2) …… 537
第466図　306号遺構出土遺物実測図(3) …… 538
第467図　306号遺構出土遺物実測図(4) …… 539
第468図　306号遺構出土遺物実測図(5) …… 541
第469図　307号遺構実測図および出土遺物実測図 … 541
第470図　308号遺構実測図・遺物出土状況図
　　および出土遺物実測図(1) …… 542
第471図　308号遺構出土遺物実測図(2) …… 544
第472図　309号遺構実測図 …… 544
第473図　310号遺構実測図および出土遺物実測図(1) … 545
第474図　310号遺構出土遺物実測図(2) …… 546
第475図　310号遺構出土遺物実測図(3) …… 547
第476図　311号遺構実測図および出土遺物実測図 … 549
第477図　312号遺構実測図・遺物出土状況図 …… 549
第478図　312号遺構出土遺物実測図(1) …… 550
第479図　312号遺構出土遺物実測図(2) …… 551
第480図　313号遺構実測図 …… 552
第481図　314号遺構実測図および出土遺物実測図 … 552
第482図　315・316号遺構実測図
　　および出土遺物実測図 …… 554
第483図　317号遺構実測図 …… 555
第484図　318号遺構実測図および出土遺物実測図 … 555
第485図　319・320・321号遺構実測図
　　および出土遺物実測図 …… 557
第486図　321号遺構出土遺物実測図(1) …… 558
第487図　321号遺構出土遺物実測図(2) …… 560
第488図　325号遺構実測図および出土遺物実測図 … 560
第489図　322・323号遺構実測図
　　および出土遺物実測図 …… 561
第490図　324号遺構実測図および出土遺物実測図 … 562

第491図　326号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図 …… 564
第492図　327号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図 …… 564
第493図　328号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図(1) …… 565
第494図　328号遺構出土遺物実測図(2) …… 567
第495図　329号遺構実測図・遺物出土状況図 …… 567
第496図　329号遺構出土遺物実測図 …… 568
第497図　330号遺構実測図および出土遺物実測図 … 569
第498図　331号遺構実測図
および出土遺物実測図(1) …… 570
第499図　331号遺構出土遺物実測図(2) …… 571
第500図　332号遺構実測図および出土遺物実測図 … 573
第501図　333号遺構実測図・遺物出土状況図 …… 574
第502図　333号遺構出土遺物実測図(1) …… 575
第503図　333号遺構出土遺物実測図(2) …… 576
第504図　333号遺構出土遺物実測図(3) …… 577
第505図　333号遺構出土遺物実測図(4) …… 579
第506図　334号遺構実測図・遺物出土状況図 …… 579
第507図　334号遺構出土遺物実測図(1) …… 580
第508図　334号遺構出土遺物実測図(2) …… 581
第509図　335号遺構実測図および出土遺物実測図 … 582
第510図　336号遺構実測図および出土遺物実測図 … 584
第511図　337・338号遺構実測図 …… 585
第512図　337号遺構出土遺物実測図(1) …… 586
第513図　337号遺構出土遺物実測図(2) …… 588
第514図　338号遺構出土遺物実測図 …… 588
第515図　339号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図(1) …… 589
第516図　339号遺構出土遺物実測図(2) …… 590
第517図　340号遺構実測図および出土遺物実測図 … 592
第518図　341・342号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図 …… 592
第519図　343・344号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図(1) …… 594
第520図　344号遺構出土遺物実測図(2) …… 595
第521図　345・346号遺構実測図・
遺物出土状況図 …… 595
第522図　345・346号遺構出土遺物実測図 …… 596
第523図　347号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図 …… 597
第524図　348号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図 …… 599
第525図　349号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図 …… 600
第526図　350・351・352号遺構実測図・
遺物出土状況図および出土遺物実測図 … 602
第527図　353号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図 …… 603
第528図　354号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図(1) …… 605
第529図　354号遺構出土遺物実測図(2) …… 606
第530図　354号遺構出土遺物実測図(3) …… 607
第531図　355号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図 …… 608
第532図　356号遺構実測図および出土遺物実測図 … 609
第533図　357号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図(1) …… 611
第534図　357号遺構出土遺物実測図(2) …… 612
第535図　357号遺構出土遺物実測図(3) …… 613
第536図　357号遺構出土遺物実測図(4) …… 614
第537図　357号遺構出土遺物実測図(5) …… 615
第538図　358号遺構実測図および出土遺物実測図 … 617
第539図　359号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図(1) …… 617
第540図　359号遺構出土遺物実測図(2) …… 618
第541図　359号遺構出土遺物実測図(3) …… 619
第542図　360号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図(1) …… 620
第543図　360号遺構出土遺物実測図(2) …… 621
第544図　361号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図(1) …… 623
第545図　361号遺構出土遺物実測図(2) …… 624
第546図　361号遺構出土遺物実測図(3) …… 625
第547図　362号遺構実測図・遺物出土状況図 …… 625
第548図　362号遺構出土遺物実測図 …… 626
第549図　363号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図 …… 627
第550図　364号遺構実測図・遺物出土状況図
および出土遺物実測図(1) …… 628
第551図　364号遺構出土遺物実測図(2) …… 629
第552図　364号遺構出土遺物実測図(3) …… 630
第553図　364号遺構出土遺物実測図(4) …… 631
第554図　364号遺構出土遺物実測図(5) …… 632
第555図　365号遺構実測図および出土遺物実測図 … 634
第556図　366・367・368号遺構実測図
および出土遺物実測図(1) …… 636
第557図　366・367・368号遺構出土遺物実測図(2) … 637
第558図　369号遺構実測図および出土遺物実測図 … 638
第559図　370号遺構実測図および出土遺物実測図 … 640
第560図　371号遺構実測図および出土遺物実測図 … 641
第561図　372・373・374・375・376号遺構実測図
および出土遺物実測図 …… 643
第562図　377・378・379・380・381号遺構実測図 … 644
第563図　382号遺構実測図および出土遺物実測図 … 646
第564図　383号遺構実測図および出土遺物実測図 … 646
第565図　384号遺構実測図および出土遺物実測図 … 648
第566図　385・387・388号遺構実測図 …… 648
第567図　386号遺構実測図および出土遺物実測図 … 649
第568図　389号遺構実測図および出土遺物実測図 … 652
第569図　390・391・392・393・394号遺構実測図 … 652

第570図　395・396・397・398・399号遺構実測図
　　および出土遺物実測図 …… 653
第571図　400号遺構実測図および出土遺物実測図 … 655
第572図　401号遺構実測図および出土遺物実測図 … 655
第573図　402・403・404・405・406号遺構実測図
　　および出土遺物実測図 …… 657
第574図　407・408・409・410・411・412号遺構
　　実測図 …… 659
第575図　413・414・415・416・417・418号遺構
　　実測図 …… 661
第576図　419・420号遺構実測図
　　および出土遺物実測図 …… 662
第577図　421・422・423・424・425号遺構実測図
　　および出土遺物実測図 …… 664
第578図　426・427・428号遺構実測図 …… 666
第579図　429・430・431号遺構実測図
　　および出土遺物実測図 …… 667
第580図　432・433号遺構実測図
　　および出土遺物実測図 …… 669
第581図　434・435・436・437・438号遺構実測図 … 671
第582図　439・440号遺構実測図 …… 672
第583図　ＳＷ80・古墳下層炉跡出土土器実測図 … 673
第584図　064区・検出位置詳細不明遺構出土遺物
　　実測図 …… 674
第585図　ＴＪ区・検出位置詳細不明遺構出土遺物
　　実測図 …… 674
第586図　099区・検出位置詳細不明遺構出土遺物
　　実測図 …… 675
第587図　セ28区・検出位置詳細不明遺構出土遺物
　　実測図(1) …… 676
第588図　セ28区・検出位置詳細不明遺構出土遺物
　　実測図(2) …… 677

表目次（本文篇１）

表１　市原市内の主な縄文早期・前期の遺跡 …… 4
表２　天神台遺跡・縄文遺構集計 …… 6
表３　竪穴住居跡属性表 …… 13
表４　遺構出土土器集計（竪穴住居跡）…… 228
表５　遺構出土土器属性表（竪穴住居跡）
　　＊ＤＶＤのみに収録
表６　遺構出土石器属性表（竪穴住居跡）…… 232
表７　遺構出土礫集計表（竪穴住居跡）…… 240
表８　その他の遺構属性表 …… 242
表９　遺構出土土器集計（その他の遺構）…… 679
表10　遺構出土土器属性表（その他の遺構）
　　＊ＤＶＤのみに収録
表11　遺構出土石器属性表（その他の遺構）…… 697
表12　遺構出土礫集計表（その他の遺構）…… 704

第１章　はじめに

第１節　遺跡の位置と周辺の遺跡

１．遺跡の位置

天神台遺跡は、市原市の北部、養老川の右岸に広がる広大な台地上に位置し、国分寺台遺跡群のなかでは南西端にあたる（第１図）。南北に流れる養老川が河口に向け流路を大きく西側へ曲げる箇所のすぐ上に位置する標高およそ25～26ｍの台地が、本遺跡が営まれた舞台である。遺跡北側には神門古墳群、さらには上総国分僧寺跡が、東側には蛇谷遺跡・東間部多遺跡（古墳群）と重要な遺跡が隣接している。

２．周辺の遺跡

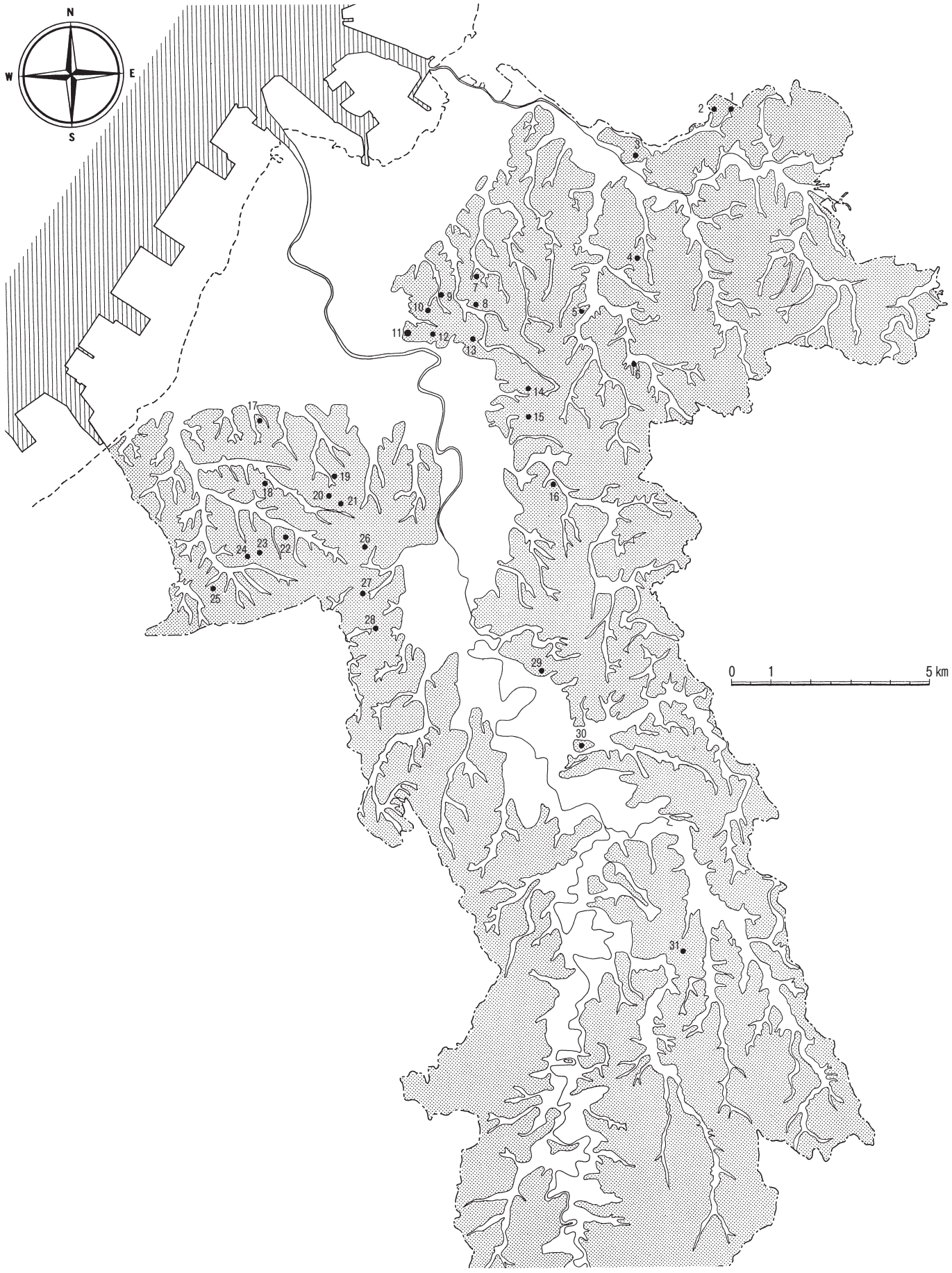
天神台遺跡の主体となる時期は、縄文早期後葉と前期前葉である。ここでは、市内にある当該期の主な遺跡をとりあげその概要を知ることによって、本遺跡の位置づけをしてみたい（第２図･表１）。国分寺台遺跡群にある縄文遺跡は、祇園原貝塚や西広貝塚に代表されるように、後期を主体に一部晩期におよぶ時期のものがほとんどであり、同様の時期の遺跡としては北野原遺跡・亥の海道貝塚・山倉貝塚などが近隣に所在する。しかし、縄文早期・前期のものとなると数が限られ、天神台遺跡の東に隣接する東間部田遺跡（12)、上総国分僧寺跡の下層にある中台遺跡（10）に早期の遺構がややまとまって知られるくらいとなる。東間部田遺跡では、早期条痕文系の野島・鵜ヶ島台式の時期の炉穴78基、中台遺跡では同様の時期の炉穴65基が検出されている。このほか、祇園原貝塚（９）や西広貝塚（13）にも遺跡の一部から鵜ヶ島台・茅山下層式の時期の炉穴がみつかっているが、数基程度と数はごく限られる。

市内全域に目を向けると、縄文早期後葉の遺構検出例としては、市の北端部村田川沿いの「ちはら台地区」にある押沼大六天遺跡（２）で竪穴住居跡１軒と炉穴47基、草刈六之台遺跡（３）で竪穴住居跡２軒と炉穴33基が知られている。これより南下し、養老川右岸では、天神台遺跡の北東約２㎞に位置する大山台遺跡（８）から子母口・野島式の炉穴32基が検出されている。養老川左岸では近年、千葉県文化財センターによる東関東自動車道関連の発掘調査により検出事例が増えた。大作頭遺跡（19）では子母口式を主体とする160基の炉穴が、野口遺跡（20）では野島式を主体とする166基の炉穴がみつかっている。また、市原市で発掘調査した片又木遺跡（18）では子母口式を主体とする27基の炉穴が、大道遺跡（21）では野島式を主体とする40基の炉穴が検出されている。これより南下した養老川中流域では、荻原野遺跡（28）で野島・茅山式を主体とする50基の炉穴と沈線文系土器の時期の竪穴住居跡２軒が、上原台遺跡（29）では茅山下層式を主体とする炉穴33基が検出されている。また、花和田遺跡（31）では子母口・野島式を主体とする炉穴19基と竪穴式住居跡11軒が検出されており、市内最南端の遺跡としても注目される。このように、早期後葉の遺跡例としては数もあまり多くはなく、大部分が炉穴のみの事例であり、その中で天神台遺跡の住居跡と炉穴群の存在は特筆され、また貝塚を伴う点でも異色である。貝層の検出事例としては、大六天遺跡で４箇所の炉穴覆土内から小規模なものが知られるにすぎない。

一方、前期の遺跡事例は、市原市内では早期以上に希薄で、北旭台遺跡で前期初頭の竪穴住居跡13



第１図　国分寺台地区の旧地形と調査遺跡（1/12,000）



第２図　市原市内の縄文時代早期・前期の主な遺跡

表１　市原市内の主な縄文早期・前期の遺跡

No.	遺跡名	よみ	所在地	時　期			住居跡	炉穴	備考
1	押沼第１・第２遺跡	おしぬまだいいち･だいに	ちはら台東６丁目他	早期	条痕文系			9	土坑・陥し穴あり
2	押沼大六天遺跡	おしぬまだいろくてん	押沼字大六天826他	早期	条痕文系	鵜ヶ島台・茅山	1	47	炉穴覆土内貝層４箇所。陥し穴あり
3	草刈六之台遺跡	くさかりろくのだい	草刈字六之台1,289他	早期	条痕文系	茅山下層	2	33	
4	下鈴野遺跡	しもすずの	潤井戸字上清水谷1,684他	早期	撚糸文系		1		
5	新地遺跡	あらち	小田部208、荻作967他	早期	条痕文系	茅山上層？		2	
6	文作遺跡	ぶんさく	葉木字文作325番地他	前期	羽状縄文系		1		
7	千草山遺跡	ちぐさやま	能満字西千草山	早期	条痕文系	茅山上層		5	
			能満字東千草山1,467地先他	早期	沈線文系		1		
				早期	条痕文系	茅山上層		3	
8	大山台遺跡	おおやまだい	山田橋字大山台340番地１他	早期	条痕文系	子母口・野島		32	
9	祇園原貝塚	ぎおんばら	根田字祇園原	早期	条痕文系	茅山下層		3	
10	中台遺跡	なかだい	惣社４丁目６番地他	早期	条痕文系	野島・鵜ヶ島台		65	
11	天神台遺跡	てんじんだい	村上字諏訪台他	早期	条痕文系	鵜ヶ島台・茅山	17	207	集石、竪穴状遺構などもあり
				前期	羽状縄文系	関山	34		
12	東間部多遺跡	とうかんべた	西広字東間部多	早期	条痕文系	野島・鵜ヶ島台	1	78	
13	西広貝塚	さいひろ	西広21－１他	早期	条痕文系	鵜ヶ島台・茅山下層		3	
14	福増遺跡	ふくます	福増字中ノ台他	早期	条痕文系			7	
15	山ノ神遺跡	やまのかみ	福増山ノ神26他	早期	条痕文系			3	
16	北旭台遺跡	きたあさひだい	磯ヶ谷字北旭台87－２番地他	早期	条痕文系			5	
				前期	羽状縄文系	前期初頭	13		
17	小谷遺跡	はたきこやつ	畑木字向247－２	早期	条痕文系			1	
18	片又木遺跡	かたまたぎ	不入斗地先	早期	条痕文系	子母口	1	27	
								2	
19	大作頭遺跡	おおさくがしら	今富字大作1,066他	早期	条痕文系	子母口		160	
20	野口遺跡	のぐち	海保字野口1,193－１他	早期	条痕文系	野島		166	
21	大道遺跡	だいどう	今富大道1,055－１番地他	早期	条痕文系	野島		40	
22	百目木遺跡	どうめぎ	豊成396他	早期	条痕文系			2	
23	下椎木遺跡	しもしいのき	不入斗字下椎木543他	早期	条痕文系			17	
24	ヤジ山遺跡	やじやま	深城字ヤジ山282－１他	早期	条痕文系		1	37	土坑・陥し穴・良好な遺物包含層あり
25	細山（２）遺跡	ほそやま	天羽田字出崎台1,163－１他	早期	条痕文系			15	
26	外迎山遺跡	そとむかいやま	風戸字入口ノ沢1,163番地他	早期	条痕文系	茅山下層	1	2	
27	南名山遺跡	ななやま	中高根字南名山1,341－１	早期	条痕文系	鵜ヶ島台	2	1	
28	荻原野遺跡	おぎわらの	新生字西荻原野641－１他	早期	撚糸文系		3		
				早期	沈線文系		2		
				早期	条痕文系	野島、茅山		50	
29	上原台遺跡	うえはらだい	奉免字上原台1,130地先他	早期	沈線文系		1		
				早期	条痕文系	茅山下層	1	33	
				前期	羽状縄文系	関山	6		
30	南総中学遺跡	なんそうちゅうがく	江子田字上原台	前期	羽状縄文系		3		
31	花和田遺跡	はなわだ	新井字花和田731・733	早期	条痕文系	子母口・野島	11	19	土坑あり

文　献

No.	発行年	執筆者	書　名	収録シリーズ
1	2003	黒沢崇ほか	千原台ニュータウンⅨ－市原市押沼第１・第２遺跡（上層）－	千葉県文化財センター調査報告書第449集
2	2004	黒沢崇ほか	千原台ニュータウンⅩⅡ－市原市押沼大六天遺跡（上層）－	千葉県文化財センター調査報告書第480集
3	1994	上守秀明・西野雅人ほか	千原台ニュータウンⅥ－草刈六之台遺跡－	千葉県文化財センター調査報告書第241集
4	1987	大村　直	下鈴野遺跡	（財）市原市文化財センター調査報告書第16集
5	1984	山口直樹	小田部新地遺跡	（財）市原市文化財センター調査報告書第４集
6	1989	大村　直	文作遺跡	（財）市原市文化財センター調査報告書第30集
7	1979	千草山遺跡発掘調査団	千草山遺跡	
	1989	田中清美	千草山遺跡・東千草山遺跡	（財）市原市文化財センター調査報告書第29集
8	2004	大村　直	山田橋大山台遺跡	（財）市原市文化財センター調査報告書第88集
9	1999	忍澤成視	祇園原貝塚	上総国分寺台遺跡調査報告Ⅴ
10	2013	鶴岡英一	中台遺跡	上総国分寺台遺跡調査報告ⅩⅩⅡ
11		本　書		
12	1974	市毛勲ほか	東間部古墳群	上総国分寺台遺跡調査報告Ⅰ
13	2005	安井健一・鶴岡英一	西広貝塚Ⅱ	上総国分寺台遺跡調査報告ⅩⅣ
14	1999	渡邉高弘ほか	市原市福増遺跡－一般道犬成海士有木線埋蔵文化財調査報告書－	千葉県文化財センター調査報告書第366集
15	1989	浅利幸一	福増山ノ神遺跡	（財）市原市文化財センター調査報告書第33集
16	1990	木對和紀	北旭台遺跡	（財）市原市文化財センター調査報告書第39集
17	2002	北見一弘	畑木小谷遺跡Ⅱ	（財）市原市文化財センター調査報告書第81集
18	1984	山口直樹	片又木遺跡	（財）市原市文化財センター調査報告書第３集
	2000	小橋健司	片又木遺跡Ⅱ	（財）市原市文化財センター調査報告書第70集
19	1999	加納　実	東関東自動車道（千葉・富津線）埋蔵文化財調査報告書３－市原市大作頭遺跡－	千葉県文化財センター調査報告書第355集
20	1998	森本和男ほか	東関東自動車道(千葉･富津線)埋蔵文化財調査報告書１－市原市海保野口遺跡－	千葉県文化財センター調査報告書第335集
21	1988	米田耕之助	今富大道遺跡	（財）市原市文化財センター調査報告書第26集
22 23 24 25	2000	小笠原永隆ほか	東関東自動車道（千葉・富津線）埋蔵文化財調査報告書５－市原市中伊沢遺跡・百目木遺跡・下椎木遺跡・志保地遺跡・ヤジ山遺跡・細山(1)(2)遺跡－	千葉県文化財センター調査報告書第383集
26	1987	木對和紀	外迎山遺跡・唐沢遺跡・山見塚遺跡	（財）市原市文化財センター調査報告書第20集
27	1998	蜂屋孝之・小川浩一	中高根南名山遺跡（第２次）	（財）市原市文化財センター調査報告書第62集
28	1998	田中清美	新生荻原野遺跡	（財）市原市文化財センター調査報告書第59集
29	1992	田中清美	奉免上原台遺跡	（財）市原市文化財センター調査報告書第43集
30	1978	市原市教育委員会	南総中学遺跡	
31	2001	牧野光隆	新井花和田遺跡	（財）市原市文化財センター調査報告書第74集

軒が、上原台遺跡で関山式の竪穴住居跡６軒が、南総中学遺跡（30）で前期前葉の竪穴住居跡が３軒知られる程度で他にほとんど知られていない。この時期のものとしても、天神台遺跡の住居跡群は、同時期の一集落の検出例として非常に注目されるものである。

第２節　調査の経過と方法

１．調査の経過

調査以前の天神台遺跡周辺の現況は、畑地・山林・原野からなり、手つかずの台地上には良好に遺跡が保存されていた。第３図に見るように、あちこちに墳丘を残す古墳が存在していた。北西から延びる谷を隔てて東側の台地上には東間部田遺跡が広がり、こちらにも墳丘を残す古墳が幾つもあった。

発掘調査は、道路や宅地造成にあわせて大小の区画に分けられ、昭和49（1974）年から昭和63（1988）年まで断続的におこなわれ、最終的には13次を数えるものとなった。それぞれの地区と呼称は第４図に示すとおりである。調査次（地区）ごとの面積等は、先述した例言中の表に示した。なお、諏訪神社境内地にあたるセ72・セ73・セ28・099地区に囲まれた地区は、唯一遺跡が残されており、確認調査後９・10号墳と11号墳の一部が保存されている。

２．調査の方法

例言中の表に見るように、広域かつ多年度にわたる調査のため、これを担当した職員も多数におよび、調査方法や地区の区分がそれぞれ異なり、必ずしも同一遺跡内で一環した方法はとられていない。したがって、図面類の記録法や遺物等の取り上げは、各調査次（地区）ごとのやり方でおこなわれているので、今回の報告にあたってはこれを全体で統一した区画に直すことが不可能なため、基本的に調査次（地区）の呼称を踏襲し掲載した。調査は各地区ともに、最上層にある古墳の調査からはじまり、下層の遺構調査へと段階的におこなわれた。古墳墳丘下には、弥生・古墳時代の墓や集落跡があり、その下部には縄文後期相当の新期テフラ層が堆積、この下に縄文早期・前期の多量の遺物を含む包含層があり、これを取り除くとようやく縄文早期・前期の住居跡や炉穴群が現れるという状況であった。ただし、新期テフラ層や遺物包含層は地形等の関係で地区によってその形成状態が違っており、必ずしも上述の順番で検出されたわけではない。

３．グリッド割りなど

第５図に、各調査区のグリッド割り図を示した。これらの調査区のうち、北側の東西に細長く延びるＴＪ地区のみが、公共座標にあわせた調査をおこなっていない。住宅地への取り付け道路建設に伴うもので、まだ調査体制がよく整わない時点での緊急調査であったため、任意のグリッド割りも十分におこなわれていない。これ以外の地区について、北側から順に区割り方法などについて述べる。

064地区は遺跡の北西端部に位置、大グリッドを50ｍに設定し、西から東へ１Ｂ・１Ｃ、南へ２Ｂ・３Ｂと呼称、小グリッドは５ｍに設定し、北西隅を01、北東隅を10、南東隅を100となるよう区分した。

099地区は064の南に東西に位置、大グリッドを40ｍに設定し、西から東へＨＥ・ＩＥ、南へＨＦ・ＨＧと呼称、小グリッドは４ｍに設定し、北西隅を01、北東隅を10、南東隅を100となるよう区分した。

セ72地区は099地区の西に位置し、大グリッドを20mに設定し、西から東へ１Ａ・２Ａ、南へ１Ｂ・１Ｃと呼称、小グリッドはＡ～Ｄに４分割した後さらに１～４に４分割して５mに設定し、北西隅をＡ１、北東隅をＢ２、南西隅をＣ３、南東隅をＤ４と16に区分した。

セ73地区はセ72地区の南に位置し、大グリッドを20mに設定し、西から東へＣ２・Ｃ３、南へＣ３・Ｄ４と呼称、小グリッドは５mに設定し、北西隅を１、北東隅を４、南東隅を16となるように区分した。

セ28地区はセ73地区の東に位置、大グリッドを20mに設定し、西から東へＨ８・Ｈ９、南へＩ８・Ｊ８と呼称した。

セ54地区はセ28地区の東に位置、大グリッドを20mに設定し、西から東へＩ18・Ｉ19、南へＪ18・Ｋ18と呼称、小グリッドは４mに設定し、北西隅をＡ、北東隅をＤ、南東隅をＰと16に区分した。なお、セ54地区とセ28地区の大グリッド割りは連続し呼称も共通している。

ＳＷ83地区はセ54地区の東、遺跡の南西端部に位置、大グリッドを40mに設定し、西から東へＮＩ・ＯＩ、南へＮＪ・ＮＫと呼称、小グリッドは５mに設定し、北西隅を01、北東隅を08、南西隅を71、南東隅を78と64に区分した。なお、ＳＷ83地区と099地区の大グリッド割りは連続し呼称も共通している。

第３節　遺跡の概要

諏訪台古墳群は、およそ170基の古墳群と奈良・平安時代の方形周溝遺構約60基、そして弥生時代の方形周溝墓約70基が、調査区の中央部から南部にかけて広く展開、天神台遺跡上層では、弥生時代から古墳時代の竪穴住居跡約460軒が、調査区の主に北側に広く展開する。奈良・平安時代の掘立柱建物跡なども調査区の南側から検出されている。これらについての詳細は、以後順次刊行予定の「諏訪台古墳群」、「天神台遺跡Ⅱ」で報告する。

第６図に天神台遺跡の下層、縄文時代の遺構分布を示した。遺構は調査区全域に分布するが、空白地帯もある。とくに遺構が密集するのは、セ72・セ28・セ54地区で、099地区の中央部にもややまとまりがある。内容は、縄文早期・前期の竪穴住居跡60軒、縄文早期の炉穴を主体とした遺構380基である。また、主に縄文早期の竪穴住居跡や炉穴の覆土内に形成された貝ブロックが58箇所あり、遺跡の南西側に貝塚として展開している（第７図）。これらの遺構や貝塚の上層には、土器や石器・礫を多量に含む遺物包含層が形成されており、整理箱にして土器が約500箱分、礫類が約1,000箱分出土した。また、これらの礫類の中には礫石器約2,000点、剥片石器類約1,000点が含まれていた。

表２　天神台遺跡・縄文遺構集計

種別／調査区	竪穴住居	竪穴状遺構	炉穴	集石	陥し穴	土坑	落ち込み	小計	遺構外貝層	遺構内貝層	計	備考
ＴＪ			10			27		37			0	
099	17		19	3	10	5	1	55			0	
064	5		9		5	3		22			0	
セ28	17	4	130	1	3	23	2	180	6	41	47	
神社裏地区								0			0	
セ54	17	1	11		18	33		80			0	
セ72	2	8	17			21		48		11	11	
セ73	2		11			5		18			0	
小計	60	13	207	4	36	117	3	440	6	52	58	
ＳＷ74			9					9			0	全体図のみ
ＳＷ79			15		2			17			0	全体図のみ
ＳＷ80・81	4		13					17			0	詳細不明
ＳＷ83			4					4			0	詳細不明
計	64	13	248	4	38	117	3	487	6	52	58	


東間部田遺跡
(古墳群)
蛇谷
供養塚
1号墳
2号墳
31号墳
34号墳
(行人塚)
22号墳
21号墳
1号墳
2号墳
5号墳
8号墳
9号墳
11号墳
10号墳
25,500
25,250
25,000
56,500
57,000
0
20
100
200m
(1:4,000)

第３図　調査前地形図


SW83
セ54
099
TJ
SW74
SW79
064
セ28
セ72
諏訪神社
セ73
25,500
25,250
25,000
200m
100
20
0
(1:4,000)
56,500
57,000

第４図　調査区の配置図



第５図　調査区別グリッド配置図



第６図　遺構分布図



第７図　貝層分布図

第２章　遺構と遺物

はじめに

天神台遺跡から検出された遺構を表２に示した。内容は、竪穴住居跡・竪穴状遺構・炉穴・集石・陥し穴・土坑・落ち込み、そしてこれら遺構内外に堆積していた貝層である。遺構総数は487、貝層は58箇所におよぶ。12箇所の調査地区すべてからみつかっているが、このうちセ28地区が180箇所、貝層も47箇所と最も多く、遺跡の中心箇所がこのあたりにあったことがわかる。

このうち、ＳＷ74・ＳＷ79・ＳＷ80・ＳＷ81・ＳＷ83地区については、図面等の情報が欠如していたため詳細不明であった。全体図等から読み取った数のみを提示し、本報告ではこれらを除く440箇所の遺構についての記載をおこなう。遺構全体図を第８図に示し、その配列の詳細を①から⑬までの区分図に示した（第９～21図）。

第１節　竪穴住居跡

竪穴住居跡は、総数64軒が検出されているが、ＳＷ80・81地区の４軒の詳細が不明のため、ここではこれを除く60軒について記載していく。それぞれの属性は表３に示した。竪穴住居跡は、遺跡南側のセ28・セ54地区でそれぞれ17軒ずつ、遺跡中央部の099地区で17軒と集中した分布が認められる。このうち、セ28区は縄文早期後葉・条痕文系土器の時期を主体とし、099・セ54区は縄文前期前葉・羽状縄文系関山式の時期を主体とすることから、時期の異なる集落が東西に展開していることがわかる。前者は17軒、後者は34軒となり、後述の炉穴群を含むその集落の規模はそれぞれおよそ径200ｍほどとみられる。

各住居跡出土の土器については、その内訳の集計を表４に示し、主要な土器を図示しその属性を表５（ＤＶＤ内に収録）に示した。石器については、図示していないものを含めそのすべての属性を表６に示した。礫については、住居跡ごとに集計したものを表７に示した。

１号住居跡

【検出位置】　064区1B-80・90、1C-71・81

【規模ほか】　長軸5.38ｍ・短軸4.28ｍ・深さ45㎝。形状は楕円形。主軸方向　328°（第20図）。

【覆土】　明褐色土・暗褐色土・暗茶褐色土などを主体とする。多量のロームや少量の焼土を含む層もある。

【重複関係】　北側部分で弥生･古墳時代の住居跡（調査次№038・039）と重複。この下部に位置する。

【出土遺物】　36点・1,755ｇの礫および礫石器が出土している。このうち91.1％に被熱のあとがみられる。石器は、軽石製品１点のみである。ほかに、黒曜石・チャートなどの剥片５点がある。土器は、79点・1,313ｇ出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。うちわけは、条痕文系、一部に縄文を施した条痕・縄文の土器、羽状縄文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系の時期のもので全体の92.3％あり、当該時期を１号住居の

表３　竪穴住居跡属性表

新No.	調査区	旧No.	時期	位置	形状	主軸方向	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	覆土	遺物	重複関係	備考
1	064	097	早期	1B-80・90、1C-71・81	楕円形	328°	538	428	45			北側で上層住居跡と重複。上層住居跡の下部に位置	
2	064	076	—	2B-18	楕円形？		254	120	11		なし	西半部で古墳と、北半部で上層住居跡と重複	
3	064	099	早期	2C-33・34	長方形	359°	445	258	16				
4	064	096	—	2C-41・42	長台形	270°	376	282	16		なし	北側で上層住居跡と重複	
5	064	103	—	2C-51・52・61・62	不整円形		350	330	38		なし	中央部に68号遺構が重複	
6	099	1160	前期	JF-18・19・28・29・38・39	長方形	347°	572	400	47				
7	099	1161	前期	JF-29・30	円形		370	350	32				
8	099	1166	—	KF-42	楕円形		292	184	30		なし		
9	099	1158	前期	KF-17・18・28	隅丸長方形	343°	546	426	39				
10	099	1157	前期	LF-33・42・43	隅丸長方形	35°	582	430	59				
11	099	1151	前期	JF-54・64	円形		340	212	20				
12	099	1164	前期	JF-67・68・77・78	隅丸方形		424	342	32				
13	099	1152	前期	JF-76・77	長楕円形		360	300	40				
14	099	1156	前期	JF-87・88・97・98	長方形	305°	422	296	37				
15	099	1155	前期	JF-97・98、JG-07・08	長方形	309°	488	348	35				
16	099	1154	前期	JG-06・07・16・17	長方形	330°	476	320	32				
17	099	1153	前期	JG-05・06・15・16	隅丸方形		380	352	41				
18	099	1162	—	JG-35・36	方形		274	270	30		なし		
19	099	1167	—	JG-62・63	長方形		550	228	51		なし		
20	099	1163	前期	IG-79・88・89・90	長方形	305°	552	322	38				
21	099	1150	前期	JG-94・95、JH-04・05	隅丸方形？		450	394	32				
22	099	1159	前期	MG-81・82	楕円形		382	366	18				
23	セ72	035	早期	2B-D1	円形		330	313	28	貝層			柱穴なし。炉内焼土・炭化物微量
24	セ72	030	早期	4A-A3	楕円形		325	254	21			189・190・191号遺構と重複	
25	セ73	036	早期	C3-G・K	隅丸方形		614	305	46			200号遺構と重複	
26	セ73	033	早期	E6-A・B	楕円形？		313	308	40				
27	セ28	079	早期	I6-03・06・07・10・11・14・15	長台形	25°	1272	636	136	貝層	多量の獣骨		大型住居跡、炉なし
28	セ28	317	早期	I9-08	長台形？	40°	(628)	392	24			古墳周溝と重複のため南側と北側の一部消失	中央付近に炉穴（280号遺構）あり
29	セ28	300	早期	H10-05・09	隅丸長方形	28°	(358)	306	44	貝層		北側消失	炉あり、柱穴あり
30	セ28	425	早期	G11-14・15、H11-02・03・06・07	長台形	357°	788	494	28				大型住居、炉なし
31	セ28	227	早期	J9-03・04・07・08、J10-01・05	長台形	104°	1030	562	74	貝層			大型住居、炉なし
32	セ28	202	早期	J10-06・07・08・10・11	長台形	79°	1040	540	78	貝層			大型住居跡、炉なし、中央付近に集石
33	セ28	201	早期	J10-12・16、J11-05・06・09・10・13	長台形	59°	1356	710	100			南側で炉穴と重複	大型住居跡、炉なし、西隅に集石
34	セ28	203	早期	J10-10・11・13・14・15、K10-02	長台形	61°	786(964)	598	70	貝層		東側で重複？	大型住居跡、炉なし
35	セ28	249	早期	K10-03・04・07・08	長台形	121°	924	494	44				大型住居、炉なし
36	セ28	225	早期	K9-05・06・10・11	長台形？	124°	(674)	(392)	46	貝層			大型住居、炉なし
37	セ28	169	前期	F13-14・15	隅丸長方形	303°	(376)	(340)	30	貝層		古墳周溝と重複のため東側消失	炉あり
38	セ28	197	—	H14-05・06・09・10	隅丸長方形	55°	322	278	28		なし	南隅消失	炉なし、柱穴なし
39	セ28	170	前期	H15-05・09	隅丸長方形	289°	424	298	32			木棺墓と重複のため北西隅消失	炉あり、柱穴なし
40	セ28	186	前期	H14-12・16	隅丸長方形	266°	416	318	42				炉あり
41	セ28	053	前期	J15-05・09	隅丸長方形	307°	480	340	46	貝層			
42	セ54	122	前期	H16-G・K	円形		424	372	50				柱穴なし
43	セ54	189	前期	I16-C・D	円形		420	371	49				
44	セ28	023	前期	H17-03・07・08・11・12	長台形	2°	1100	562	44				炉あり
45	セ54	114	前期	I17-G・H	円形		310	251	34				
46	セ54	116	前期	I17-I・J・M・N	長台形	16°	665	473	35				炉２箇所
47	セ54	115	前期	I17-J・K・N・O	円形		422	397	40				
48	セ54	113	前期	I17-L・P	円形		373	329	34				
49	セ54	112	前期	I17-P、I18-M、J17-D、J18-A	隅丸長方形	34°	472	318	34				柱穴なし
50	セ54	182	前期	J18-F・G			422	196	21				
51	セ54	100	前期	I18-G・H・K・L	長方形	309°	535	324	41				炉２箇所
52	セ28	021	前期	G19-14、H19-01・02・05・06	長台形	44°	890	532	58				床面中央に焼土痕
53	セ54	105	前期	G19-G・H・K・L、G20-E・I	長方形	296°	797	490	35				炉２箇所
54	セ54	83	前期	G21-J	円形		346	307	30				
55	セ54	111	前期	H20-I・J・M・N	楕円形		548	423	32				炉・柱穴なし
56	セ54	124	—	I20-N・O、J20-B・C	長台形	341°	788	516	24				炉２箇所
57	セ54	123	前期	J17-L、J18-E・I	隅丸長方形	252°	497	396	35				炉２箇所
58	セ54	79A	前期	L18-B	円形		300	265	25				炉・柱穴なし
59	セ54	125	早期	K21-E・F・I・J	長台形	322°	773	485	37				炉なし
60	セ54	139	—	K21-M・N、L21-A・B	方形		473	358	24		なし		

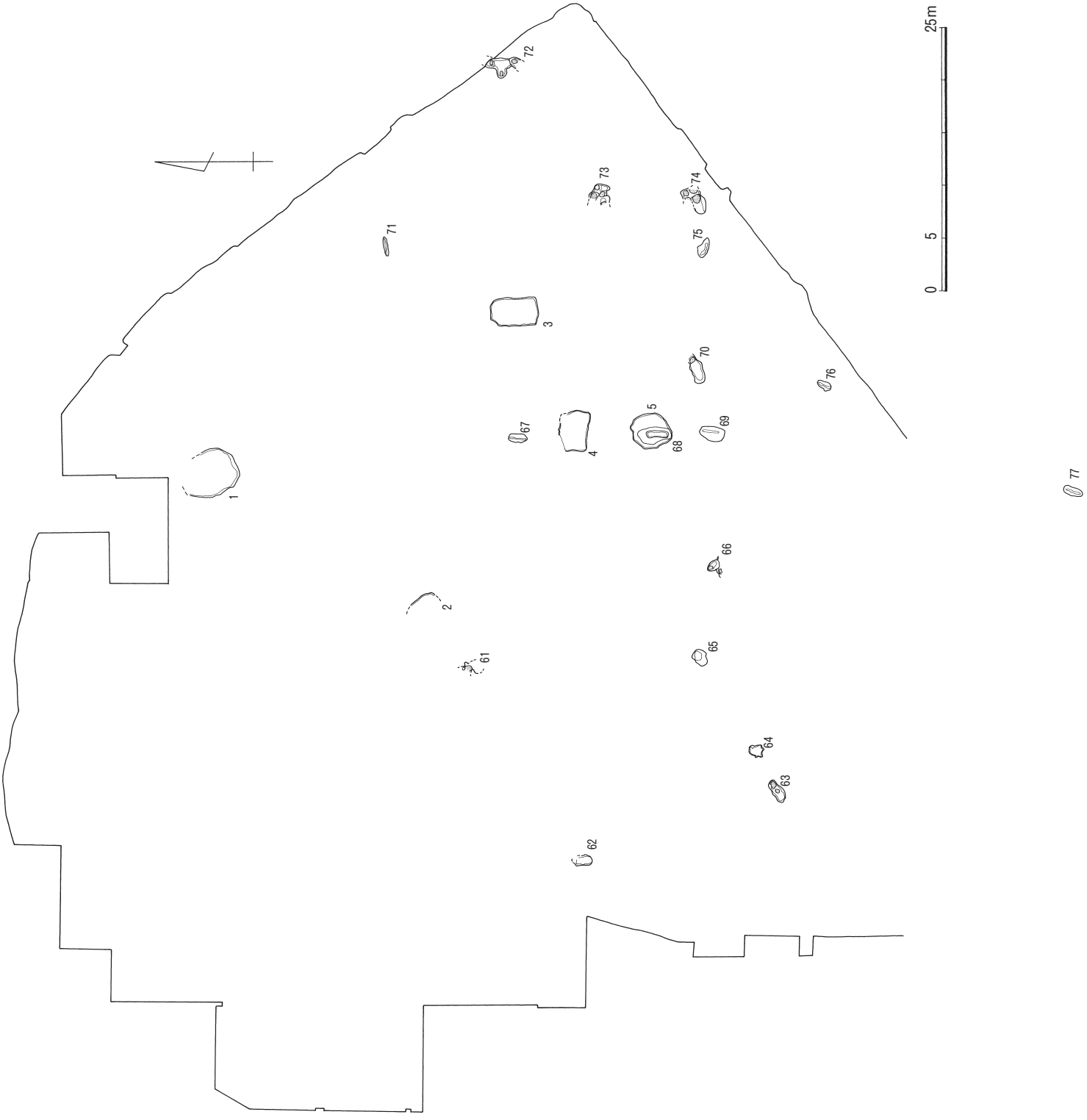
帰属時期とみる。

【遺物説明】　出土土器のうち、点あげしたものを第20図１～３に、一括扱いのものを第20図４～16、第21図17～27に示した。出土位置の明らかな土器は１～３であるが、これらは中心からやや東寄り、床面から10cmほど浮いた位置から出土したものである。いずれも条痕文系深鉢形土器の胴部破片である。４～８は口縁部、９～20胴部、21は平底の底部破片である。22～27は羽状縄文系・関山式深鉢形の口縁および胴部破片である。

出土石器は第21図28に示した。最大長104㎜・重さ80.0ｇをはかる軽石製品である。周囲を整形しているようであるが、穿孔や溝等の加工は施されていない。



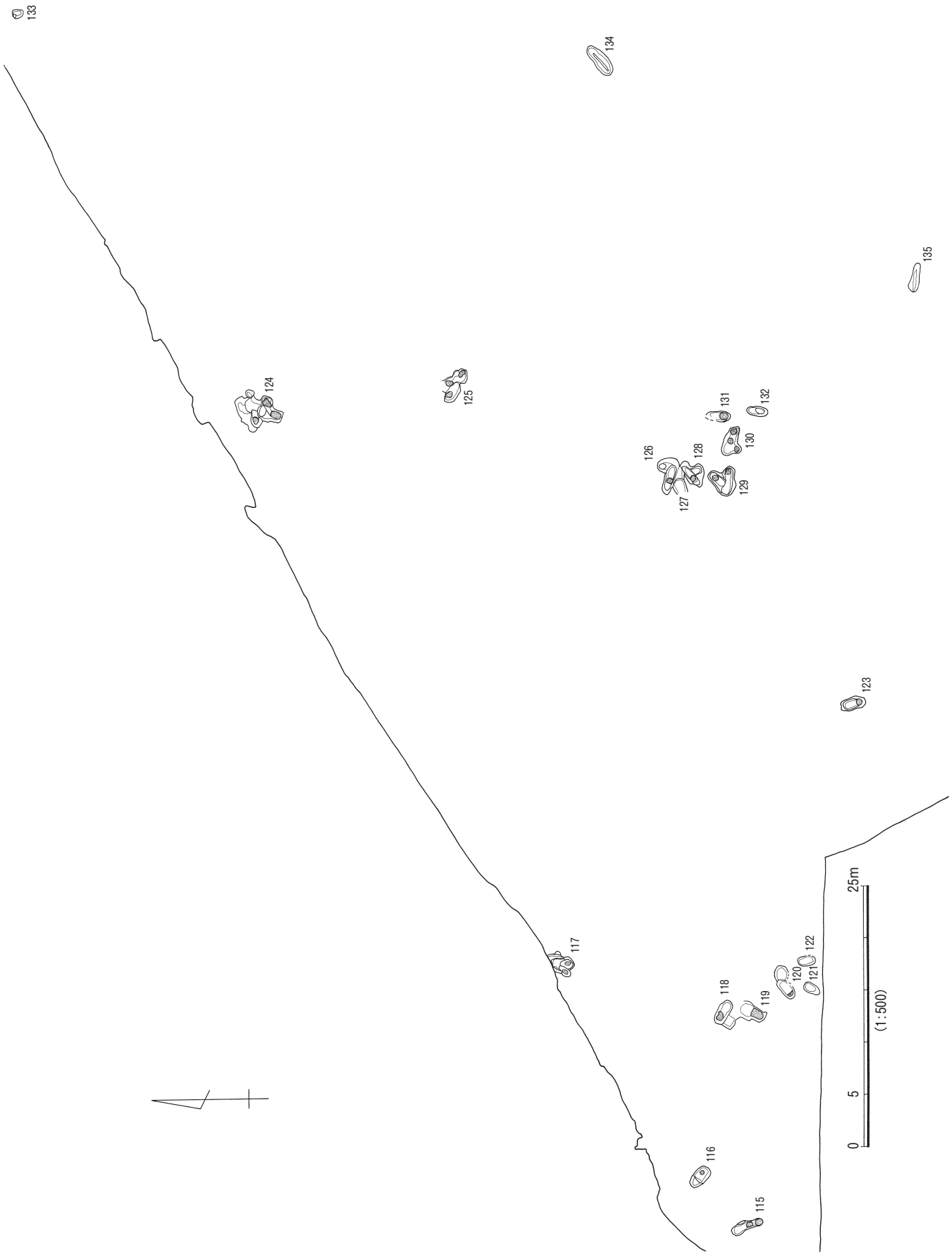
第８図　遺構全体図（1:4,000）



第９図　遺構全体図・①



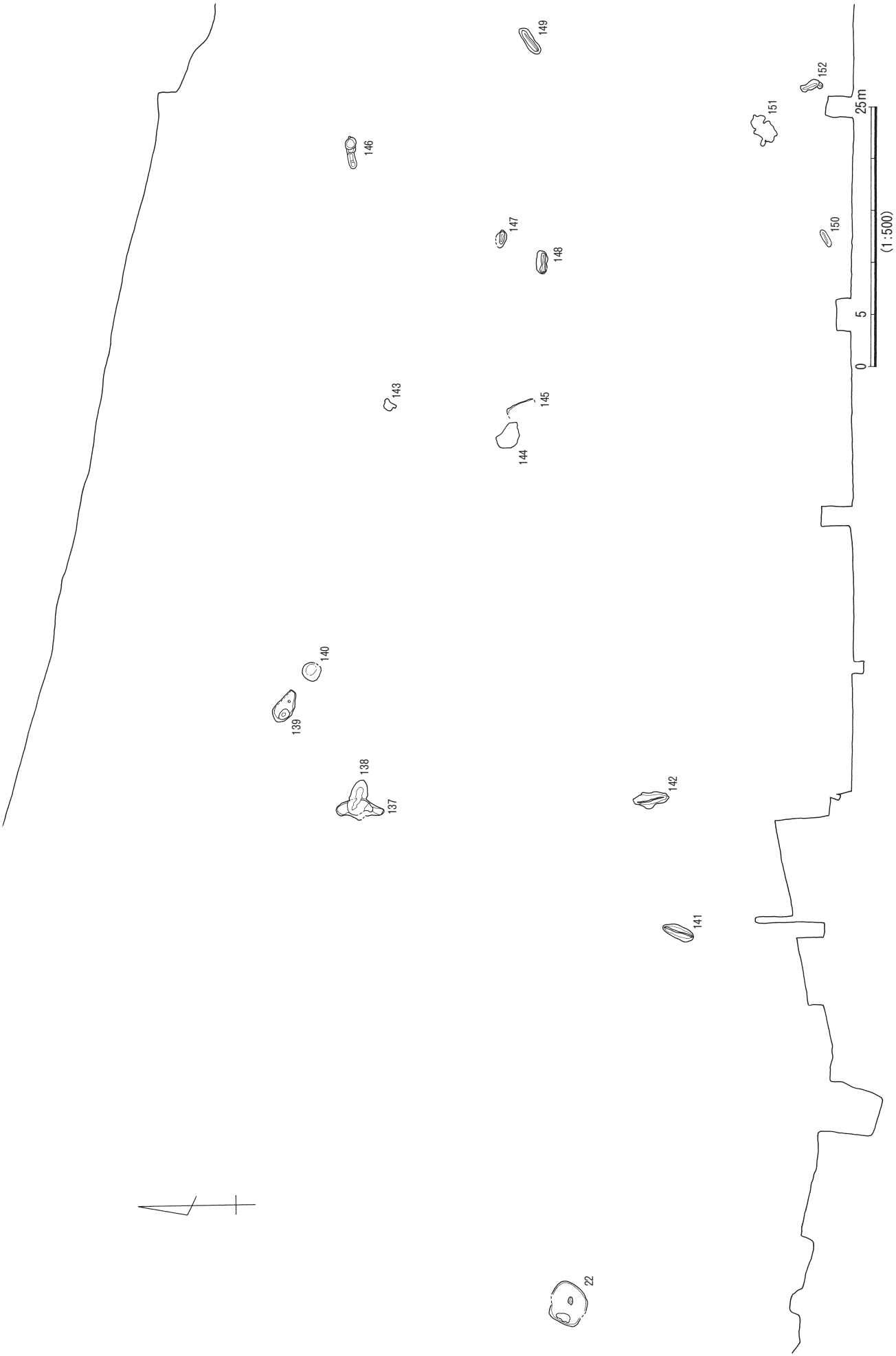
第10図　遺構全体図（1:500）・②、③



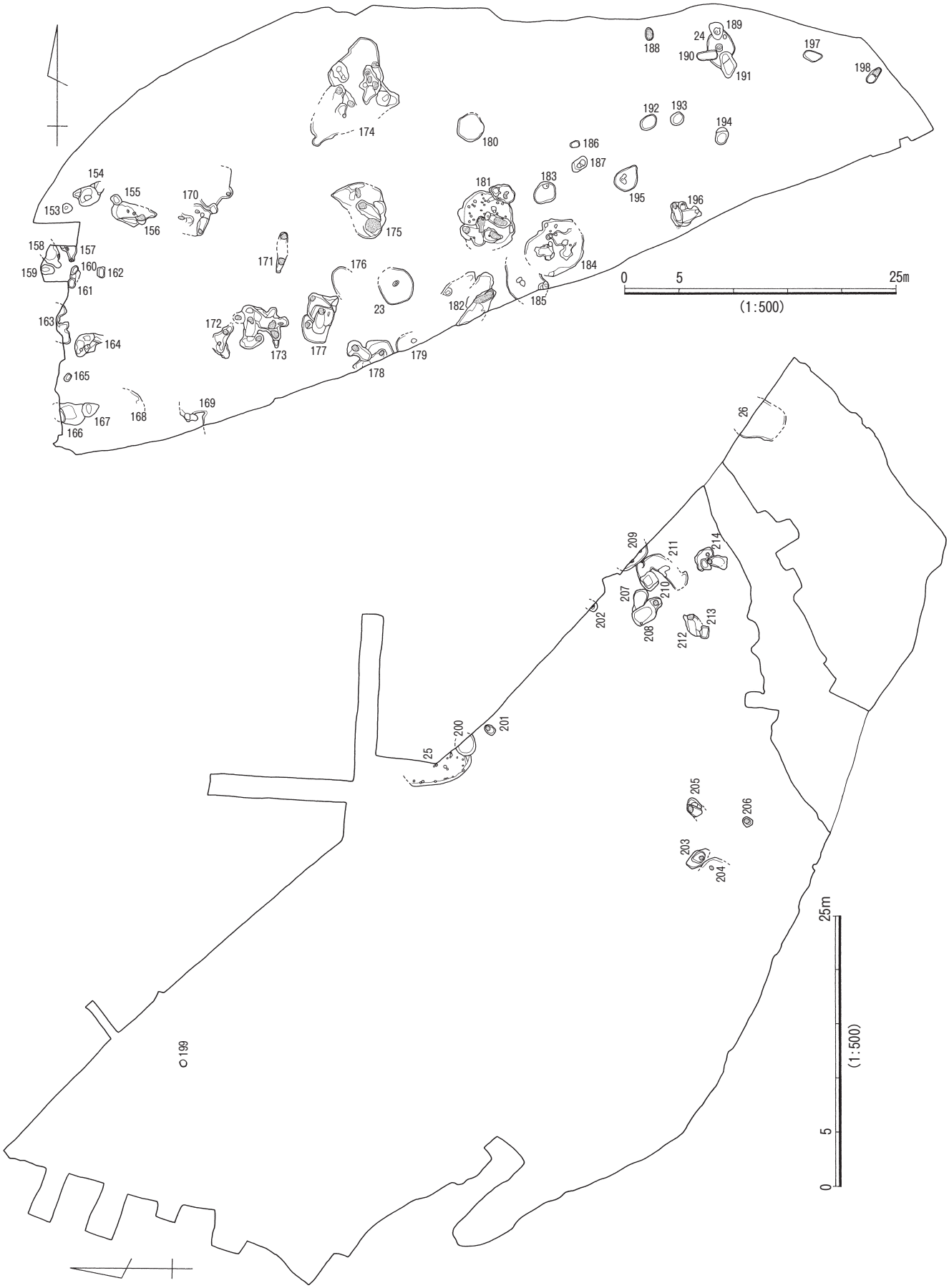
第11図　遺構全体図（1:500）・④



第12図　遺構全体図（1:500）・⑤



第13図　遺構全体図（1:500）・⑥



第14図　遺構全体図（1:500）・⑦、⑧



第15図　遺構全体図（1:500）・⑨



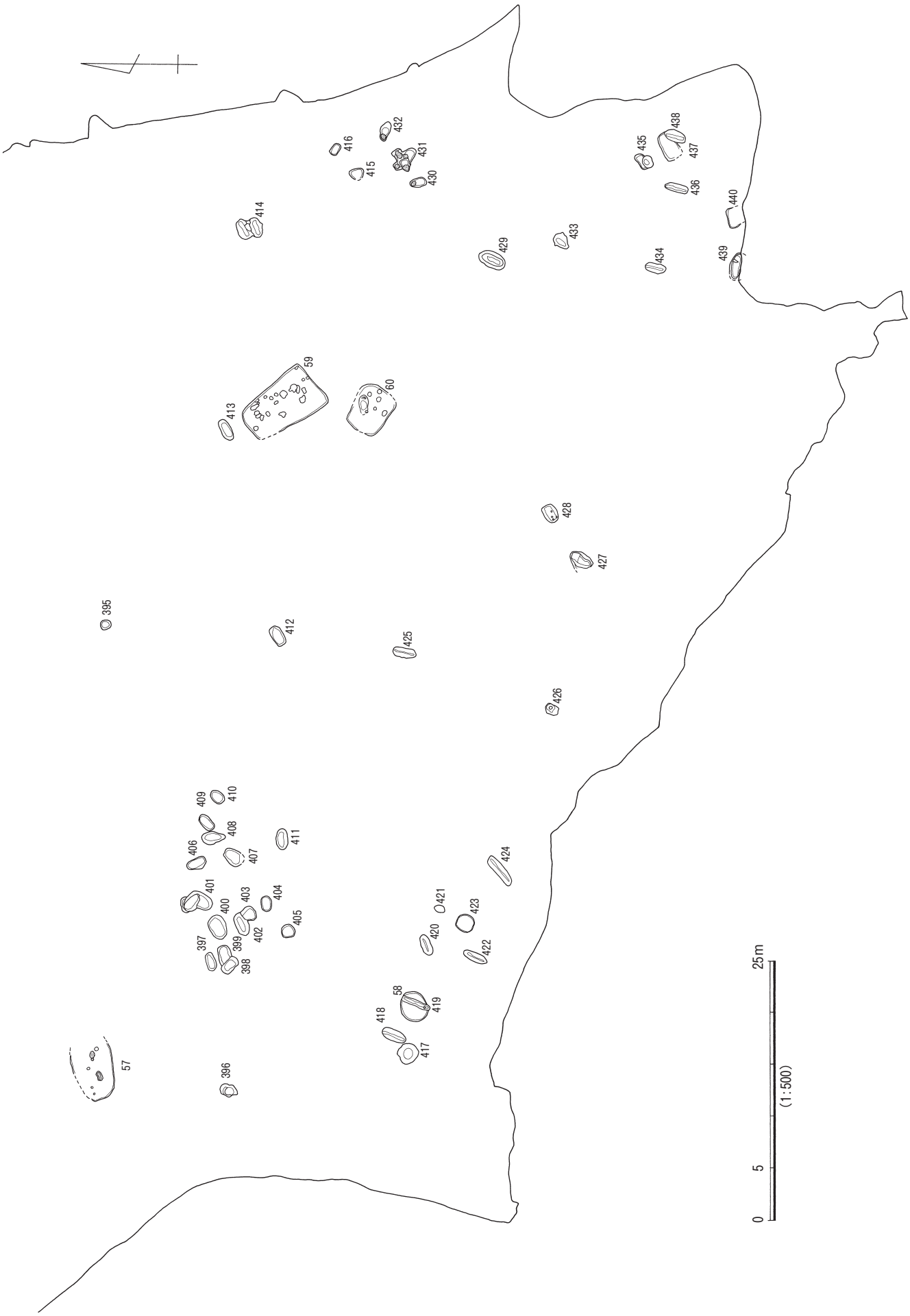
第16図　遺構全体図（1:500）・⑩



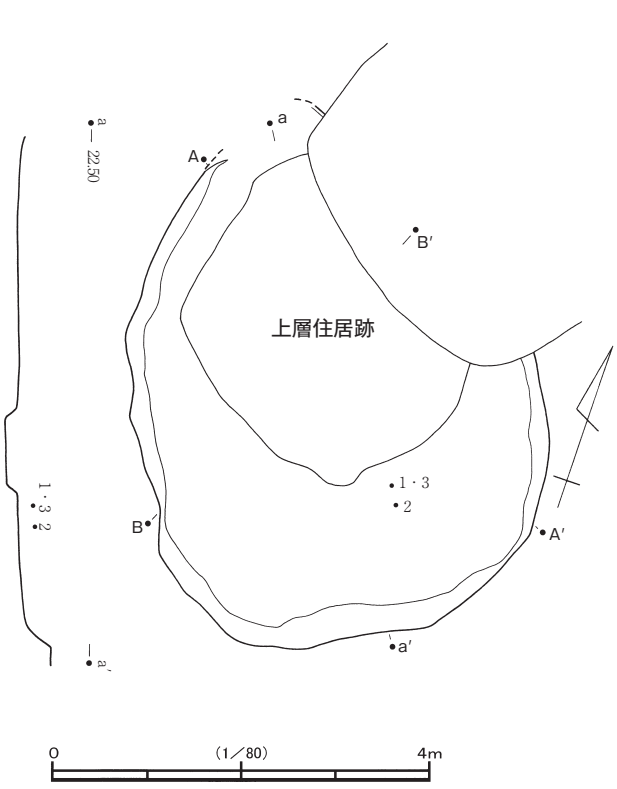
第17図　遺構全体図（1:500）・⑪

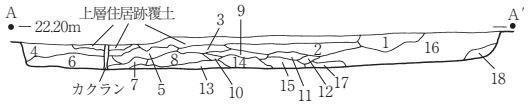


第18図　遺構全体図（1:500）・⑫



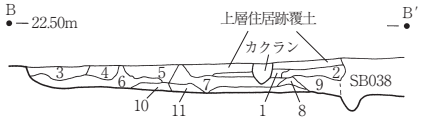
第19図　遺構全体図（1:500）・⑬





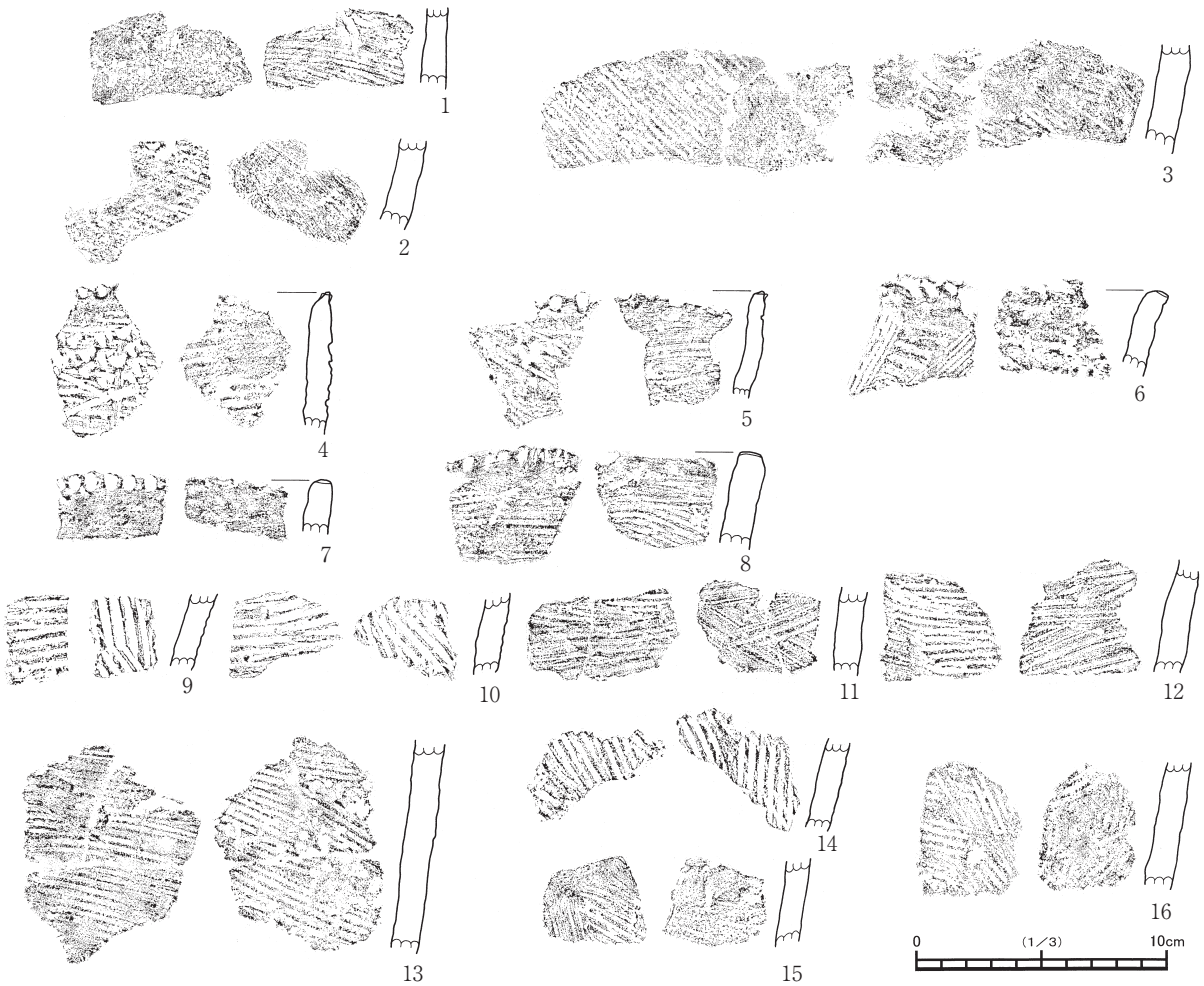
セクション位置：A−A′

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗褐色		欠く		
2	明褐色	ローム粒（斑状）	有り		
3	明褐色		良い		
4	茶褐色		やや欠く		
5	やや黒い明褐色		良い		
6	暗褐色	多量のローム	有り		
7	明褐色	多量のローム	欠く		
8	明褐色		やや欠く		
9	黒い暗褐色		良い		
10	明褐色	少量の焼土	欠く		
11	暗褐色		やや欠く		
12	暗褐色		良い		
13	暗茶褐色		良い		
14	暗茶褐色		やや欠く		
15	明褐色		欠く		
16	暗褐色		有り		
17		ローム・明褐色土混合層	やや欠く		
18	明褐色		欠く		



セクション位置：B−B′

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	明褐色		良い		
2	明褐色	ローム粒（斑状）	良い		
3	明褐色	多量のローム	良い		
4	暗褐色		良い		
5	黒褐色		良い		
6	明褐色		良い		
7	暗褐色		やや欠く		
8	明褐色	焼土			
9	暗茶褐色		やや欠く		
10	明褐色	ローム・少量の焼土	欠く		
11	明褐色		良い		



第20図　1号住居跡実測図・遺物出土状況図および出土遺物実測図(1)

２号住居跡

【検出位置】 064区2B-18

【規模ほか】 長軸2.54m・短軸1.20m・深さ11cm。形状は楕円形？（第22図）。

【覆土】 明茶褐色土・暗褐色土などを主体とし、ロームを斑状に含むものもある。

【重複関係】 西半部で古墳周構（調査次№150号）と、北半部で弥生・古墳時代の住居跡（調査次№055号）と重複する。

出土遺物がないため、遺構の詳細時期は不明。

３号住居跡

【検出位置】 064区2C-33・34

【規模ほか】 長軸4.45m・短軸2.58m・深さ16cm。形状は長方形。主軸方向　359°（第23図）。

【覆土】 暗褐色土・明褐色土などを主体とする。

【出土遺物】 22点・777ｇの礫および礫石器が出土している。このうち94.3％に被熱のあとがみられる。石器は、楔形石器１点のみである。ほかに、チャートなどの剥片４点がある。土器は、75点・1,075ｇ出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。うちわけは、条痕文系、一部に縄文を施した条痕・縄文の土器、羽状縄文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系で全体の90.4％あり、当該時期を３号住居の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち主なものを第23図１～26に示した。１～21は、条痕文系深鉢形土器で、１～６がその口縁部、７～21が胴部破片である。条痕以外は明瞭な文様をもたないものが多い。22～26は、羽状縄文系深鉢形鉢土器の胴部破片である。

第24図27は唯一の出土石器で、最大長38.8㎜・最大幅44.0㎜・最大厚9.0㎜、重さ17.2ｇを測る無斑晶質安山岩製の楔形石器である。一側縁部に自然面を残す。

４号住居跡

【検出位置】 064区2C-41・42

【規模ほか】 長軸3.76m・短軸2.82m・深さ16cm。形状は長台形。主軸方向　270°（第25図）。

【覆土】 暗褐色土を主体とする。斑状にロームを含む層もある。

【重複関係】 北側で弥生・古墳時代の住居跡（調査次№101）と一部重複。

出土遺物がないため、遺構の詳細時期は不明。

５号住居跡

【検出位置】 064区2C-51・52・61・62

【規模ほか】 長軸3.50m・短軸3.30m・深さ38cm。形状は不整円形（第26図）。

【覆土】 明褐色土を主体とする。

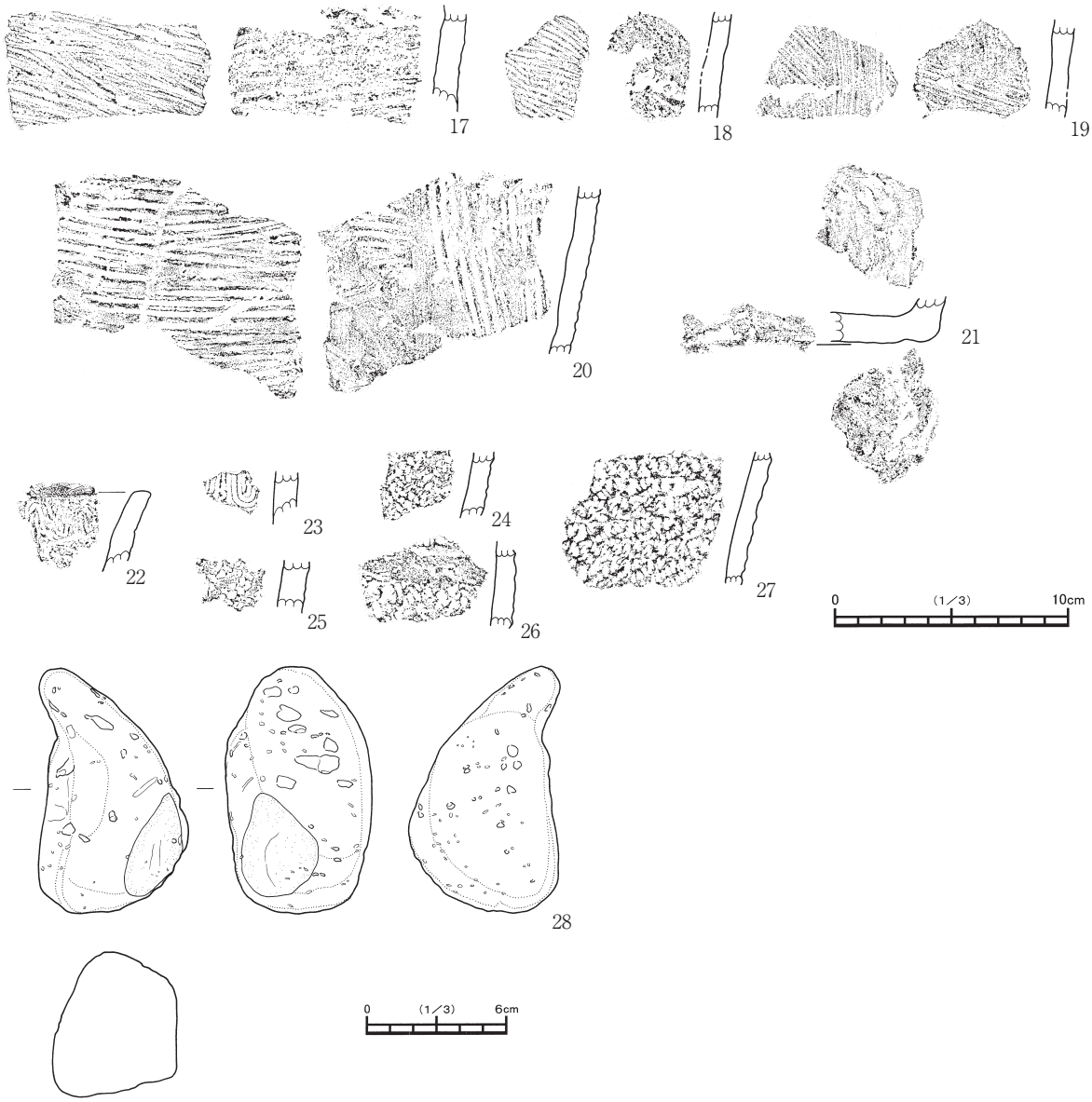
【重複関係】 中央部で68号遺構と重複。５号住居より新しい。

出土遺物がないため、遺構の詳細時期は不明。

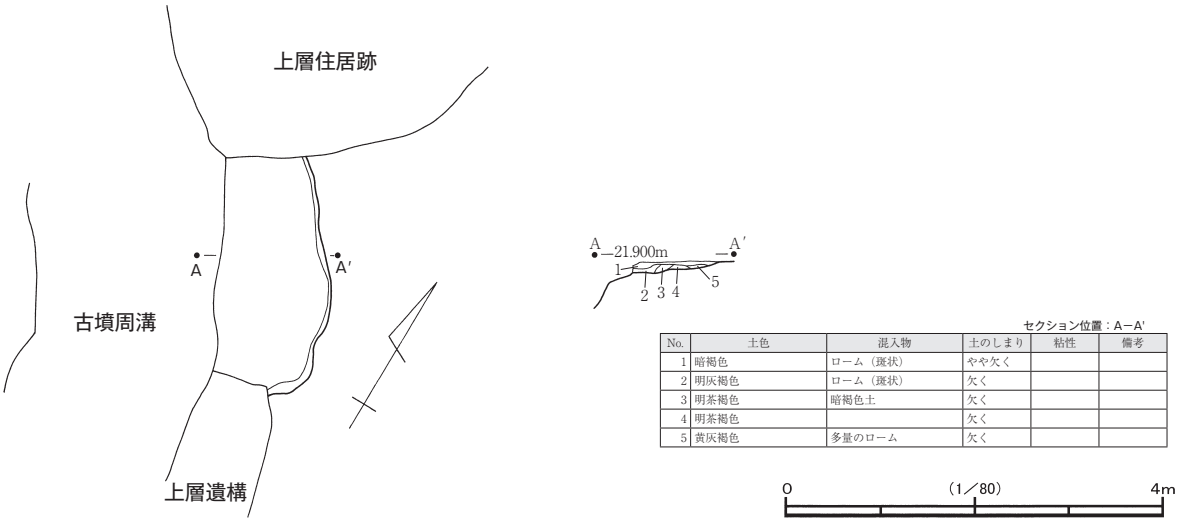
６号住居跡

【検出位置】 099区JF-18・19・28・29・38・39

【規模ほか】 長軸5.72m・短軸4.00m・深さ47cm。形状は長方形。主軸方向　347°。炉は南北に二箇所ある。柱穴は、壁面沿いに小規模なものが、炉脇にやや規模の大きなものが数箇所並ぶが、その

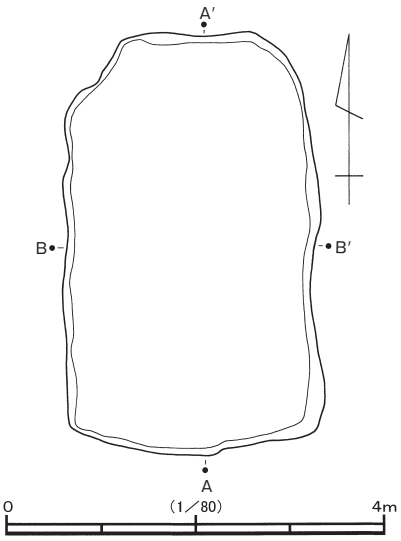


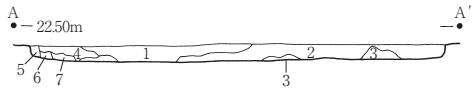
第21図　１号住居跡出土遺物実測図(2)



No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗褐色	ローム（斑状）	やや欠く		
2	明灰褐色	ローム（斑状）	欠く		
3	明茶褐色	暗褐色土	欠く		
4	明茶褐色		欠く		
5	黄灰褐色	多量のローム	欠く		

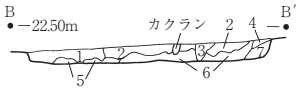
第22図　２号住居跡実測図





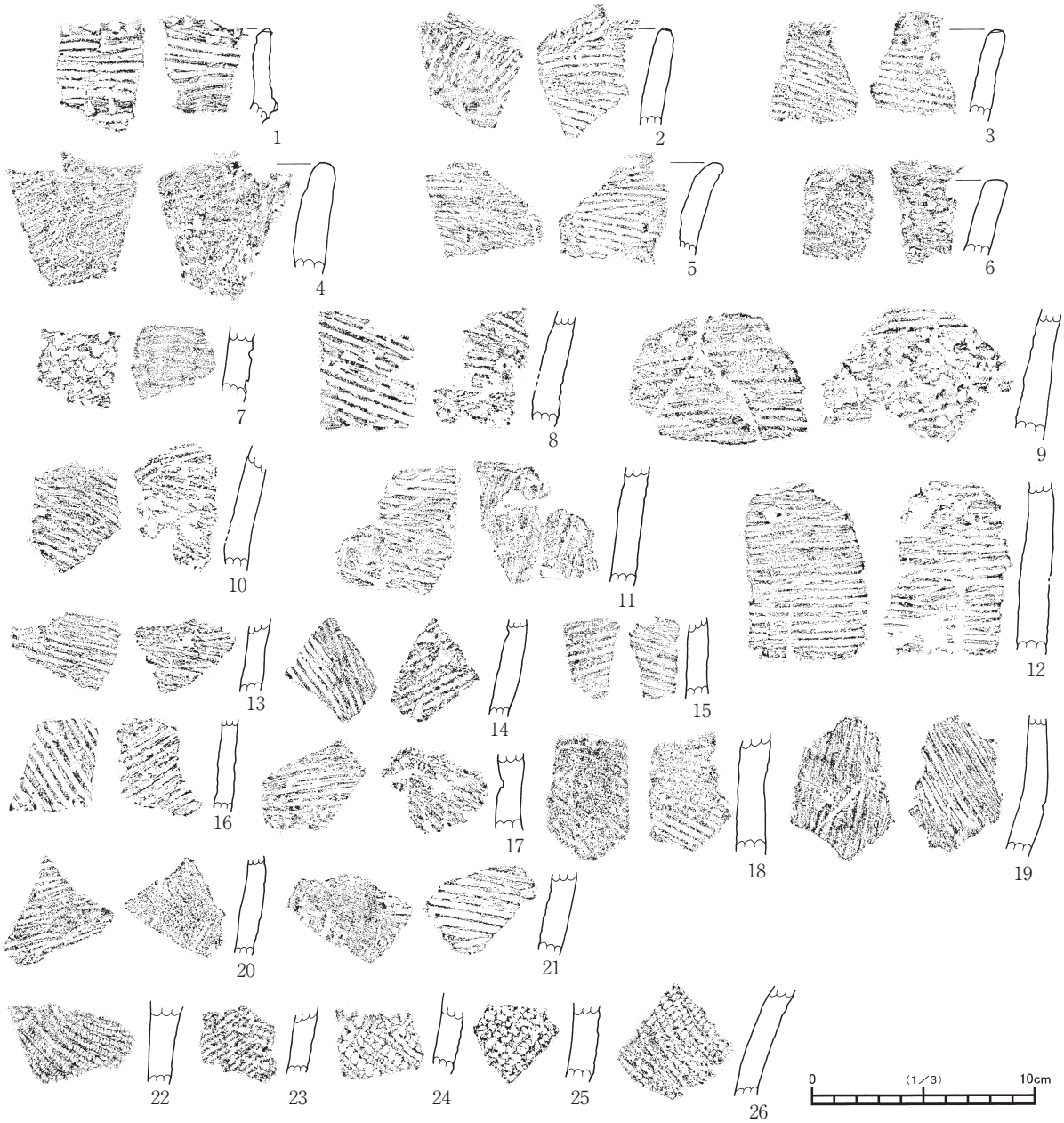
セクション位置：A−A′

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗褐色		欠く		
2	明るい暗褐色		良い		
3	明褐色		有り		
4	明るい暗褐色		欠く		
5	暗褐色		欠く		
6	7層より明るい明褐色		良い		
7	明褐色		良い		

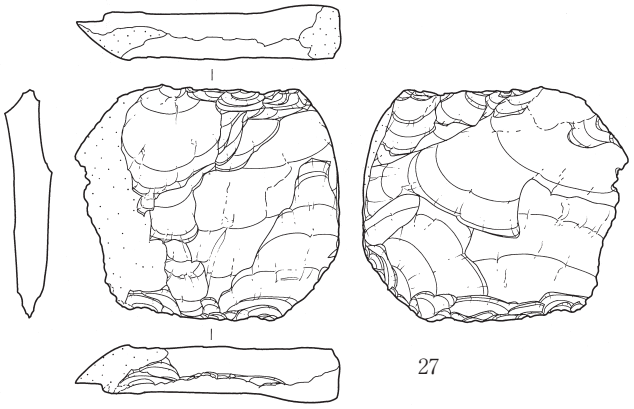


セクション位置：B−B′

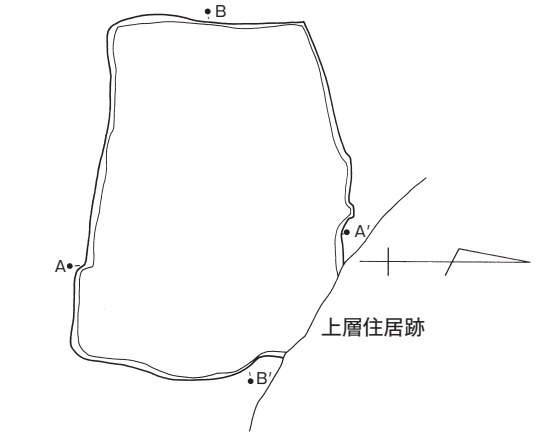
No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗灰褐色		やや欠く		
2	暗褐色		やや欠く		
3	やや黒い暗褐色		欠く		
4	やや茶色い暗褐色		欠く		
5	明褐色		良い		
6	明るい暗褐色		良い		
7	明褐色		良い		

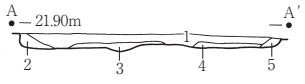


第23図　３号住居跡実測図および出土遺物実測図(1)



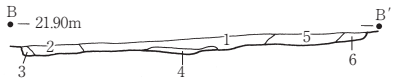
第24図　３号住居跡出土遺物実測図(2)





セクション位置：A−A'

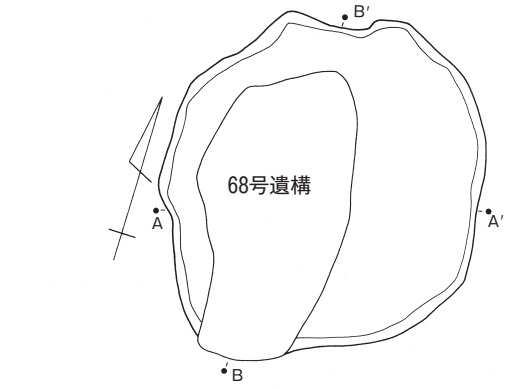
No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	やや黒い暗褐色		有り		
2	やや明るい暗褐色		有り		
3	暗褐色		良い		
4	黒褐色		有り		
5	暗褐色	ローム（斑状）	有り		

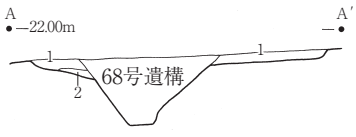


セクション位置：B−B'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	やや黒い暗褐色		有り		
2	暗褐色		良い		
3	暗褐色	ローム（斑状）	良い		
4	暗褐色		良い		
5	暗褐色		硬質で良い		
6	暗褐色	ローム（斑状）	良い		

第25図　４号住居跡実測図





セクション位置：A−A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	明褐色	ローム（斑状）	良い		
2	明黄灰褐色	多量のローム	良い		



第26図　５号住居跡実測図

配置状況は整然とはしていない（第27図）。

【出土遺物】 21点・2,653ｇの礫および礫石器が出土している。このうち45.7％に被熱のあとがみられる。石器は、６点出土している。うちわけは、敲石３点･楔形石器１点･軽石製品１点･凹石１点、この他に黒曜石・チャートなどの剥片７点がある。土器は、439点・10,316ｇ出土している。出土土器は、すべて覆土一括として取り上げられたものである。うちわけは、条痕文系・羽状縄文系などである。このうち主体を占めるのは、羽状縄文系・関山式の土器で全体の97.0％あり、当該時期を６号住居の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第27図１～３・第28図４・第29図５～38・第30図39～68・第31図69～74に示した。１は、推定口径424㎜・現存器高204㎜を測る平縁の深鉢形土器である。口縁の一部に半円形の把手を付す。口縁部文様帯に円形貼付文を有す。３は、推定口径224㎜・現存器高91㎜を測る波状口縁の深鉢形土器である。４は、推定口径393㎜・現存器高309㎜を測る平縁の深鉢形土器である。口縁部文様帯に円形貼付文を有し、以下ループ文・コンパス文・羽状縄文が交互に施される。６は、片口土器の破片である。25は、推定口径107㎜・現存器高60㎜を測る平縁の小型深鉢形土器である。69～74は条痕文系土器の口縁部および胴部破片である。出土石器のうち主なものを、第31図75～80に示した。75は、最大長35.8㎜・最大幅41.2㎜・最大厚12.0㎜、重さ20.0ｇを測るチャート製の楔形石器である。76は、残存最大長119㎜、重さ199ｇを測る軽石製品である。77は、最大長132㎜を測る菫青石ホルンフェルス製の敲石である。下端に敲打痕が認められる。78は、最大長72㎜を測る珪質頁岩製の敲石である。表裏面中央および一側面に敲打痕が認められる。79は、現存最大長102㎜を測る、砂岩製の敲石である。表面中央と下端部に敲打痕が認められる。80は、最大長90㎜を測る砂岩製の凹石である。

７号住居跡

【検出位置】 099区JF-29・30

【規模ほか】 長軸3.70m・短軸3.50m・深さ32㎝。形状は円形。中央部やや南側よりに炉をもつ。柱穴は、炉周囲および壁際に数箇所認められるが、その配列は規則的ではない（第32図）。

【出土遺物】 ７点・689ｇの礫および礫石器が出土している。このうち87.2％に被熱のあとがみられる。石器は、打製石斧１点のみである。土器は、169点・2,813ｇ出土している。出土土器は、すべて覆土一括として取り上げられたものである。すべて羽状縄文系・関山式のものであり、当該時期を７号住居の帰属時期とみる。

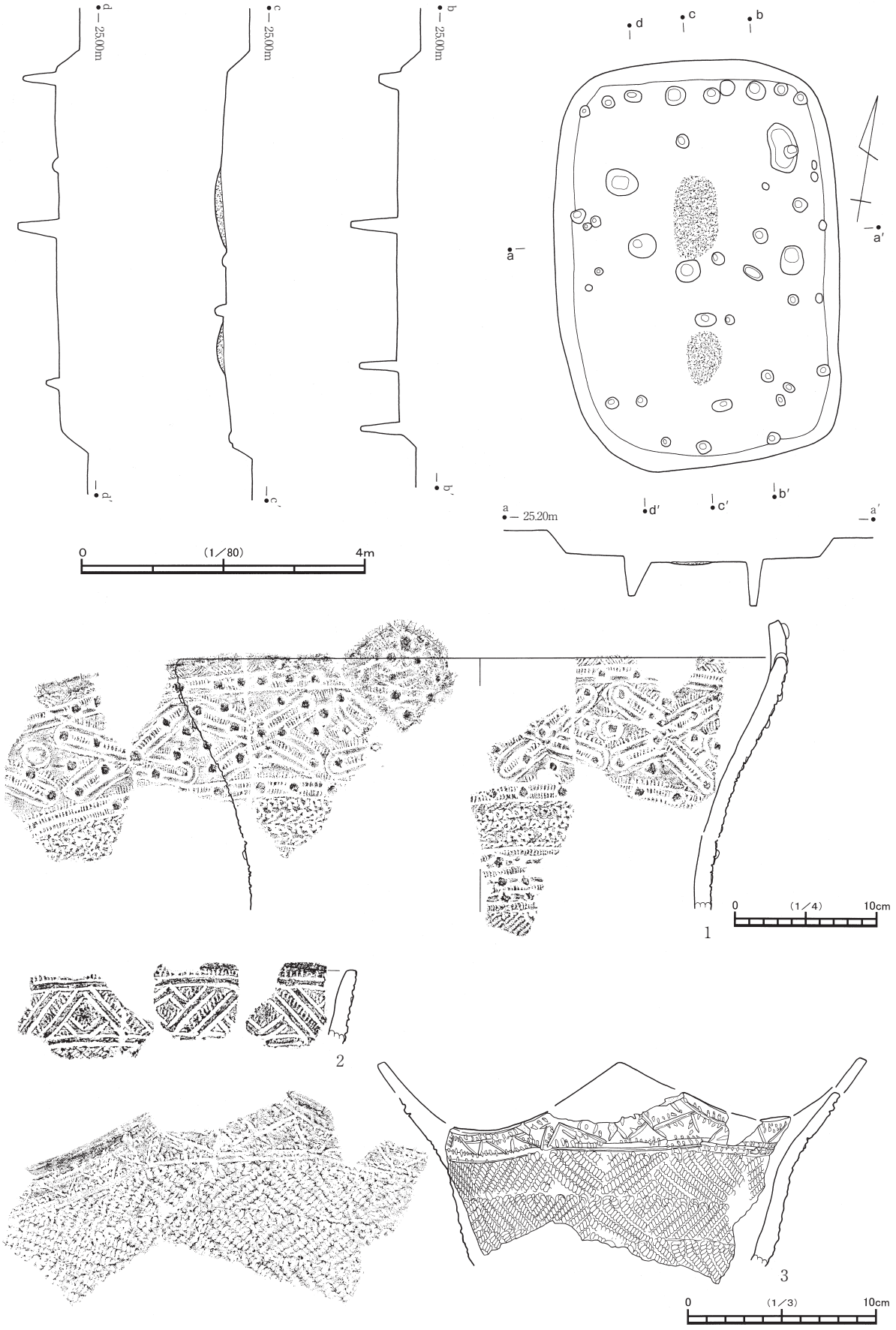
【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第32図１～25・第33図26に示した。１～13は羽状縄文系・関山式深鉢形土器の口縁部、14～25は胴部、26は底部の破片である。このうち５は、推定口径188㎜・現存器高111㎜を測る平縁の深鉢形土器である。口縁部以下に付加条文が施される。

第33図27は、最大長74㎜・最大幅46㎜・最大厚21㎜、重さ88.5ｇを測る白雲母片岩製の打製石斧である。

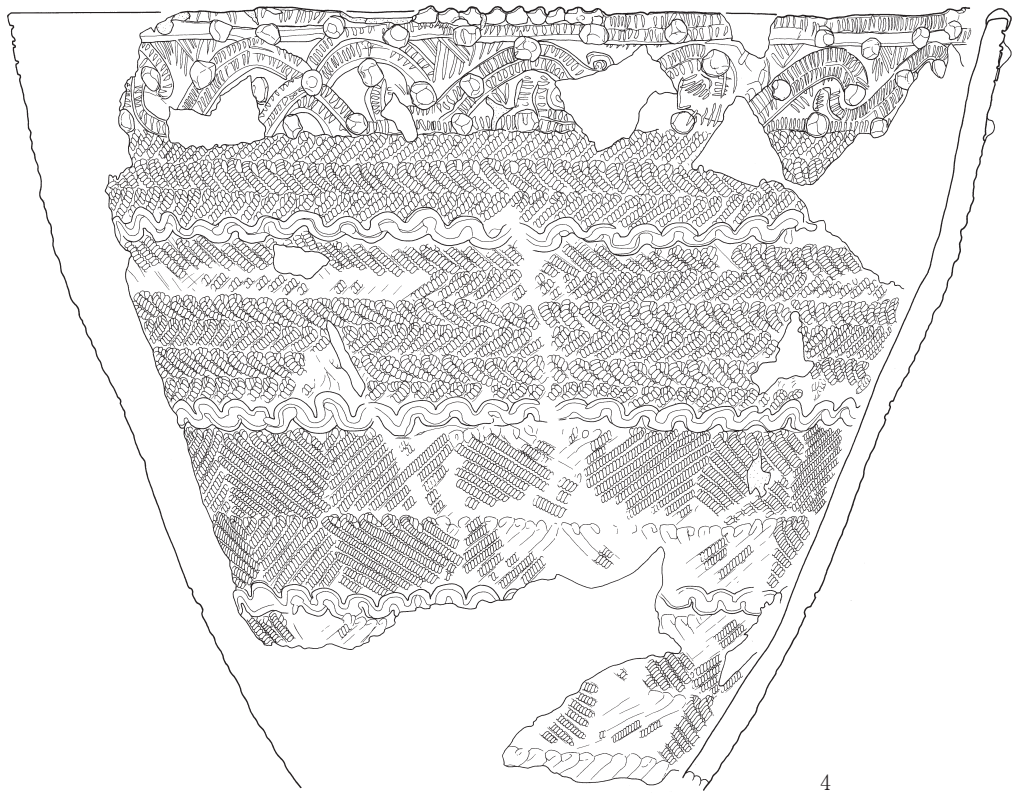
８号住居跡

【検出位置】 099区KF-42

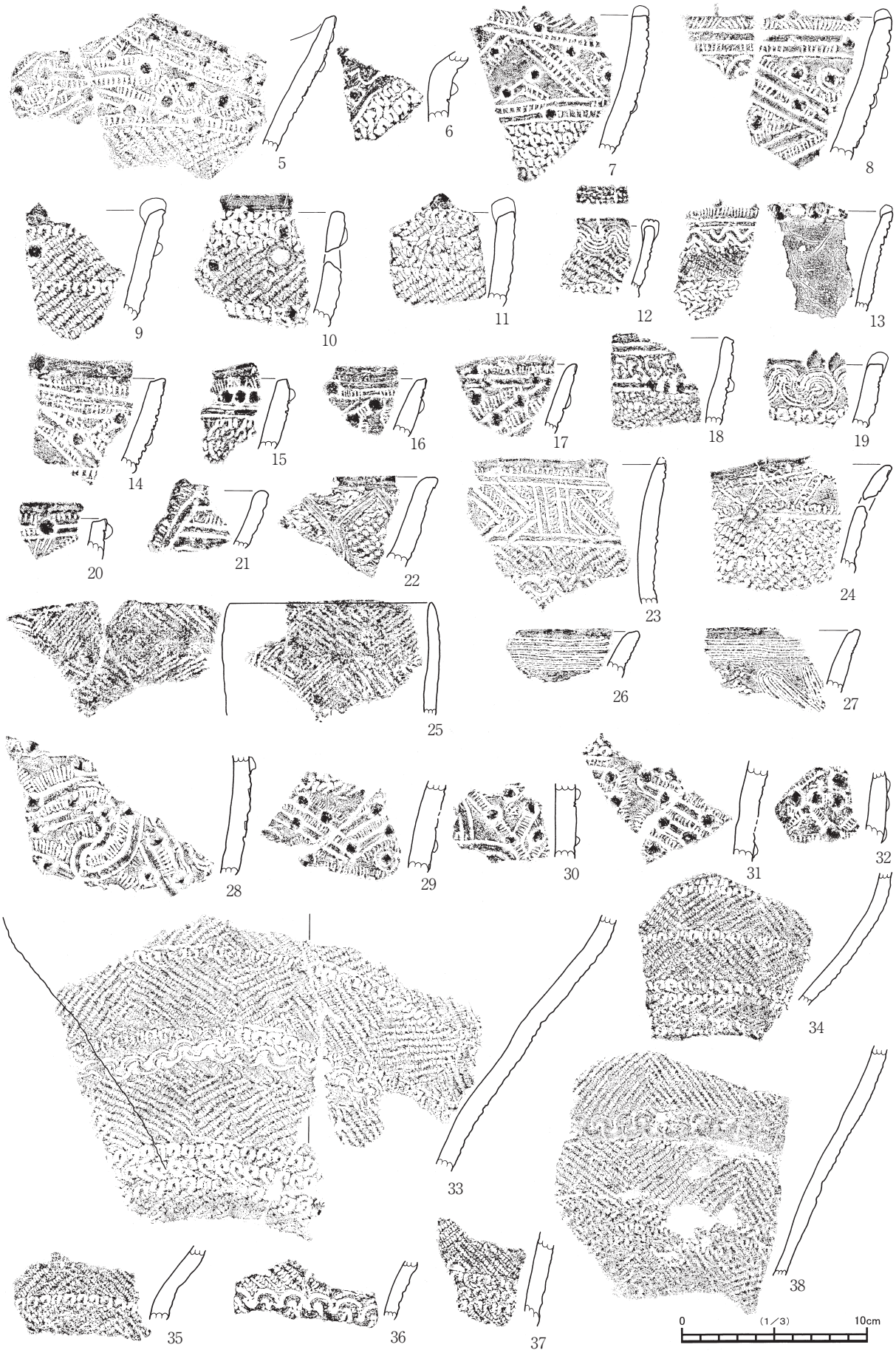
【規模ほか】 長軸2.92m・短軸1.84m・深さ30㎝。形状は楕円形。東側を欠く。柱穴は数箇所認められる。規模は小さいが、中央部付近に炉を有するため、小型の住居跡と認定（第34図）。出土遺物



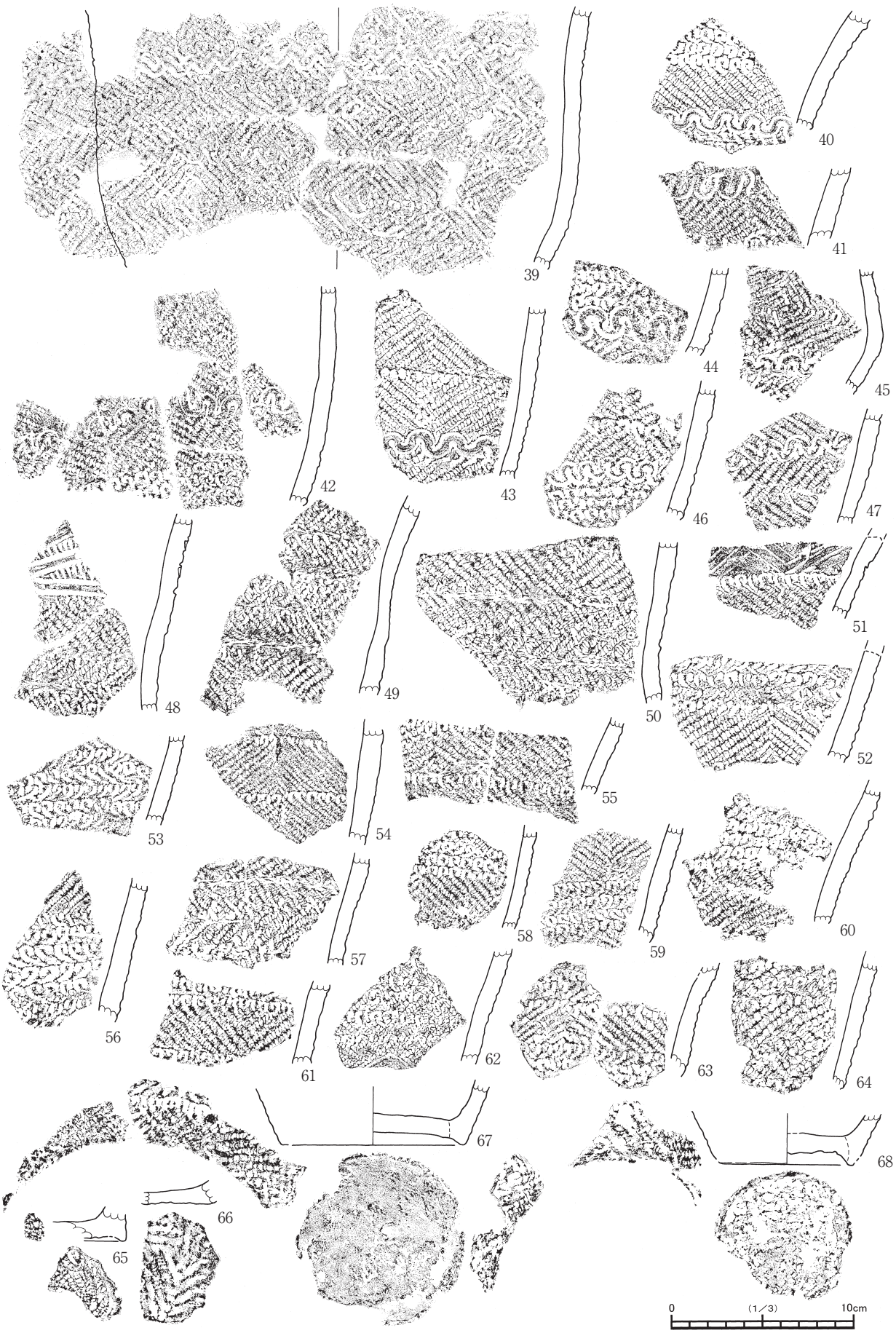
第27図　６号住居跡実測図および出土遺物実測図(1)



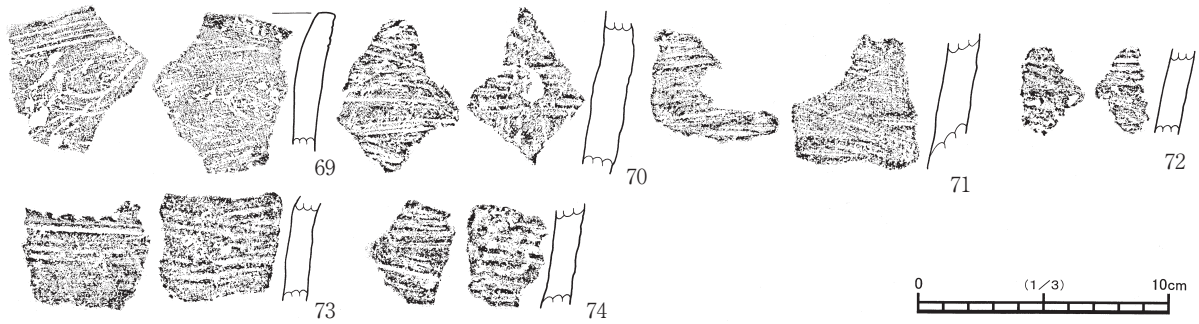
第28図　６号住居跡出土遺物実測図(2)

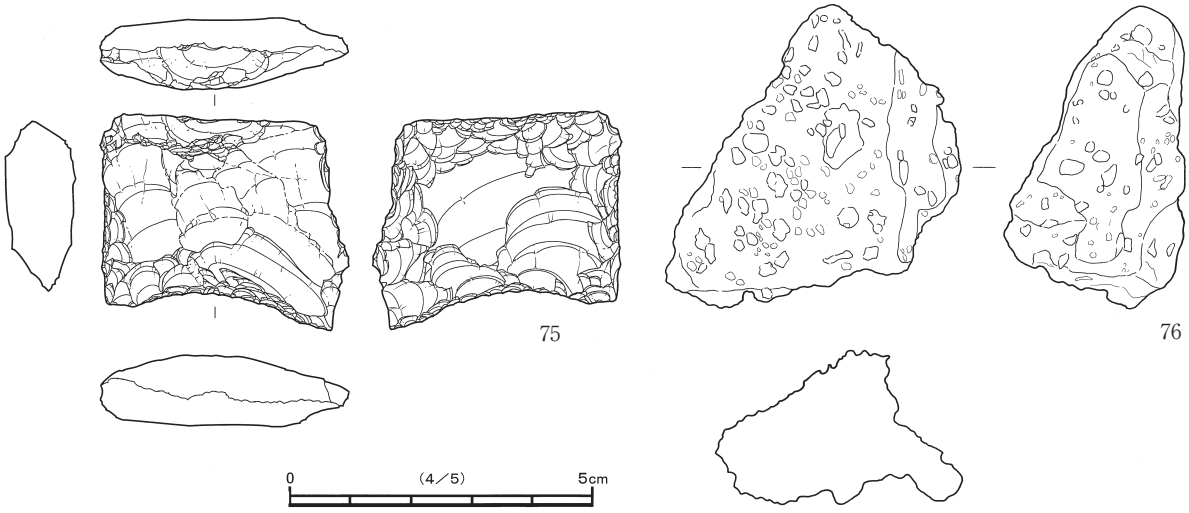


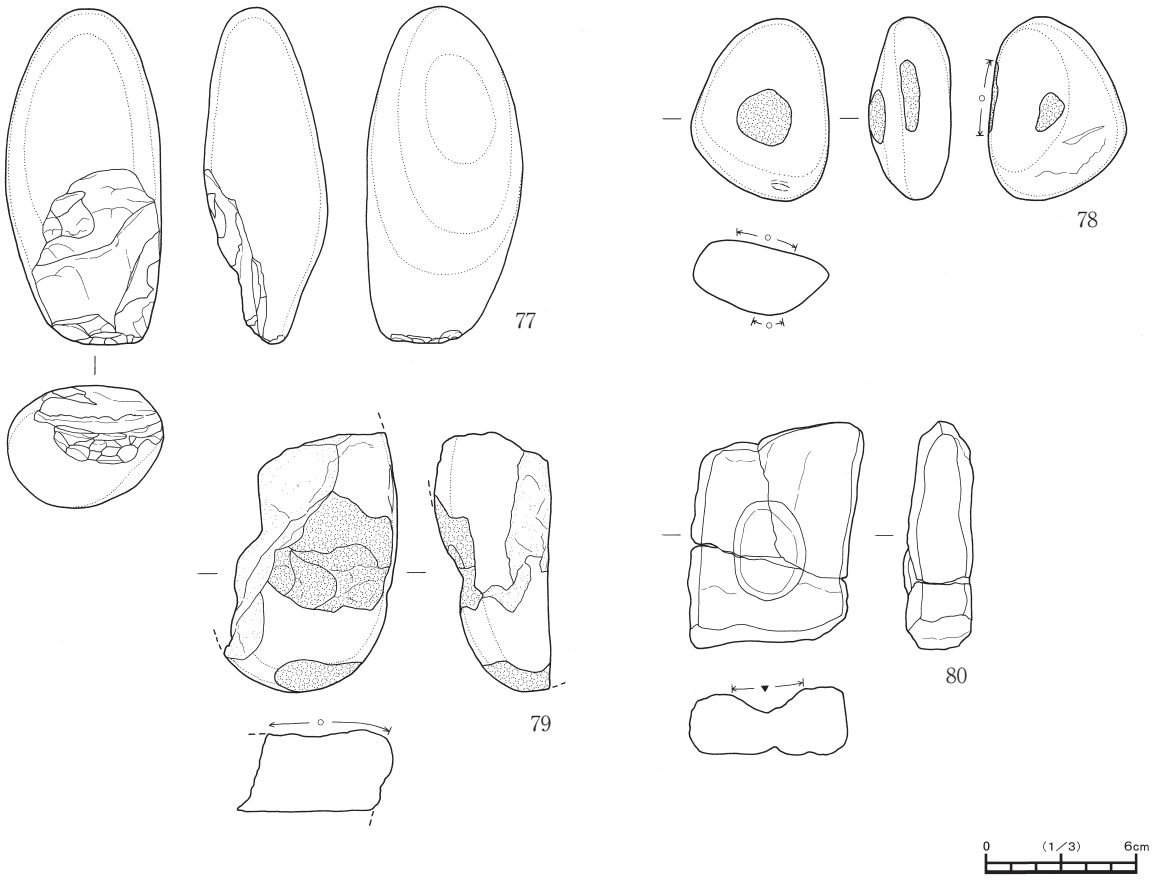
第29図　６号住居跡出土遺物実測図(3)



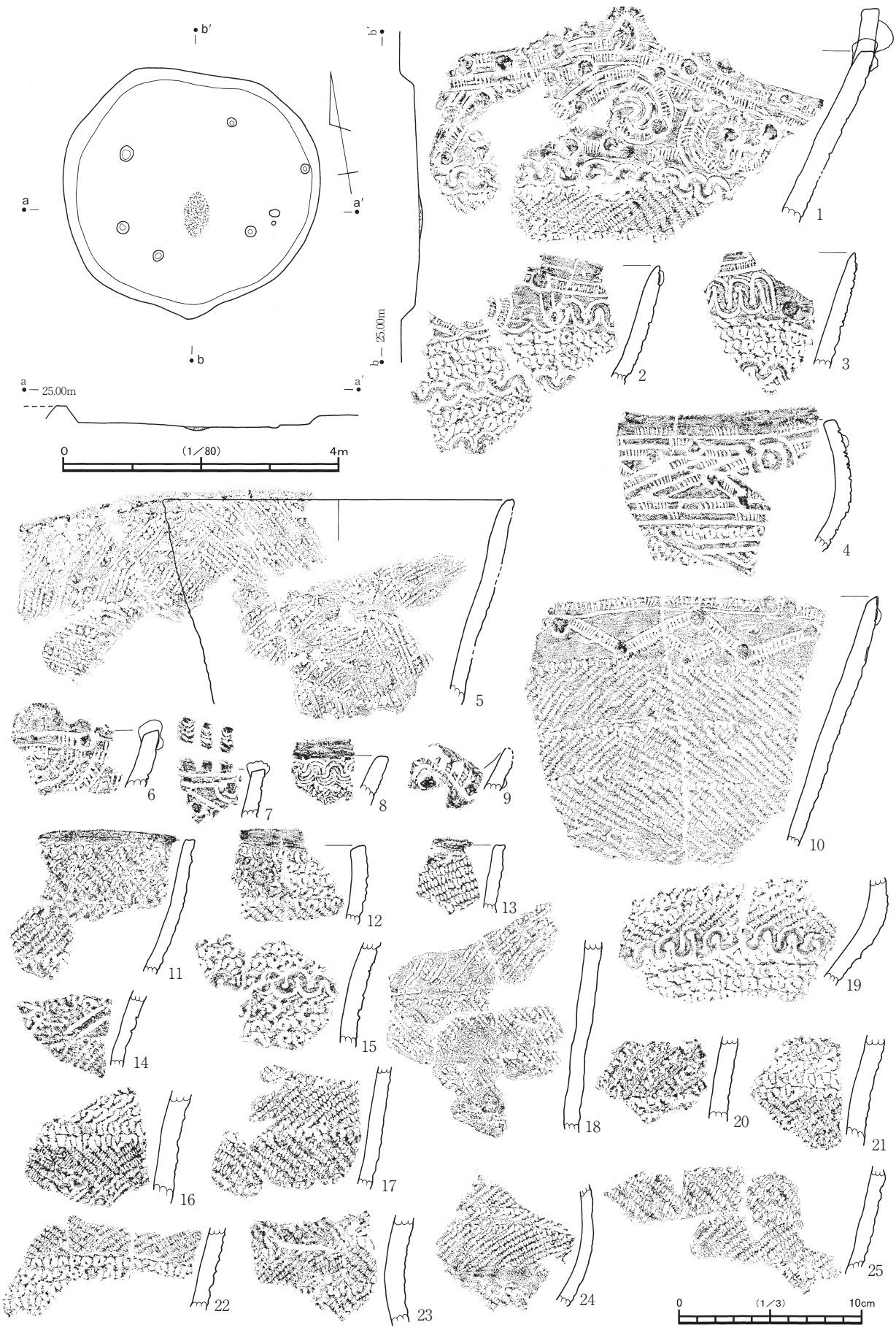
第30図　６号住居跡出土遺物実測図(4)







第31図　６号住居跡出土遺物実測図(5)



第32図　７号住居跡実測図および出土遺物実測図(1)

がないため、遺構の詳細時期は不明。

９号住居跡

【検出位置】 099区KF-17・18・28

【規模ほか】 長軸5.46m・短軸4.26m・深さ39cm。形状は隅丸長方形。主軸方向 343°。中央部とそのやや南側に二箇所の炉をもつ。後世の攪乱により床および壁面の一部を失う。柱穴は、壁際および炉周囲に小規模なものが複数認められるが、その配列は整然とはしていない（第35図）。

【出土遺物】 ５点・672ｇの礫および礫石器が出土している。このうち87.2％に被熱のあとがみられる。石器は、楔形石器１点のみである。このほか、黒曜石・チャートなどの剥片４点がある。土器は、25点・253ｇ出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。主体を占めるのは、羽状縄文系・関山式であり、当該時期を９号住居の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第35図１～５に示した。１～４は胴部破片で、１・２にはコンパス文がみられる。５は、条痕文系深鉢形土器の口縁部破片である。第35図６は、最大長29㎜・最大幅29㎜・最大厚７㎜、重さ9.2ｇを測るシルト岩製の楔形石器である。

10号住居跡

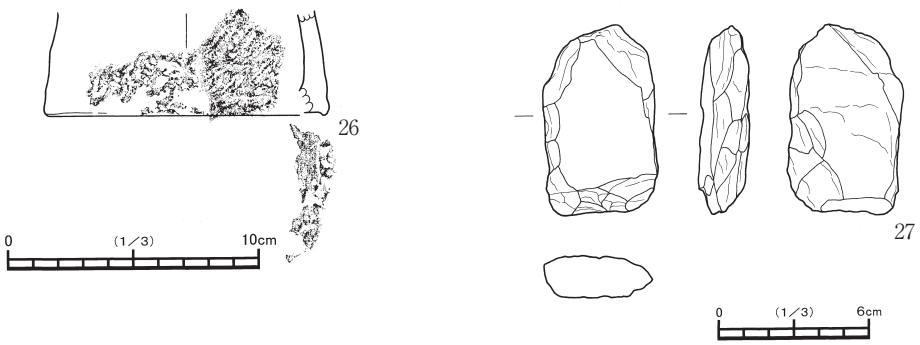
【検出位置】 099区LF-33・42・43

【規模ほか】 長軸5.82m・短軸4.30m・深さ59cm。形状は隅丸長方形。主軸方向 35°。中央部とそのやや南側に二箇所の炉をもつ（第36図）。

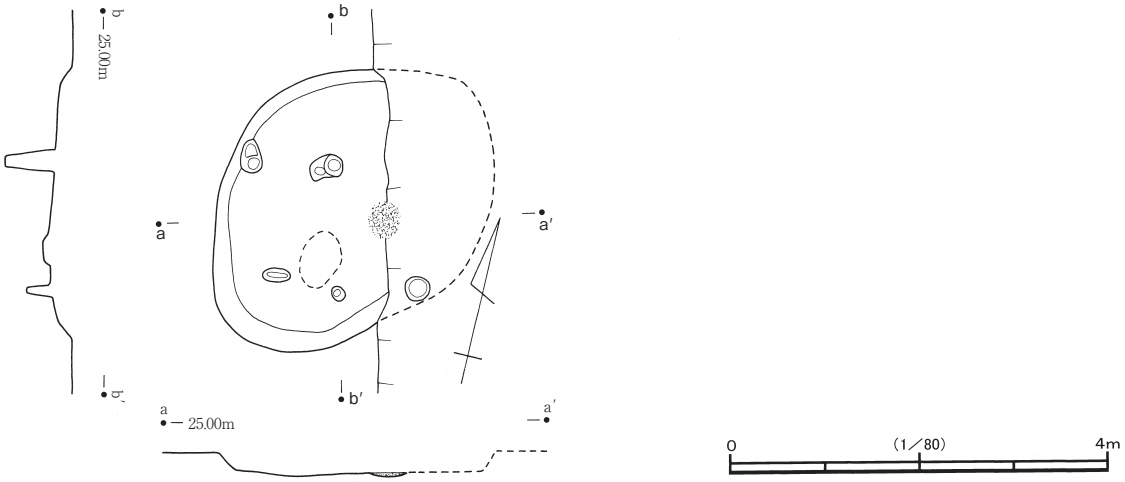
【出土遺物】 16点・1,455ｇの礫および礫石器が出土している。このうち70.8％に被熱のあとがみられる。石器は、７点出土している。うちわけは、磨石２点・敲石１点・石鏃３点・石鏃未製品１点、このほか黒曜石・チャートなどの剥片８点がある。土器は、180点・3,359ｇ出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。うちわけは、条痕文系・羽状縄文系・加曽利Ｂ式などである。このうち主体を占めるのは、羽状縄文系・関山式で全体の82.4％あり、当該時期を10号住居の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第36図１～16・第37図17～52に示した。１～10・12・13は羽状縄文系・関山式深鉢形土器の口縁部、17～37は胴部、38は底部の破片である。11は、推定口径154㎜・器高129㎜・推定底径58㎜を測る平縁の小型深鉢形土器である。口唇部には山形の貼付文が、口縁部以下にはループ文・コンパス文・羽状縄文が施される。底面にも縄文が施文される。14は、推定口径188㎜・現存器高119㎜を測る平縁の深鉢形土器である。口縁部以下に羽状縄文・ループ文が施される。15は推定口径113㎜・現存器高41㎜を測る平縁の深鉢形土器で、横位・斜位の梯子状文、円形文がみられる。16は、推定口径169㎜・現存器高59㎜を測る平縁の浅鉢形土器である。口唇部に細かい刻み、以下に羽状縄文・コンパス文が施される。39～51までは、条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部の破片である。52は、紐線文をもつ加曽利Ｂ式粗製深鉢形土器の胴部破片である。

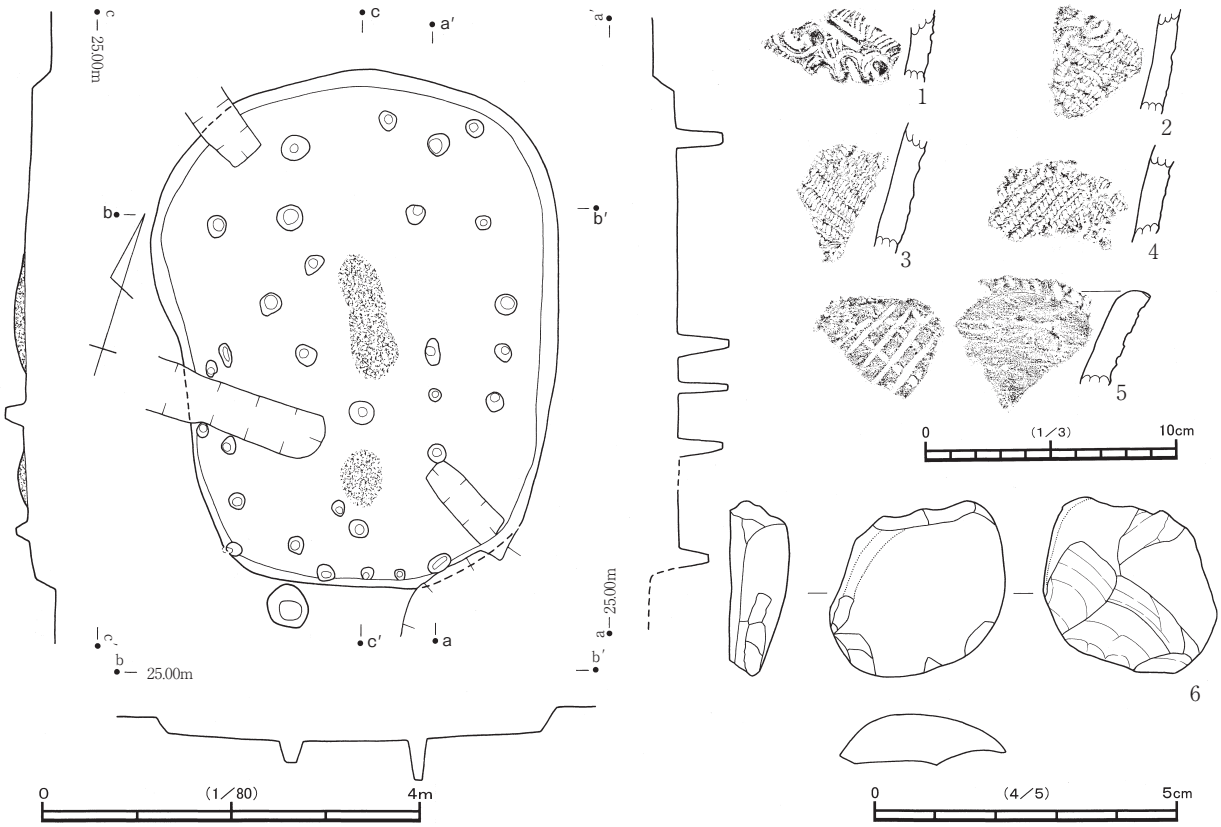
出土石器のうち主なものを、第37図53～59に示した。53は、最大長19.1㎜を測るチャート製の石鏃である。54は、最大長15.7㎜を測るチャート製の石鏃である。55は、最大長17.3㎜を測る黒曜石製の石鏃である。片側基部を欠く。56は、最大長19.7㎜を測る黒曜石製の石鏃未製品である。57は、最大長84㎜を測る閃緑ひん岩製の敲石である。上下端部に敲打痕がみられる。58は、残存最大長51㎜を測る砂岩製磨石の破片である。59は、残存最大長42㎜を測る凝灰質砂岩製磨石の破片である。



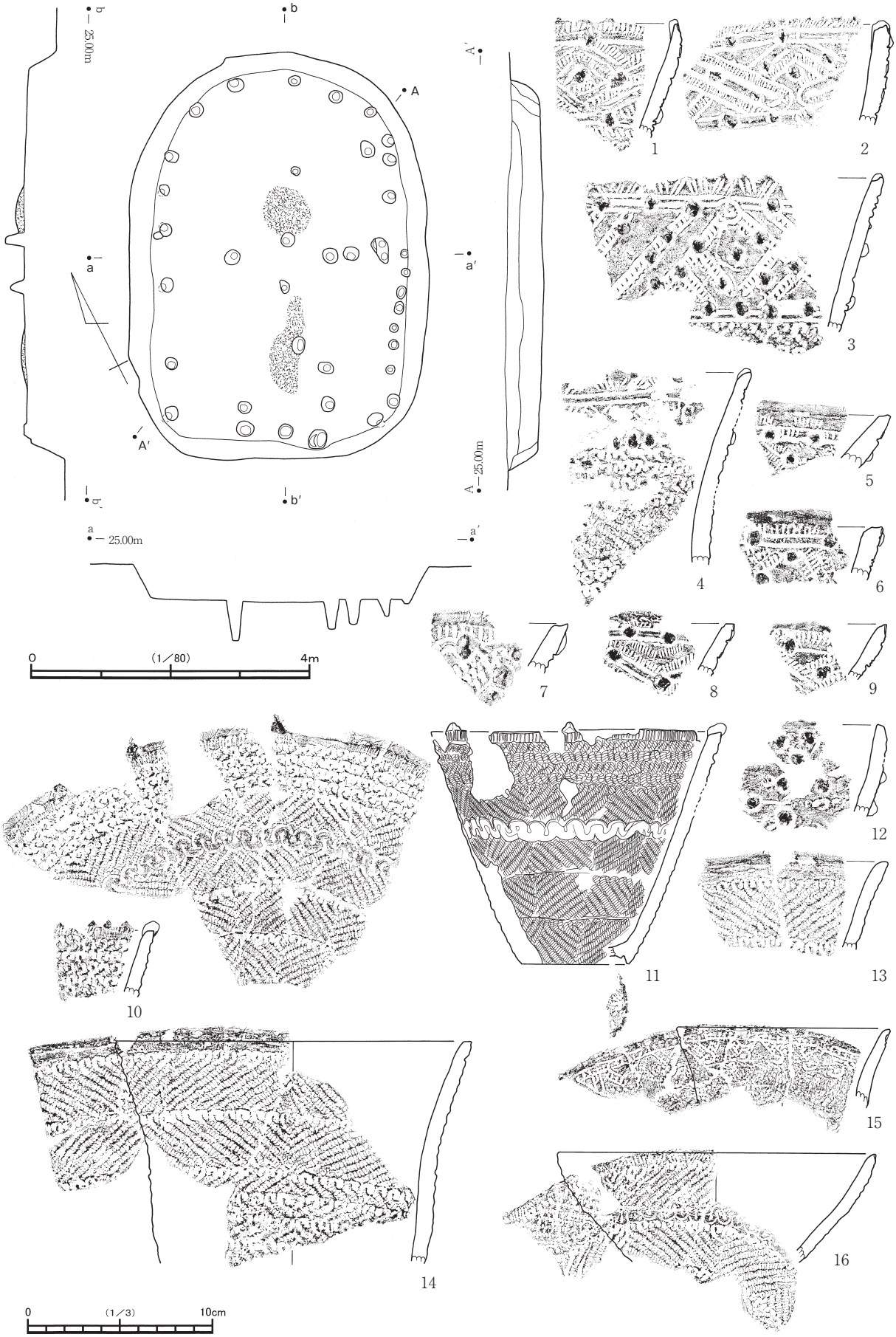
第33図　７号住居跡出土遺物実測図(2)



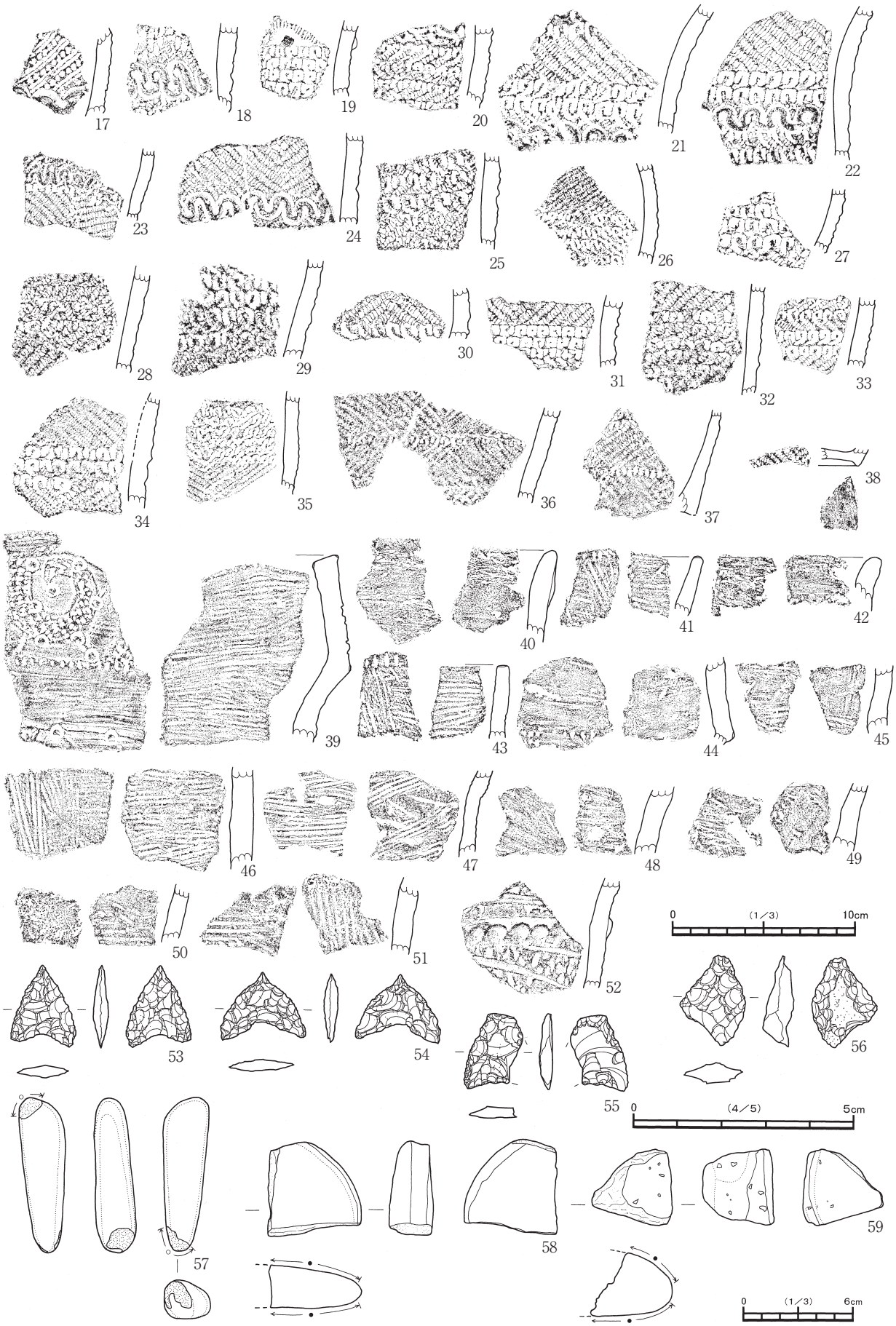
第34図　８号住居跡実測図



第35図　９号住居跡実測図および出土遺物実測図



第36図　10号住居跡実測図および出土遺物実測図(1)



第37図　10号住居跡出土遺物実測図(2)

11号住居跡

【検出位置】 099区JF-54・64

【規模ほか】 長軸3.40m・短軸2.12m・深さ20㎝。形状は円形。西側を欠く。柱穴は壁際および炉周囲に小規模なものが数箇所ある（第38図）。

【出土遺物】 12点・1,273ｇの礫および礫石器が出土している。このうち71％に被熱のあとがみられる。石器は、砥石１点のみである。このほか、黒曜石・チャートなどの剥片８点がある。土器は、160点・2,787ｇ出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。うちわけは、条痕文系・羽状縄文系などである。このうち主体を占めるのは、羽状縄文系・関山式で全体のおよそ88.9％あり、当該時期を11号住居の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第38図１～28に示した。１～９が口縁部の破片、10～24が胴部の破片、25が底部破片で、文様としては円形の貼付文・ループ文・コンパス文・羽状縄文などがみられる。第38図29は、最大長102㎜を測る砂岩製の砥石である。

12号住居跡

【検出位置】 099区JF-67・68・77・78

【規模ほか】 長軸4.24m・短軸3.42m・深さ32㎝。形状は隅丸方形。東側を欠く。炉は中央部に一箇所、その南側に小規模なものが一箇所ある。炉の周囲および壁際に数箇所の柱穴がみられるが、その配列は不規則（第39図）。

【出土遺物】 ３点・383ｇの礫および礫石器が出土している。このうち76％に被熱のあとがみられる。石器は、３点出土している。うちわけは、打製石斧１点・楔形石器１点・石核１点、このほか黒曜石などの剥片３点がある。土器は、131点・2,189ｇ出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。うちわけは、条痕文系・羽状縄文系などである。このうち主体を占めるのは、羽状縄文系・関山式で全体の99.2％あり、当該時期を12号住居の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第39図１～22に示した。１・２・４～９は羽状縄文系・関山式深鉢形土器の口縁部、10～22は胴部の破片である。３は、推定口径348㎜・現存器高162㎜を測る平縁の深鉢形土器である。口縁部以下に、コンパス文・ループ文・羽状縄文が交互に施される。22は条痕文系深鉢形土器の胴部破片である。

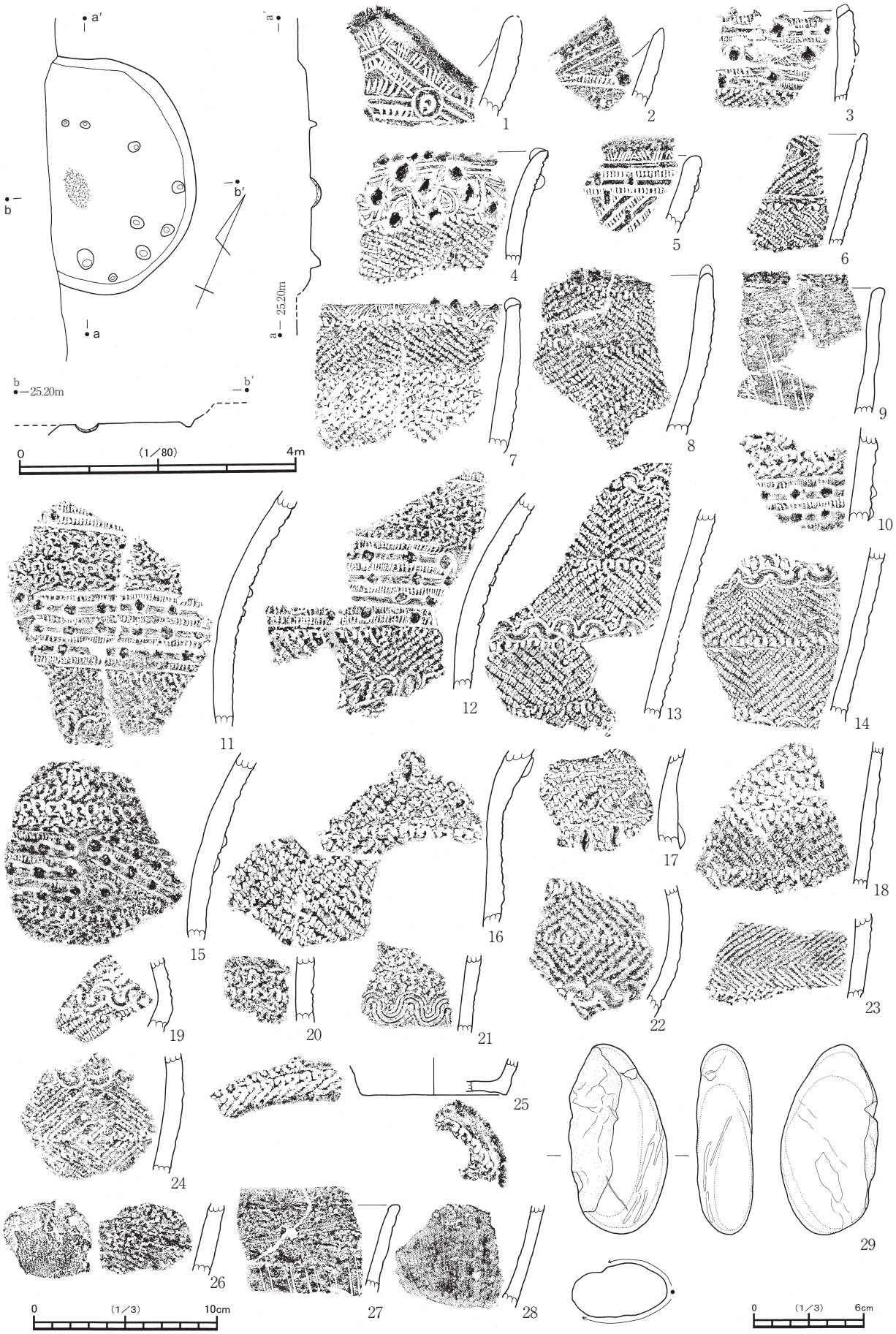
第40図23は、最大長27.5㎜・最大幅25.6㎜・最大厚9.0㎜、重さ6.5ｇを測る頁岩製の楔形石器である。24は、最大長77㎜を測る砂岩製の打製石斧である。

13号住居跡

【検出位置】 099区JF-76・77

【規模ほか】 長軸3.60m・短軸3.00m・深さ40㎝。形状は長楕円形。南側部分を欠く。炉は中央に一箇所ある。柱穴は、炉周辺および壁際に小規模なものが数箇所認められるが、その配列は不規則である（第41図）。

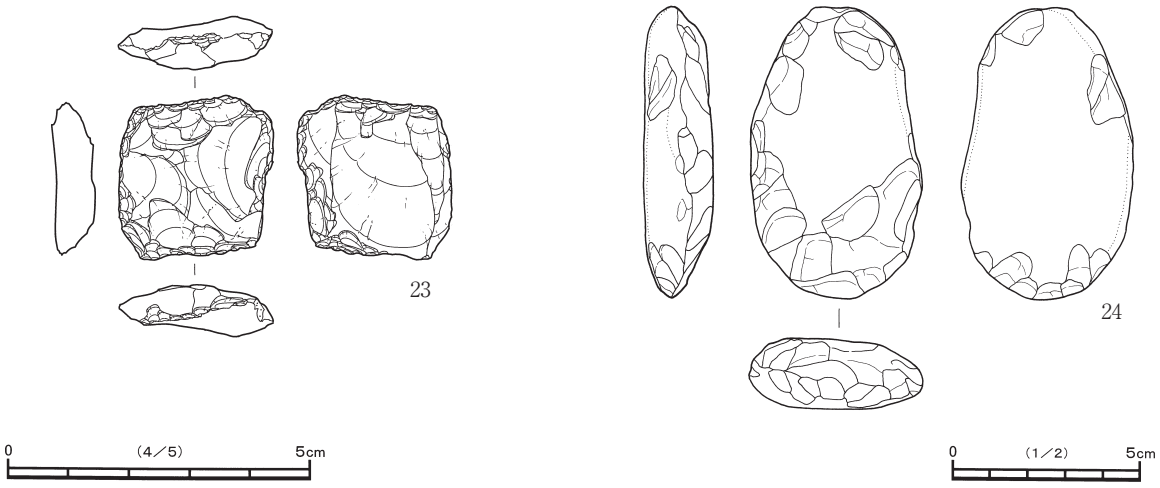
【出土遺物】 ７点・741ｇの礫および礫石器が出土している。このうち57.1％に被熱のあとがみられる。石器は砥石１点が出土している。このほか、頁岩の剥片１点がある。土器は、231点・3,816ｇ出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。うちわけは、条痕文系・羽状縄文系などである。このうち主体を占めるのは、羽状縄文系・関山式のもので全体の99.3％あり、当該時期



第38図　11号住居跡実測図および出土遺物実測図



第39図　12号住居跡実測図および出土遺物実測図(1)



第40図　12号住居跡出土遺物実測図(2)

を13号住居の帰属時期とみる。

【遺物説明】　出土土器のうち、主なものを第41図１～36に示した。１～33は、コンパス文・平行線文・ループ文・付加条文などがみられる深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。34・35は、底面がやや上げ底になる底部の破片である。36は、条痕文系土器の胴部破片である。第41図37は、最大長95㎜を測るデイサイト製の砥石である。三面に擦痕状の研磨痕がみられる。

14号住居跡

【検出位置】　099区JF-87・88・97・98

【規模ほか】　長軸4.22m・短軸2.96m・深さ37㎝。形状は長方形。主軸方向　305°。

中央部に一箇所の炉をもつ。壁際を中心に比較的規則的な配列をした小規模な柱穴をもつ（第42図）。

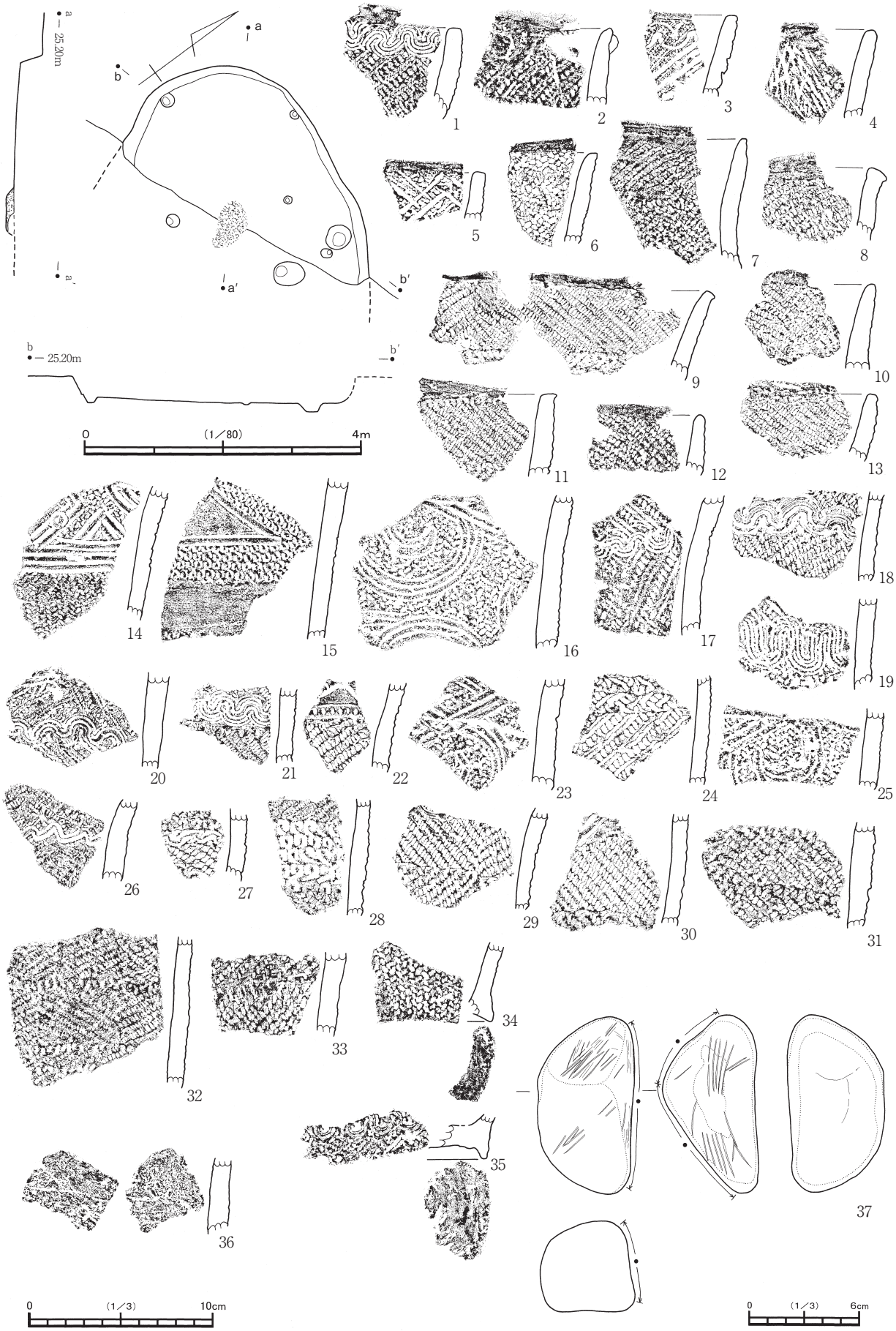
【覆土】　暗茶褐色土を主体とする。多量の褐色土塊（テフラ）を含む層もある。

【出土遺物】　18点・2,585ｇの礫および礫石器が出土している。このうち49.4％に被熱のあとがみられる。石器は、４点出土している。うちわけは、磨石２点・凹石１点・石核１点、このほかチャートの剥片１点がある。土器は、236点・3,581ｇ出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。遺物は、炉の西側付近を中心として床面からやや浮いた位置より出土している。そのすべてが、羽状縄文系・関山式のものであることから、当該時期を14号住居の帰属時期とみる。

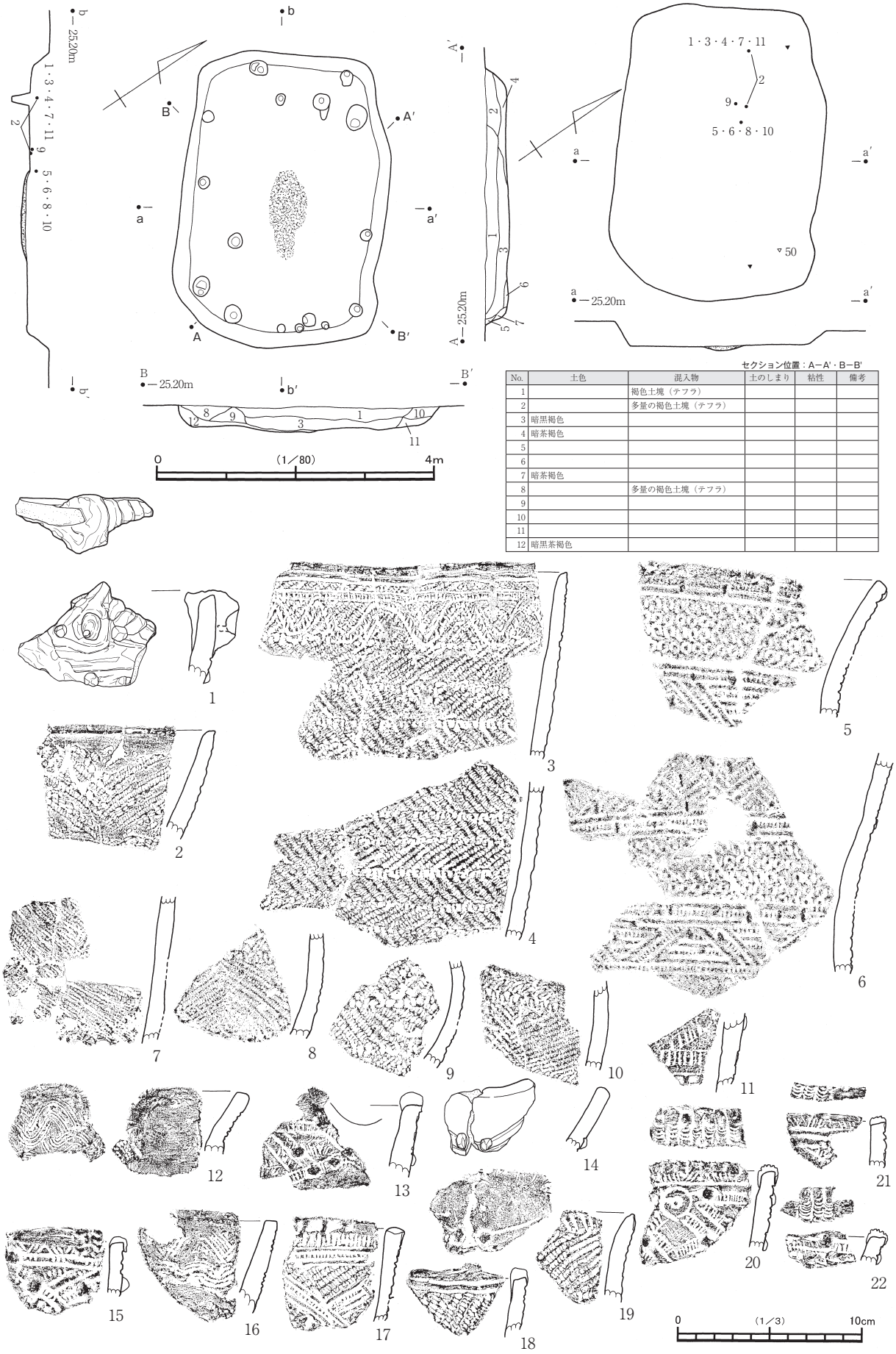
【遺物説明】　出土土器のうち、点あげしたものを第42図１～11に、覆土一括扱いのものを第42図12～22・第43図23～48に示した。１～３・５・15～28は羽状縄文系・関山式深鉢形土器の口縁部、４・６～11・29～46は胴部、47・48は底部の破片である。主な文様としては、ループ文・コンパス文・梯子状文・円形貼付文などがある。12～14は、片口をもつ土器とみられる。

出土石器のうち主なものを、第43図49～51に示した。49は、残存最大長96㎜を測る両雲母片岩製の凹石である。50は、最大長92㎜を測る輝石安山岩製の磨石である。51は、最大長116㎜を測る輝石安山岩製の磨石である。

15号住居跡



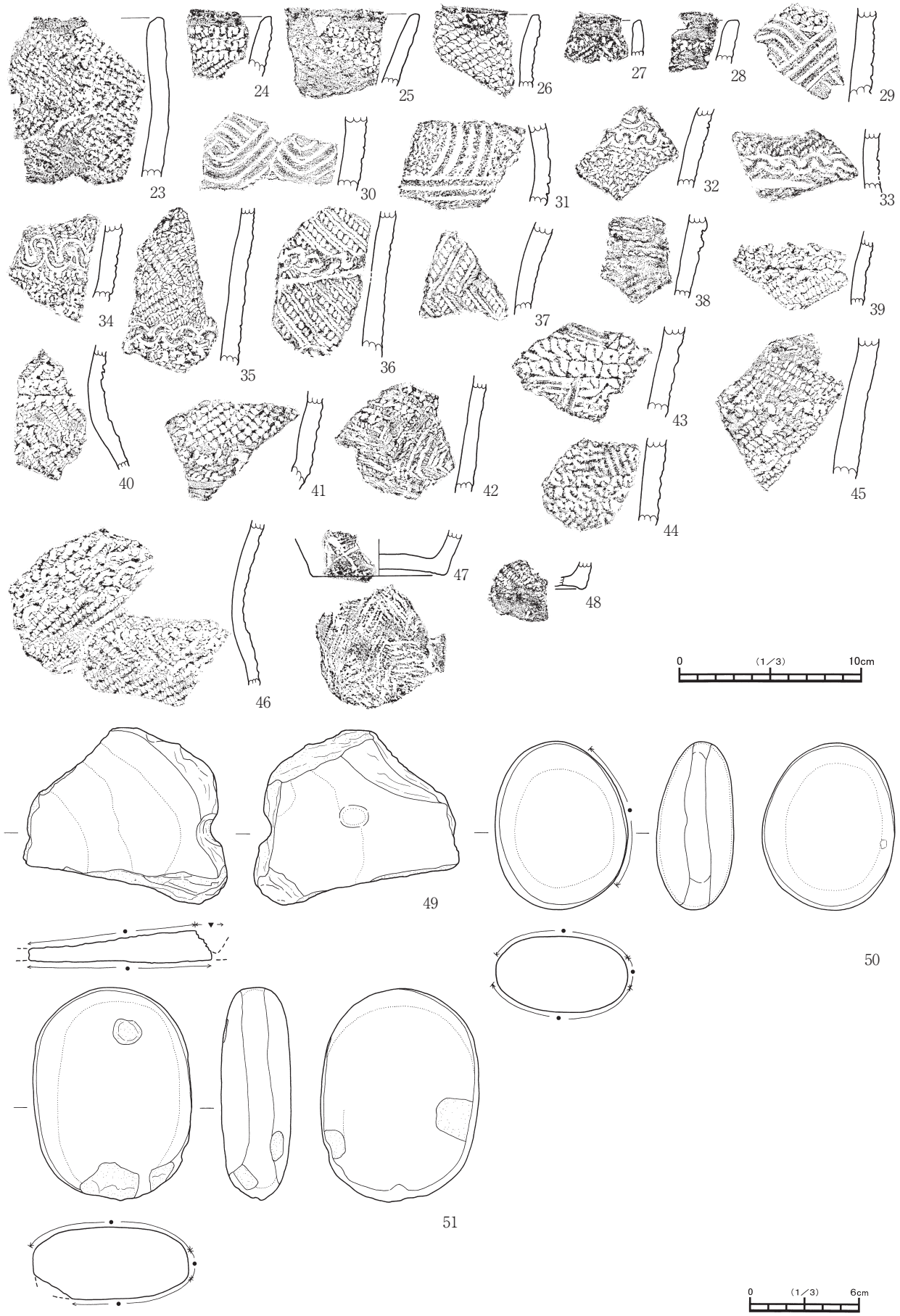
第41図　13号住居跡実測図および出土遺物実測図



セクション位置：A−A′・B−B′

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1		褐色土塊（テフラ）			
2		多量の褐色土塊（テフラ）			
3	暗黒褐色				
4	暗茶褐色				
5					
6					
7	暗茶褐色				
8		多量の褐色土塊（テフラ）			
9					
10					
11					
12	暗黒茶褐色				

第42図　14号住居跡実測図・遺物出土状況図および出土遺物実測図(1)



第43図　14号住居跡出土遺物実測図(2)

【検出位置】 099区JF-97・98、ＪＧ－07・08

【規模ほか】 長軸4.88m・短軸3.48m・深さ35㎝。形状は長方形。主軸方向 309°。炉は、中央部に一箇所、その東側に一箇所ある。柱穴は、壁際付近を主体に小規模なものが比較的規則的に配列される（第44図）。

【覆土】 暗黒褐色土・暗茶褐色土などを主体とする。褐色土塊（テフラ）を含む層もある。

【出土遺物】 ４点・915ｇの礫および礫石器が出土している。このうち9.3%に被熱のあとがみられる。石器は、２点出土している。うちわけは打製石斧１点・敲石１点である。土器は、33点・1,399ｇ出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。出土位置の明確な遺物は、東側の炉付近から床面付近およびこれよりやや浮いた状態でみつかっている。出土した土器のすべてが、羽状縄文系・関山式のものであることから、当該時期を15号住居の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第44図１に、覆土一括扱いのものを第44図２～13に示した。１は、波状口縁の深鉢形土器の破片で、梯子状文・円形貼付文・コンパス文などが施される。２～５は口縁部、６～12は胴部、13は底部の破片である。

出土石器のうち主なものを、第45図14・15に示した。14は、最大長111㎜を測るデイサイト製の打製石斧である。15は、残存最大長102㎜を測る砂岩製の敲石である。床面付近から出土している。

16号住居跡

【検出位置】 099区JG-06・07・16・17

【規模ほか】 長軸4.76m・短軸3.20m・深さ32㎝。形状は長方形。主軸方向 330°。炉は、中央付近に一箇所とその南側に一箇所ある。柱穴は炉周辺と壁際に小規模なものが数箇所認められる（第46図）。

【覆土】 暗褐色土を主体とするレンズ状の堆積。

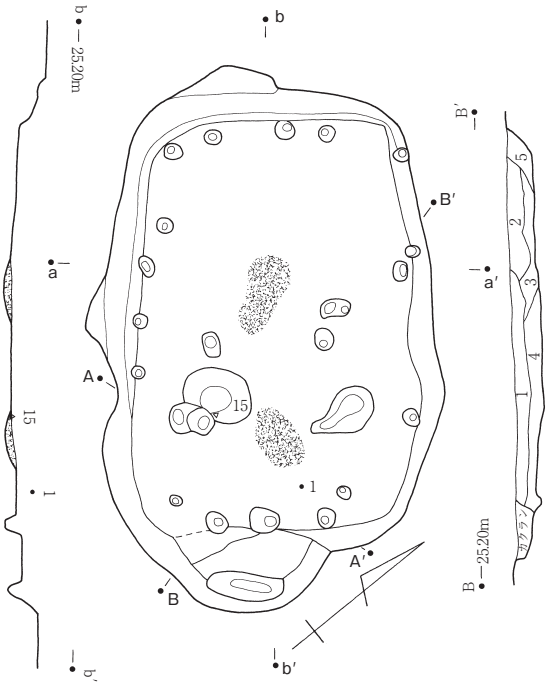
【出土遺物】 ５点・1,105ｇの礫および礫石器が出土している。このうち81.6%に被熱のあとがみられる。石器は、砥石が１点出土している。このほか、黒曜石の剥片１点がある。土器は、156点・3,660ｇ出土している。取り上げ方法は、平面･垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。遺物は、中央および南側の炉付近の床面近くから出土している。出土土器のうちわけは、条痕文系・羽状縄文系などである。このうち主体を占めるのは、羽状縄文系・関山式のもので全体の97.1%あり、当該時期を16号住居の帰属時期とみる。

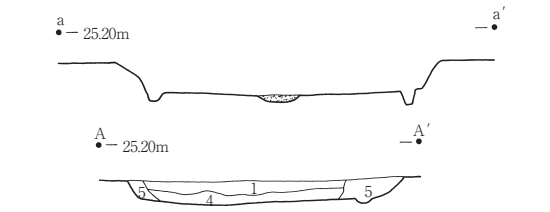
【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第46図１～５、第47図６・７に、覆土一括扱いのものを第47図８～30に示した。１・８～10は羽状縄文系・関山式深鉢形土器の口縁部、２～５・７・11～23は胴部、24・25は底部の破片である。６は、残存器高199㎜、胴部最大径246㎜を測る深鉢形土器で、羽状縄文・ループ文が交互に施文される。26～30は、条痕文系土器の口縁部および胴部の破片である。26は条痕文系深鉢形土器の口縁部、27～30は胴部の破片である。第47図31は、残存最大長59㎜を測る砂岩製砥石の破片である。

17号住居跡

【検出位置】 099区JG-05・06・15・16

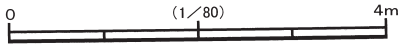
【規模ほか】 長軸3.80m・短軸3.52m・深さ41㎝。形状は隅丸方形。中央部に炉が一箇所ある。柱

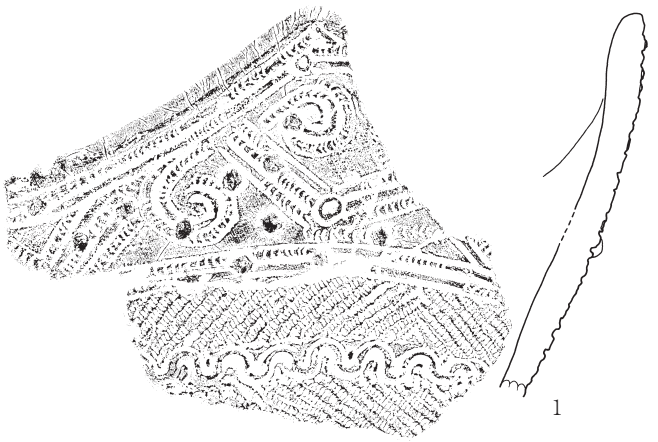


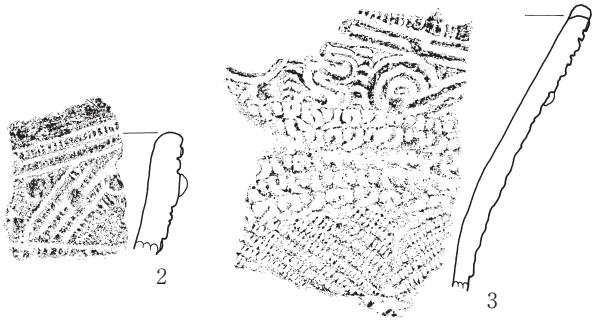


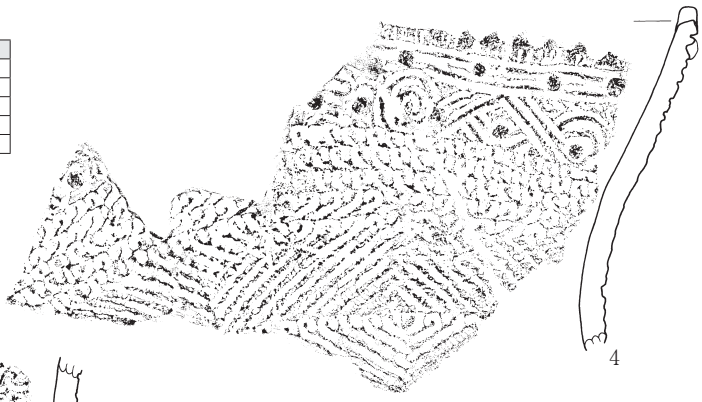
セクション位置：A−A′・B−B′

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1		褐色土塊（テフラ）			
2		多量の褐色土塊（テフラ）			
3	暗黒褐色	褐色土塊（テフラ）			
4	暗黒褐色				
5	暗茶褐色				

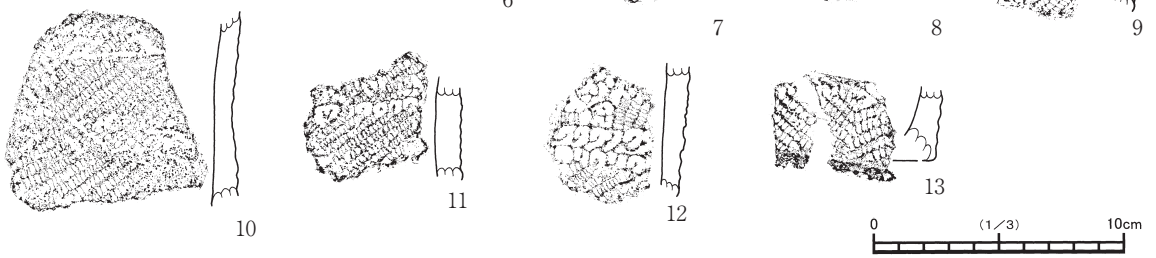




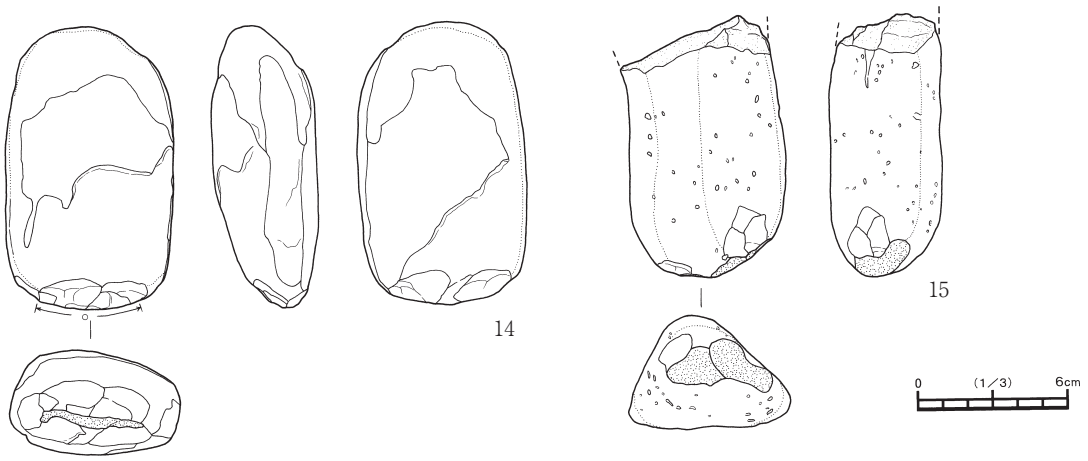




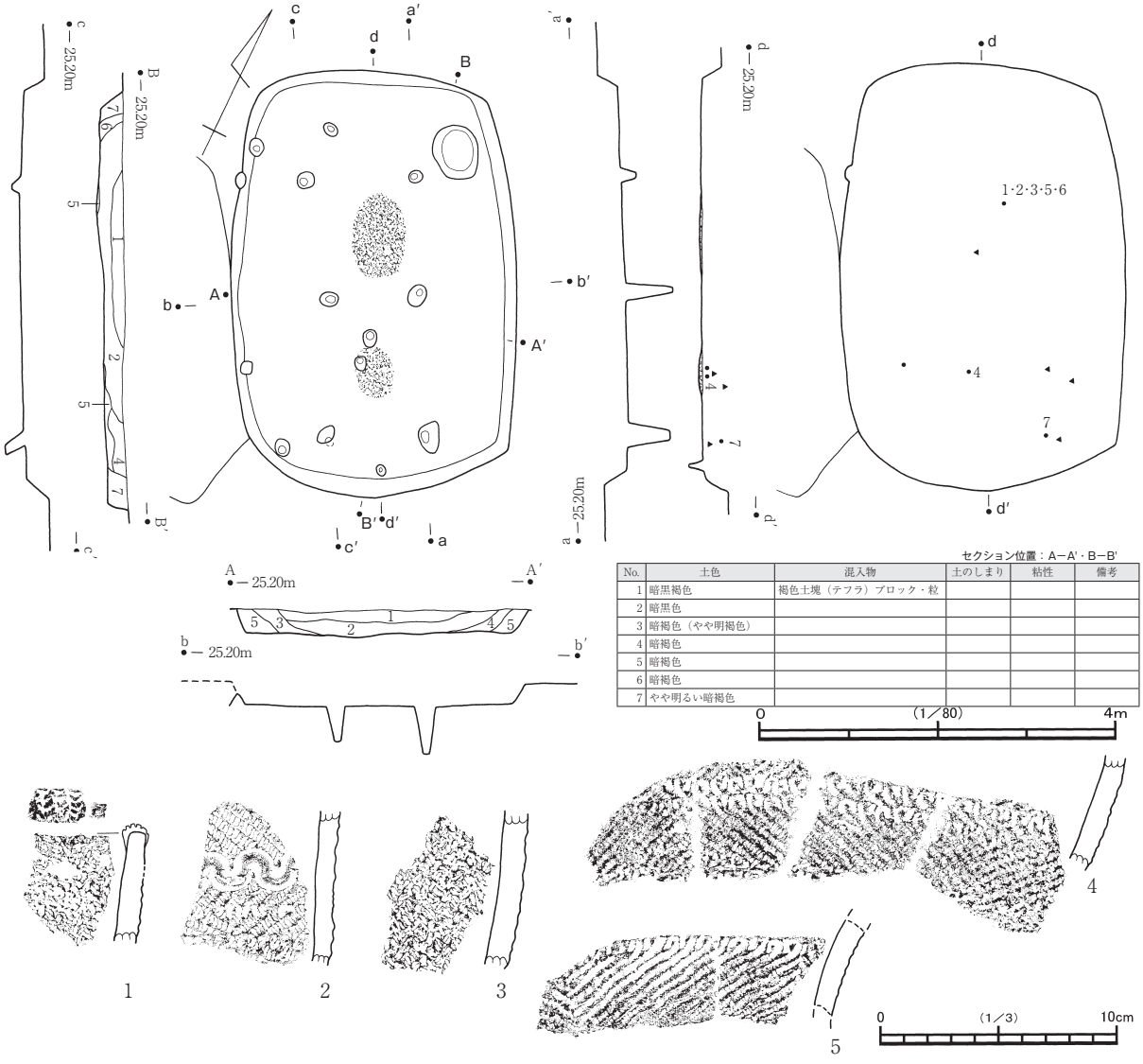




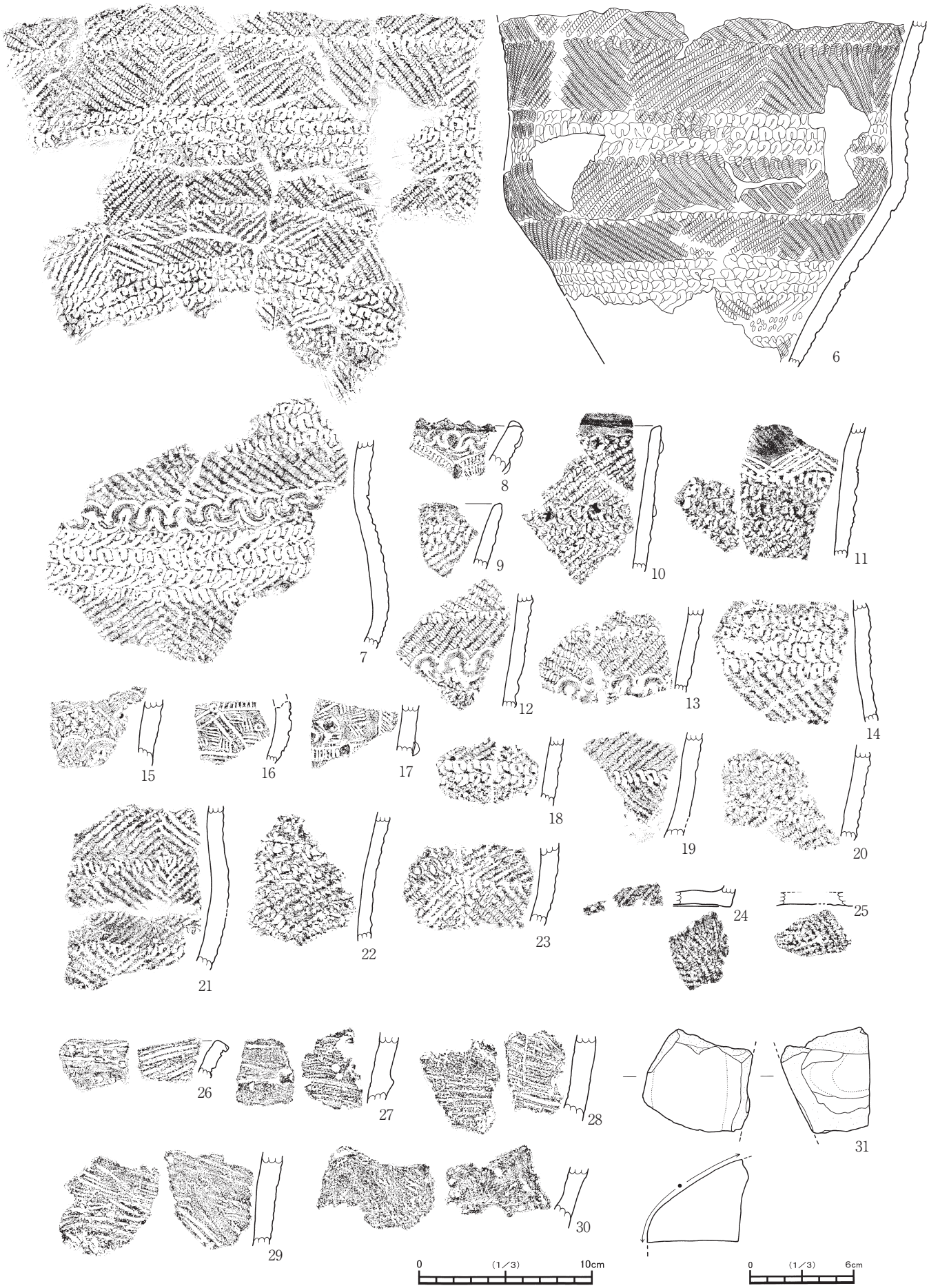
第44図　15号住居跡実測図・遺物出土状況図および出土遺物実測図(1)



第45図　15号住居跡出土遺物実測図(2)



第46図　16号住居跡実測図・遺物出土状況図および出土遺物実測図(1)



第47図　16号住居跡出土遺物実測図(2)

穴は、壁際および炉近くに数箇所認められる（第48図）。

【覆土】 暗茶褐色土・暗黒褐色土などを主体とする。褐色土塊（テフラ）を含む層がある。

【出土遺物】 ９点・555ｇの礫および礫石器が出土している。このうち13.9％に被熱のあとがみられる。石器は、３点出土している。うちわけは、砥石１点・石核１点・磨石１点、このほか珪質頁岩の剥片１点がある。土器は、79点・1,888ｇ出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。遺物は、炉付近の床面近くから出土している。出土土器のうちわけは、条痕文系・羽状縄文系などである。このうち主体を占めるのは、羽状縄文系・関山式のもので全体の95.6％あり、当該時期を17号住居の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第48図１～４に、覆土一括扱いのものを第48図５～９・第49図10～19に示した。１・３・５～９は羽状縄文系・関山式深鉢形土器の口縁部、４・10～18は胴部の破片である。２は、口径212㎜・残存器高139㎜を測る平縁の深鉢形土器である。口唇部に山形の貼付文がある。口縁部以下にループ文・羽状縄文が施される。19は条痕文系深鉢形土器の口縁部破片である。

出土石器を第49図20～22に示した。20は、最大長57㎜を測る頁岩製の石核である。21は、残存最大長24㎜を測る凝灰質砂岩製の砥石である。22は、残存最大長71㎜を測る砂岩製の磨石である。

18号住居跡

【検出位置】 099区JG-35・36

【規模ほか】 長軸2.74m・短軸2.70m・深さ30㎝。形状は方形。東側を欠く。中央部付近に炉が一箇所ある（第50図）。

出土遺物がないため、遺構の詳細時期は不明。

19号住居跡

【検出位置】 099区JG-62・63

【規模ほか】 長軸5.50m・短軸2.28m・深さ51㎝。形状は長方形。南側を欠く。壁際を中心に小規模な柱穴が複数めぐる（第50図）。

出土遺物がないため、遺構の詳細時期は不明。

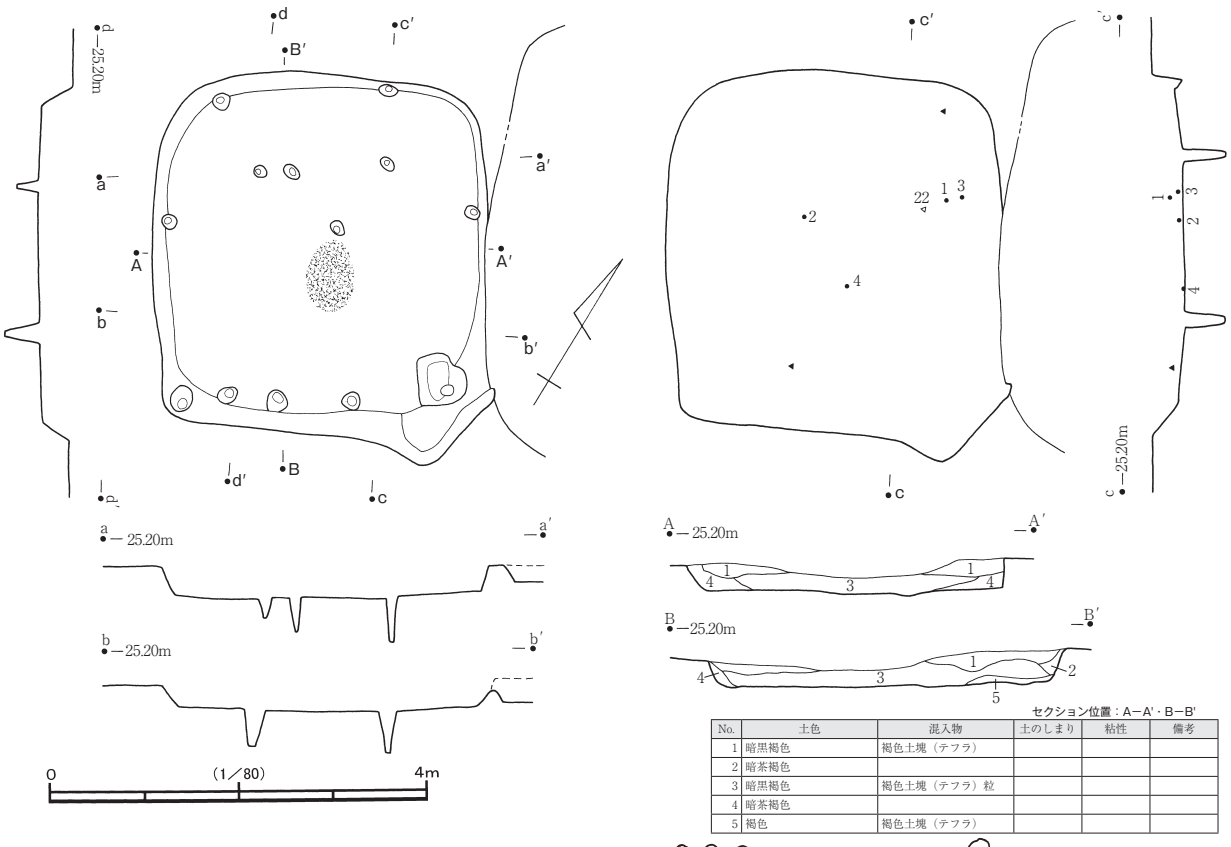
20号住居跡

【検出位置】 099区IG-79・88・89・90

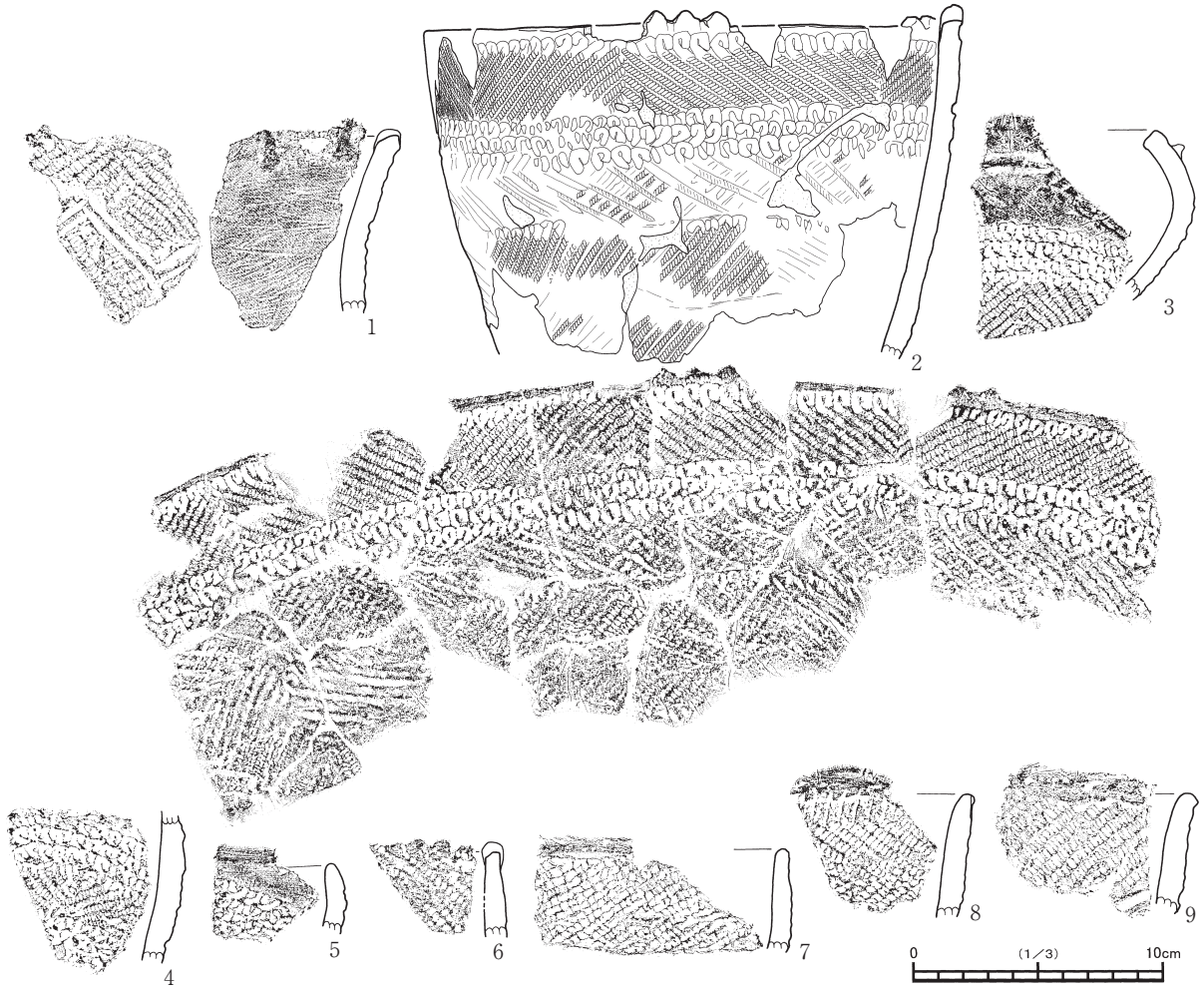
【規模ほか】 長軸5.52m・短軸3.22m・深さ38㎝。形状は長方形。主軸方向　305°。炉は中央やや西側よりに一箇所ある。柱穴は、壁際および炉付近に小規模なものが複数認められる（第51図）。

【出土遺物】 11点・908ｇの礫および礫石器が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。石器および剥片類の出土はなかった。土器は、200点・2,459ｇ出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。うちわけは、条痕文系・羽状縄文系などである。このうち主体を占めるのは、羽状縄文系・関山式のもので全体の95.0％あり、当該時期を20号住居の帰属時期とみる。

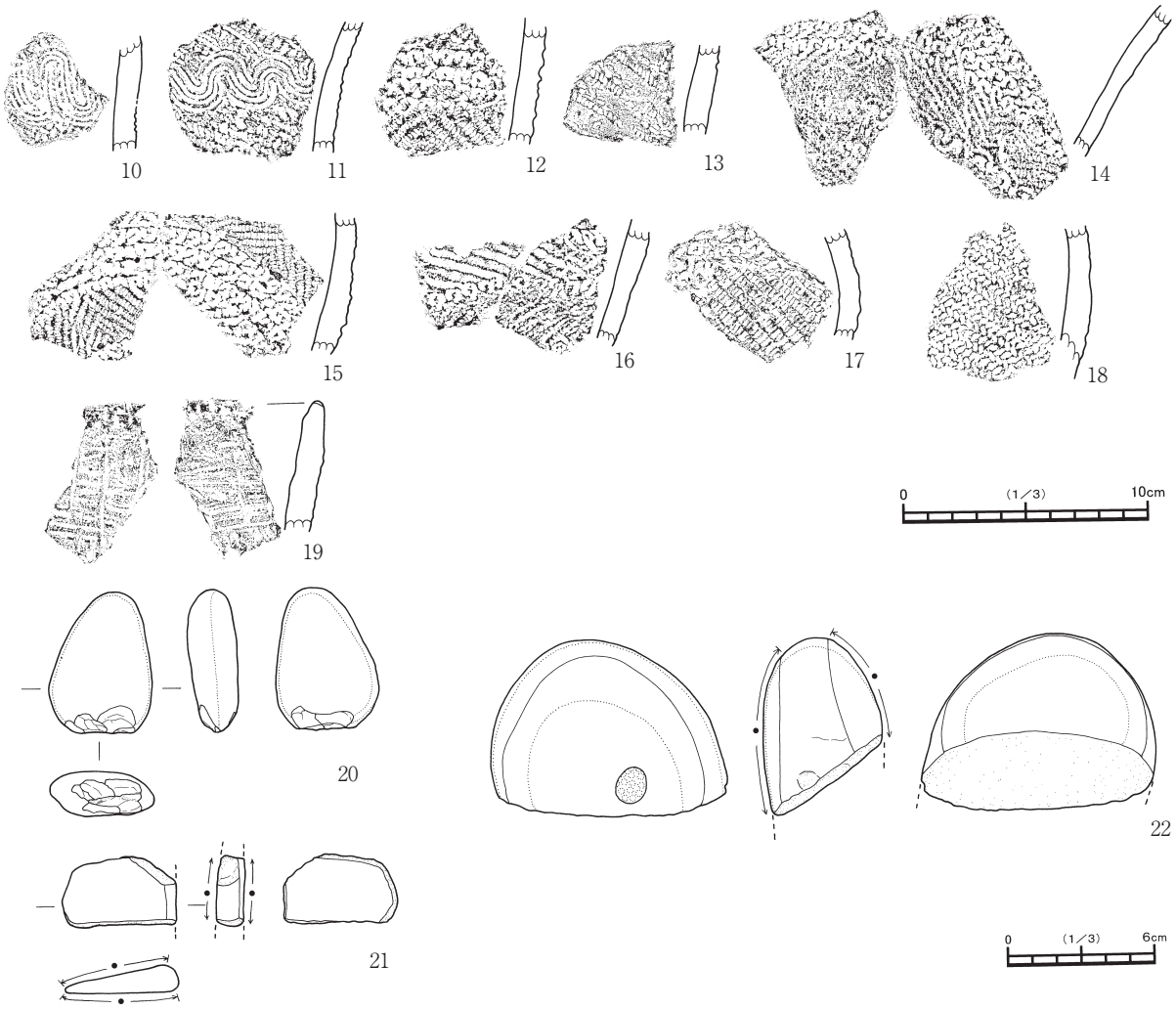
【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第51図１～20に示した。１～６は羽状縄文系深鉢形土器の口縁部、７～14は胴部、16・17は底部の破片である。15は、推定口径335㎜・現存器高108㎜を測る平縁の深鉢形土器である。口唇部の一部に山形の貼付文がみられる。口縁部以下にループ文・羽状縄文を施す。18～20は、条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部の破片である。



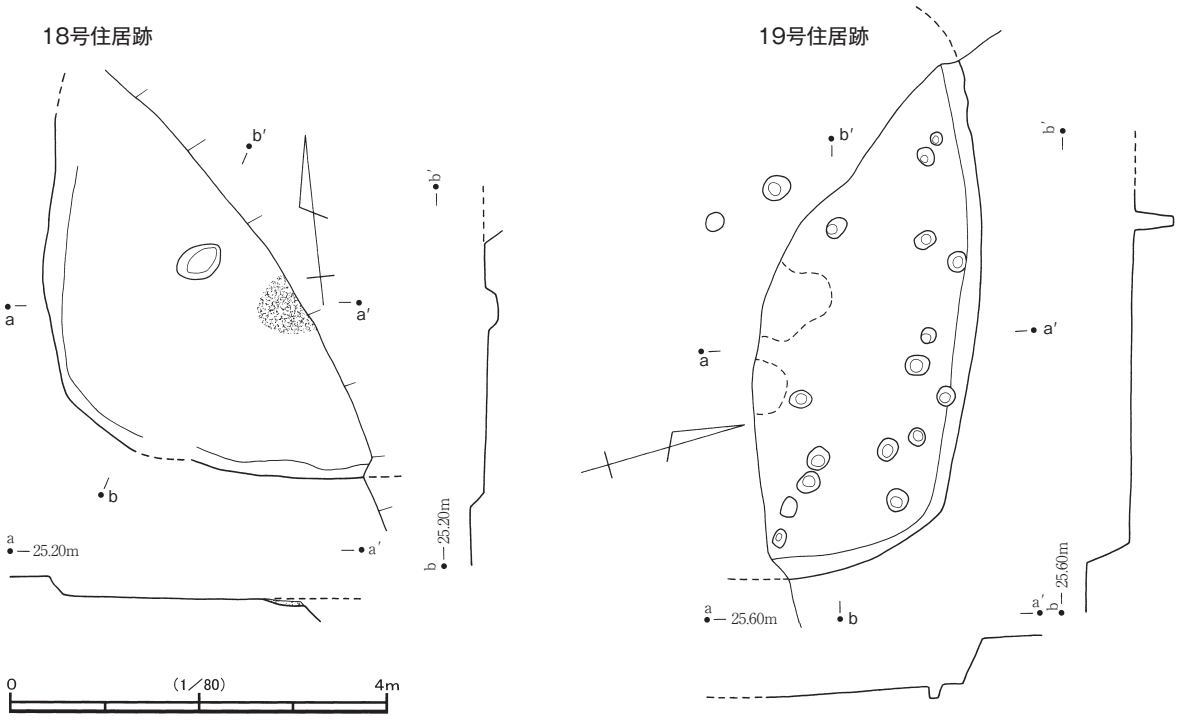
No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗黒褐色	褐色土塊（テフラ）			
2	暗茶褐色				
3	暗黒褐色	褐色土塊（テフラ）粒			
4	暗茶褐色				
5	褐色	褐色土塊（テフラ）			



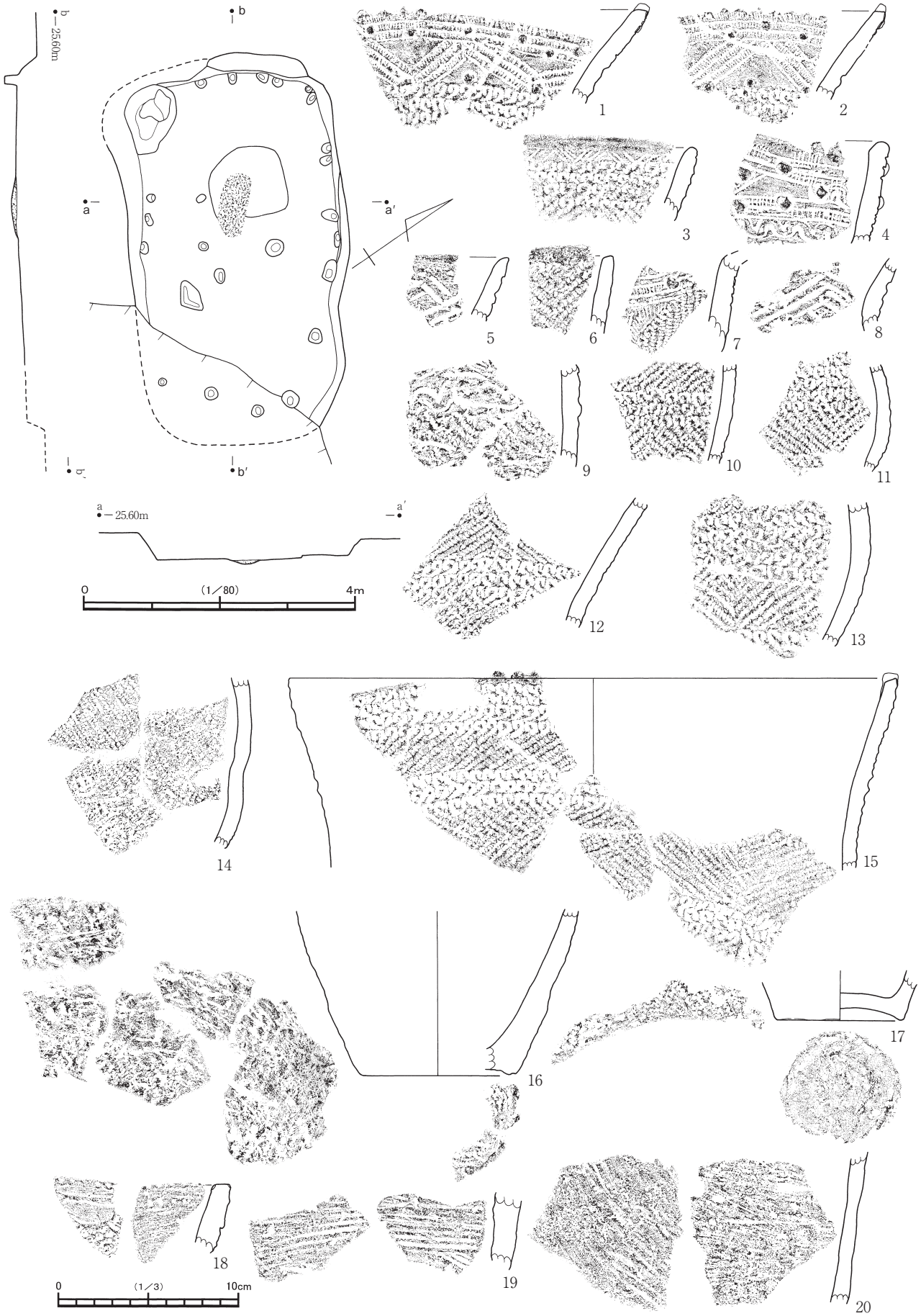
第48図　17号住居跡実測図・遺物出土状況図および出土遺物実測図(1)



第49図　17号住居跡出土遺物実測図(2)



第50図　18号・19号住居跡実測図



第51図　20号住居跡実測図および出土遺物実測図

21号住居跡

【検出位置】 099区JG-94・95、JH-04・05

【規模ほか】 長軸4.50m・短軸3.94m・深さ32cm。形状は隅丸方形？。炉は、中央部およびその西側に二箇所ある。柱穴は、炉周囲に数箇所認められるがその配列は不規則（第52図）。

【覆土】 暗茶褐色土・黒褐色土などを主体とする。褐色土塊（テフラ）を含む層が多い。

【出土遺物】 32点・953ｇの礫および礫石器が出土している。このうち97.2%に被熱のあとがみられる。石器は、チャートなどの剥片２点がある。土器は、368点・6,675ｇ出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。うちわけは、条痕文系・羽状縄文系などである。このうち主体を占めるのは、羽状縄文系・関山式のもので全体の98.7%あり、当該時期を21号住居の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第52図１～９・第53図10～26・第54図27～44・第55図45～47に、覆土一括扱いのものを第55図48～82・第56図83～101に示した。なお、このうち52～101は本遺構の上に位置する古墳下層として取り上げられた遺物である。１～10・48・49・52～67は羽状縄文系・関山式深鉢形土器の口縁部、11～43・50・68～94は胴部、44・45・95・96は底部の破片である。２は、推定口径300㎜・現存器高146㎜を測る平縁の深鉢形土器である。口縁部以下、羽状縄文を施す。19は、現存器高179㎜・推定胴部最大径263㎜を測るやや胴の張る深鉢形土器である。コンパス文・ループ文・鋸歯状の平行線文・付加条文などが施される。27は、現存器高255㎜・推定胴部最大径466㎜を測る、胴部から底部にかけての屈曲のきつい深鉢形土器である。44は現存器高101㎜・推定底径78㎜を測るもので、底部近くにコンパス文がみられる。51・97～99は、条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部の破片である。100は称名寺式深鉢形土器の口縁部破片、101は紐線文を施す加曽利Ｂ式深鉢形粗製土器の口縁部破片である。

22号住居跡

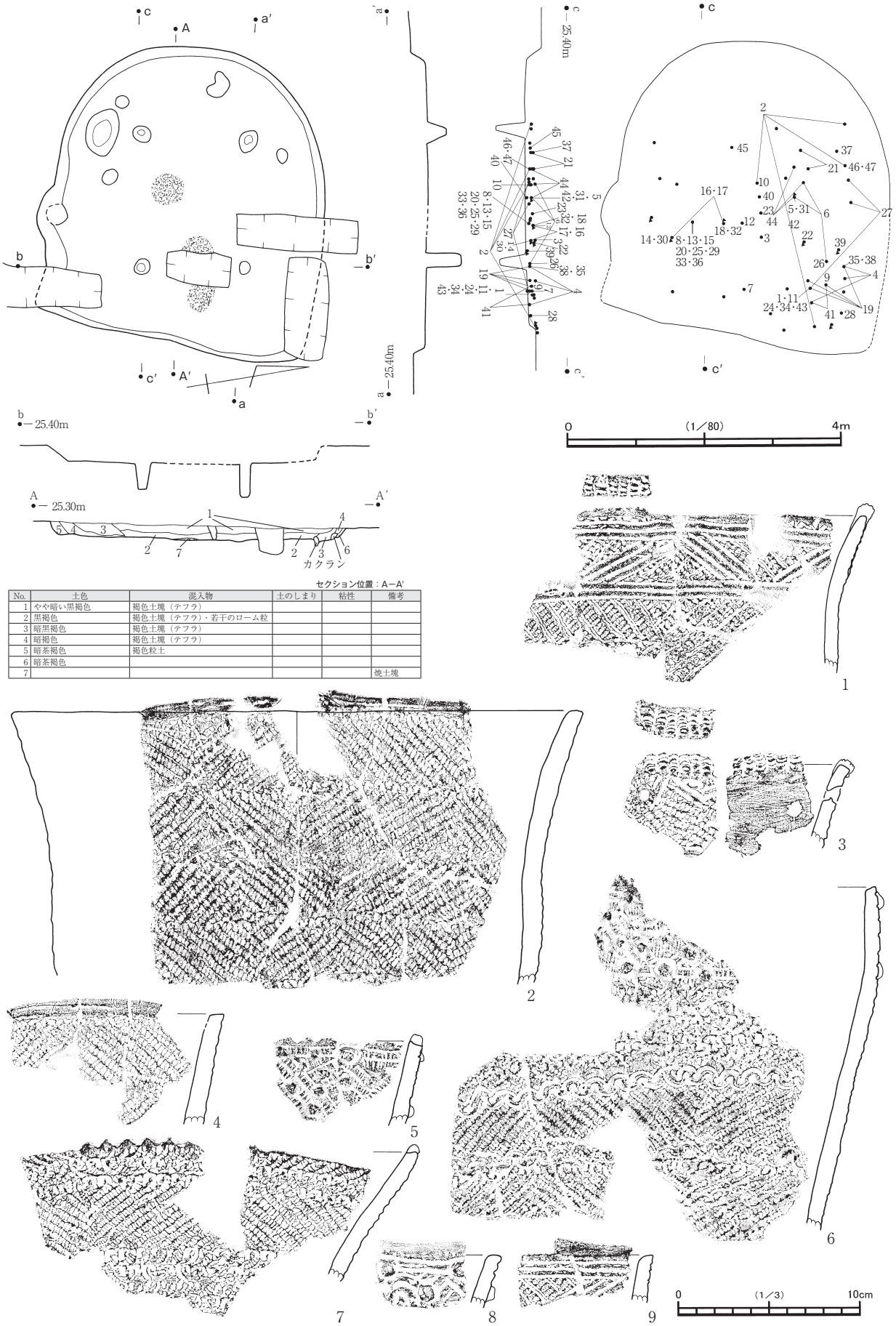
【検出位置】 099区MG-81・82

【規模ほか】 長軸3.82m・短軸3.66m・深さ18cm。形状は楕円形。中央部付近に一箇所の炉がある。柱穴は不明（第57図）。

【出土遺物】 ４点・289ｇの礫および礫石器が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。石器は、チャートなどの剥片４点がある。土器は、172点・2,918ｇ出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。うちわけは、条痕文系・羽状縄文系などである。このうち主体を占めるのは、羽状縄文系・関山式のもので全体の99.4%あり、当該時期を22号住居の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第57図１～13・第58図14に示した。１は羽状縄文系・関山式深鉢形土器の口縁部、２～６・８～11は胴部、12は底部の破片である。７は推定口径170・140㎜、現存器高99㎜を測る片口をもつ深鉢形土器である。比較的小型の製品である。14は、推定口径414㎜・現存器高172㎜を測る波条口縁をもつ深鉢形土器である。口唇部には、山形の貼付文を施す。口縁部文様帯には、鋸歯状または曲線を描く梯子状文、円形の貼付文がみられ、以下に羽状縄文・コンパス文・ループ文が施される。13は、条痕文系深鉢形土器の口縁部破片である。

23号住居跡



No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	やや暗い黒褐色	褐色土塊（テフラ）			
2	黒褐色	褐色土塊（テフラ）・若干のローム粒			
3	暗黒褐色	褐色土塊（テフラ）			
4	暗褐色	褐色土塊（テフラ）			
5	暗茶褐色	褐色粒土			
6	暗茶褐色				
7					焼土塊

第52図　21号住居跡実測図・遺物出土状況図および出土遺物実測図(1)



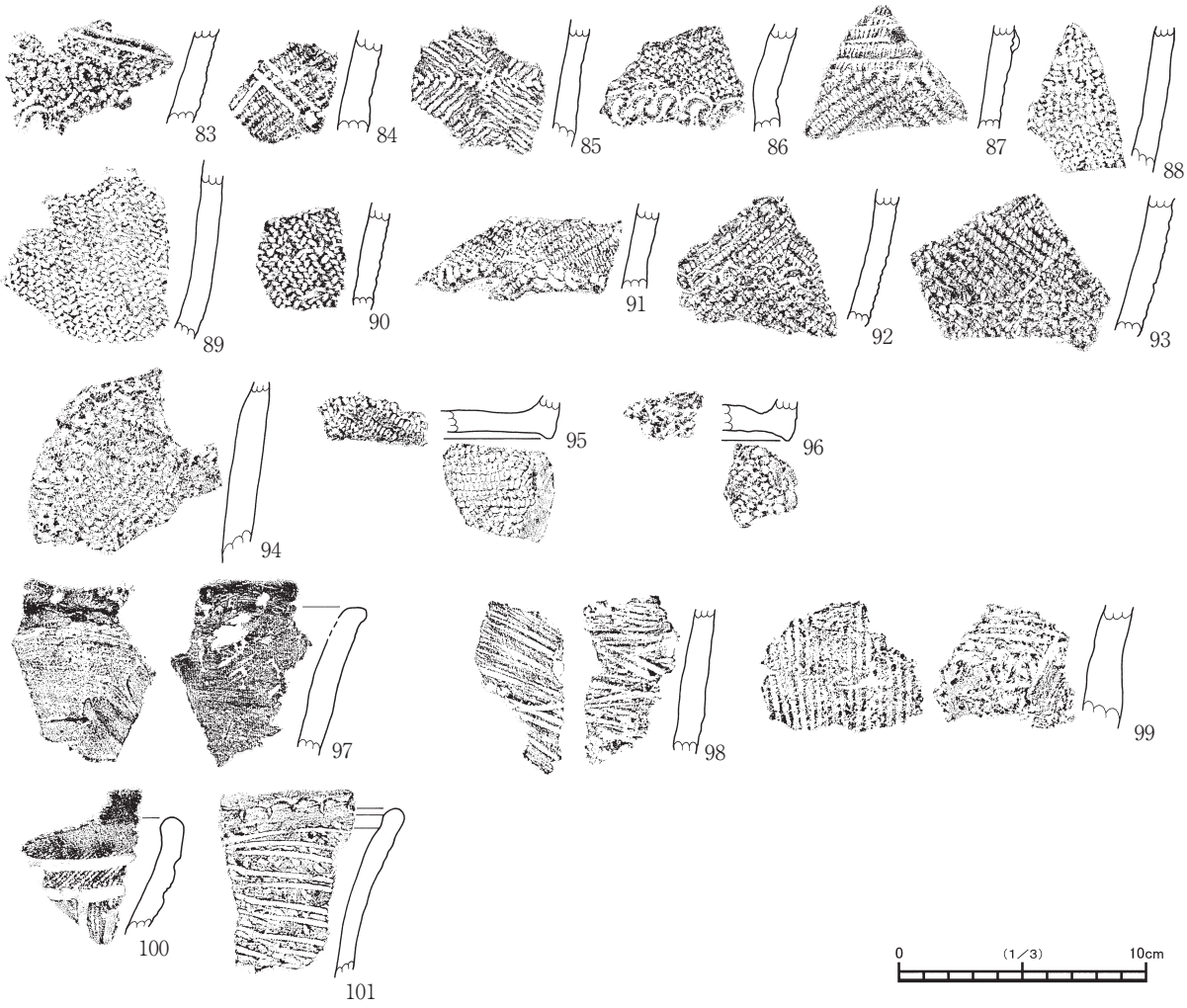
第53図　21号住居跡出土遺物実測図(2)



第54図　21号住居跡出土遺物実測図(3)



第55図　21号住居跡出土遺物実測図(4)



第56図　21号住居跡出土遺物実測図(5)

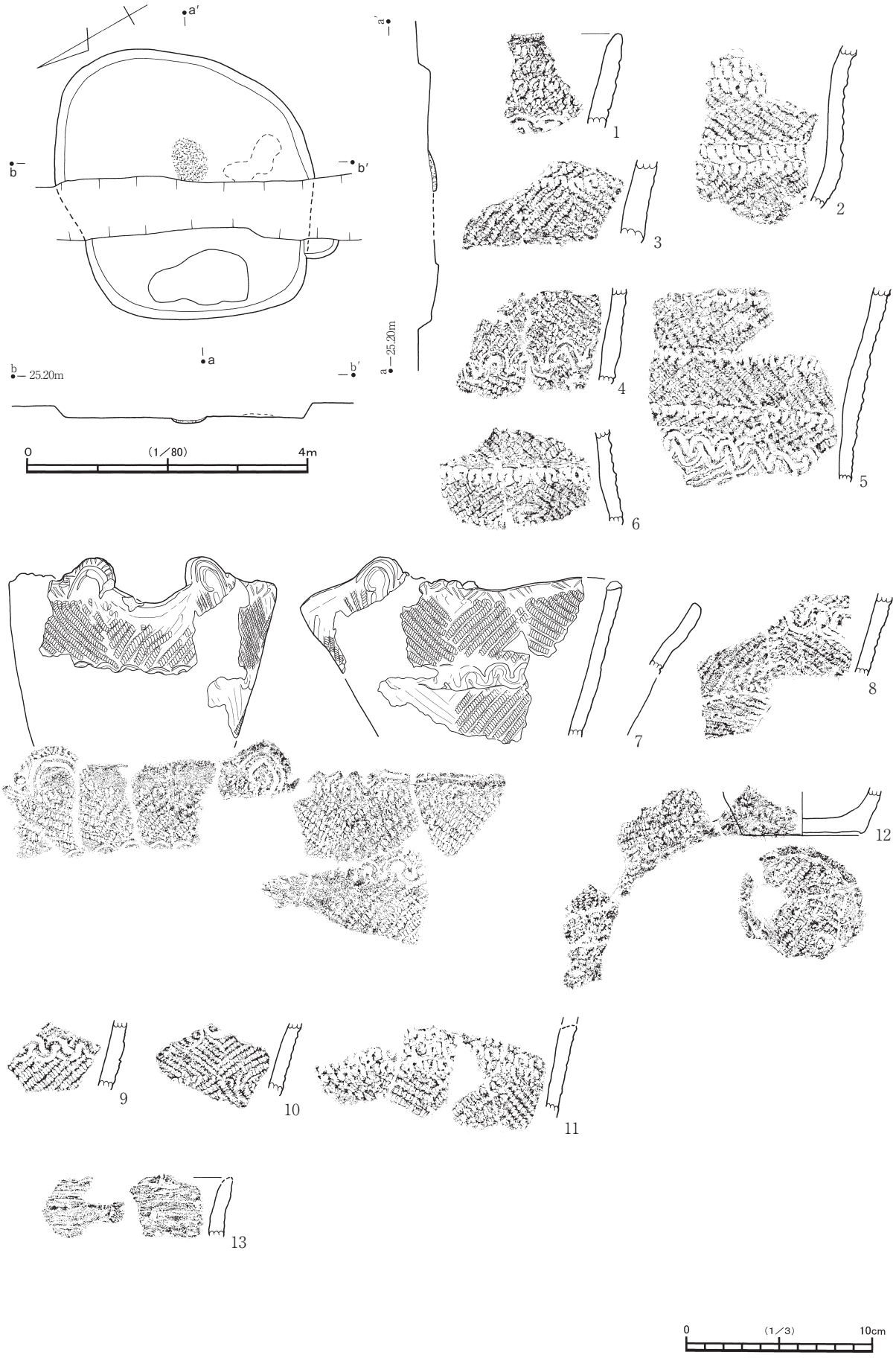
【検出位置】　セ72区2B-D 1

【規模ほか】　長軸3.30m・短軸3.13m・深さ28㎝。形状は円形。炉は、中央部に一箇所みられる。炉覆土内からは焼土および微量の炭化物が検出された。柱穴はみつかっていない（第59図）。

【覆土】　暗褐色土を主体とする。ローム粒を含む層が多い。一部に貝層がみられる（炉の南脇）。貝層は住居跡覆土の中心部よりに、長軸24・短軸18・厚さ10㎝ほどの規模で形成されていた。

【出土遺物】　218点・5,584ｇの礫および礫石器が出土している。このうち90.8%に被熱のあとがみられる。石器は、８点出土している。うちわけは、敲石１点･磨石１点･石鏃５点･石鏃未製品１点、このほか黒曜石などの剥片３点がある。土器は、367点・6,656ｇ出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。うちわけは、沈線文系・条痕文系・羽状縄文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系土器で全体の99.1%あり、当該時期を23号住居の帰属時期とみる。

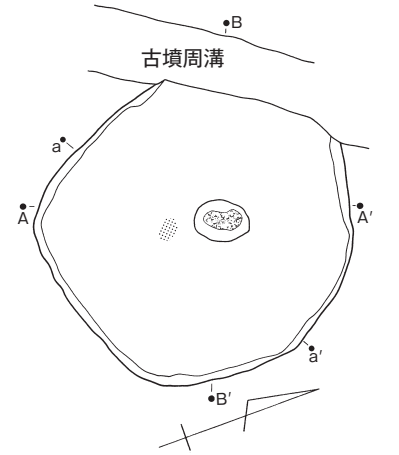
【遺物説明】　出土土器のうち、点あげしたものを第59図１～８・第60図９～26・第61図27～30に、覆土一括扱いのものを第61図31～45・第62図46～53に示した。１～９・31～42は条痕文系深鉢形土器

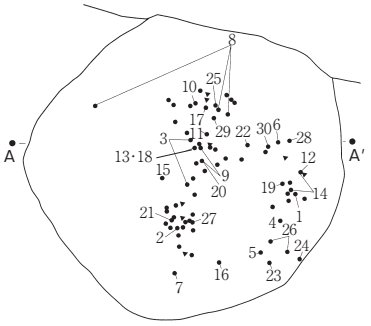


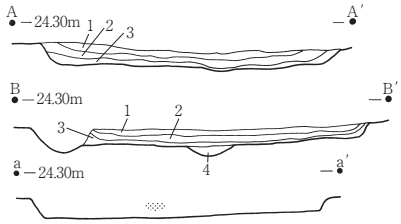
第57図　22号住居跡実測図および出土遺物実測図(1)

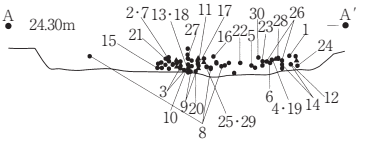


第58図　22号住居跡出土遺物実測図(2)







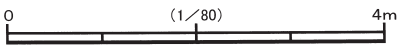


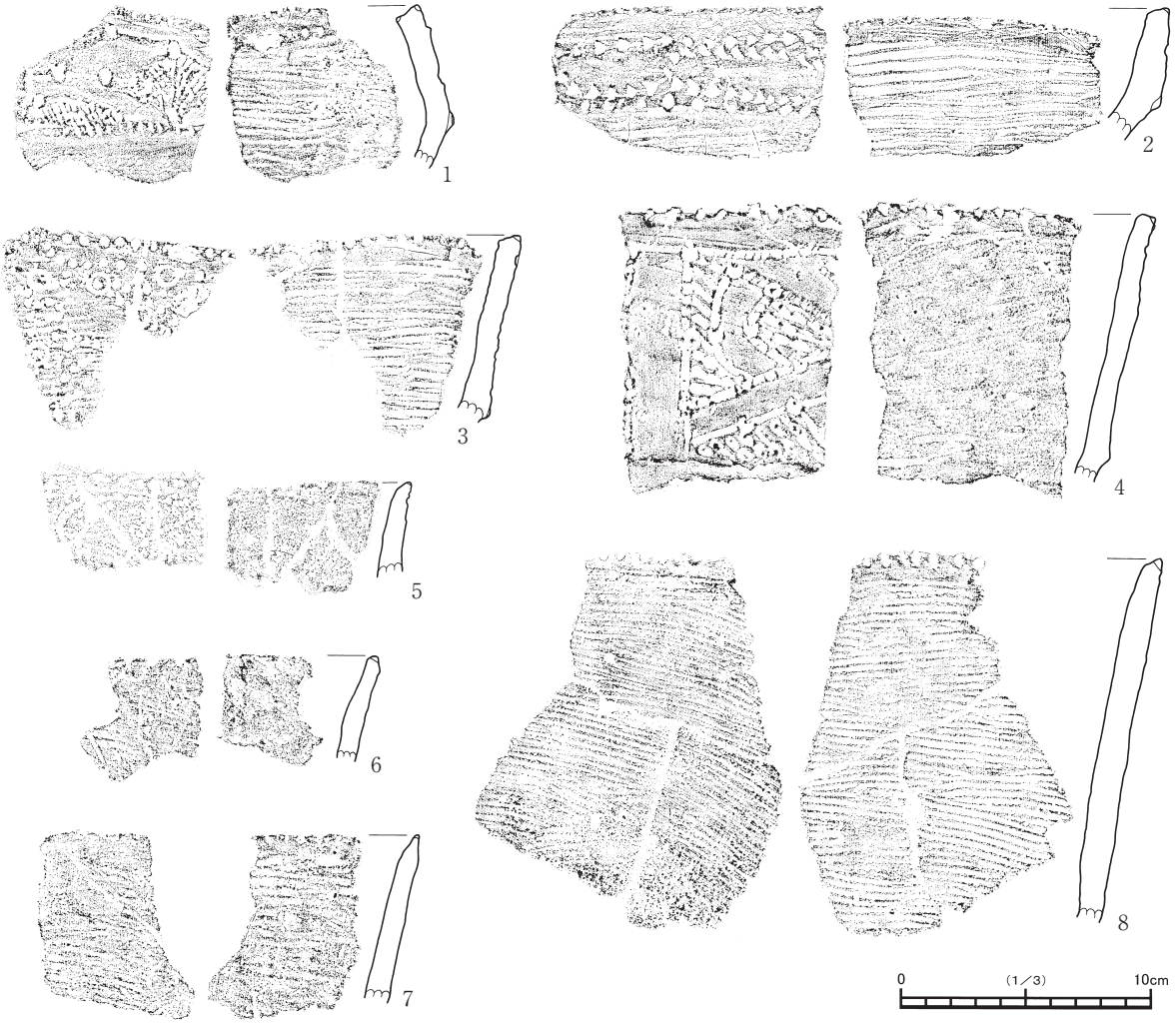
セクション位置：A−A′

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗褐色	少量のローム粒			
2	暗褐色	少量のローム粒・ソフトローム			
3	暗褐色	やや多量のローム粒・少量のソフトローム・ロームブロック（小）			

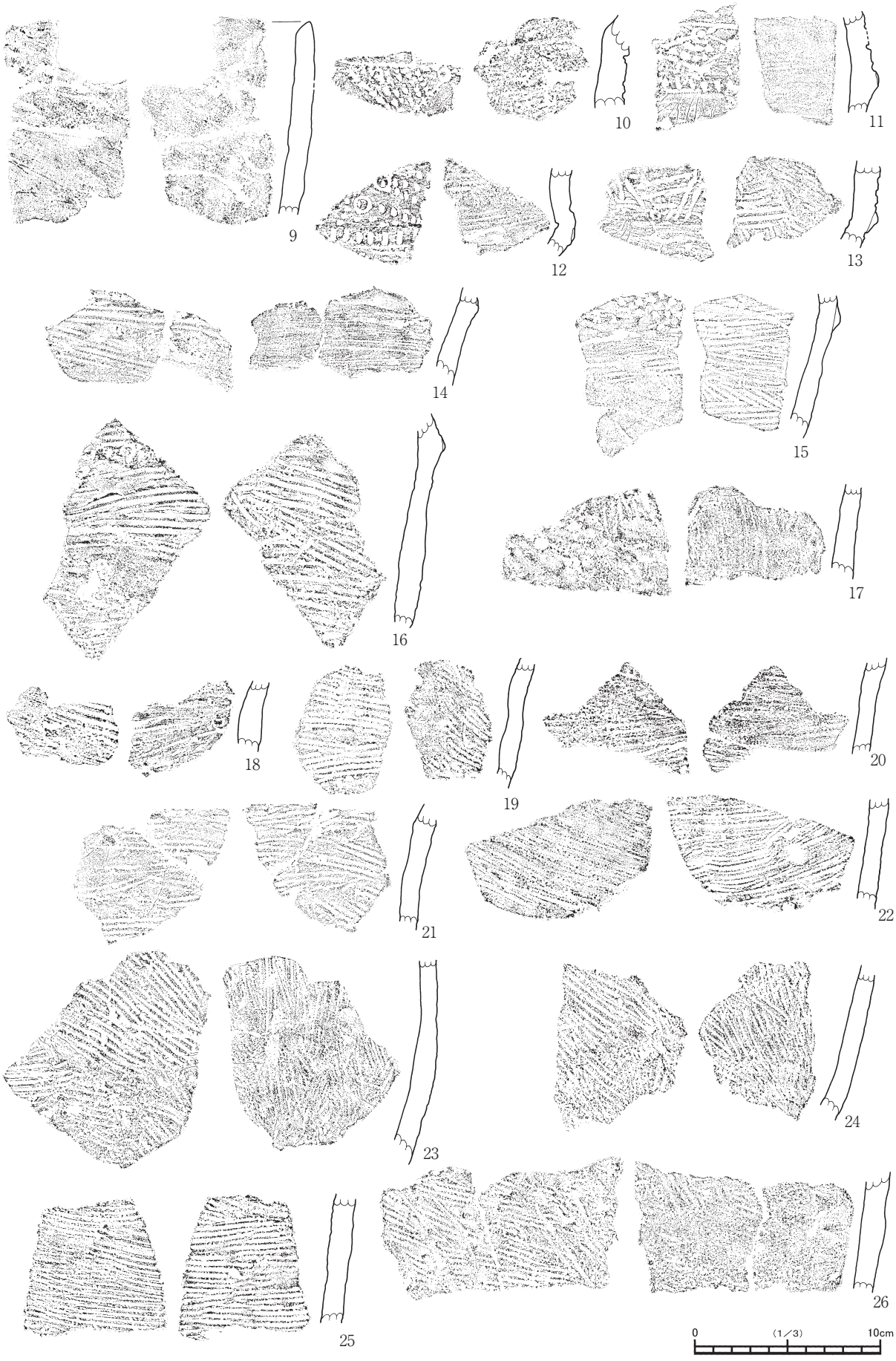
セクション位置：B−B′

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗褐色	少量のローム粒			
2	暗褐色	少量のローム粒・ソフトローム			
3	暗褐色	やや多量のローム粒・少量のソフトローム・ロームブロック（小）			
4		微量の焼土・炭化物			





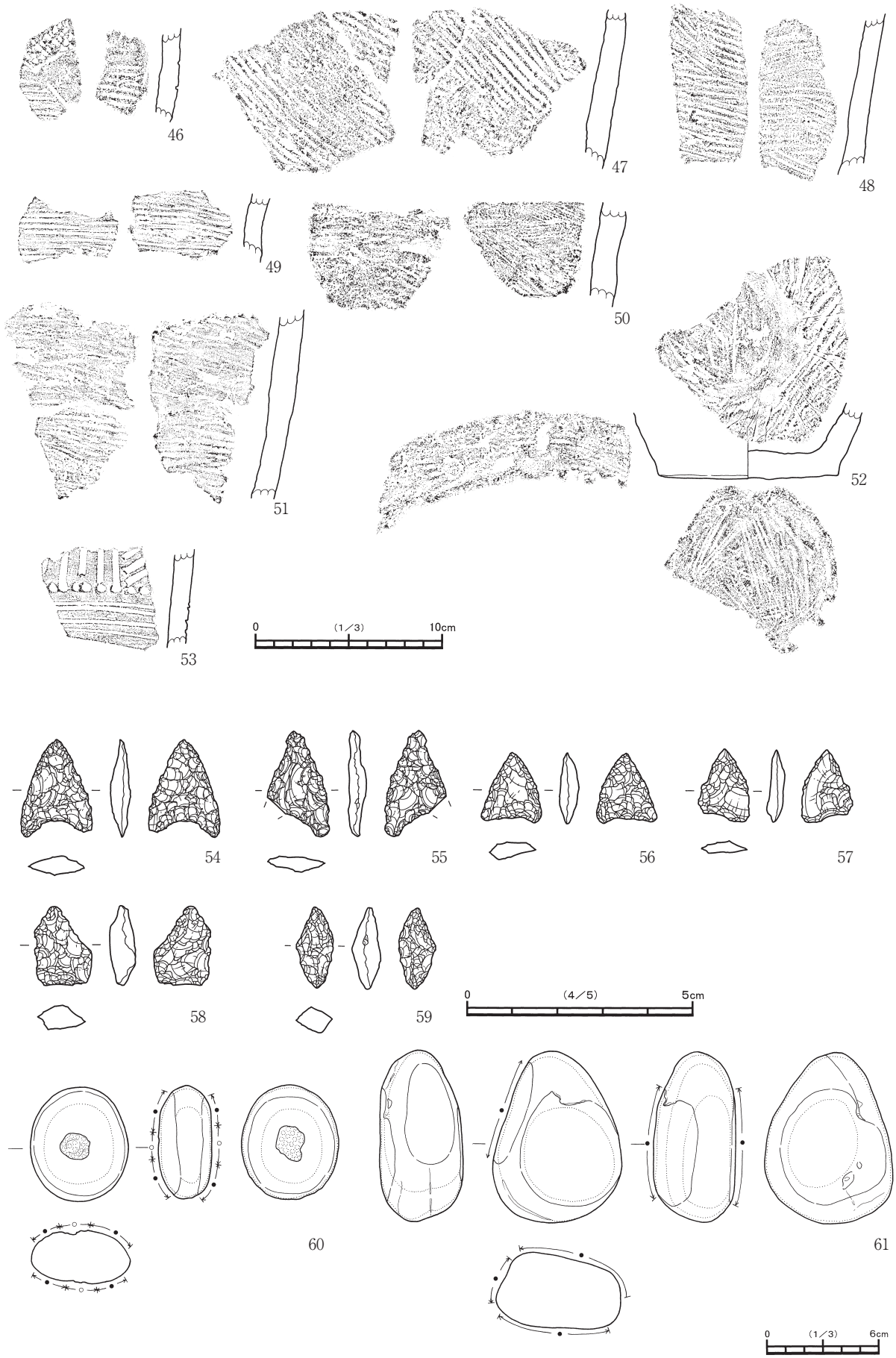
第59図　23号住居跡実測図・遺物出土状況図および出土遺物実測図(1)



第60図　23号住居跡出土遺物実測図(2)



第61図　23号住居跡出土遺物実測図(3)



第62図　23号住居跡出土遺物実測図(4)

の口縁部、10～29・43～51は胴部、30・52は底部の破片である。４は、条痕文系土器の口縁部破片で、口唇部には連続して刻みを施し、口縁部には押し引き沈線や沈線による区画内を連続刺突文で充填する。また区画の交点など要所には円形文を施す。53は沈線文系深鉢形土器の胴部破片である。

出土石器を第62図54～61に示した。54～59は黒曜石製の石鏃である。58は、その形状から未製品とみられる。60は、最大長60㎜を測る輝石安山岩製の敲石である。表裏面の中央部に敲打痕がみられる。61は、最大長91㎜を測る砂岩製の磨石である。

24号住居跡

【検出位置】 セ72区4A-A3

【規模ほか】 長軸3.25m・短軸2.54m・深さ21㎝。形状は楕円形。中央部に一箇所の炉がある。柱穴は検出されていない（第63図）。

【覆土】 暗褐色土・黒褐色土などを主体とする。ローム粒・ソフトロームを含む層が多い。

【重複関係】 北側・西側・南側で、016・029・031号遺構と重複する。

【出土遺物】 28点・829ｇの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。石器は出土していない。土器は、32点・341ｇ出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。出土土器のすべてが条痕文系のものであることから、当該時期を24号住居の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第63図１～７に示した。条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部の破片である。

25号住居跡

【検出位置】 セ73区C3-G･K

【規模ほか】 長軸6.14m・短軸3.05m・深さ46㎝。形状は隅丸方形。東側部分を欠く。炉は検出されていない。柱穴は、壁際および中央部付近に数箇所規模の小さなものがみつかっている（第64図）。

【覆土】 暗褐色土・暗茶褐色土などを主体とする。

【重複関係】 南側で、200号遺構と重複する。

【出土遺物】 ４点・1,021ｇの礫および礫石器が出土している。このうち60.9％に被熱のあとがみられる。石器は、磨石・敲石１点が出土している。このほか、黒曜石などの剥片３点がある。土器は、106点・1,632ｇ出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。出土土器のすべてが条痕文系のものであることから、当該時期を25号住居の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第65図１～15に示した。条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部・底部の破片である。第65図16は、残存最大長83㎜を測る輝石安山岩製磨石・敲石の破片である。

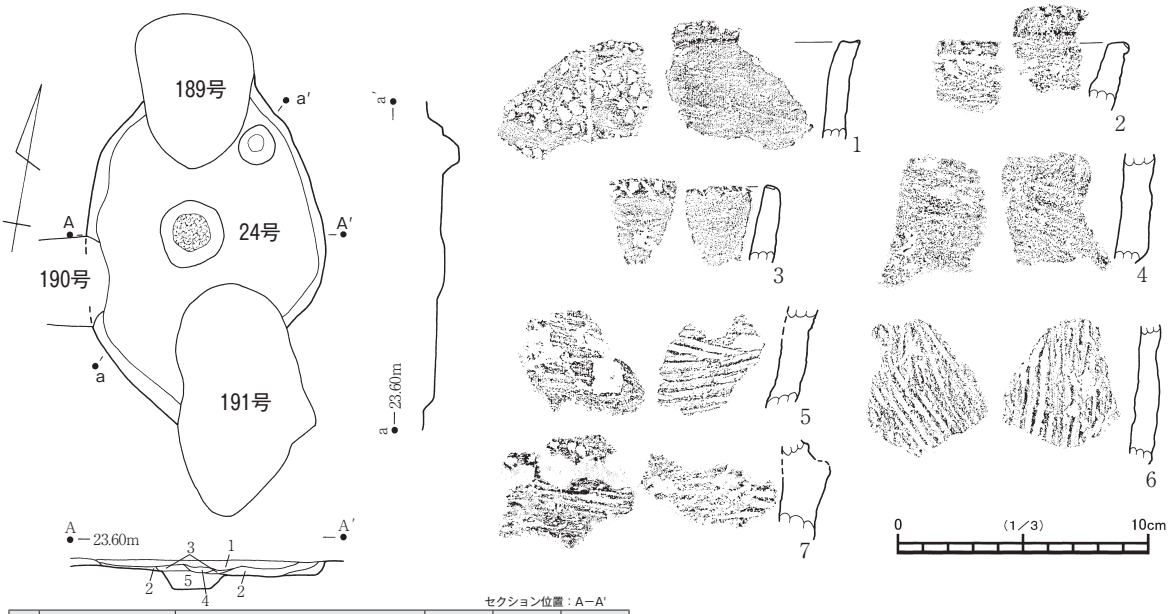
26号住居跡

【検出位置】 セ73区E6-A･B

【規模ほか】 長軸3.13m・短軸3.08m・深さ40㎝。形状は楕円形？。炉および柱穴は検出されていない（第66図）。

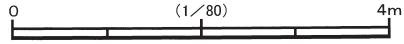
【覆土】 暗褐色土・褐色味強い黒褐色土などを主体とする。

【出土遺物】 ２点・23ｇの礫および礫石器が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。石器は、２点出土している。うちわけは、石鏃２点、このほか黒曜石の剥片１点がある。土器は

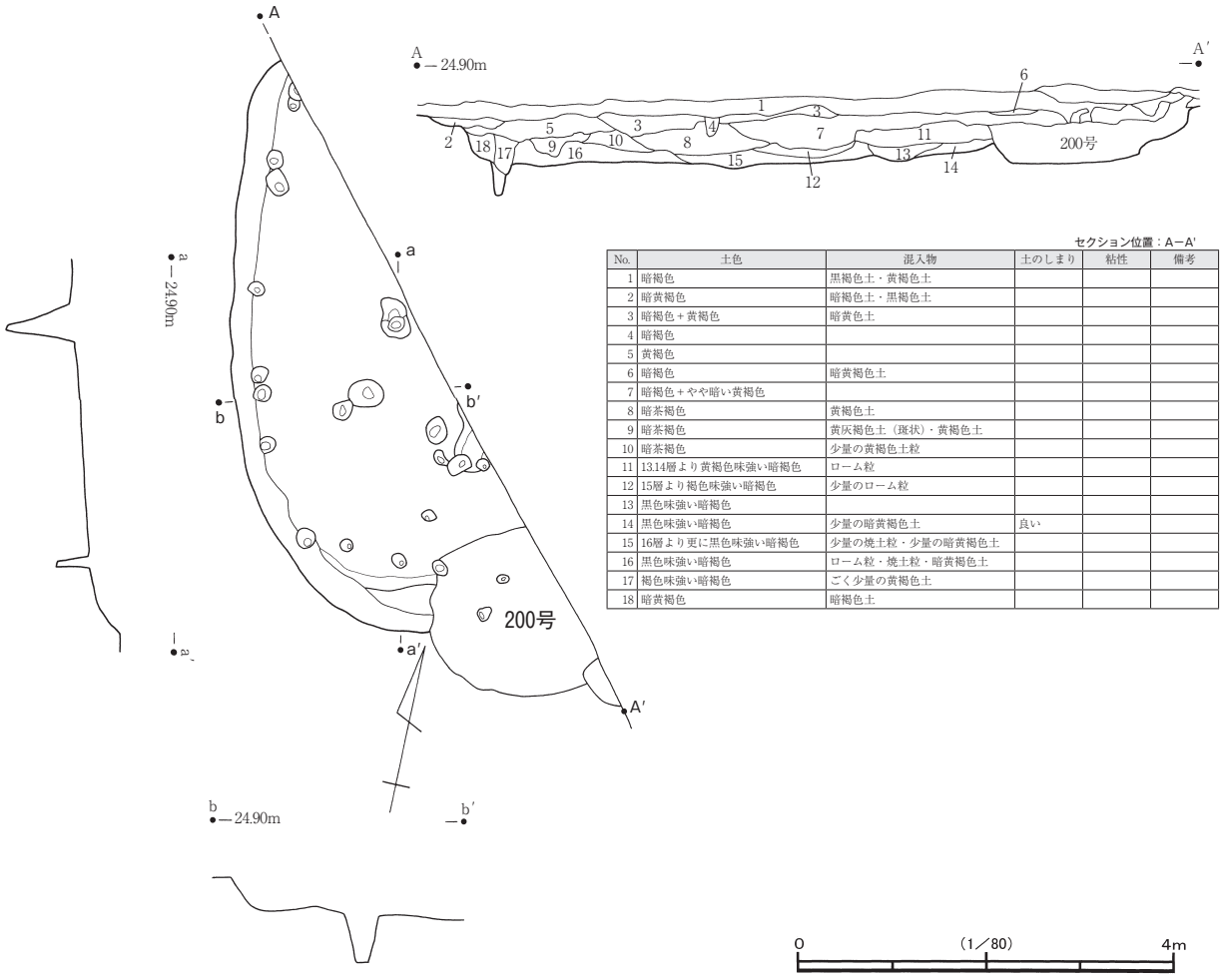


セクション位置：A－A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色	少量のソフトローム・ローム粒・焼土粒			
2	暗褐色	多量のソフトローム・少量のローム粒・焼土粒			
3	暗褐色	多量のソフトローム・ローム粒・焼土粒			
4	暗褐色	やや多量のソフトローム・焼土			
5	暗褐色	焼土			



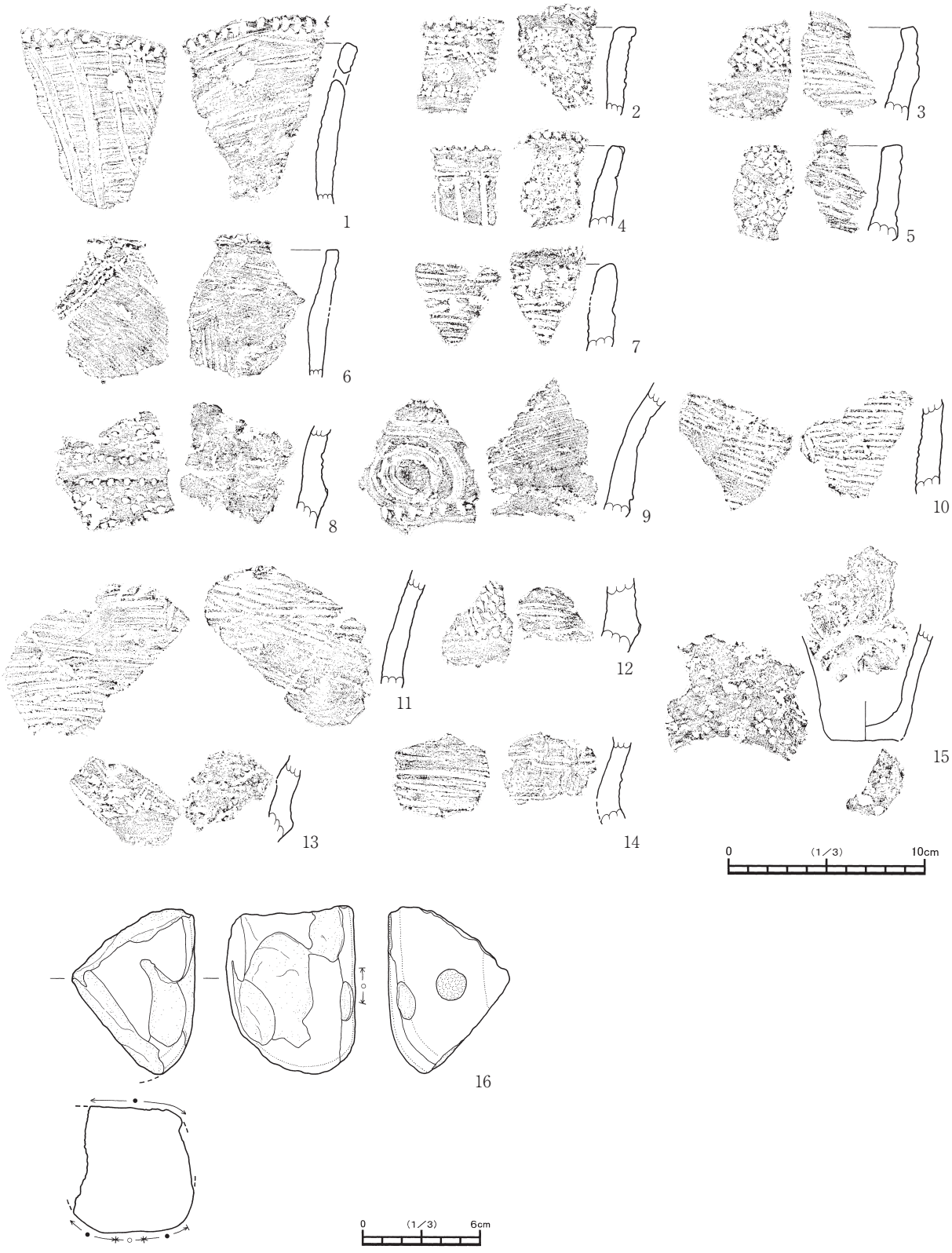
第63図　24号住居跡実測図および出土遺物実測図



セクション位置：A－A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗褐色	黒褐色土・黄褐色土			
2	暗黄褐色	暗褐色土・黒褐色土			
3	暗褐色＋黄褐色	暗黄色土			
4	暗褐色				
5	黄褐色				
6	暗褐色	暗黄褐色土			
7	暗褐色＋やや暗い黄褐色				
8	暗茶褐色	黄褐色土			
9	暗茶褐色	黄灰褐色土（斑状）・黄褐色土			
10	暗茶褐色	少量の黄褐色土粒			
11	13.14層より黄褐色味強い暗褐色	ローム粒			
12	15層より褐色味強い暗褐色	少量のローム粒			
13	黒色味強い暗褐色				
14	黒色味強い暗褐色	少量の暗黄褐色土	良い		
15	16層より更に黒色味強い暗褐色	少量の焼土粒・少量の暗黄褐色土			
16	黒色味強い暗褐色	ローム粒・焼土粒・暗黄褐色土			
17	褐色味強い暗褐色	ごく少量の黄褐色土			
18	暗黄褐色	暗褐色土			

第64図　25号住居跡実測図



第65図　25号住居跡出土遺物実測図

105点・1,479ｇ出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。出土土器のすべてが条痕文系のものであることから、当該時期を26号住居の帰属時期とみる。

【遺物説明】　出土土器のうち、主なものを第66図１～16に示した。条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部の破片である。第66図17は、残存長18.5㎜を測るチャート製の尖頭器の先端部破片である。18は、最大長11.0㎜を測る黒曜石製石鏃である。

27号住居跡

【検出位置】　セ28区I6-03・06・07・10・11・14・15

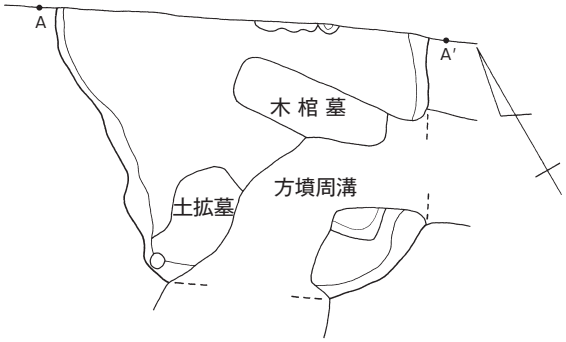
【規模ほか】　長軸12.72m・短軸6.36m・深さ136㎝。形状は長台形。主軸方向　25°。炉は検出されていない。柱穴は、壁際およびその内側に長方形に規則的に配置される（第67図）。

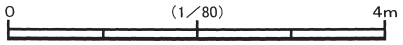
【覆土】　暗茶褐色土・黒褐色土などを主体とする。一部に貝層がみられる。貝層は住居跡覆土の東半部に14箇所のブロック状に形成され、その規模は長軸9.9m・短軸3.1m・厚さ60㎝ほどの規模で形成されていた。貝層は概ね混土貝層で、マテガイや灰などが集中する層もみられた（第68・69図）。

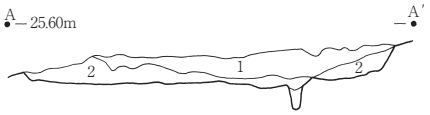
【その他】　長軸12mを越える天神台遺跡では最も規模が大きな住居跡であり、貝層中やその上下部分から多量のシカ・イノシシなど獣骨が検出された（第644～646図）。

【出土遺物】　918点・25,442ｇの礫および礫石器が出土している。このうち82.6％に被熱のあとがみられる。礫は、住居の北側を中心に南側にかけて分布し、層位的には床面から浮いた状態で覆土中層付近に多く検出されている（第71図）。石器は、30点出土している。うちわけは、石鏃７点・石鏃未製品１点・楔形石器４点・ＲＦ４点・ＵＦ１点・磨石６点・敲石５点・石皿２点、このほか黒曜石・チャートなどの剥片56点がある。土器は、3,805点・73,022ｇ出土している。住居の北東部を中心に南側へ分布し、層位的には床面から浮いた状態で覆土中層付近に多く検出されている（第70図）。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。うちわけは、撚糸文系、撚糸文系（無文）、条痕文系、一部に縄文の施文がある条痕・縄文、羽状縄文系、加曽利Ｂ式、安行式などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系土器で全体の98.7％あり、当該時期を27号住居の帰属時期とみる。

【遺物説明】　出土土器のうち、点あげしたものを第72図１～10・第73図11～24・第74図25～36・第75図37～48・第76図49～72・第77図73～90・第78図91～102・第79図103～116・第80図117～125に、覆土一括扱いのものを第80図126～137・第81図138～168・第82図169～191・第83図192～221・第84図222～240・第85図241～264に示した。１～64・122・126～134・136・138～203は条痕文系深鉢形土器の口縁部、65～109・135・137・204～249は胴部、110～121・250～254は底部の破片である。１は、推定口径349㎜・現存器高136㎜を測る緩い波状口縁となる深鉢形土器である。口縁下に刺突文を連続配置する横位・斜位の隆帯がめぐる。口唇部には斜位の深い刻みが連続して付される。24は、推定口径438㎜・現存器高221㎜を測る平縁の深鉢形土器である。口縁下に上部に刺突文を付す横位の隆帯がめぐり、その間に縦位４条の刺突文列がみられる。口唇部にはキザミが付される。159は、推定口径154㎜・現存器高60㎜を測る平縁の小型深鉢形土器である。122・131・132・134～137は一部に縄文が施文される条痕文系土器である。255～261は、撚糸文系土器の口縁部および胴部破片である。122・262は羽状縄文系深鉢形土器の口縁部、124・263は羽状縄文系深鉢形土器胴部の破片である。125は安行式粗製深鉢形土器の口縁部破片である。264は紐線文をもつ加曽利Ｂ式の深鉢形粗製土器口縁部で

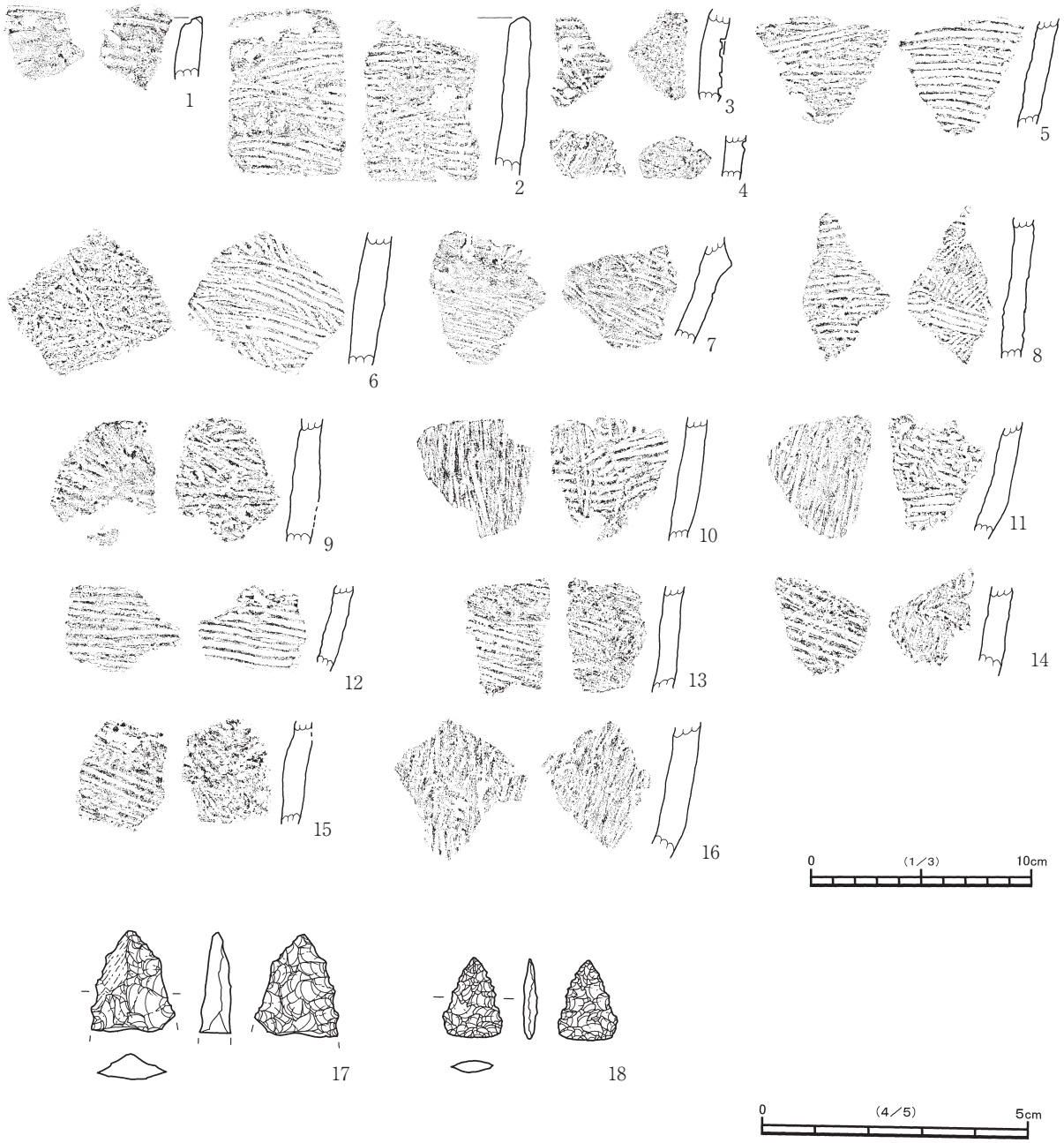




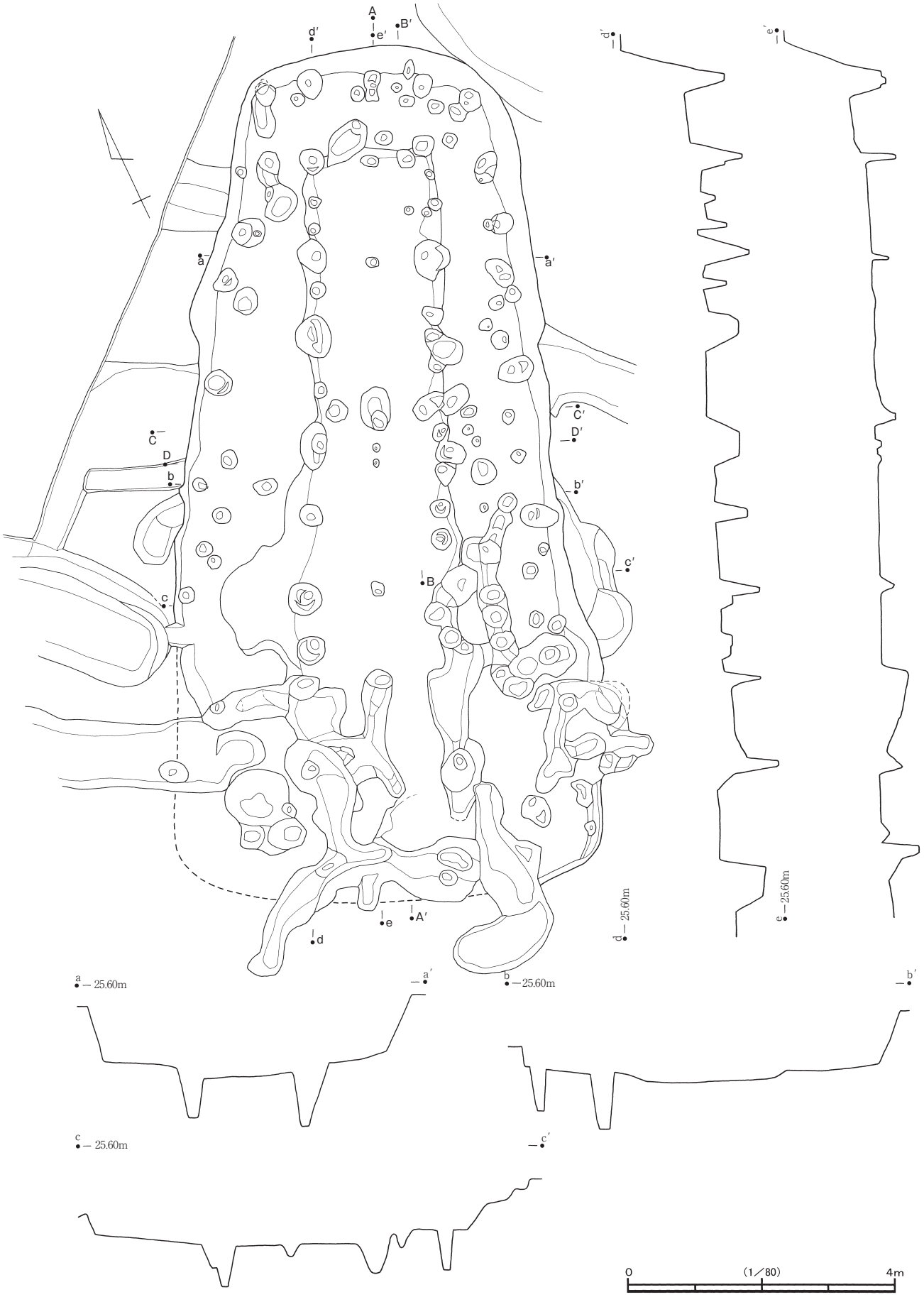


セクション位置：A－A′

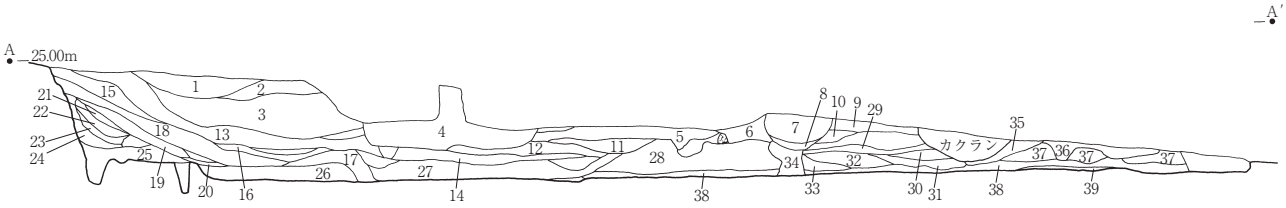
No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	褐色味強い黒褐色	暗黄褐色土・暗褐色土			
2	暗褐色	多量の暗黄褐色土			

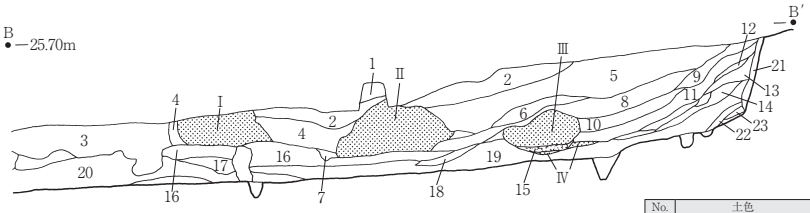


第66図　26号住居跡実測図および出土遺物実測図



第67図　27号住居跡実測図(1)





セクション位置：A−A'

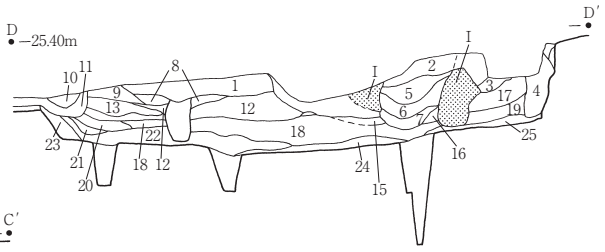
No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色	褐色ブロック・テフラブロック			
2	黒褐色	多量の褐色粒・若干のロームブロック			
3	黒色	多量のローム粒			
4	暗褐色				
5	黒褐色	多量のローム			
6	黒褐色	多量の褐色土			
7	暗褐色				
8	暗褐色	多量のローム粒			
9	黒褐色				
10	暗褐色				
11	暗茶色	ローム粒・ロームブロック			
12	暗茶色	ローム粒・ロームブロック			
13	黒色	ローム粒			
14	黒褐色	多量のローム粒			
15	暗褐色	ローム粒			
16	暗褐色	ローム粒・ロームブロック			
17	暗茶色	ローム土・ブロック・ローム粒			
18	暗茶褐色	多量のローム粒・焼土粒			
19	黒褐色	多量の茶褐色ブロック			
20	暗茶褐色	多量の焼土粒			
21	暗褐色				
22		ロームブロック			
23	暗茶褐色				
24	暗茶色	ローム粒・ロームブロック			
25	暗黒茶褐色				
26	暗茶褐色	暗いローム粒・ロームブロック			
27	暗茶褐色	ローム粒・ロームブロック			
28	暗茶褐色	ローム粒・ロームブロック・褐色土ブロック			
29	暗褐色	多量のローム粒			
30	暗茶褐色	多量のローム粒			
31	暗褐色	多量のローム粒			
32	暗茶褐色				
33	暗茶褐色	ローム粒・褐色土・若干のロームブロック			
34	暗黒茶褐色	多量のローム粒			
35	黒色				
36	暗黒茶褐色	多量のローム粒			
37	暗茶褐色	ローム粒			
38	暗茶褐色	ローム粒・褐色土・若干のロームブロック			
39	暗茶色	ロームブロック	硬い		

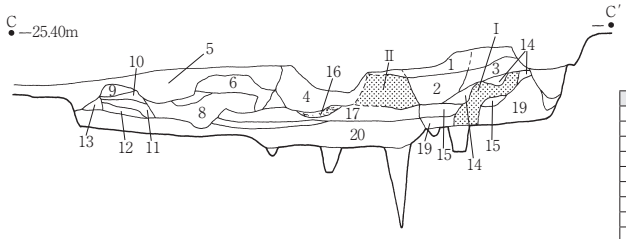
セクション位置：B−B'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗黒褐色				
2	暗黒褐色	多量のテフラ			
3	黒褐色				
4	黒褐色	多量のテフラ			
5	暗黒色				
6	暗黒色	若干のテフラ	硬い		
7	暗茶色				
8	黒色				
9	黒褐色	多量の褐色土粒			
10	暗黒褐色				
11	黒褐色	若干のテフラ			
12	暗黒色				
13	暗茶褐色	多量のローム粒・若干のロームブロック			
14	暗黄褐色	ロームブロック			
15					焼土
16	暗黄色	ロームブロック・ローム粒・若干の褐色土粒			
17	暗黄褐色	ロームブロック・ローム粒			
18	暗黄色				
19	16層より暗い暗茶色	ローム粒・ロームブロック			
20		若干のロームブロック・暗茶褐色土粒			
21	暗茶褐色				
22	暗茶褐色	ローム粒			
23		ロームブロック			

セクション位置：B−B'

No.	種別（土の混じり具合）	主体貝	その他の貝	備考
Ⅰ	混土貝層			S11
Ⅱ	混土貝層			S12
Ⅲ	混土貝層			S22
Ⅳ	混土貝層	マテガイ		灰・S22





セクション位置：C−C'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色				
2	暗黒褐色				
3	暗褐色				
4	暗茶褐色				
5	黒褐色	多量のテフラ			
6	暗茶褐色	ローム粒・ロームブロック			
7	暗褐色	若干のロームブロック			
8	暗褐色	多量のローム粒・ロームブロック			
9	暗褐色	多量のローム粒			
10	暗黄色				
11	暗茶褐色				
12	暗黄色	ロームブロック			
13	暗黒茶褐色				
14	黒褐色				
15	暗茶褐色	多量の褐色土			
16					焼土
17	暗茶色				
18	暗茶色				
19	暗茶褐色	ローム粒・ロームブロック			
20	暗茶色	ローム粒・ロームブロック			

セクション位置：C−C'

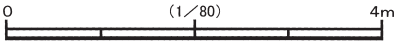
No.	種別（土の混じり具合）	主体貝	その他の貝	備考
Ⅰ	混土貝層			S27
Ⅱ	混土貝層			S11

セクション位置：D−D'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗黒褐色	多量のテフラブロック			
2	黒褐色				
3		テフラ			
4	暗黒茶褐色	ローム粒・褐色土粒			
5	黒褐色				
6	暗黒茶褐色				
7	暗茶褐色				
8	暗茶褐色	テフラブロック・ローム粒			
9		暗茶褐色土粒			
10	暗黒褐色				
11	暗黒茶褐色				
12	暗黄褐色	ロームブロック・ローム粒子・若干の褐色粒土			
13		ロームブロック			
14	暗茶褐色				
15	暗茶色				
16	暗黄褐色				
17	暗黄褐色	ロームブロック・ローム粒			
18	暗黄褐色	ロームブロック・ローム粒			
19	暗茶褐色	ロームブロック・ローム粒・褐色土粒			
20	暗茶褐色	ロームブロック・多量の焼土粒			
21	暗茶色				
22	暗茶褐色	ローム粒・若干のロームブロック			
23	暗黄褐色	ロームブロック			
24	暗茶褐色		やや硬い		
25	暗茶褐色		良い		

セクション位置：D−D'

No.	種別（土の混じり具合）	主体貝	その他の貝	備考
Ⅰ	混土貝層			S11・21

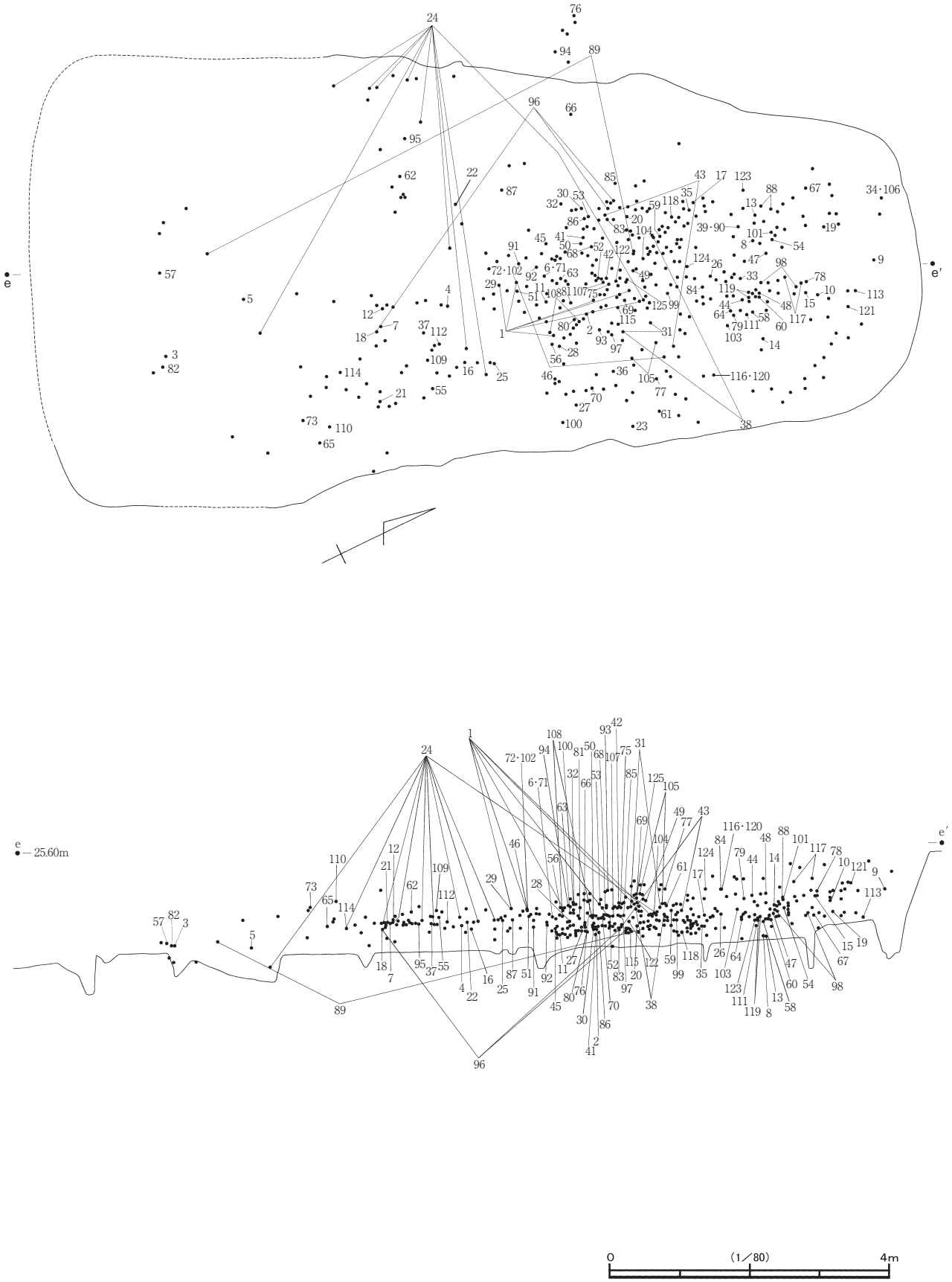


第68図　27号住居跡実測図(2)



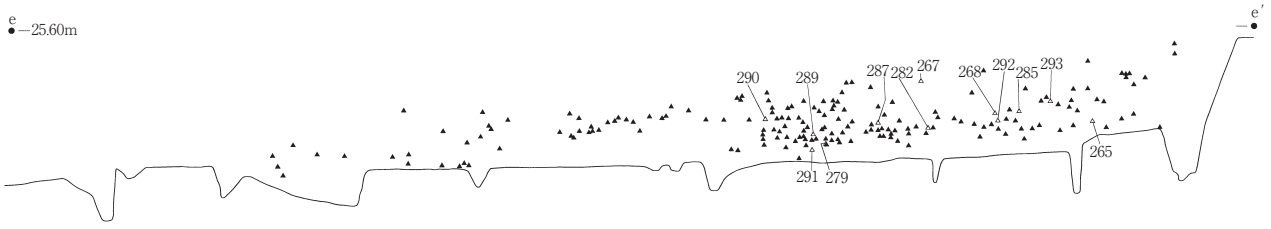
0 (1／80) 4m

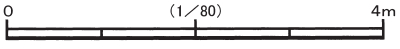
第69図　27号住居跡実測図(3)



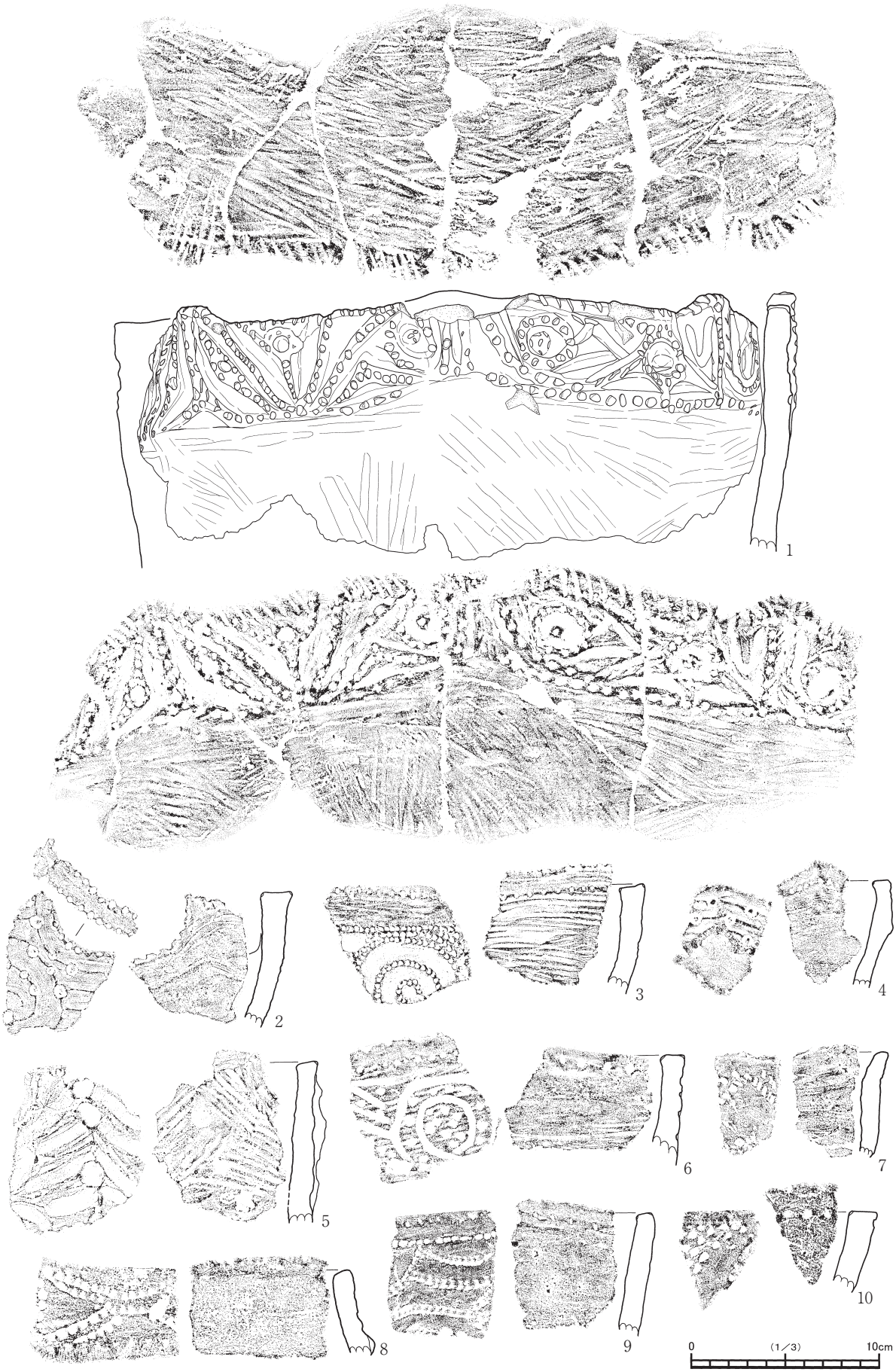
第70図　27号住居跡遺物出土状況図(1)



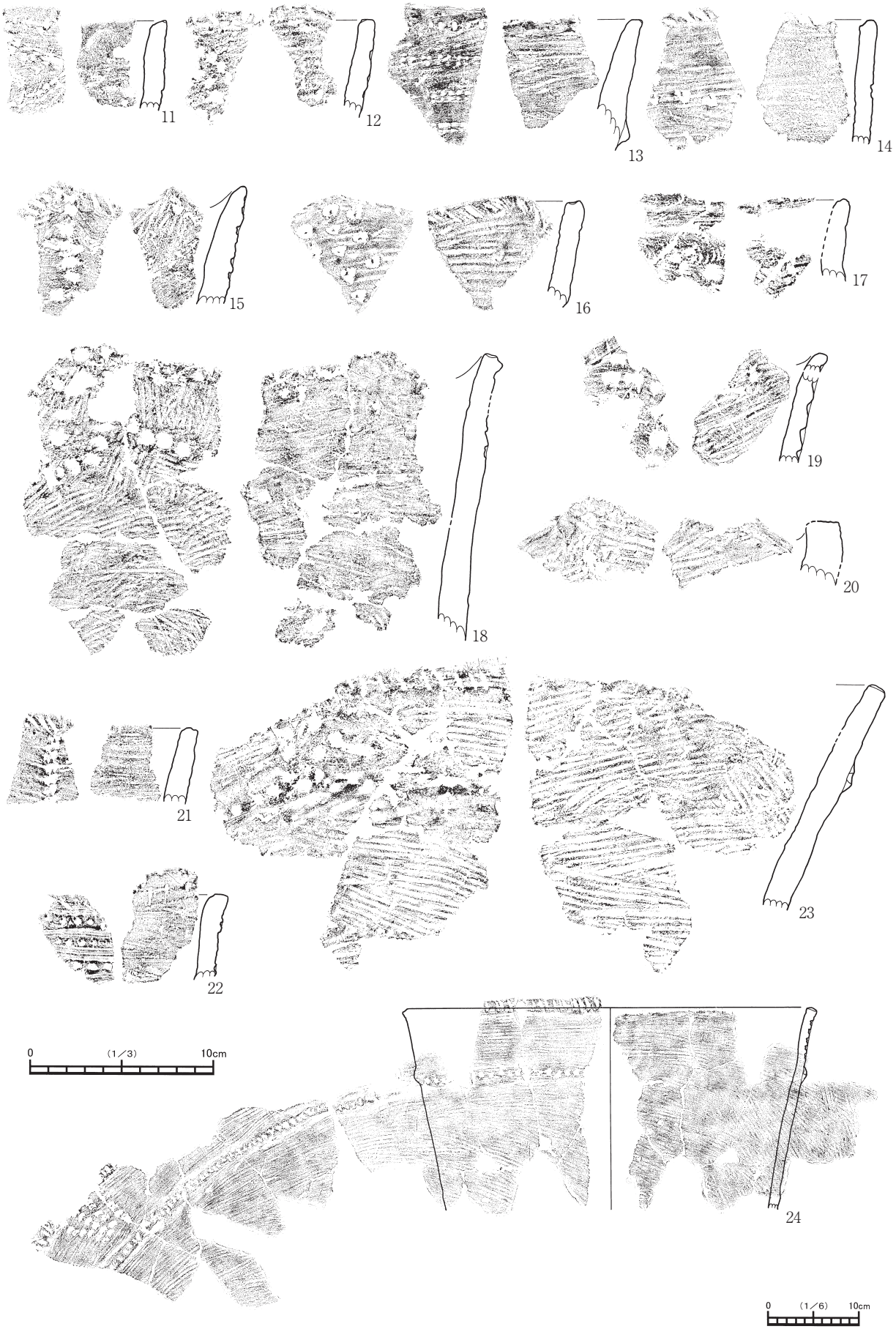




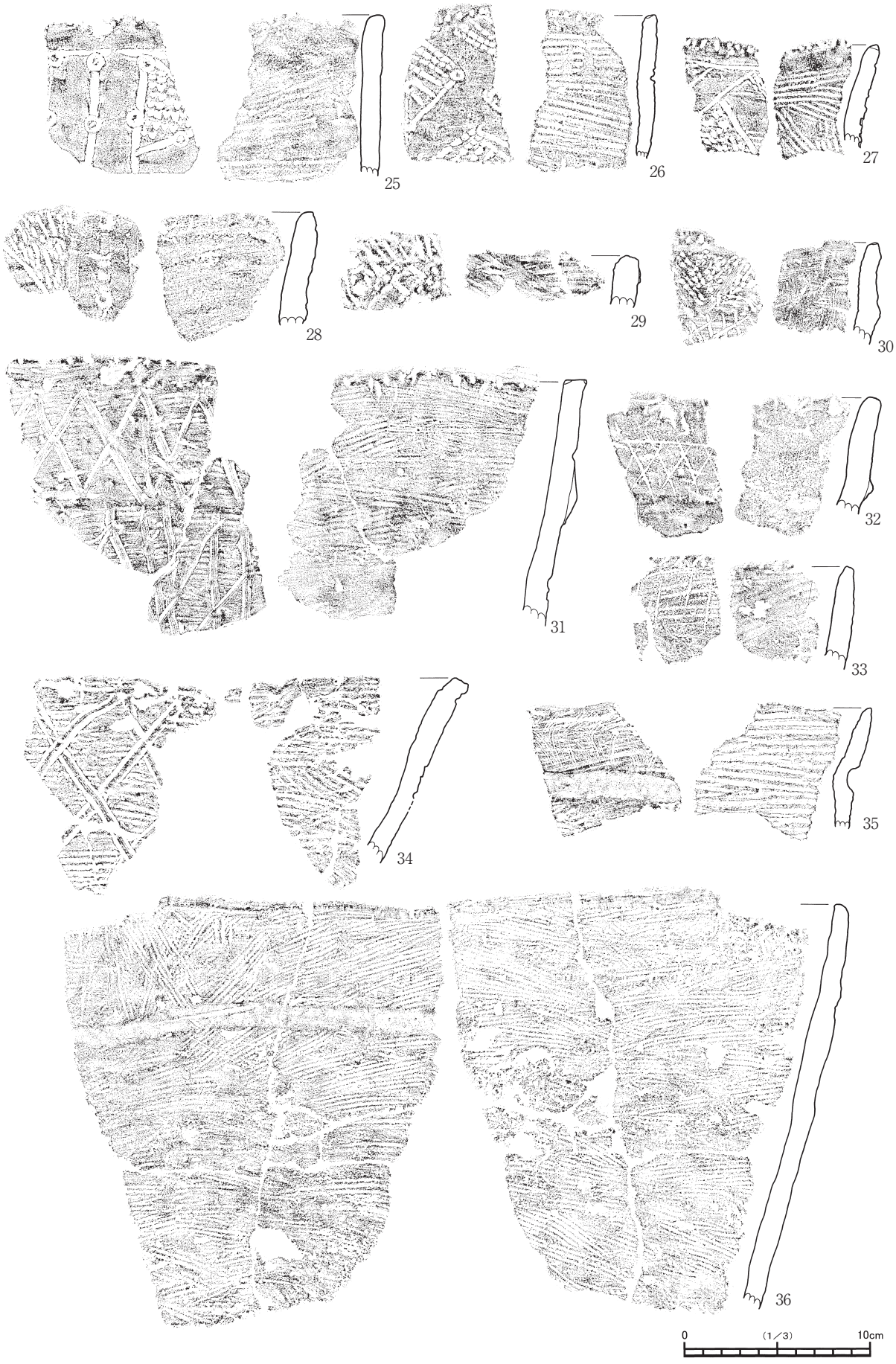
第71図　27号住居跡遺物出土状況図(2)



第72図　27号住居跡出土遺物実測図(1)



第73図　27号住居跡出土遺物実測図(2)



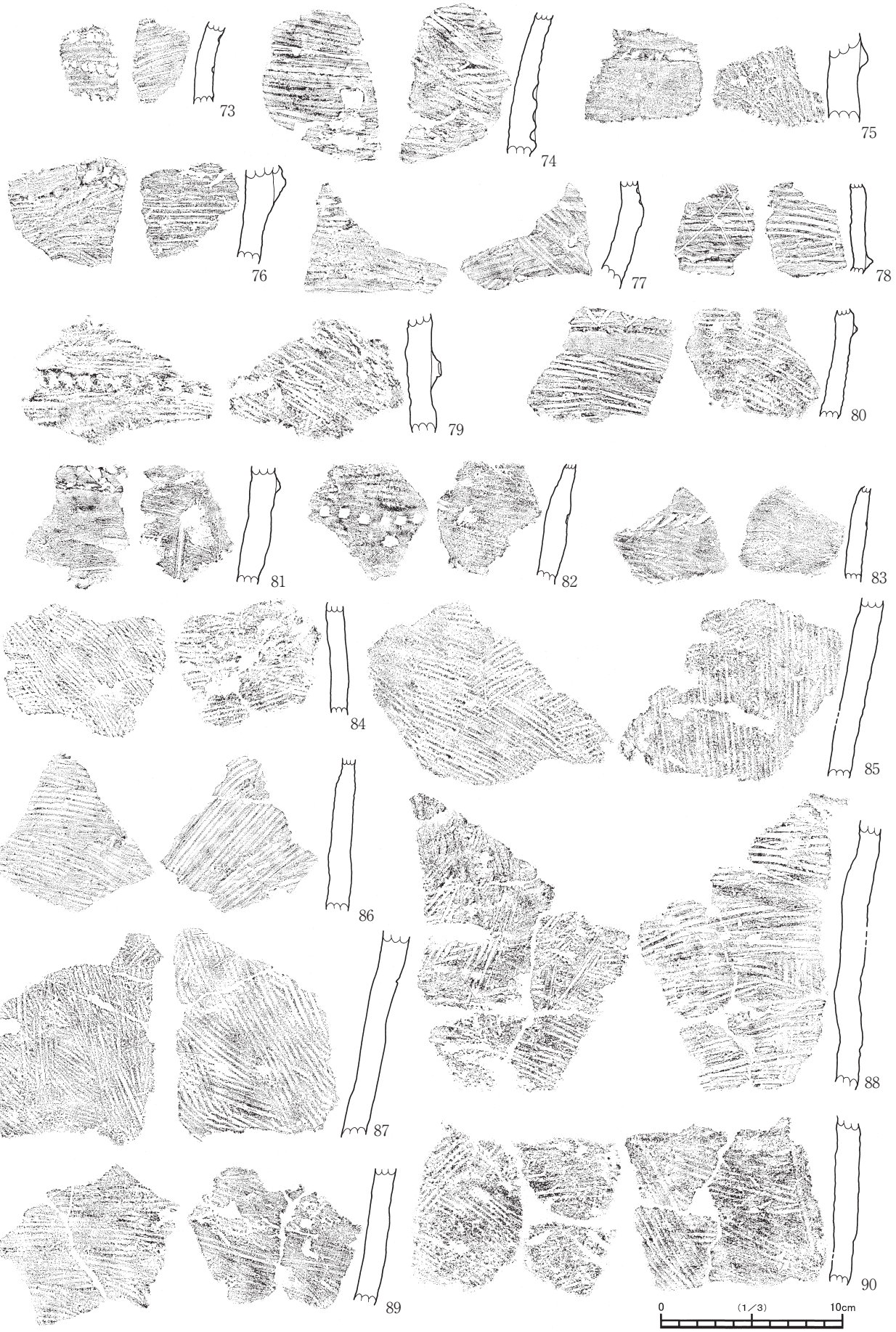
第74図　27号住居跡出土遺物実測図(3)



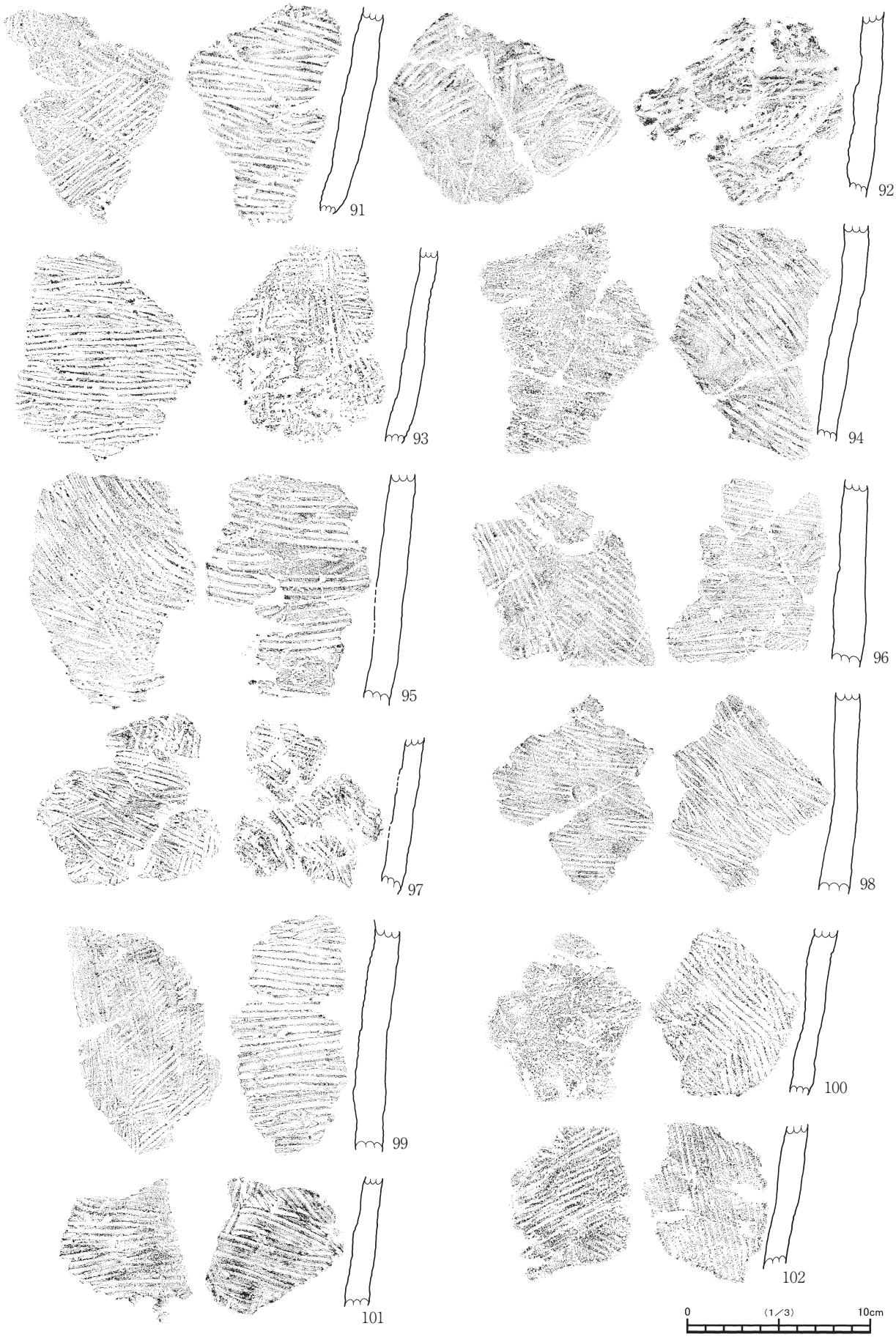
第75図　27号住居跡出土遺物実測図(4)



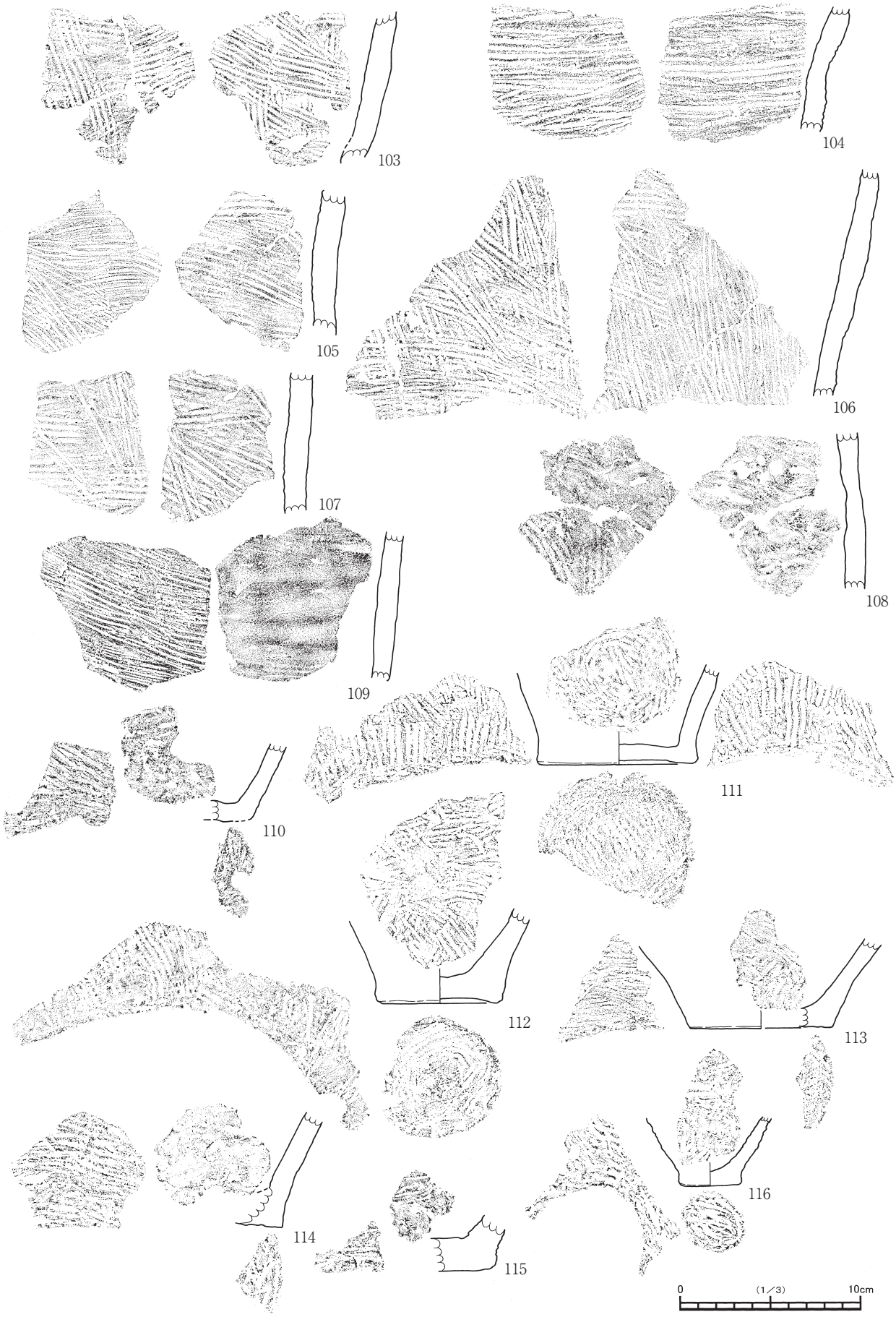
第76図　27号住居跡出土遺物実測図(5)



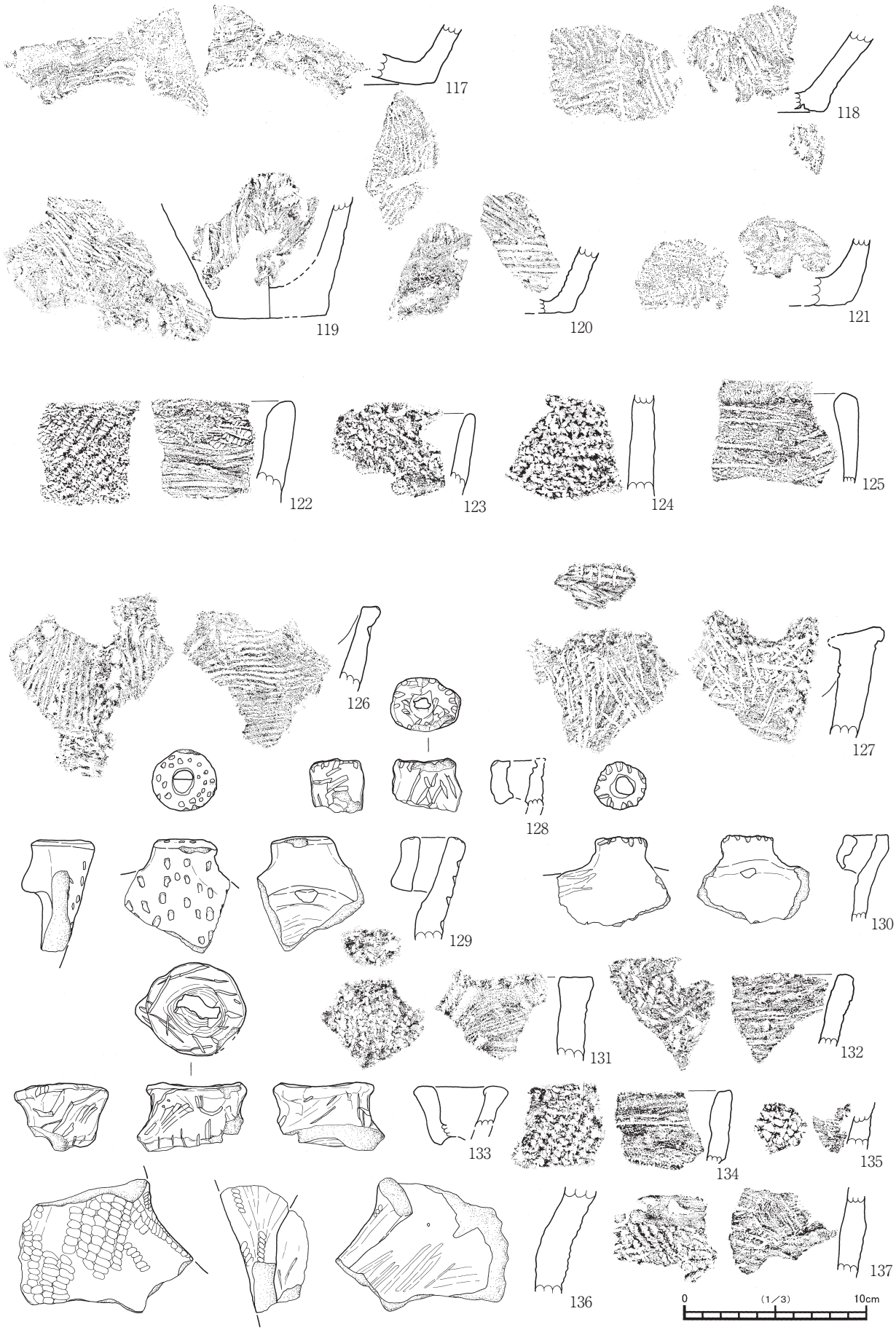
第77図　27号住居跡出土遺物実測図(6)



第78図　27号住居跡出土遺物実測図(7)



第79図　27号住居跡出土遺物実測図(8)



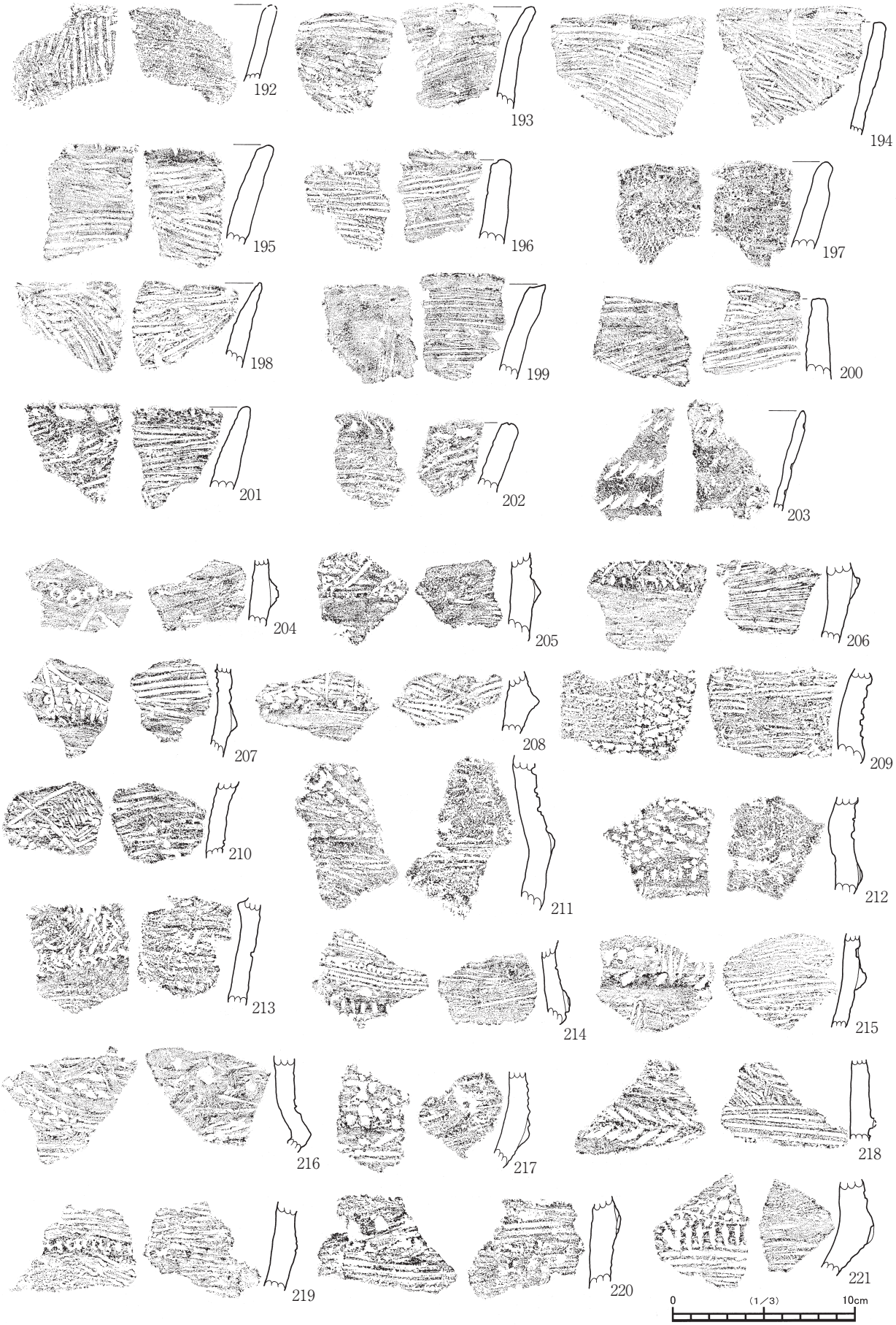
第80図　27号住居跡出土遺物実測図(9)



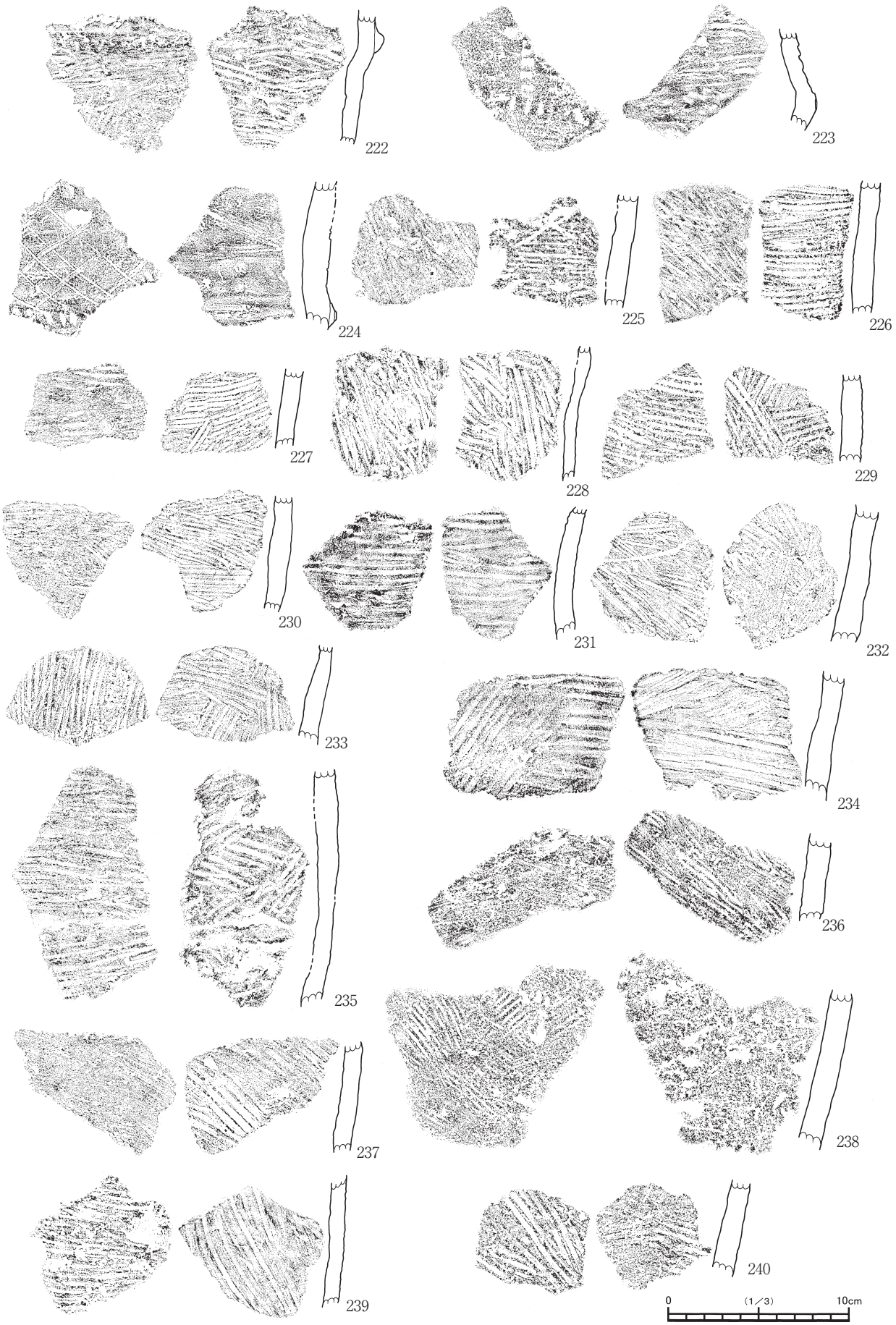
第81図　27号住居跡出土遺物実測図(10)



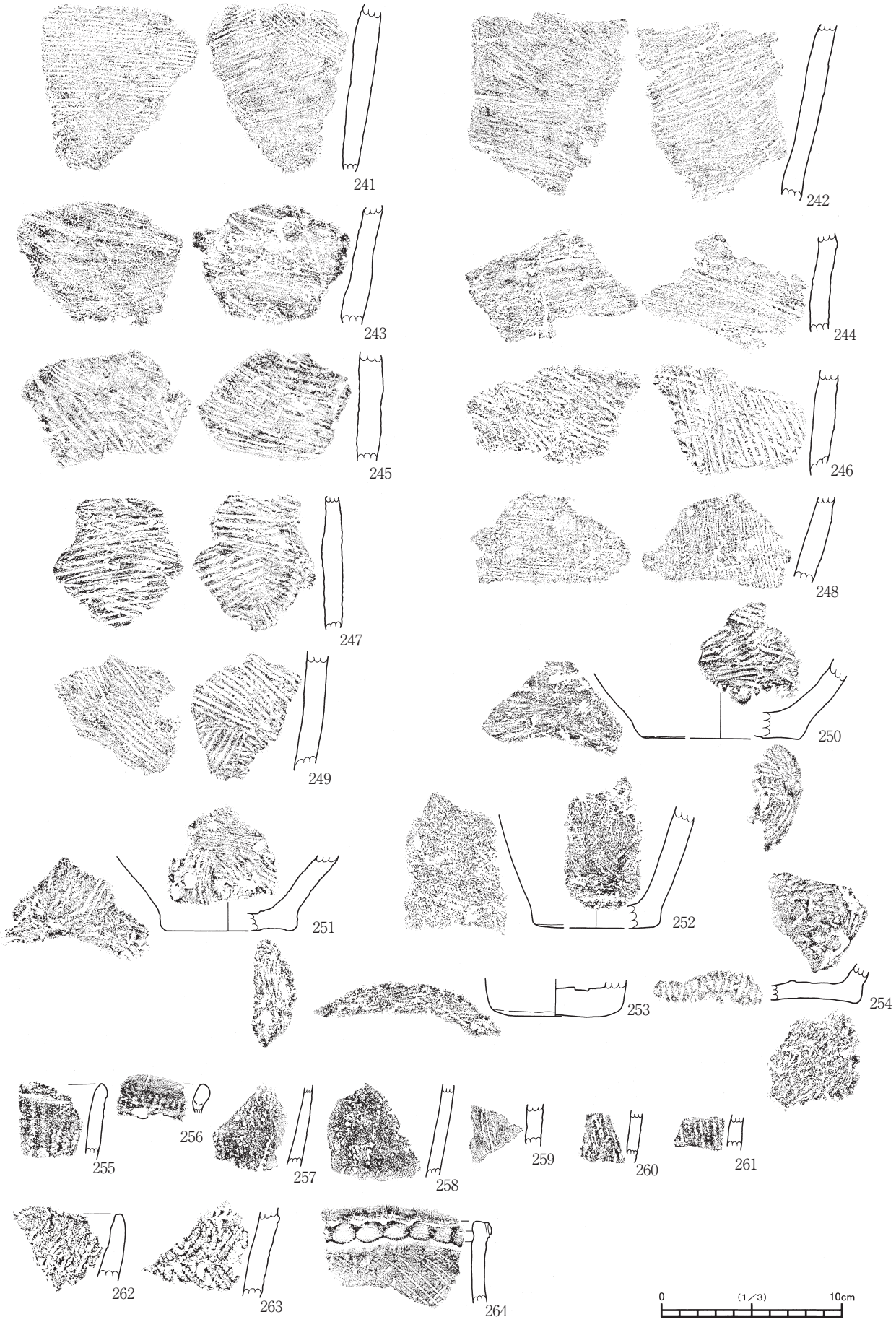
第82図　27号住居跡出土遺物実測図(11)



第83図　27号住居跡出土遺物実測図(12)



第84図　27号住居跡出土遺物実測図(13)



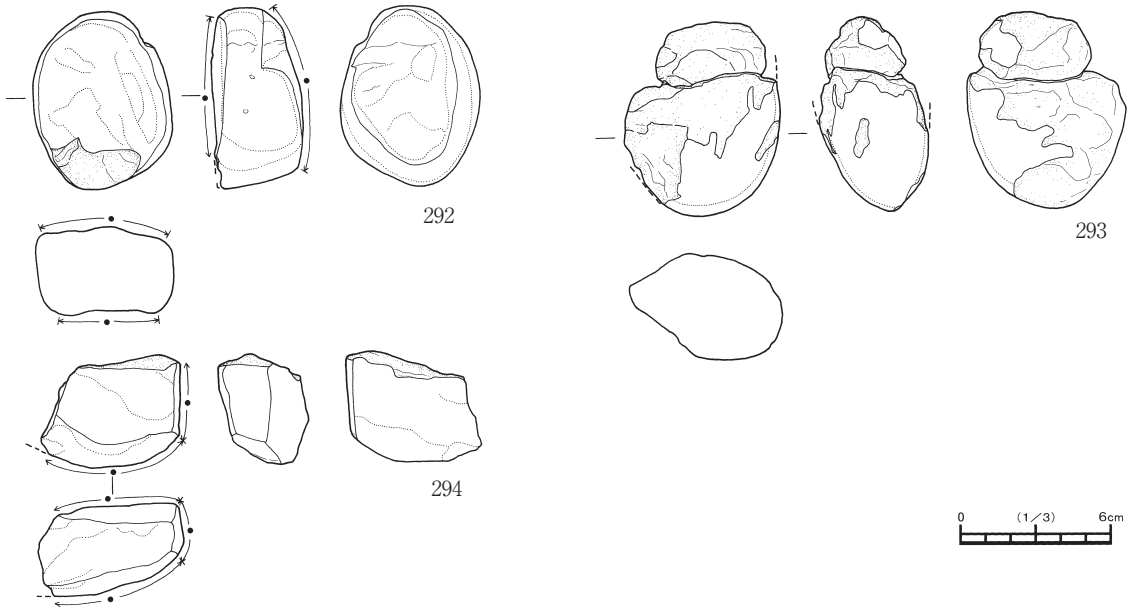
第85図　27号住居跡出土遺物実測図(14)



第86図　27号住居跡出土遺物実測図(15)



第87図　27号住居跡出土遺物実測図(16)



第88図　27号住居跡出土遺物実測図(17)

ある。

出土石器のうち主なものを、第86図265～281・第87図282～291・第88図292～294に示した。265～272は、チャートおよび頁岩製の石鏃である。271は、その形状から未製品とみられる。273～276は、チャート・珪質頁岩・無斑晶質安山岩製の楔形石器である。277・279・280・281はチャート・安山岩製のＲＦ、278は砂質頁岩製のＵＦである。282・283は、多孔質安山岩製の石皿の破片である。284・288は砂岩製の敲石、285・287はチャート製の敲石、286は輝石安山岩製の敲石である。289は石英斑石製の磨石、290は流紋岩質凝灰岩製の磨石、291は多孔質輝石安山岩製の磨石、292は砂岩製の磨石、293・294は輝石安山岩製の磨石である。

28号住居跡

【検出位置】　セ28区I9-08

【規模ほか】　長軸（6.28）m・短軸3.92m・深さ24㎝。形状は長台形？。主軸方向　40°（第89図）。

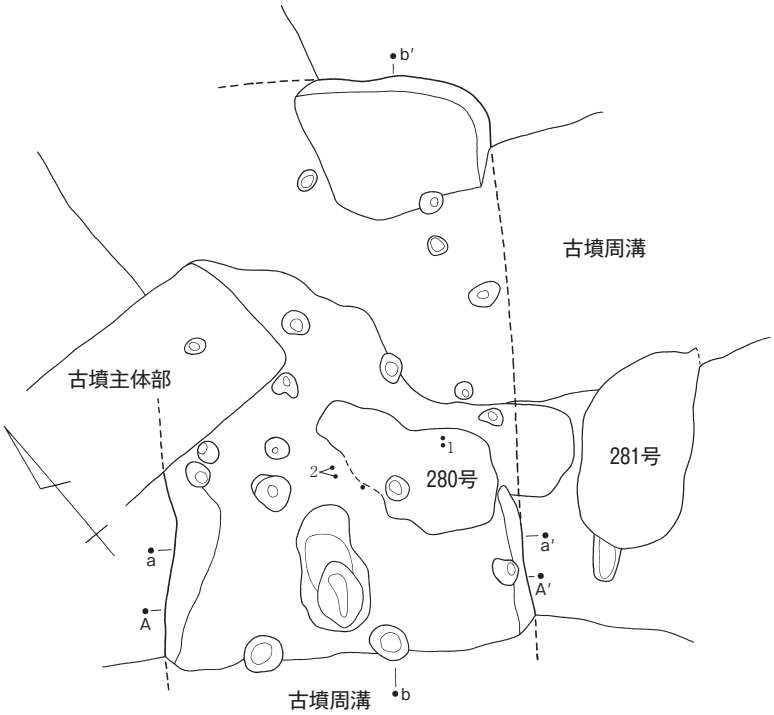
【覆土】　黒褐色土・暗茶褐色土などを主体とする。

【重複関係】　古墳周溝と重複のため南側消失。北側と東側の一部も別の古墳周溝との重複により消失。西側の一部も古墳主体部と重複。

【その他】　中央付近に炉穴あり（280号）。

【出土遺物】　21点・1,405ｇの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。石器は出土していない。土器は、50点・791ｇ出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。遺物は、中央部床面付近およびやや浮いた位置から出土している。うちわけは、撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系土器で全体の99.6％あり、当該時期を28号住居の帰属時期とみる。

【遺物説明】　出土土器のうち、点あげしたものを第89図１・２に、覆土一括扱いのものを第89図３



セクション位置：A－A′

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色	多量の黒褐色土粒・ローム			
2	1よりやや明るい黒褐色	多量の黒褐色土粒・ローム			
3	暗茶褐色				
4	暗茶褐色				



第89図　28号住居跡実測図・遺物出土状況図および出土遺物実測図

～11に示した。条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部の破片である。

29号住居跡

【検出位置】　セ28区H10-05・09

【規模ほか】　長軸（3.58）m・短軸3.06m・深さ44cm。形状は隅丸長方形。主軸方向　28°。北側は消失する。炉は南側壁際付近に一箇所検出されている。柱穴は、壁際および中央長軸方向に二列配置される（第90図）。

【覆土】　暗黒褐色土・黒褐色土などを主体とする。一部に貝層がみられる。貝層は住居跡覆土の北西よりの中心部分に、長軸254・短軸222・厚さ26cmほどの規模で形成されていた。貝層は、土のやや多い混貝土層であった。

【出土遺物】　１点・33ｇの礫が出土し、被熱のあとがみられる。石器は、無斑晶質安山岩の剥片１点がある。土器は、122点・4,677ｇ出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげのみである。遺物は、住居中央部を中心に床面からやや浮いた位置で検出されている。土器は貝層上部･貝層中･貝層下部から、骨類は貝層中･貝層下からまとまって検出された。土器のうちわけは、撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系土器で全体の98.8％あり、当該時期を29号住居の帰属時期とみる。

【遺物説明】　出土土器のうち、主なものを第90図１・第91図２～11・第92図12～21・第93図22～31に示した。１は、推定口径312㎜・現存器高168㎜を測る緩い波状口縁となる深鉢形土器である。口縁下には上下に刺突文を付す横位の隆帯がめぐり、また波頂部には同様の隆帯が縦位に施される。２は、推定口径174㎜・残存器高181㎜を測る緩い波状口縁となる深鉢形土器である。13は、推定口径100㎜・現存器高129㎜を測る平縁の小型深鉢形土器である。28は、現存器高104㎜・底径67㎜を測る平底の深鉢形土器である。３～12は条痕文系深鉢形土器の口縁部、14～27は胴部、28・29は底部の破片である。30は撚糸文系深鉢形土器の口縁部、31は胴部の破片である。

30号住居跡

【検出位置】　セ28区G11-14・15、H11-02・03・06・07

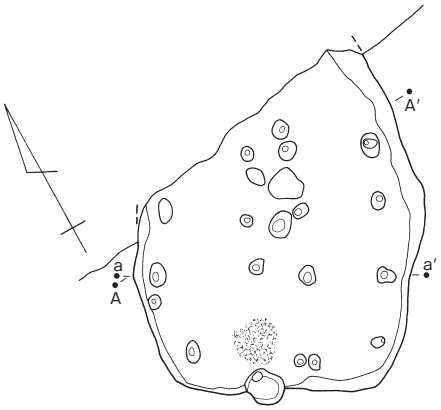
【規模ほか】　長軸7.88m・短軸4.94m・深さ28cm。形状は長台形。主軸方向　357°。炉は検出されていない。柱穴は、壁際に配列される浅いものと、住居の長軸方向に３本が二列に並ぶ深いものがみられる（第94図）。

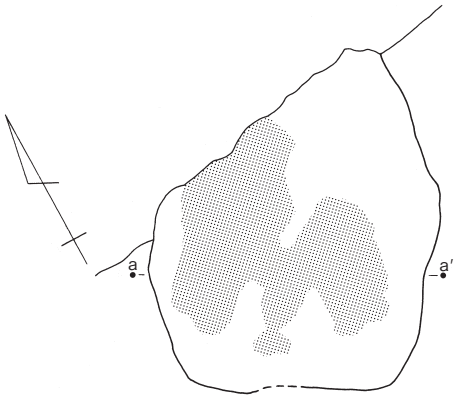
【覆土】　暗褐色土・暗茶褐色土などを主体とする。

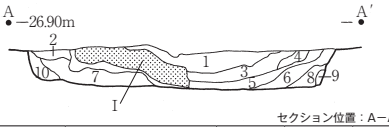
【重複関係】　古墳周溝・方形周溝暮と重複するため、壁面および床面の一部を欠失する。

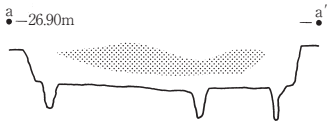
【出土遺物】　39点・2,319ｇの礫および礫石器が出土している。このうち82.6％に被熱のあとがみられる。石器は、３点出土している。うちわけは、敲石１点・磨石１点・楔形石器１点、このほか黒曜石の剥片１点がある。土器は、117点・1,950ｇ出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。遺物は、床面よりやや浮いた位置から出土している。うちわけは、撚糸文系・条痕文系である。このうち主体を占めるのは、条痕文系土器で全体の98.4％あり、当該時期を30号住居の帰属時期とみる。

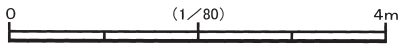
【遺物説明】　出土土器のうち、点あげしたものを第95図１～10に、覆土一括扱いのものを第95図11～25に示した。１・11～17は条痕文系深鉢形土器の口縁部、２～７・18～25は胴部の破片である。８









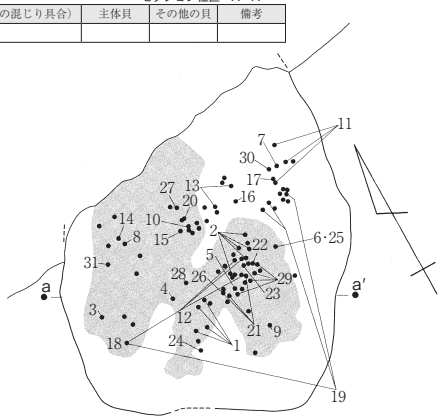


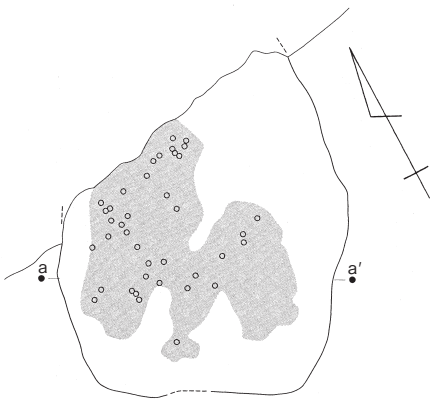
セクション位置：A－A′

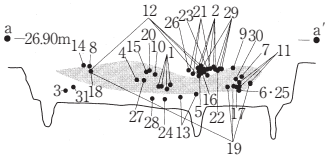
No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗黒褐色	多量のローム			
2	暗黒褐色				
3	黒色	多量のローム			
4	暗黒褐色				
5	黒褐色	多量のローム			
6	暗黒褐色				
7	黒褐色	ローム粒・ロームブロック			
8	暗黒褐色				
9	暗茶色	ローム粒			
10	暗褐色				

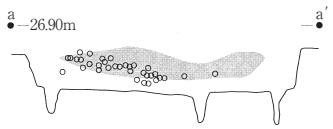
セクション位置：A－A′

No.	種別（土の混じり具合）	主体貝	その他の貝	備考
I	混貝土層			







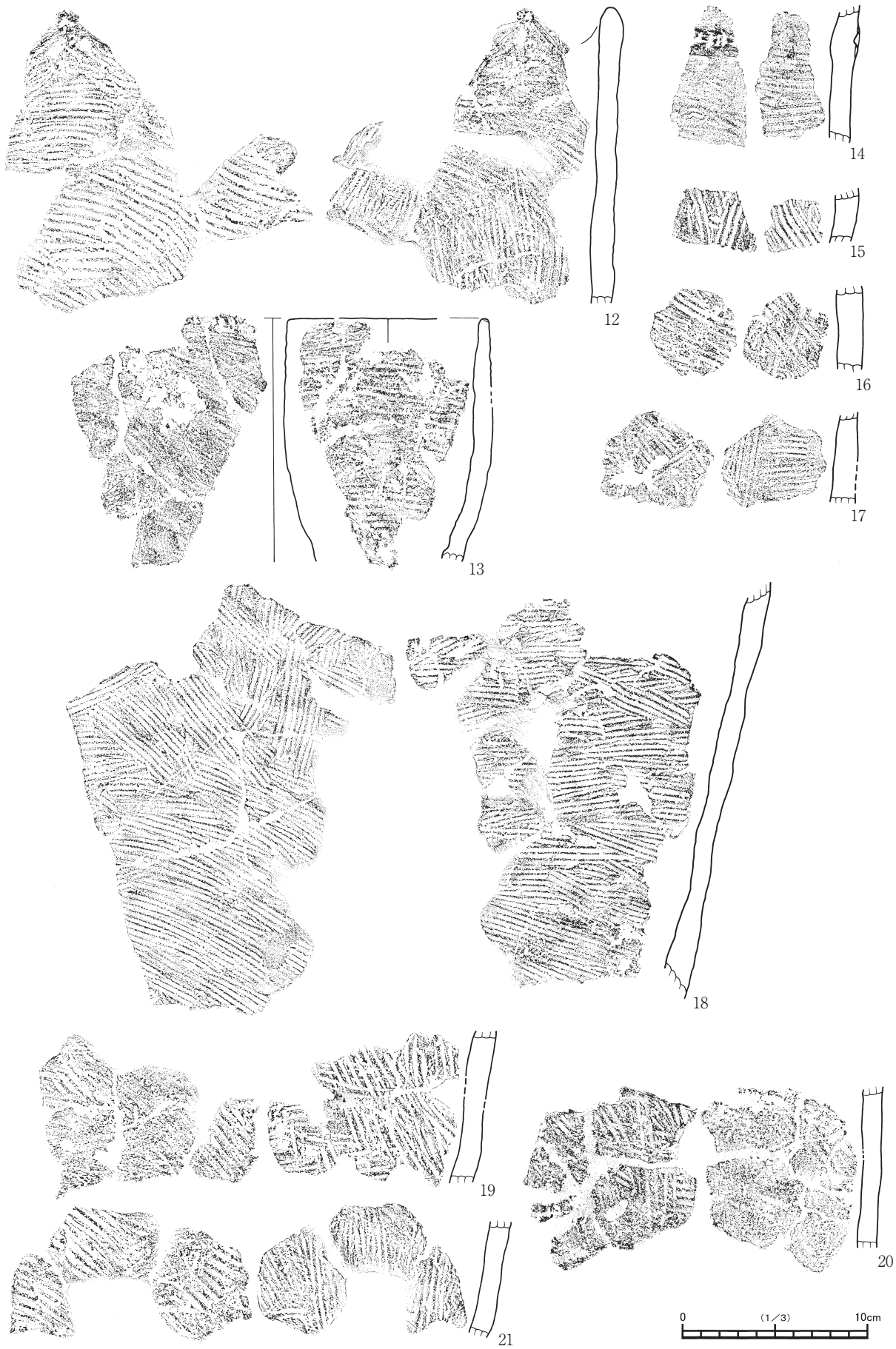




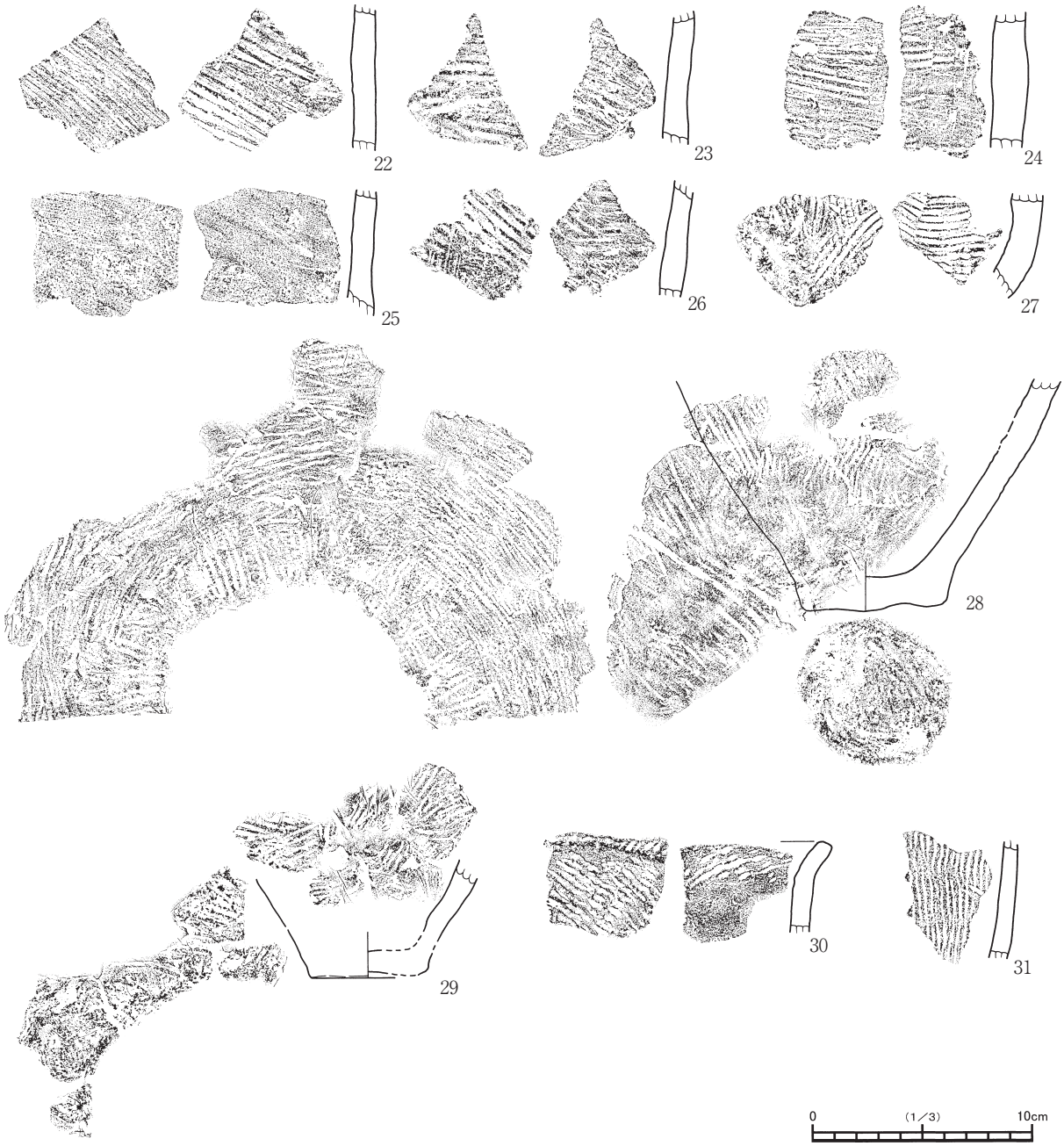
第90図　29号住居跡実測図・遺物出土状況図および出土遺物実測図(1)



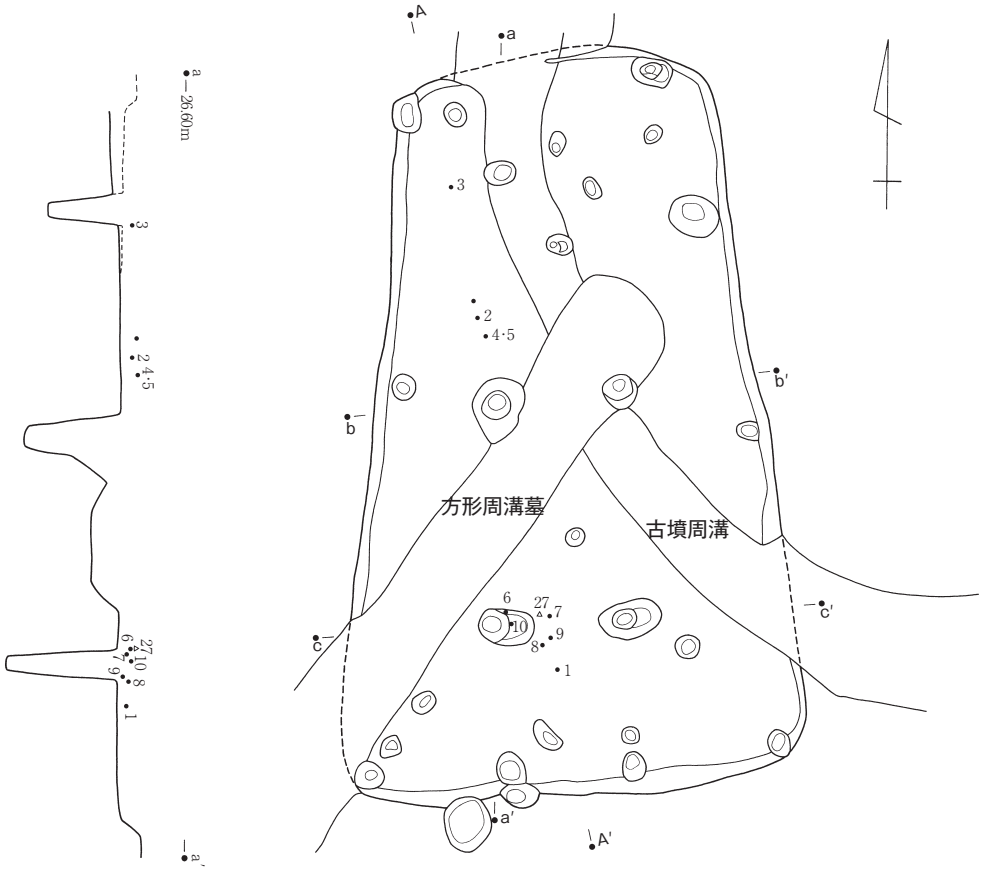
第91図　29号住居跡出土遺物実測図(2)



第92図　29号住居跡出土遺物実測図(3)



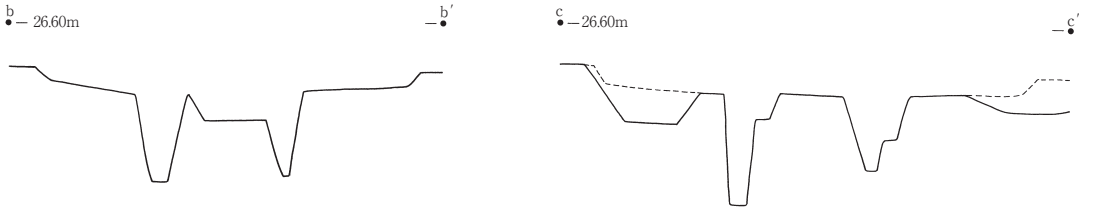
第93図　29号住居跡出土遺物実測図(4)

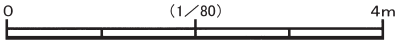




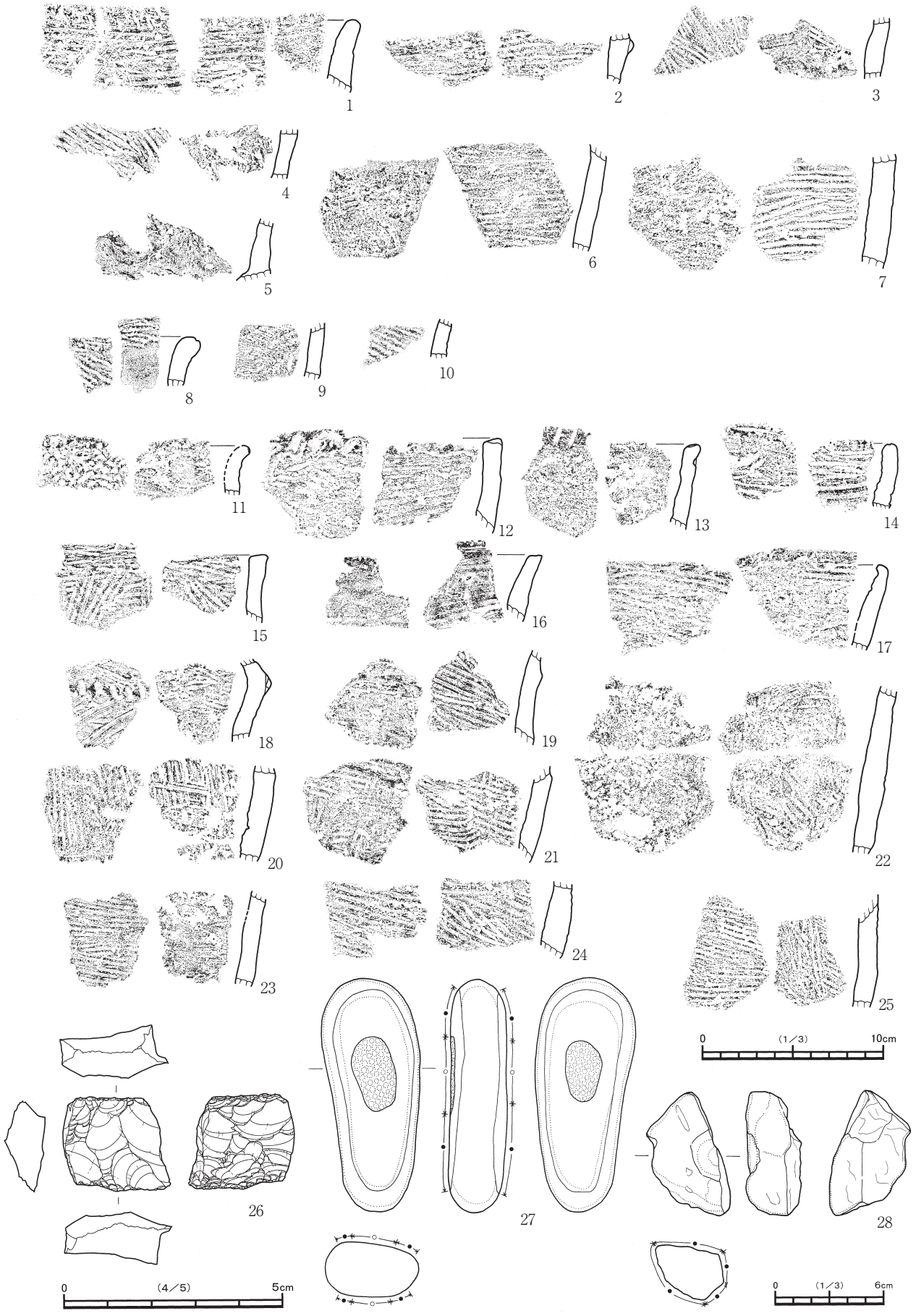
セクション位置：A—A′

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗褐色				
2	暗褐色				
3	暗茶褐色				
4	暗褐色				
5	暗茶色				





第94図　30号住居跡実測図および遺物出土状況図



第95図　30号住居跡出土遺物実測図

～10は、撚糸文系土器の口縁部および胴部の破片である。

出土石器を、第95図26～28に示した。26は、最大長21.9㎜・最大幅24.7㎜・最大厚12.2㎜・重さ6.3ｇを測るチャート製の楔形石器である。27は、最大長127㎜を測る砂岩製の敲石である。表裏面の中央付近に敲打痕が認められる。28は、残存最大長67㎜を測る多孔質安山岩製の磨石である。

31号住居跡

【検出位置】　セ28区Ｊ９－03・04・07・08、Ｊ10－01・05

【規模ほか】　長軸10.30m・短軸5.62m・深さ74㎝。形状は長台形。主軸方向　104°。炉は検出されていない。柱穴は、壁際およびその内側に長方形に規則的に配置される。内側に配列される柱穴には、規模のやや大きなものが６本あり、これらは等間隔に並び深さも他よりやや深い（第96図）。

【覆土】　暗茶褐色土・黒色土などを主体とする。一部に貝層がみられる。貝層は住居跡覆土の東端部に４箇所、さらに西端部に１箇所ブロック状に分かれ、長軸240・短軸192・厚さ28㎝ほどの規模で形成されていた。

【出土遺物】　71点・9,268ｇの礫および礫石器が出土している。このうち76.7％に被熱のあとがみられる。石器は、11点出土している。うちわけは、尖頭器１点・石鏃２点・磨製石斧１点・磨石６点・敲石１点、このほか黒曜石・チャートの剥片３点がある。土器は、751点・17,211ｇ出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。遺物は、住居の東西よりにややまとまって分布し、床面付近およびこれよりやや浮いた位置から出土している（第97図）。土器のうちわけは、撚糸文系・撚糸文系（無文）・条痕文系・羽状縄文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体の96.5％あり、当該時期を31号住居の帰属時期とみる。

【遺物説明】　出土土器のうち、点あげしたものを第97図１・２、第98図３～10、第99図11～17に、覆土一括扱いのものを第99図18～25・第100図26～51・第101図52～75・第102図76～110に示した。１～７・18～51は条痕文系深鉢形土器の口縁部、８～16・52～89は胴部、90～96は底部の破片である。このうち１・２・５は、緩やかな波状口縁となるもので、波頂部から垂下する刺突を有する隆帯と同様の横位の隆帯がみられる。また19は波頂部に環状の把手がある。17・97～105は、撚糸文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。

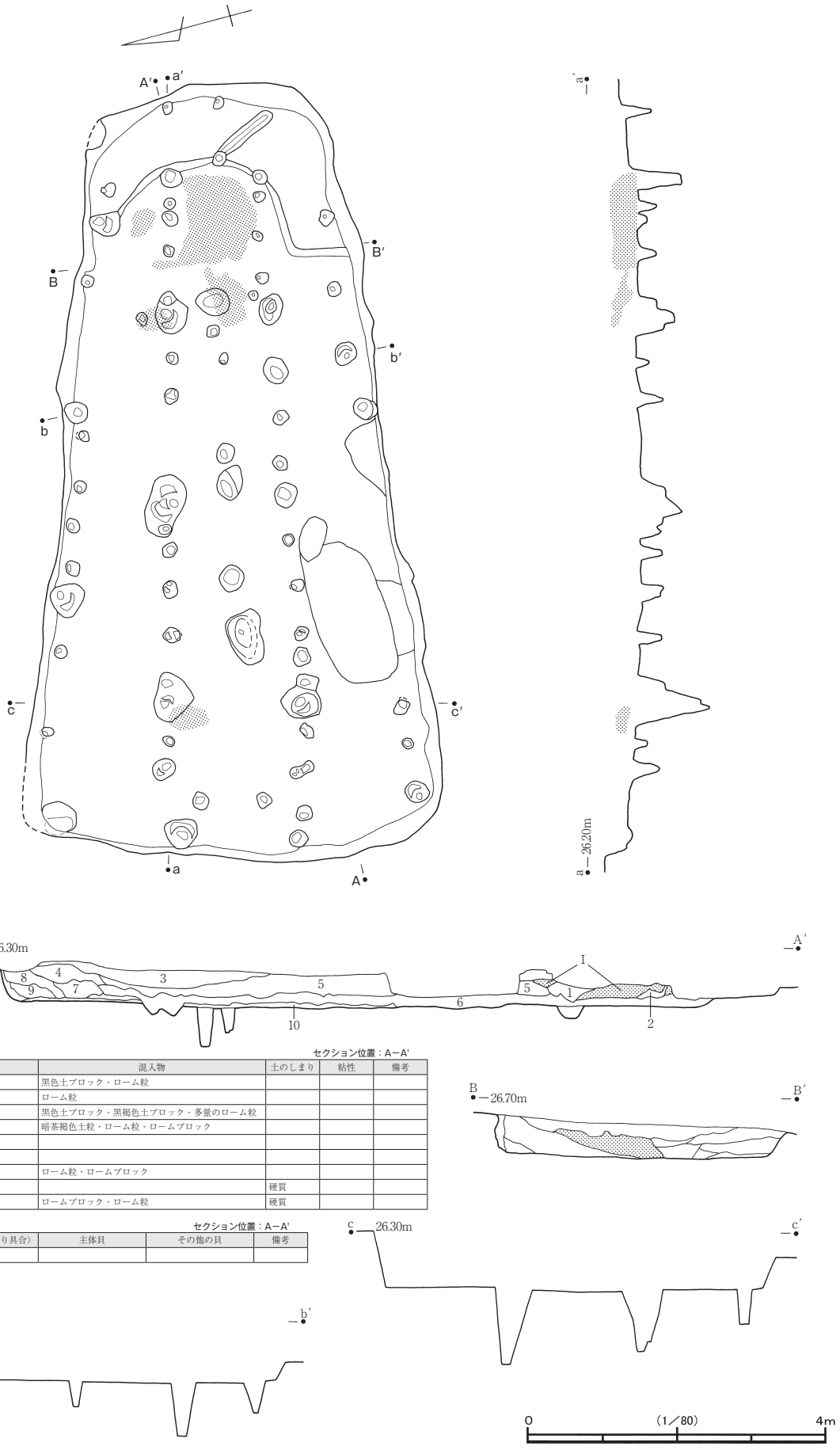
出土石器を第103図111～121に示した。111は、残存長20.5㎜を測る緻密質安山岩製尖頭器の先端部破片である。112・113は、無斑晶質安山岩・安山岩製の石鏃で、いずれも先端部を欠く。114は、最大長48㎜を測る凝灰質砂岩製の磨製石斧である。115は輝石安山岩製の敲石で表裏面中央に敲打痕をのこす。116～121は砂岩製の磨石である。

32号住居跡

【検出位置】　セ28区Ｊ10－06・07・08・10・11

【規模ほか】　長軸10.40m・短軸5.40m・深さ78㎝。形状は長台形。主軸方向　79°。柱穴は、壁際およびその内側に長方形に規則的に配置される。炉は検出されないが、中央付近に長軸50㎝ほどの規模の集積が二箇所みられる。なおこの集石の底面は、床面よりやや浮いた位置にある（第104図）。

【覆土】　暗褐色土・暗黒褐色土などを主体とする。一部に貝層がみられる。貝層は住居跡覆土の中心部より北西部分に、長軸465・短軸165・厚さ42㎝ほどの規模で形成されていた。貝層は、上から混貝・混貝～純貝・混土～混貝・混貝と貝の密度が異なる概ね４つの層で構成されている（第105図）。



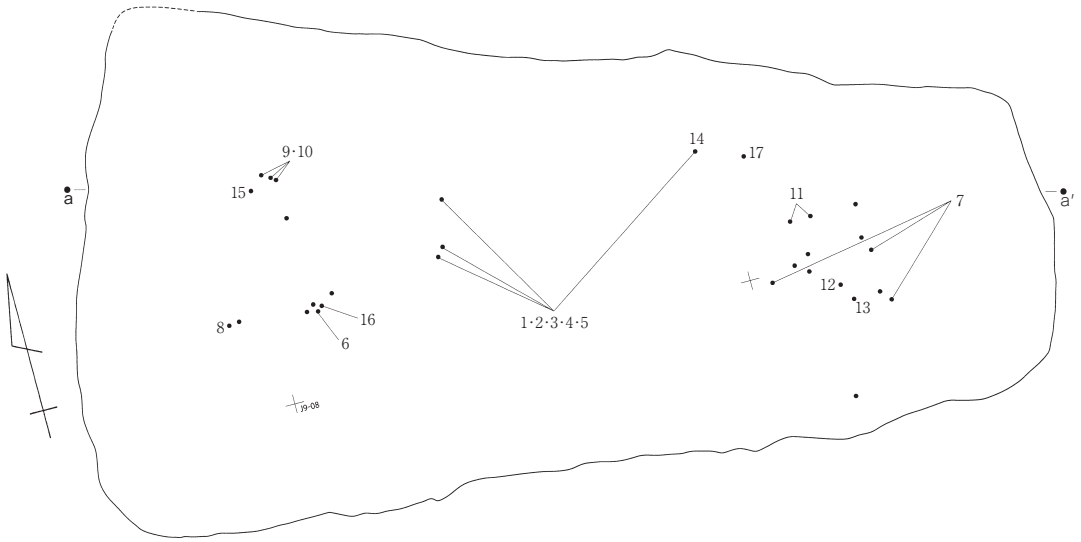
セクション位置：A－A′

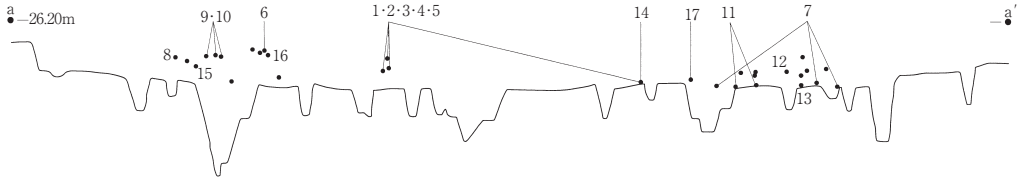
No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1		黒色土ブロック・ローム粒			
2	黒色	ローム粒			
3		黒色土ブロック・黒褐色土ブロック・多量のローム粒			
4		暗茶褐色土粒・ローム粒・ロームブロック			
5					
6					
7	暗茶褐色	ローム粒・ロームブロック			
8	やや明るい褐色		硬質		
9	褐色	ロームブロック・ローム粒	硬質		

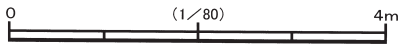
セクション位置：A－A′

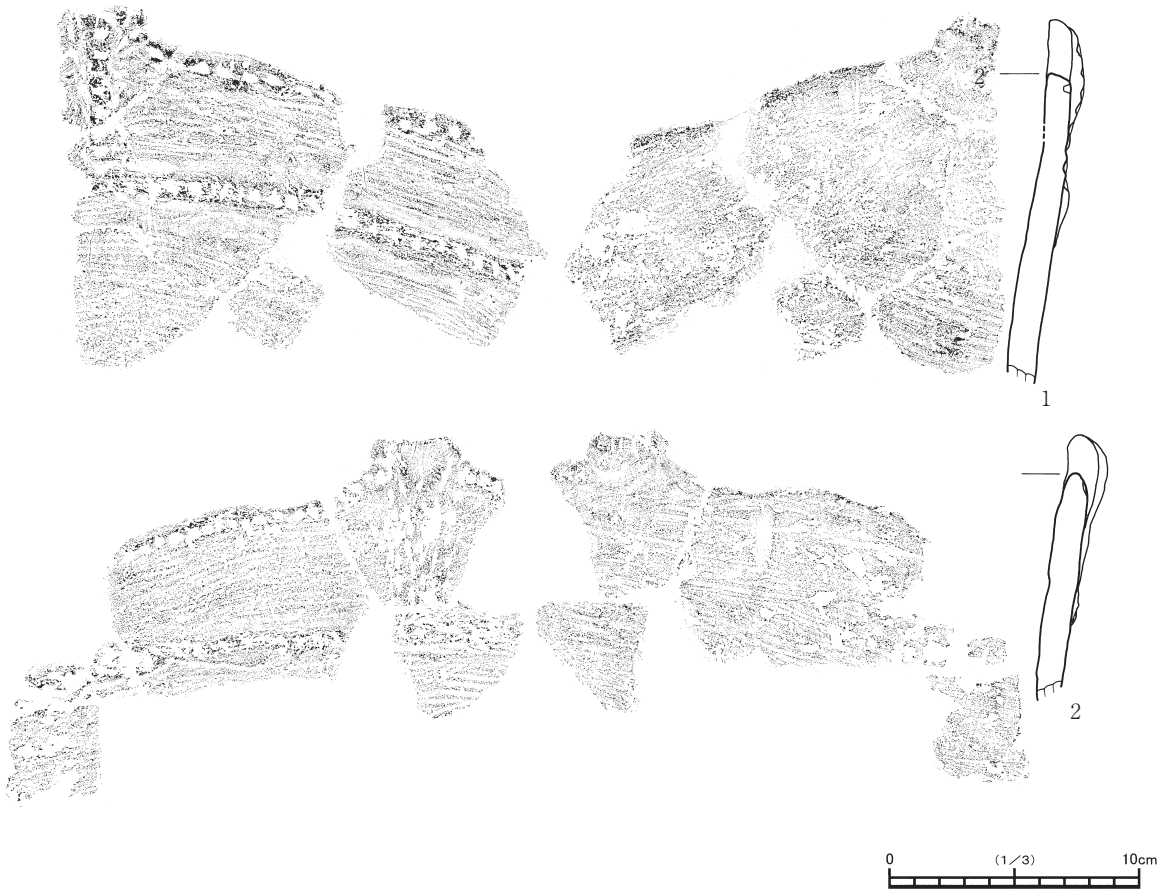
No.	種別（土の混じり具合）	主体貝	その他の貝	備考
I	混貝土層			

第96図　31号住居跡実測図

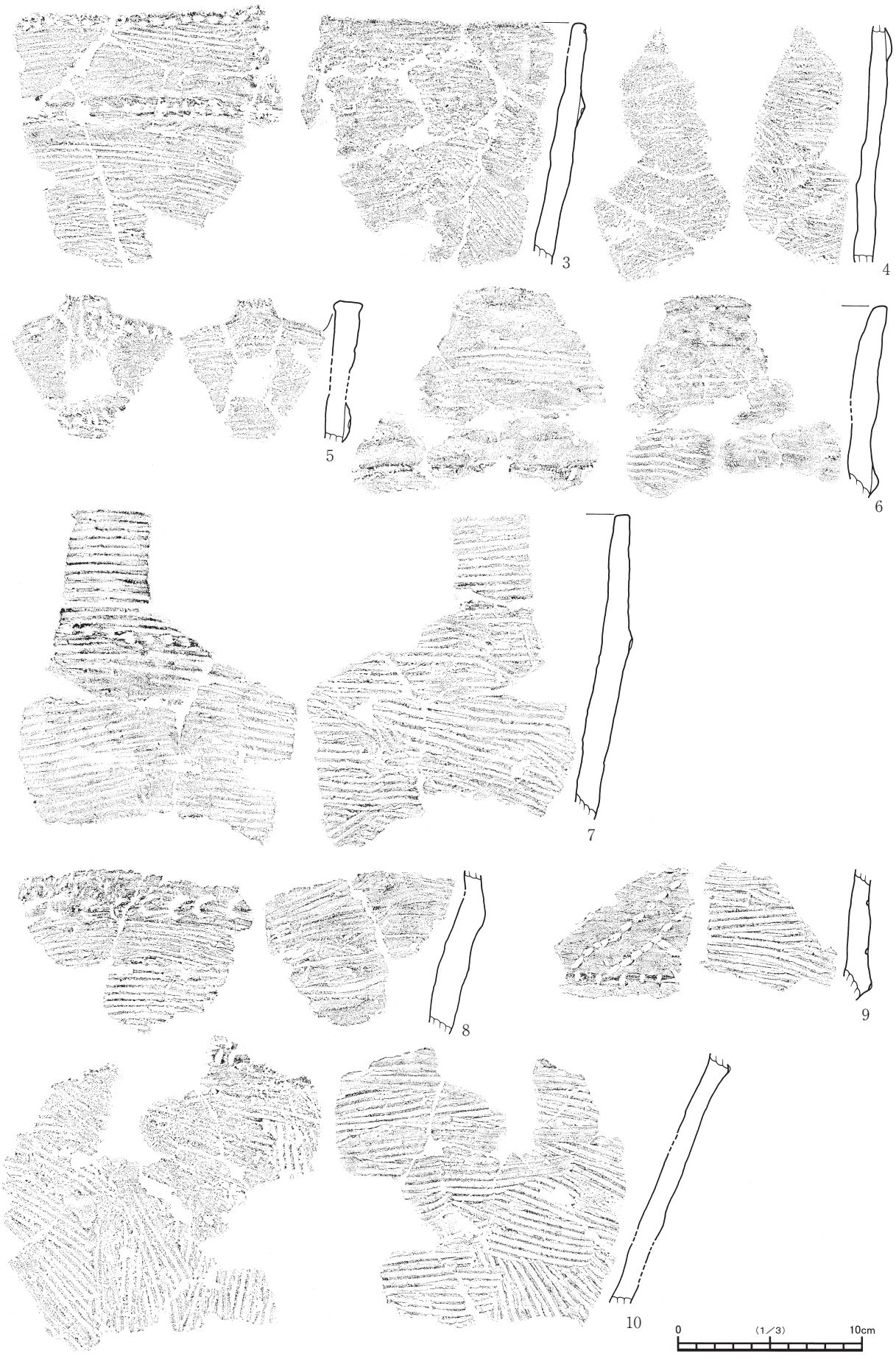








第97図　31号住居跡遺物出土状況図および出土遺物実測図(1)



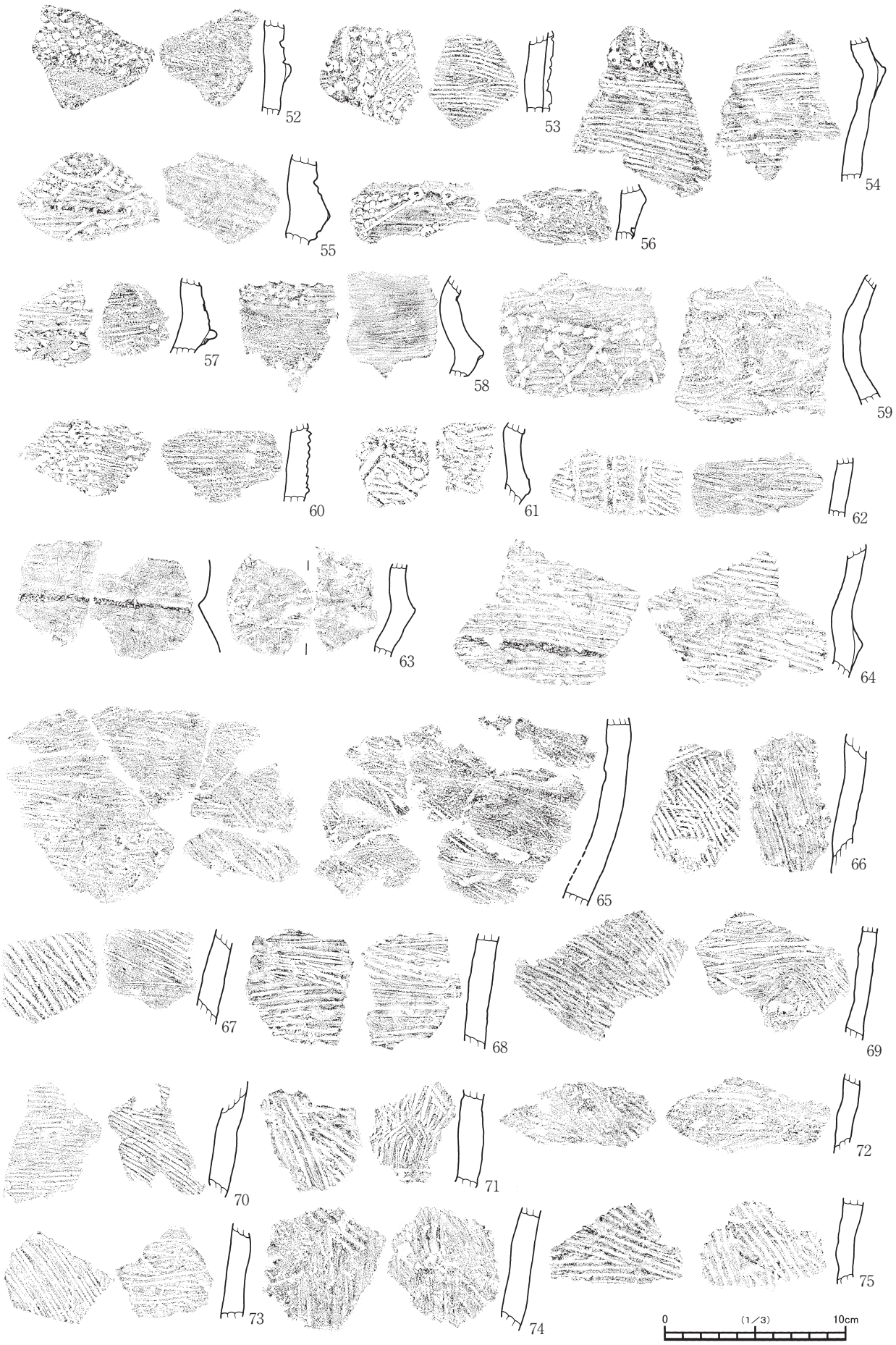
第98図　31号住居跡出土遺物実測図(2)



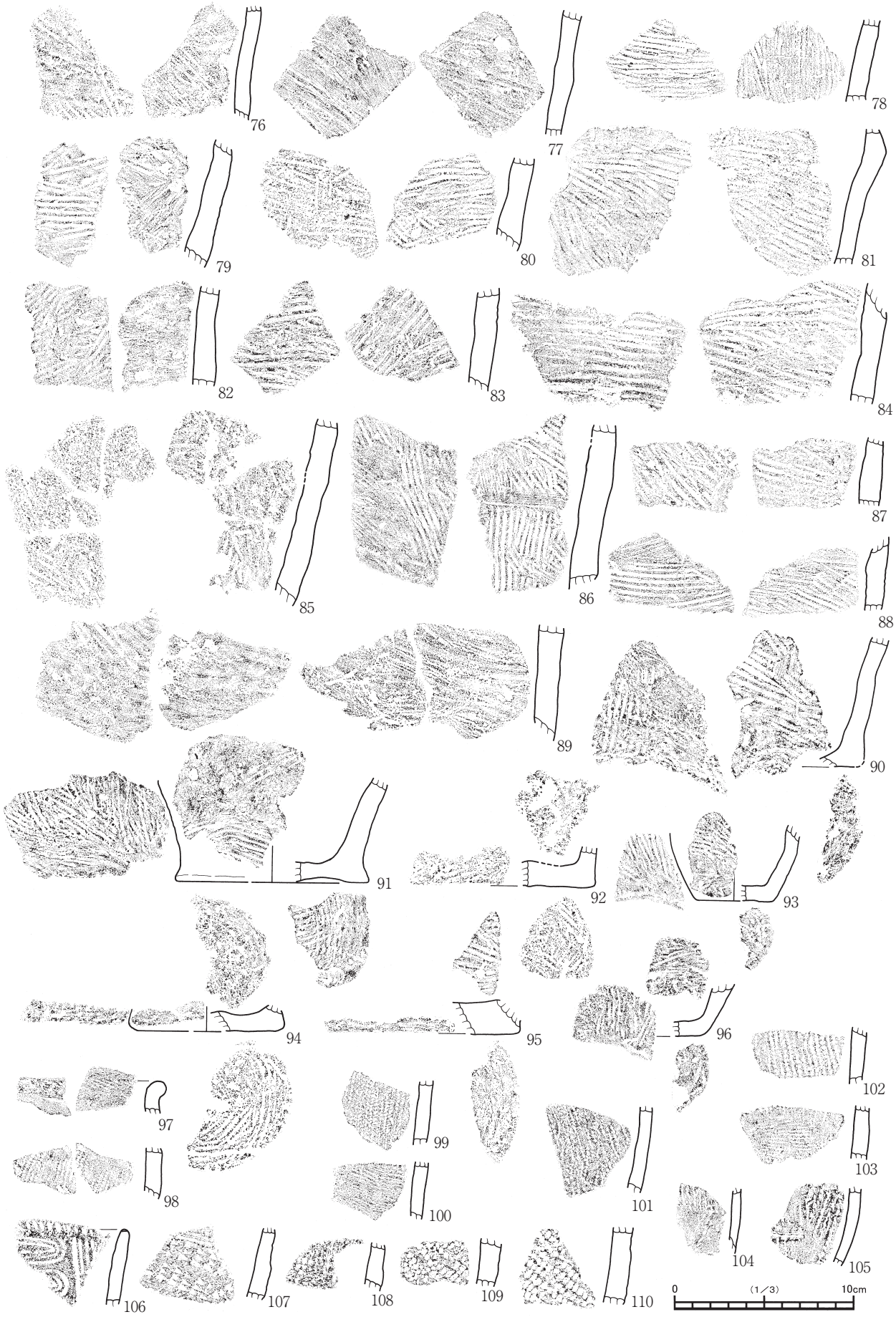
第99図　31号住居跡出土遺物実測図(3)



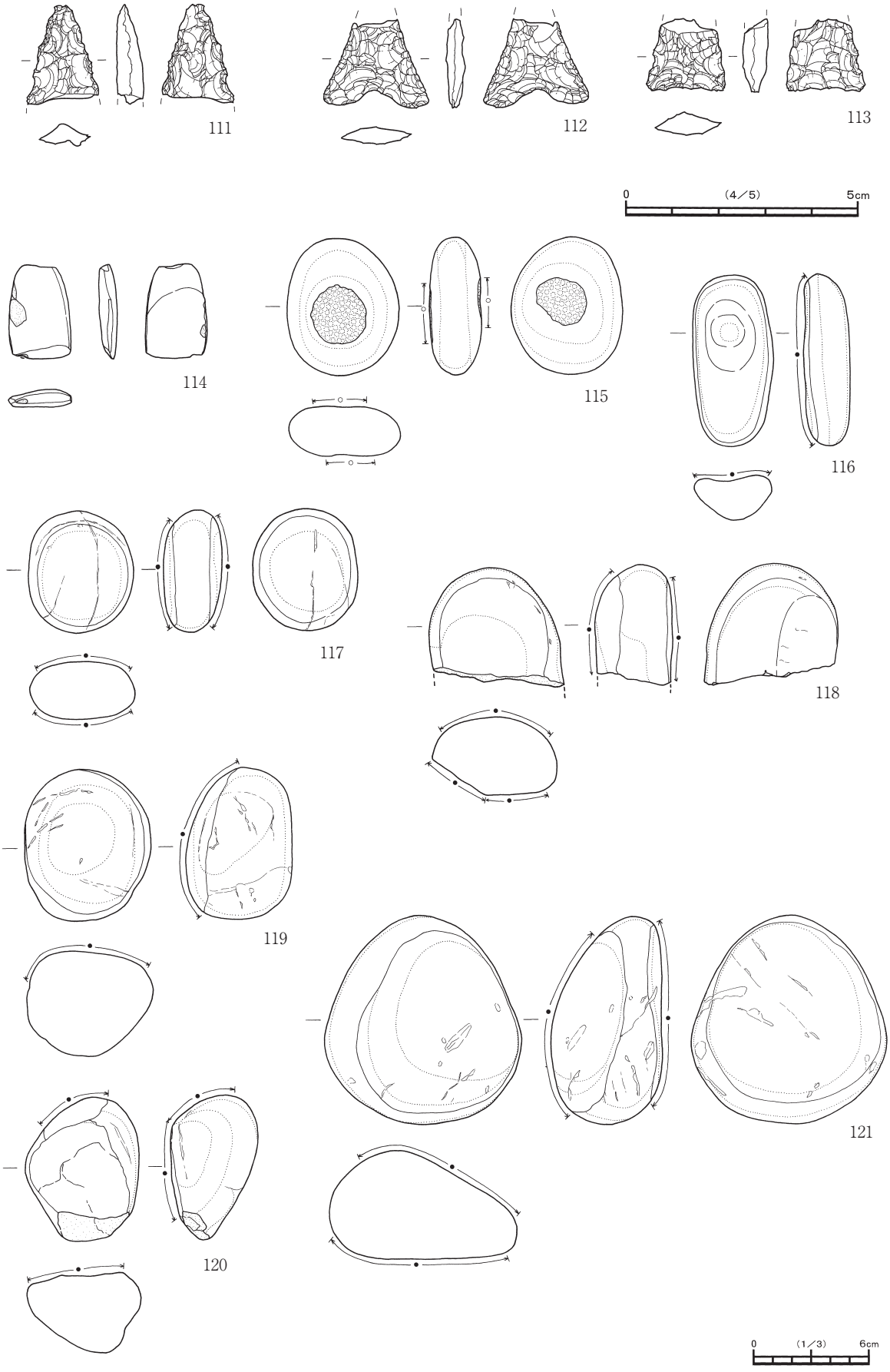
第100図　31号住居跡出土遺物実測図(4)



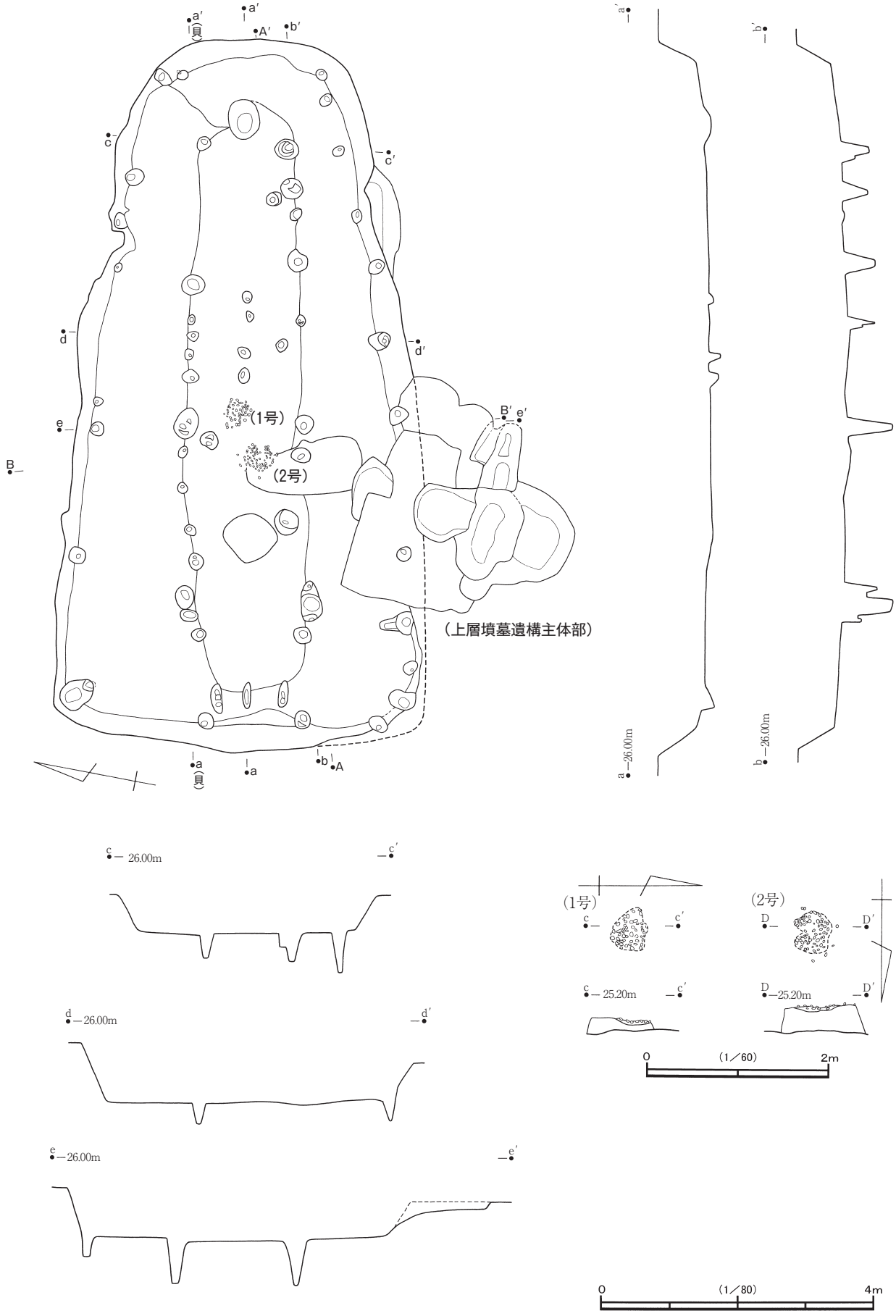
第101図　31号住居跡出土遺物実測図(5)



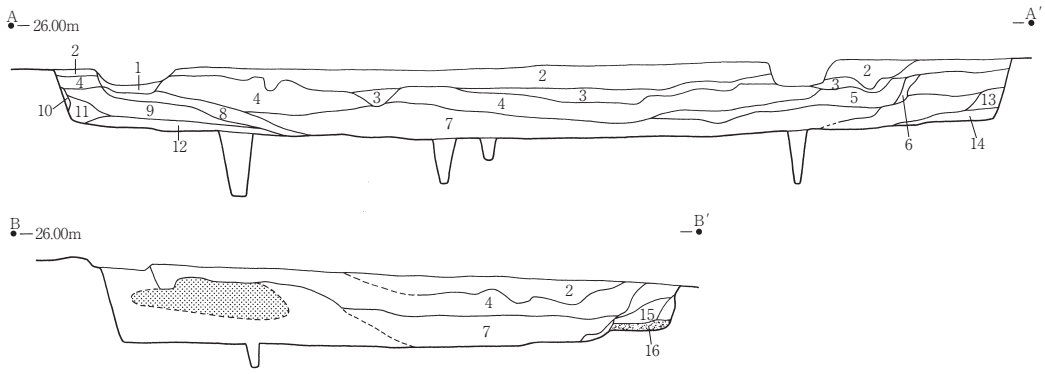
第102図　31号住居跡出土遺物実測図(6)



第103図　31号住居跡出土遺物実測図(7)



第104図　32号住居跡実測図(1)

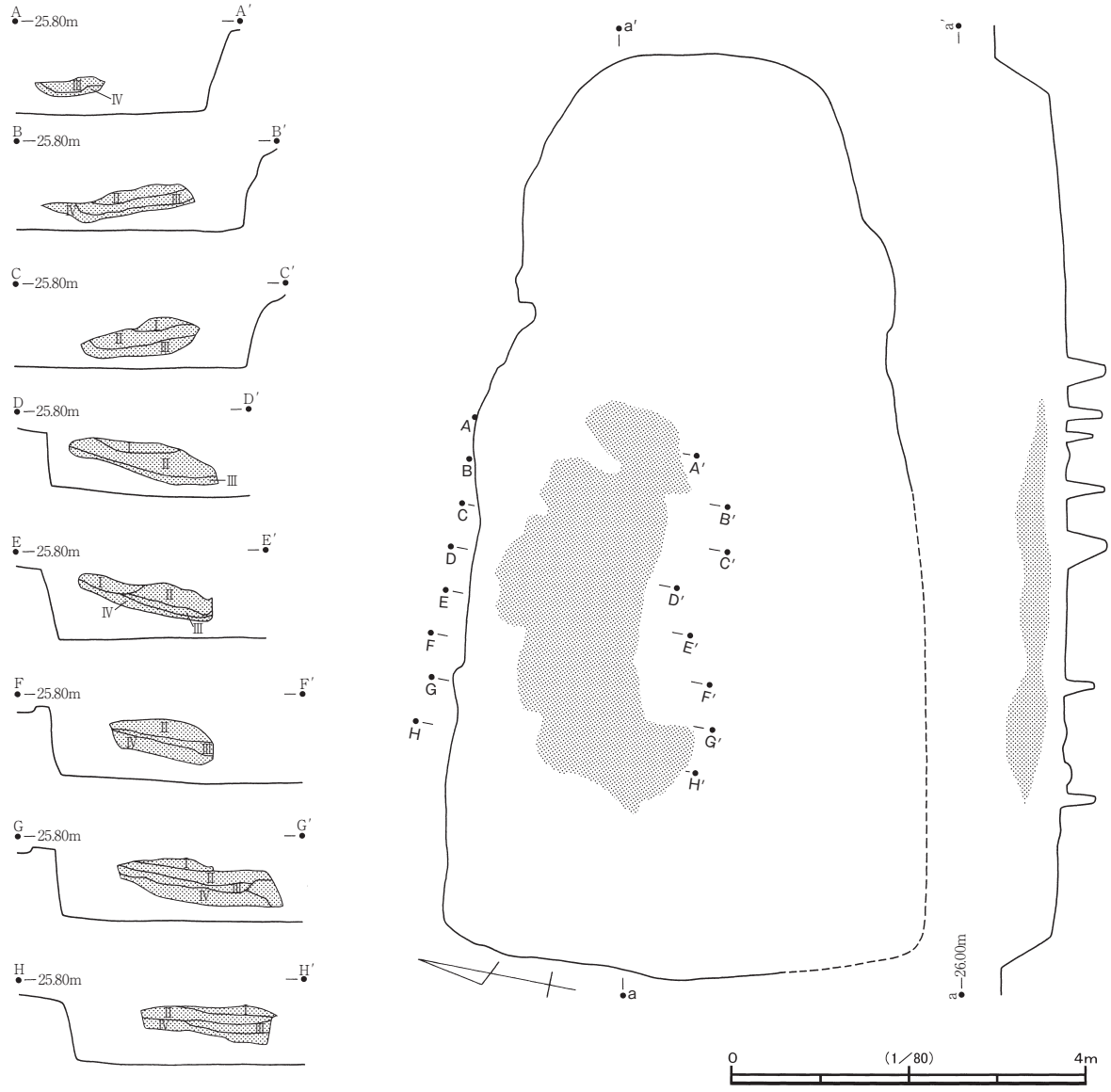


セクション位置：A－A′・B－B′

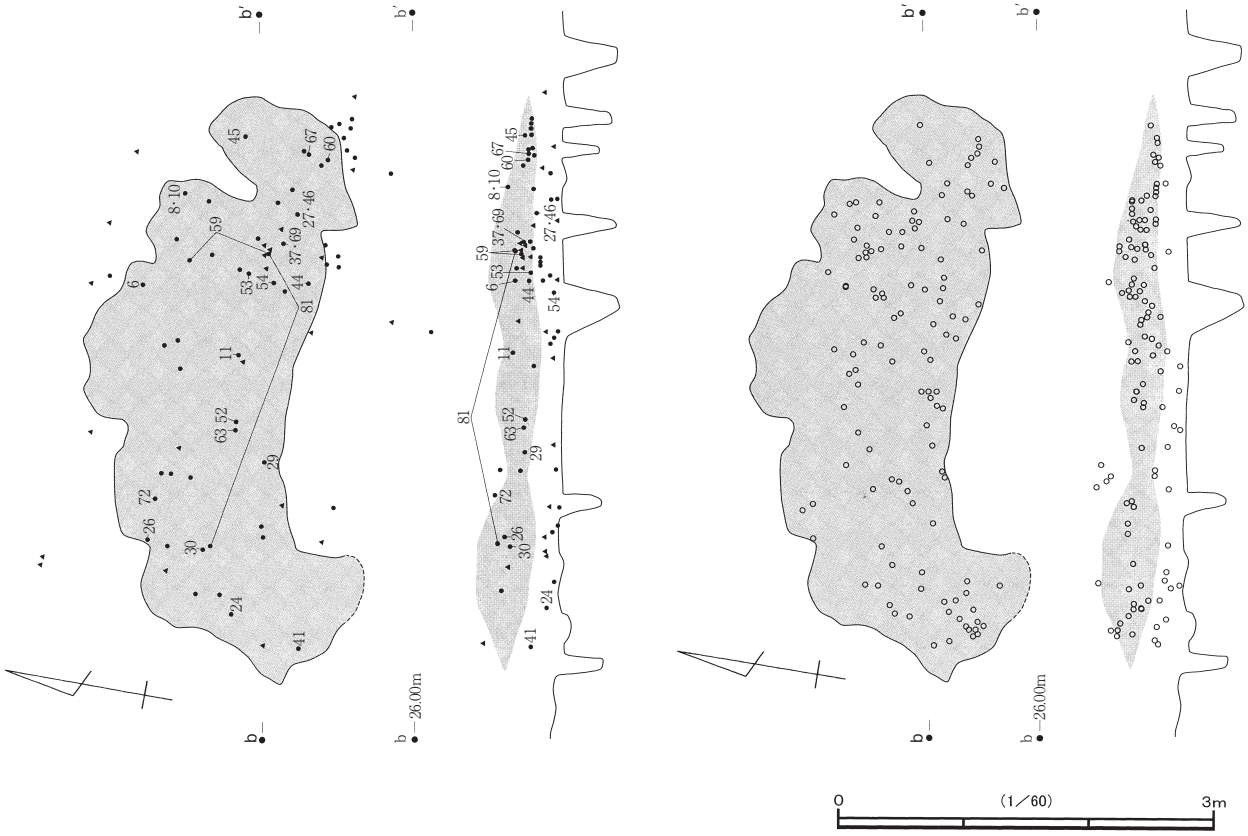
No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1		黒褐色土ブロック・暗褐色土ブロック			
2	暗黒褐色	黒色土ブロック・テフラブロック土			
3	暗黒褐色				
4	暗褐色	褐色土粒・ローム粒多			
5	やや暗い暗褐色	ブロック土			
6	やや密な暗褐色				
7	暗褐色	ローム粒・褐色土・若干のブロック			
8	4層より暗い暗褐色				
9	褐色	ローム粒・若干のロームブロック			
10	暗黒茶色				
11	やや暗い褐色				
12	褐色	ローム粒・多量のロームブロック			
13	やや暗い褐色				
14	暗褐色	ローム粒・褐色土粒			
15	暗黒褐色				
16					焼土・炉穴覆土

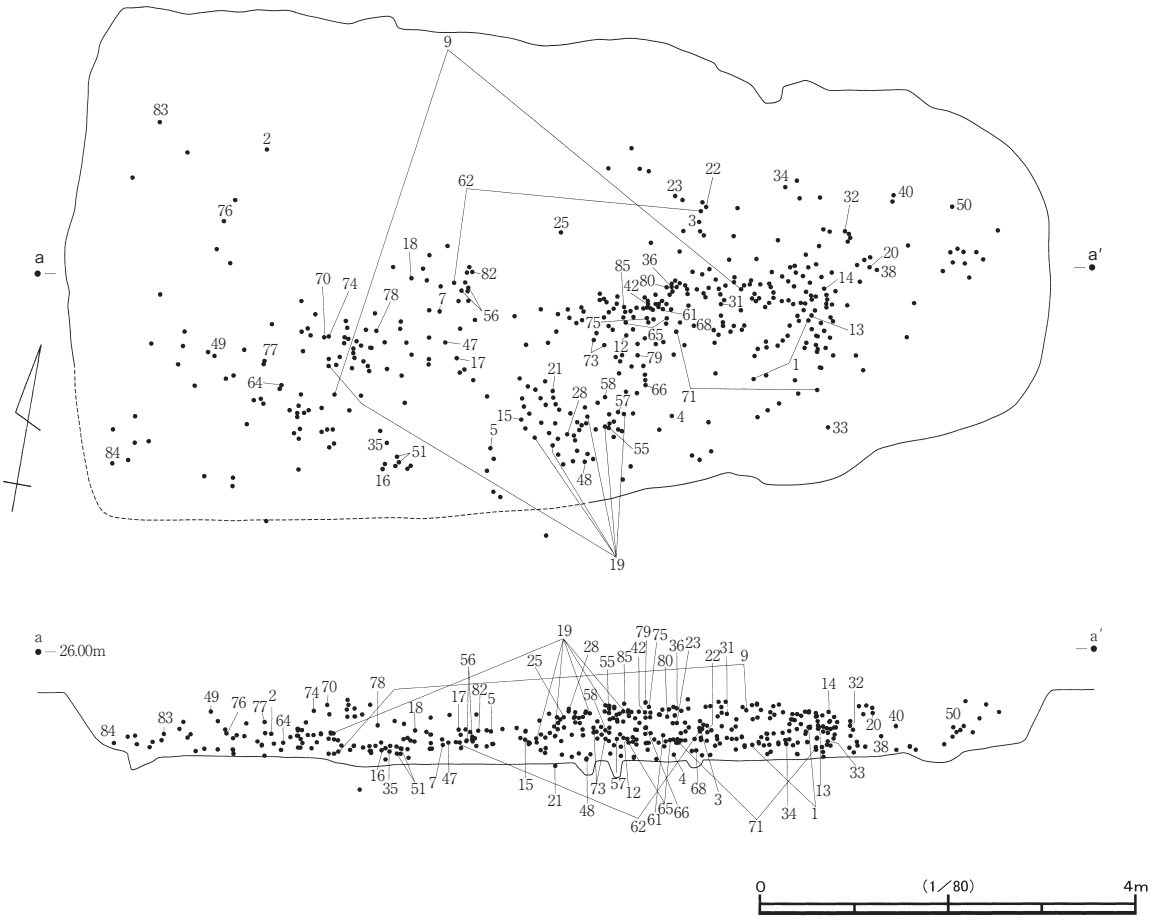
セクション位置：貝層 A ～ H

No.	種別（土の混じり具合）	主体貝	その他の貝	備考
Ⅰ	混貝土層	ハマグリ		
Ⅱ	混貝～純貝層	ハマグリ・マガキ		
Ⅲ	混土～混貝土層			獣骨含む
Ⅳ	混貝土層			細片となった貝含む

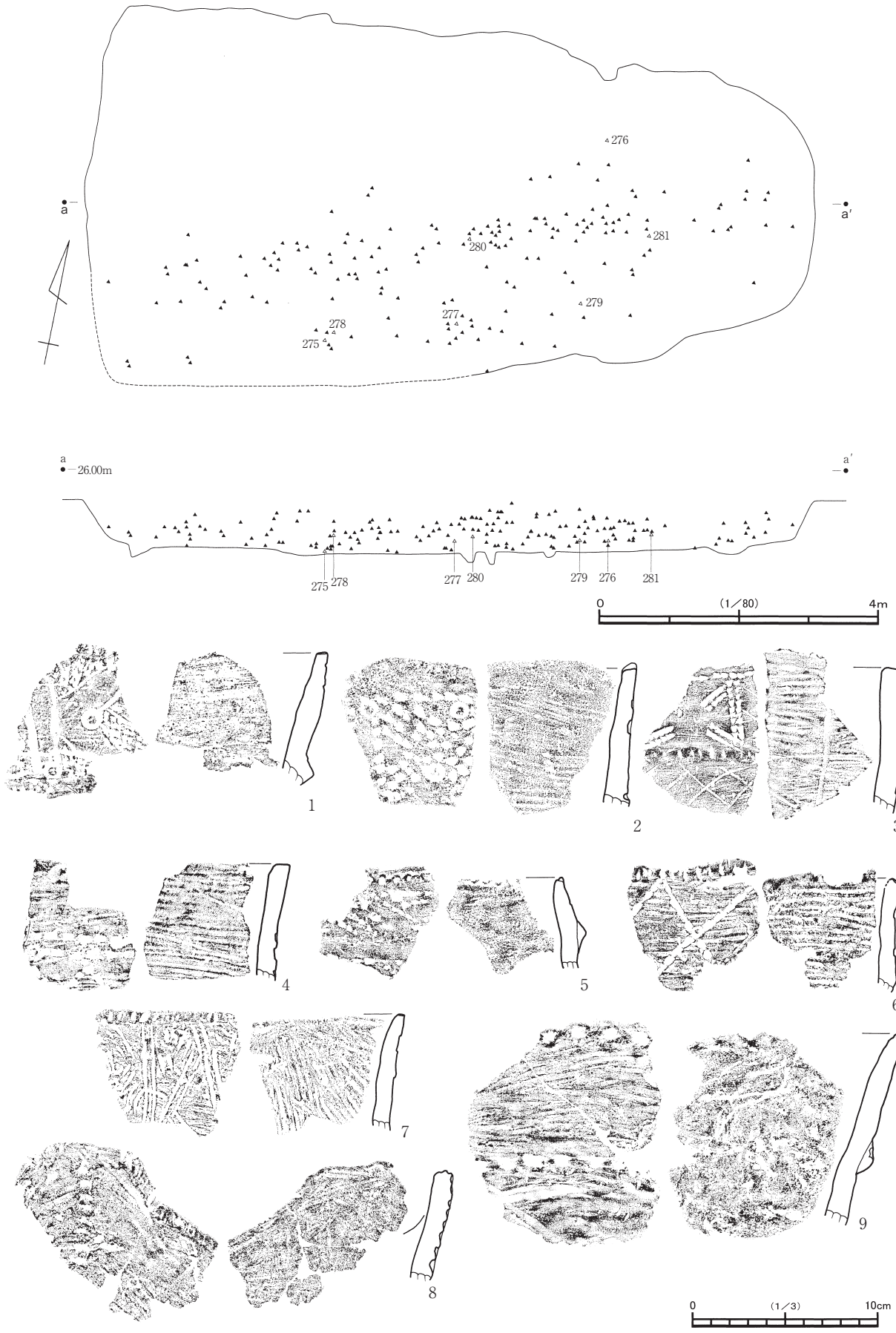


第105図　32号住居跡実測図(2)

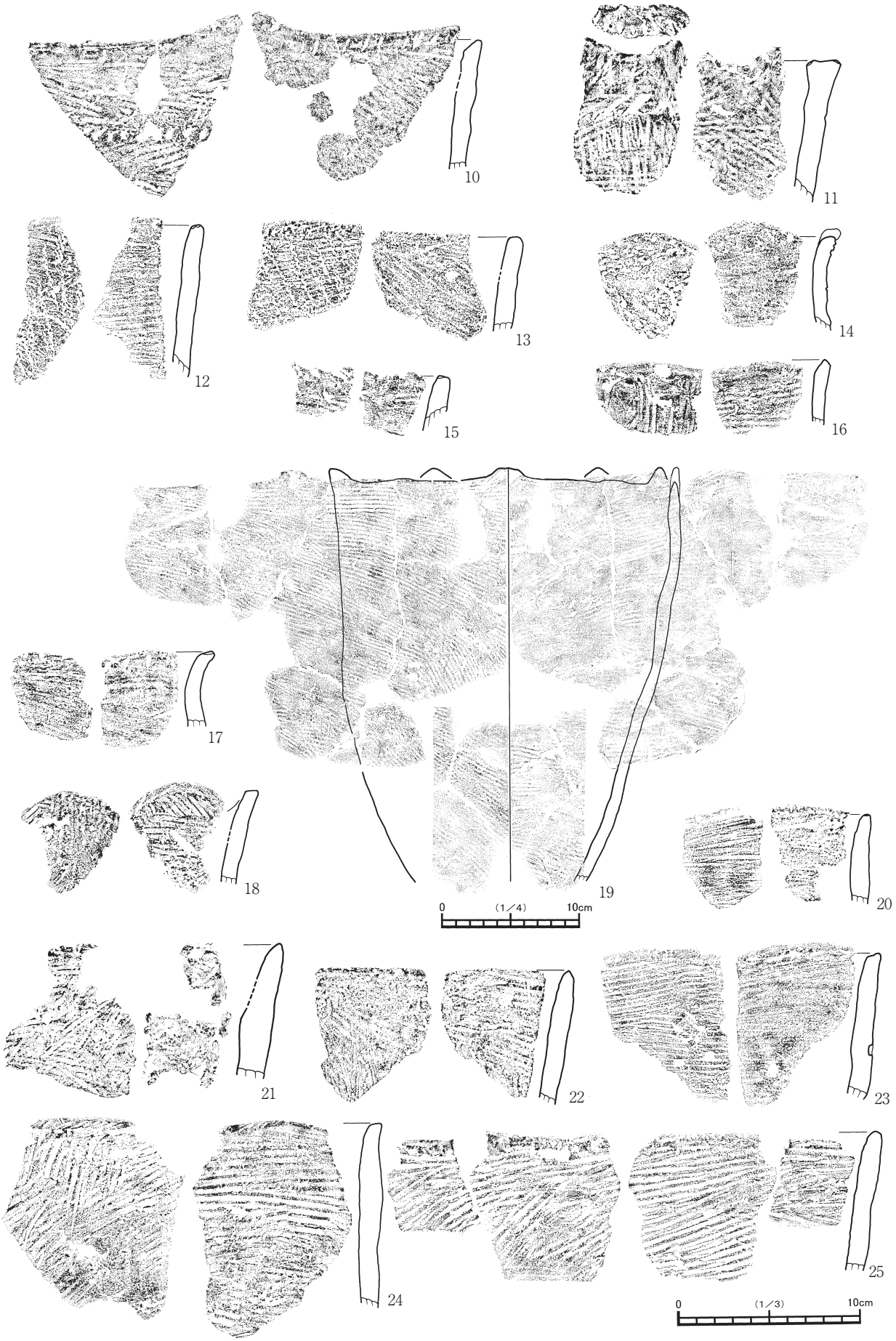




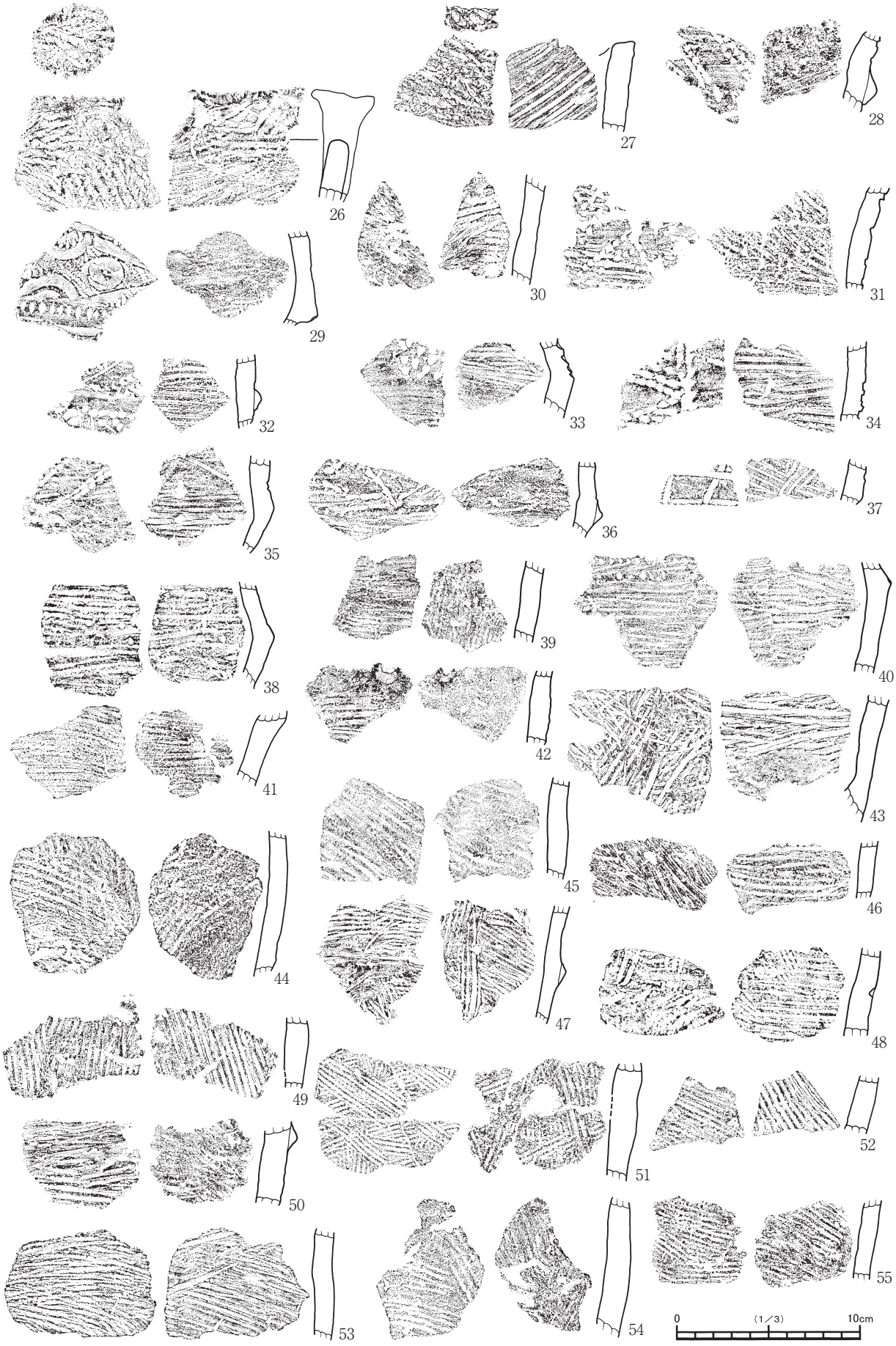
第106図　32号住居跡遺物出土状況図(1)



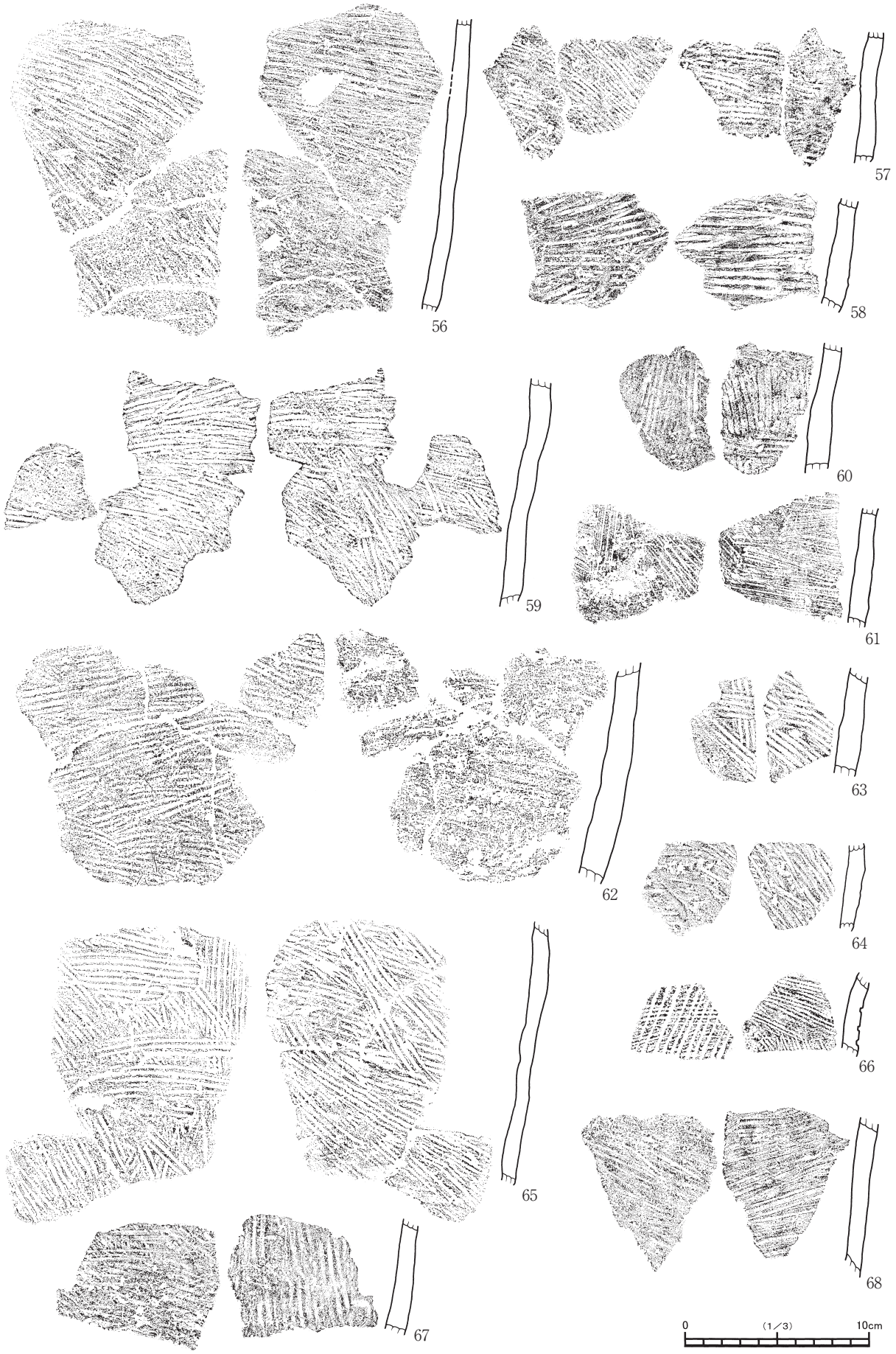
第107図　32号住居跡遺物出土状況図(2)および出土遺物実測図(1)



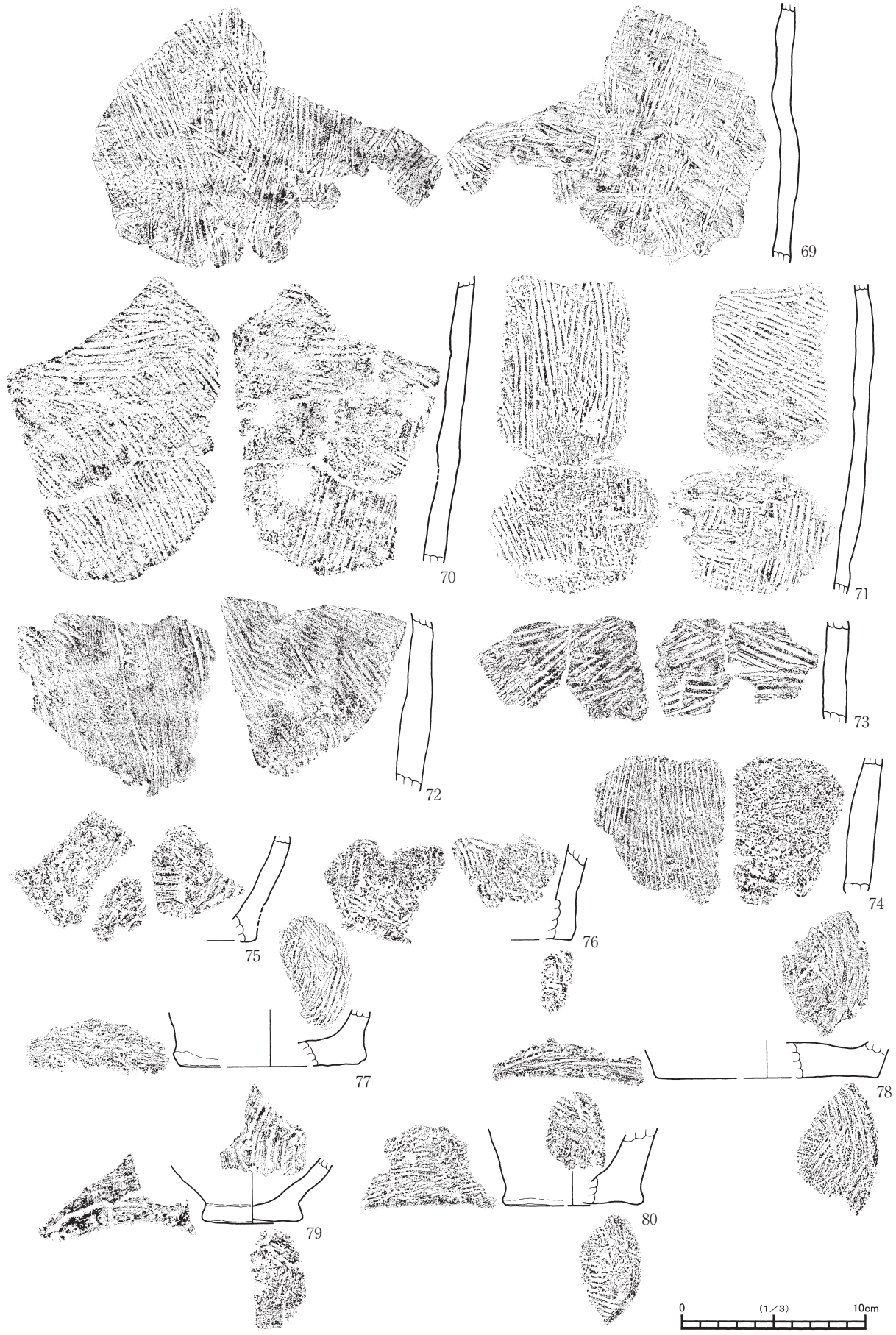
第108図　32号住居跡出土遺物実測図(2)



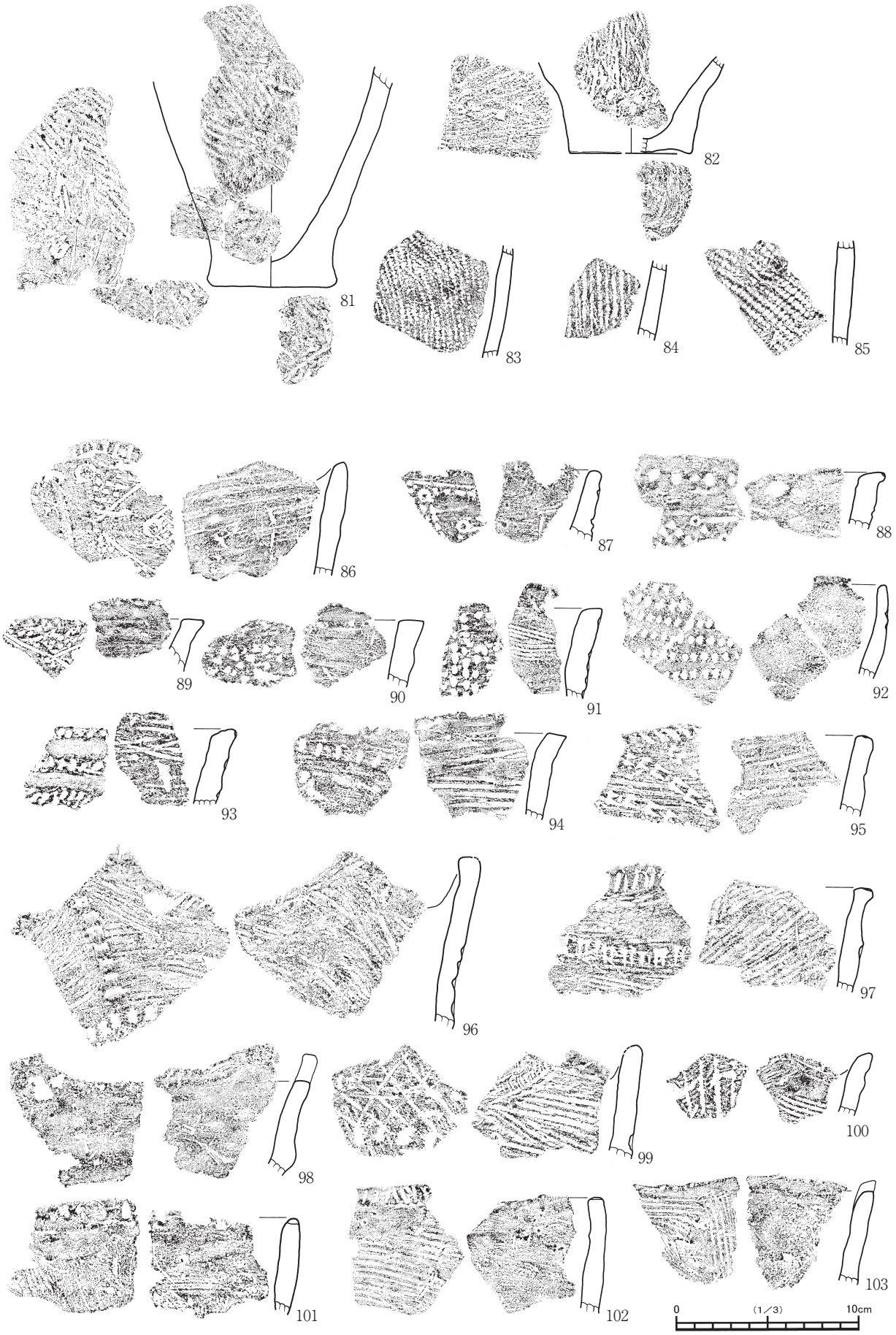
第109図　32号住居跡出土遺物実測図(3)



第110図　32号住居跡出土遺物実測図(4)



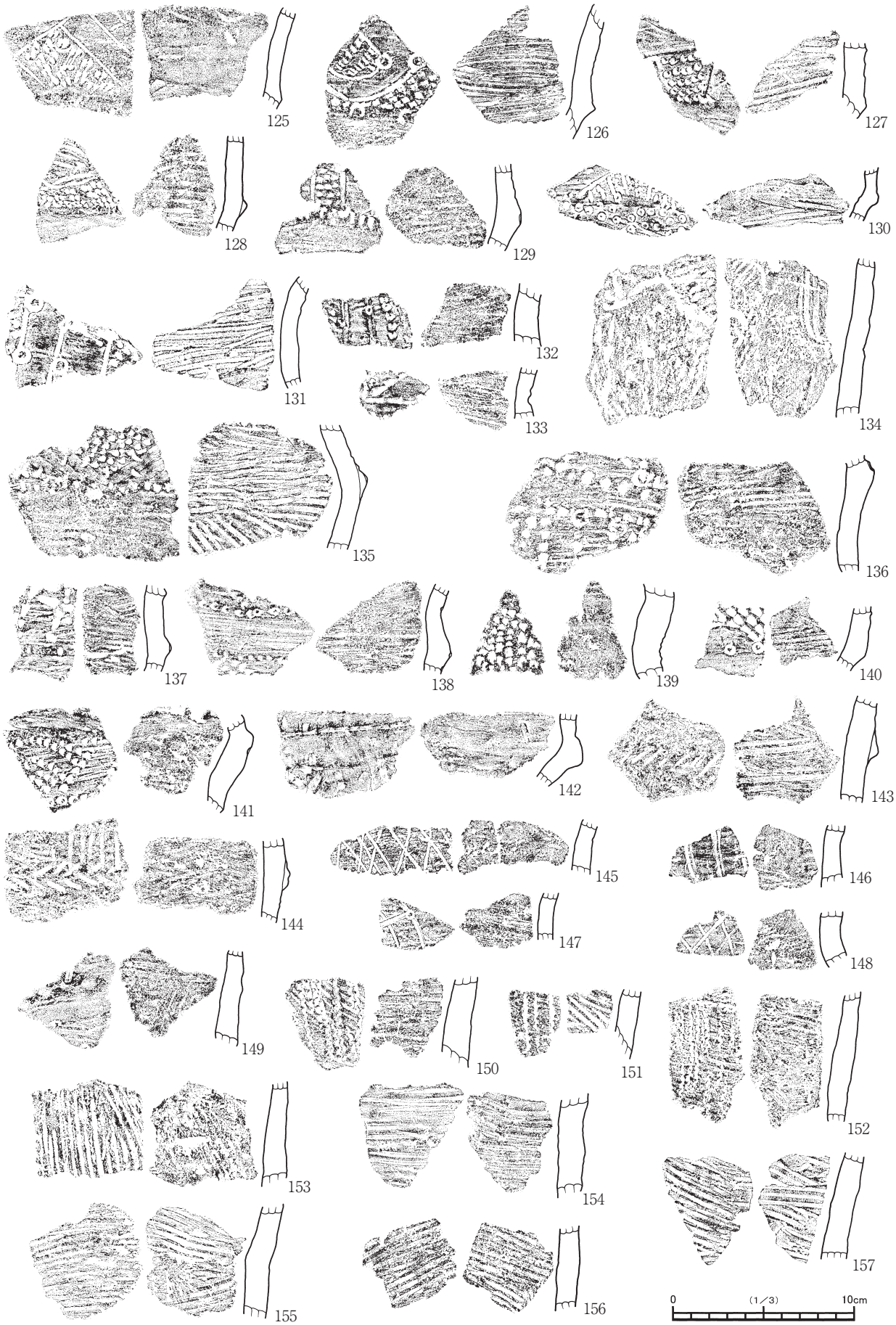
第111図　32号住居跡出土遺物実測図(5)



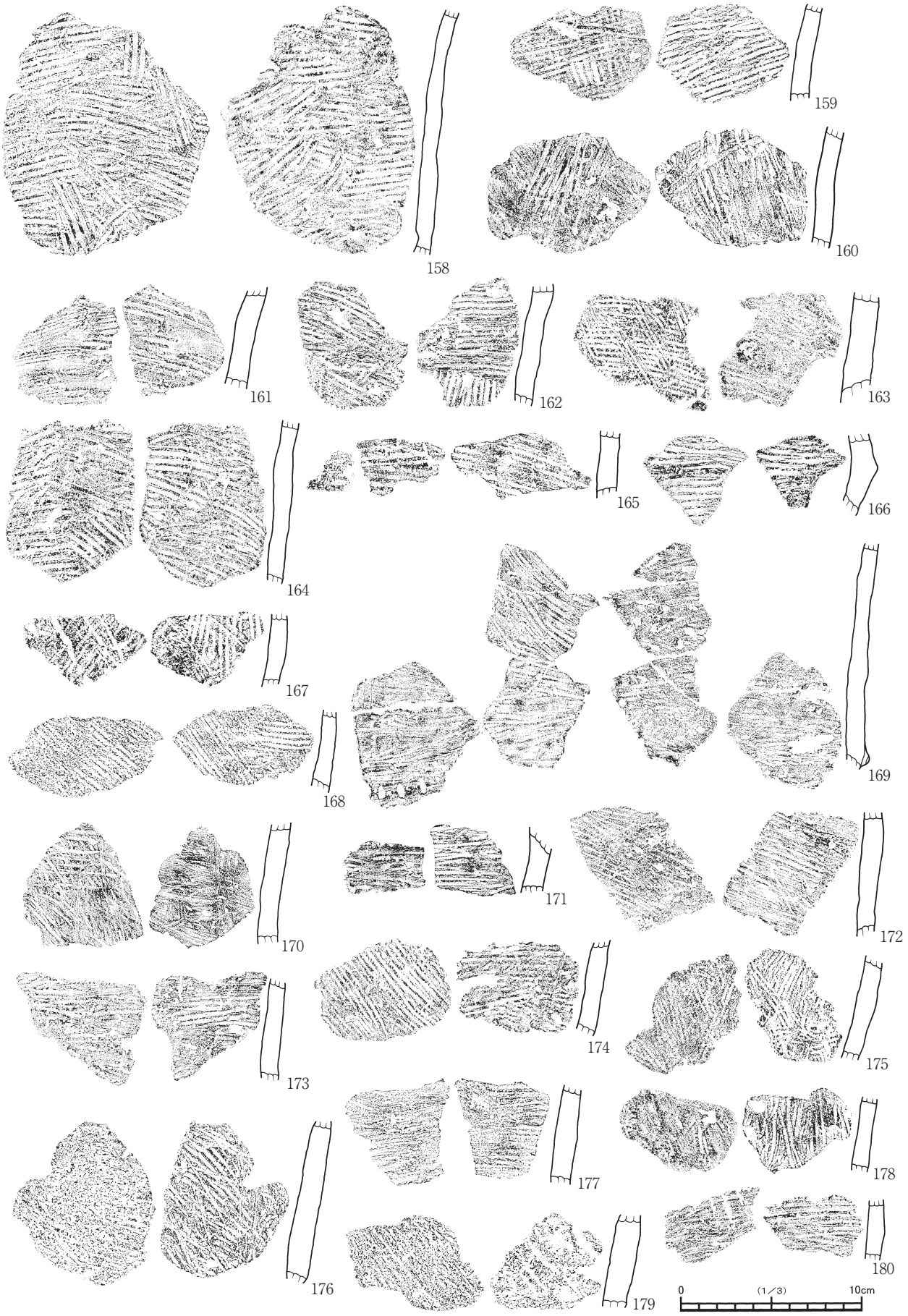
第112図　32号住居跡出土遺物実測図(6)



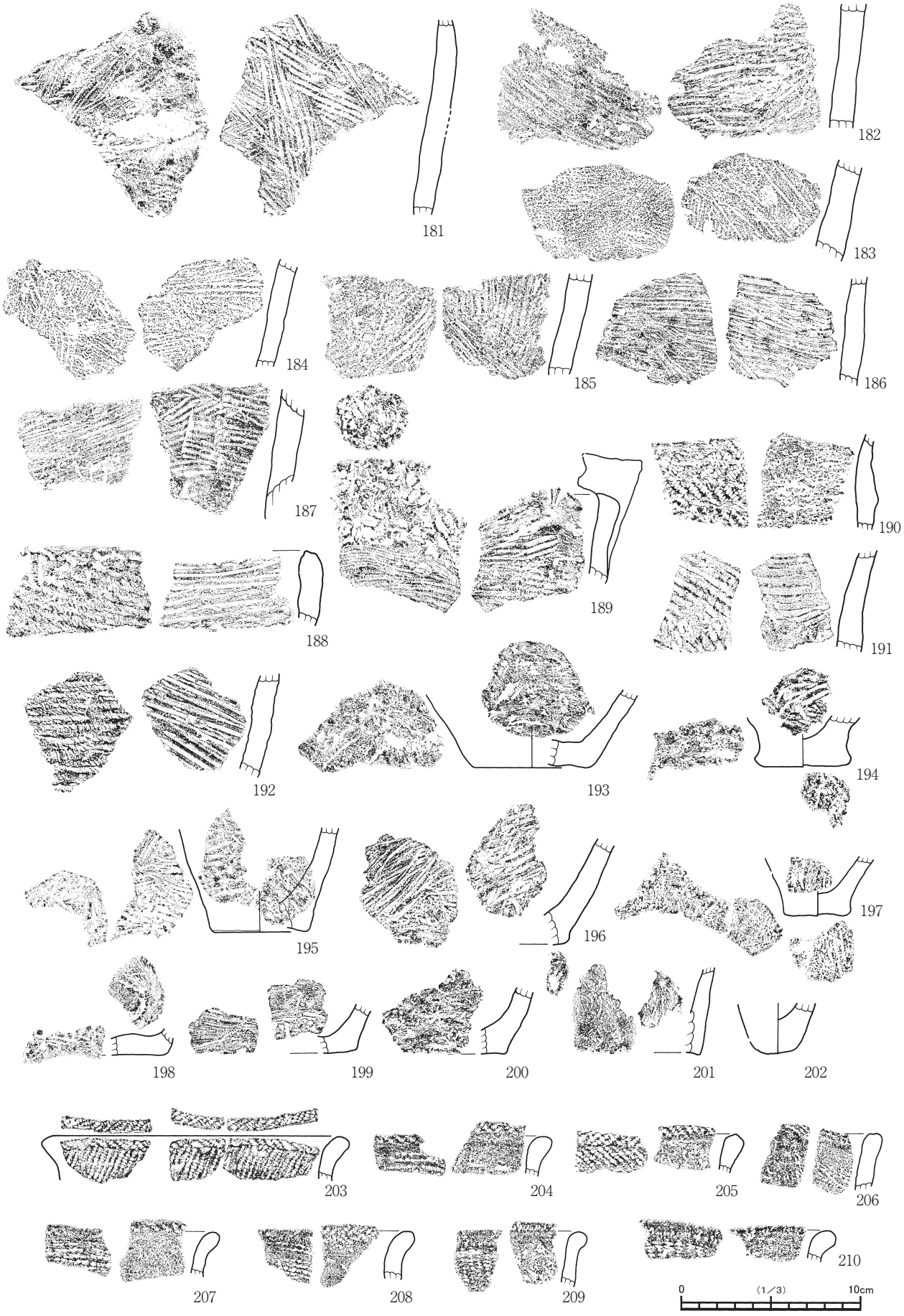
第113図　32号住居跡出土遺物実測図(7)



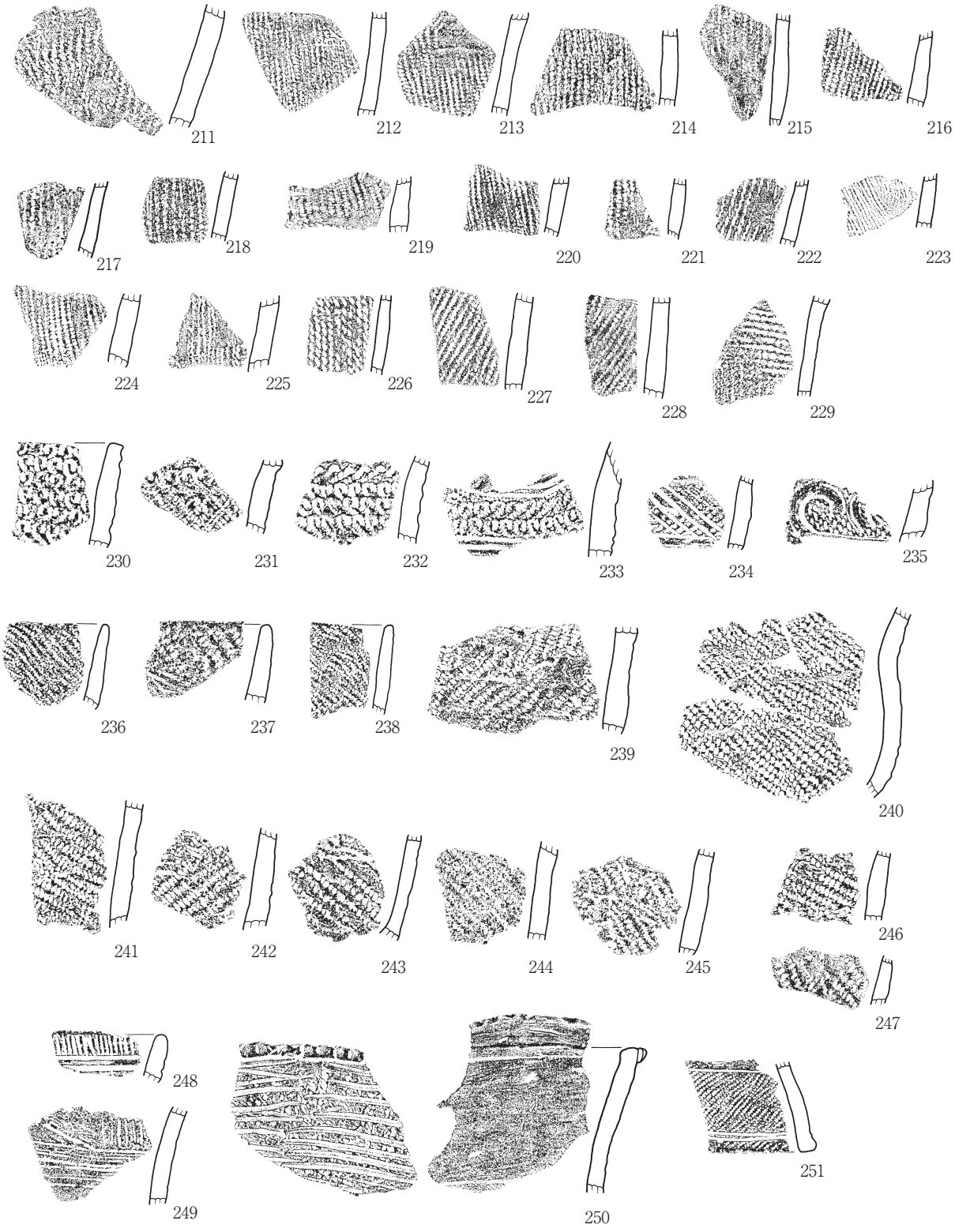
第114図　32号住居跡出土遺物実測図(8)



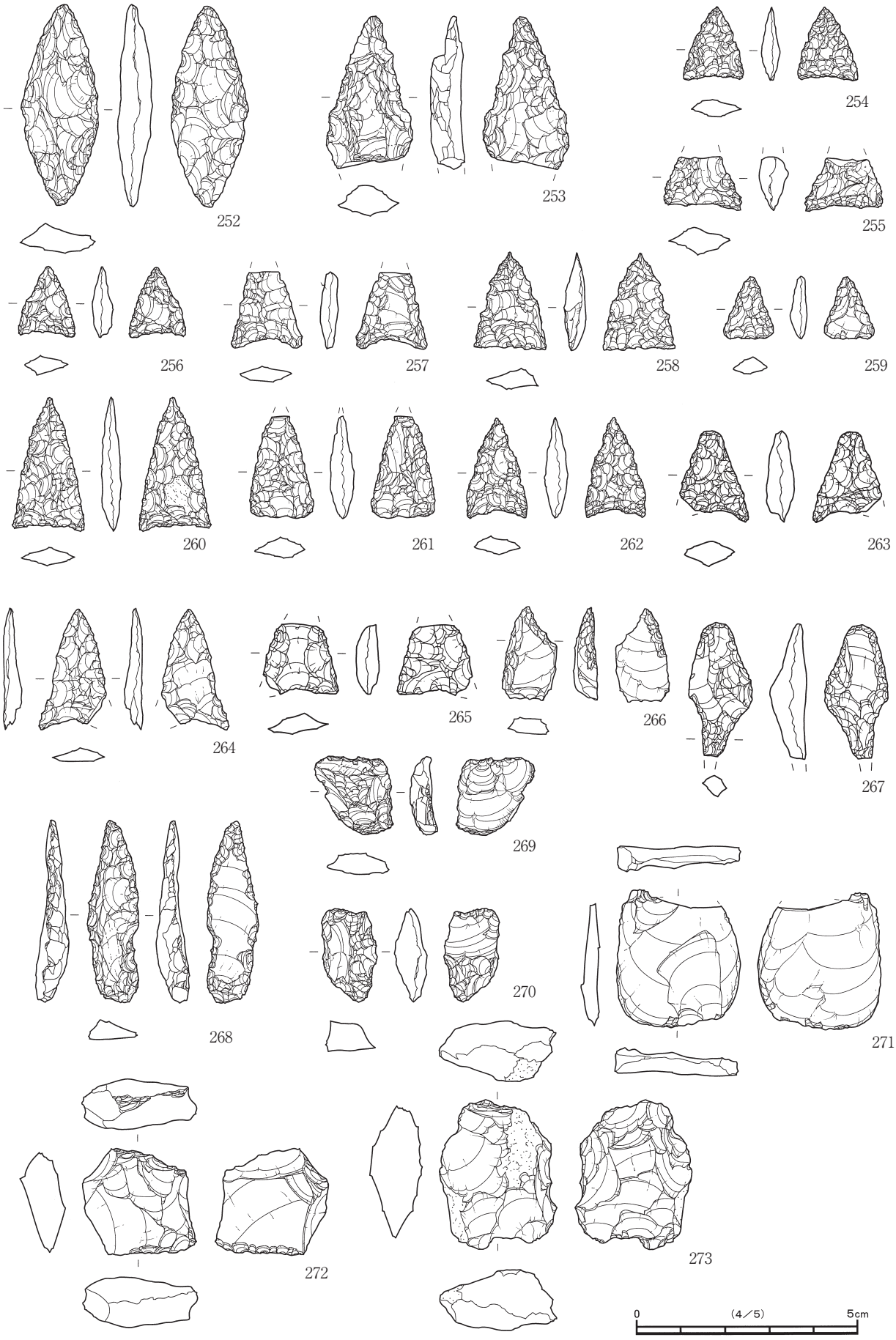
第115図　32号住居跡出土遺物実測図(9)



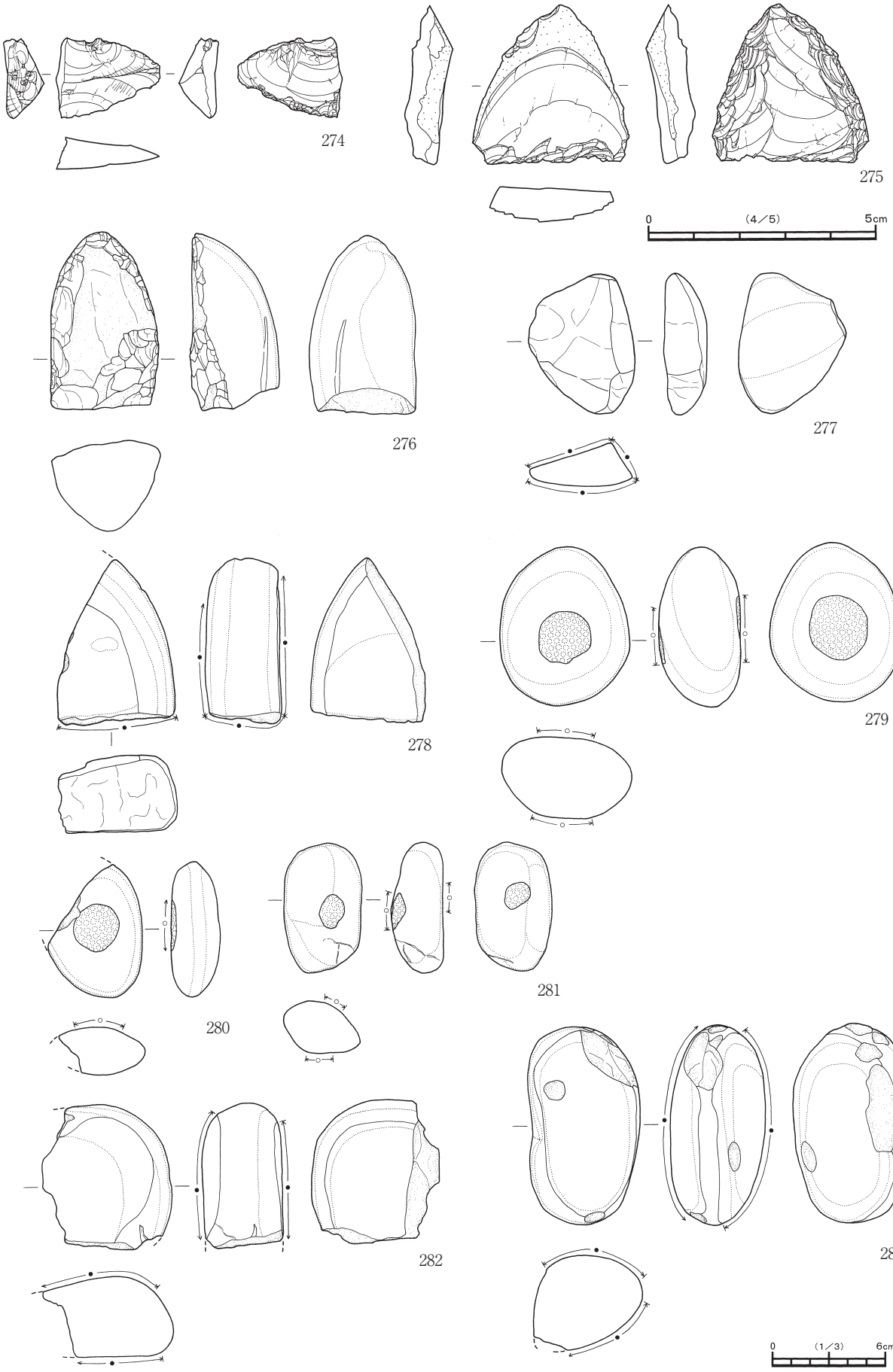
第116図　32号住居跡出土遺物実測図(10)



第117図　32号住居跡出土遺物実測図(11)



第118図　32号住居跡出土遺物実測図(12)



第119図　32号住居跡出土遺物実測図(13)

【出土遺物】 1,201点・57,146ｇの礫および礫石器が出土している。このうち住居内集石ではすべてに、覆土一括分では91.4%、貝層中は74.8%に被熱のあとがみられる。石器は、59点出土している。うちわけは、尖頭器３点・石鏃12点・石錐２点・楔形石器１点・楔状石器２点・ＲＦ４点・石核３点・敲石６点・磨石４点・石皿１点・砥石２点・軽石19点、このほか黒曜石・チャートなどの剥片32点がある。土器は、3,630点・58,251ｇ出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。遺物は、壁際を除く遺構全域に分布し、床面付近から覆土上層に至るまで多量に出土している。土器と礫類に分布上の差は認められない（第106・107図）。また、貝層部分では、その内部および上下面より、多量の獣骨類が検出された。土器のうちわけは、撚糸文系、撚糸文系（無文）、条痕文系、一部に縄文の施文がみられる条痕・縄文、羽状縄文系、浮島式、加曽利Ｂ式、曽谷式などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系土器で全体の95.0%あり、当該時期を32号住居の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第107図１～９・第108図10～25・第109図26～55・第110図56～68・第111図69～80・第112図81～85に、覆土一括扱いのものを第112図86～103・第113図104～124・第114図125～157・第115図158～180・第116図181～210・第117図211～251に示した。１～27・86～124・188・189は条痕文系深鉢形土器の口縁部、28～74・125～187・190～192は胴部、75～82・193～202は底部の破片である。19は、口径244㎜・現存器高300㎜を測る深鉢形土器で、口縁部には５箇所の波頂部をもつ。文様は内外面とも横および斜方向の条痕文が施されるのみである。81は、現存器高119㎜・推定底径70㎜を測る平底の深鉢形土器底部で、表裏面に斜位の条痕が施されるほか底面にも同様の施文が認められる。105は、推定口径115㎜・現存器高132㎜を測る平縁の深鉢形土器である。胴部上半に横位幅広の窪みがめぐる。26・27・188～192は一部に縄文が施文される土器である。83・84・203～229は、撚糸文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。230～247は羽状縄文系深鉢形土器で、多くは関山式とみられる。248・249は前期後葉・浮島式、250は紐線文をもつ加曽利Ｂ式粗製深鉢形土器の口縁部、251は曽谷式の台付土器とみられる。

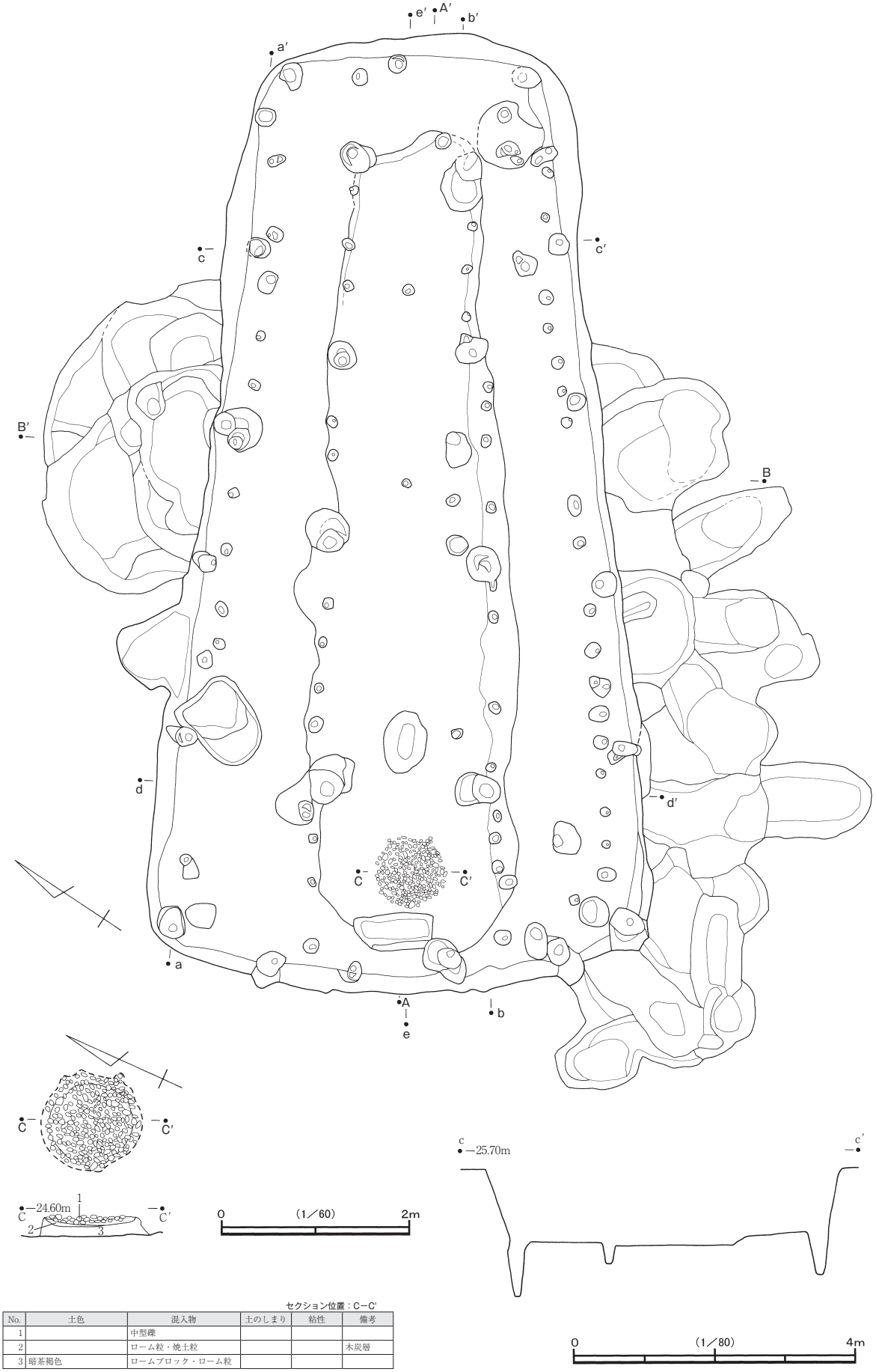
出土石器のうち主なものを、第118図252～273・第119図274～283に示した。252は、最大長45.3㎜を測る頁岩製の尖頭器である。253は、残存最大長34.4㎜を測る基部を欠くチャート製の尖頭器である。254～265は、黒曜石・チャート・頁岩・安山岩製の石鏃である。266は黒曜石製の石鏃未製品である。267はチャート製の石錐である。268は、最大長41.2㎜をはかるチャート製の尖頭器である。269・270・274・275は、黒曜石・頁岩製のＲＦである。273は、最大長33.8㎜を測る無斑晶ガラス質安山岩製の楔形石器である。271・272は、無斑晶質ガラス質安山岩製の楔状石器である。276は、最大長93㎜を測る頁岩製の石核である。277は、砂岩製の砥石である。278は、多孔質輝石安山岩製の石皿破片である。279は、チャート製の敲石である。表裏面中央に敲打痕をのこす。280・281は、砂岩・チャート製の敲石である。282・283は、砂岩製の磨石である。

33号住居跡

【検出位置】 セ28区J10-12・16、J11-05・06・09・10・13

【規模ほか】 長軸13.56m・短軸7.10m・深さ100㎝。形状は長台形。主軸方向　59°。

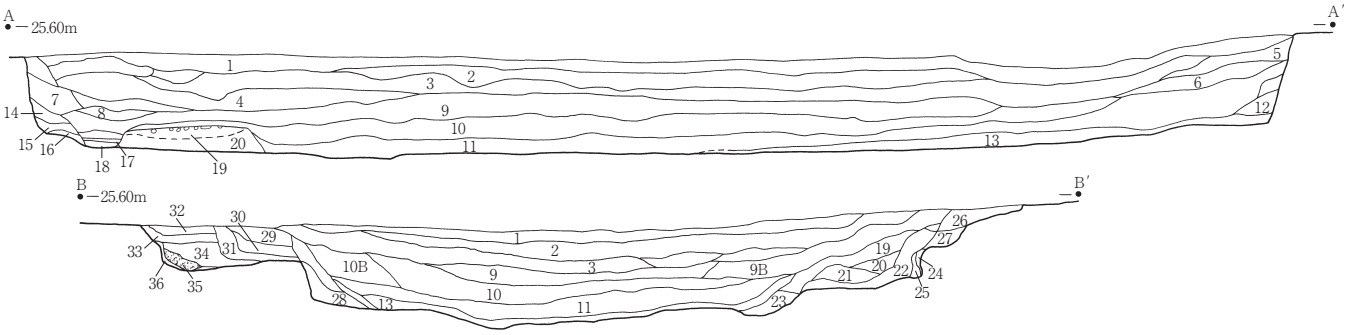
炉は検出されていないが、西端中央部に直径１ｍほどの規模の集石が一箇所みられる。なおこの集石の底面は、床面よりやや浮いた位置にある。柱穴は、壁際およびその内側に長方形に規則的に配置



セクション位置：C—C′

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1		中型礫			
2		ローム粒・焼土粒			木炭層
3	暗茶褐色	ロームブロック・ローム粒			

第120図　33号住居跡実測図(1)

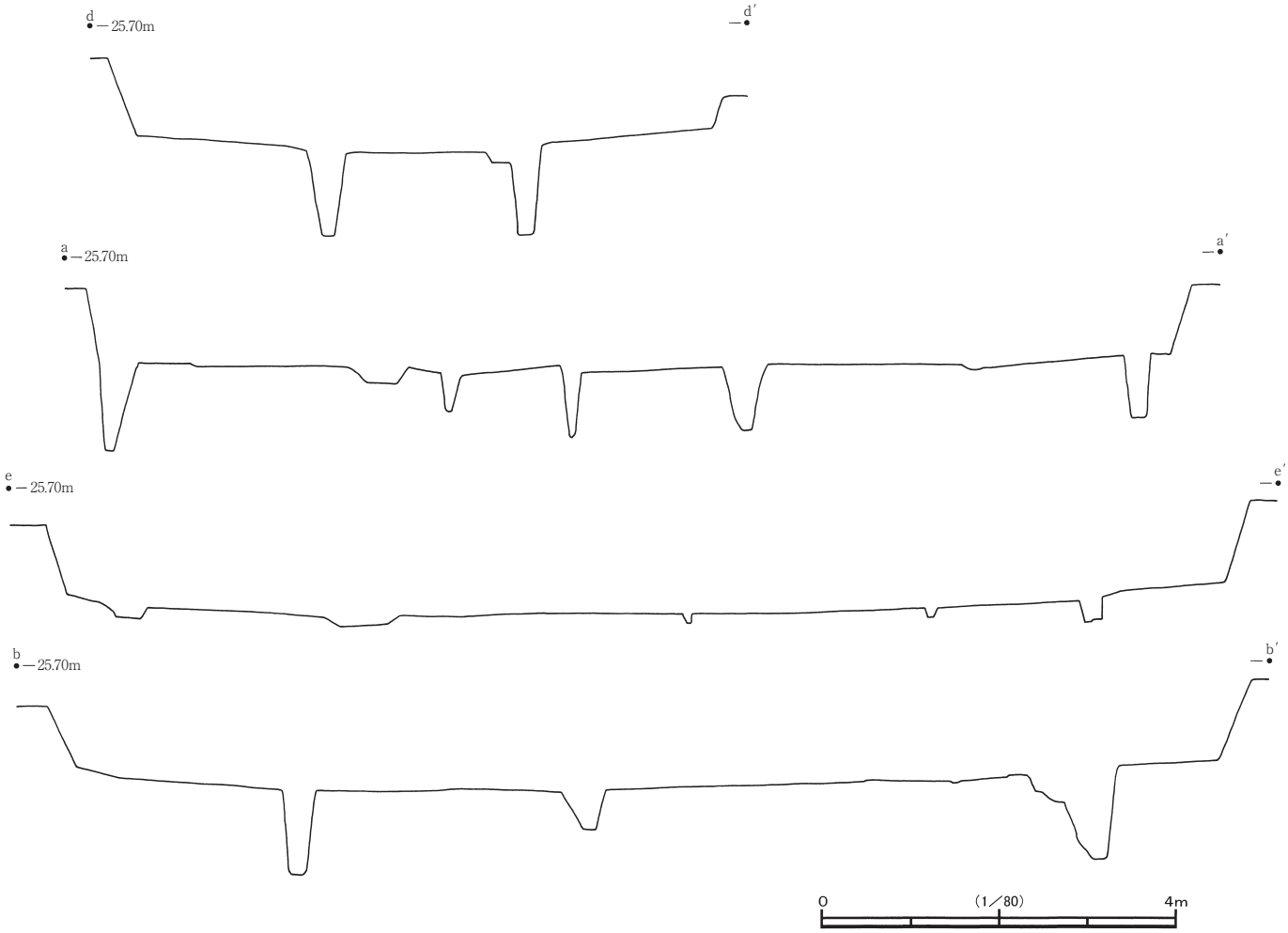


セクション位置：A－A′

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色	テフラブロックローム粒・黒色土ブロック			
2	暗黒褐色	褐色土ブロック・テフラブロック・ローム粒			
3	暗黒茶褐色	ローム粒・ローム粒ブロック（小）・焼土塊			
4	暗黒茶褐色	ローム粒・若干の褐色土ブロック（テフラ）			
5	暗黒茶褐色				
6	暗褐色	少量のローム粒			
7	暗褐色	ローム粒・褐色土ブロック			
8		多量のローム粒			
9	暗茶褐色	ローム粒・ロームブロック（小）			
10	暗黄色	ローム粒・ロームブロック・ロームブロック（大）・褐色土粒			
11	（茶色）暗黄褐色	ローム粒・ロームブロック・褐色土粒			
12	11よりやや暗い暗黄褐色				
13	暗褐色	ローム粒・ロームブロック（やや密）			
14	暗褐色	ローム粒			
15	茶褐色	ローム粒・ロームブロック			
16	暗茶色	ローム粒・褐色土粒	やや硬い		
17	暗褐色	ローム粒			
18	暗茶色	ローム粒・ロームブロック			
19		多量の中型焼礫			
20	暗茶褐色	若干のロームブロック・ローム粒			

セクション位置：B－B′

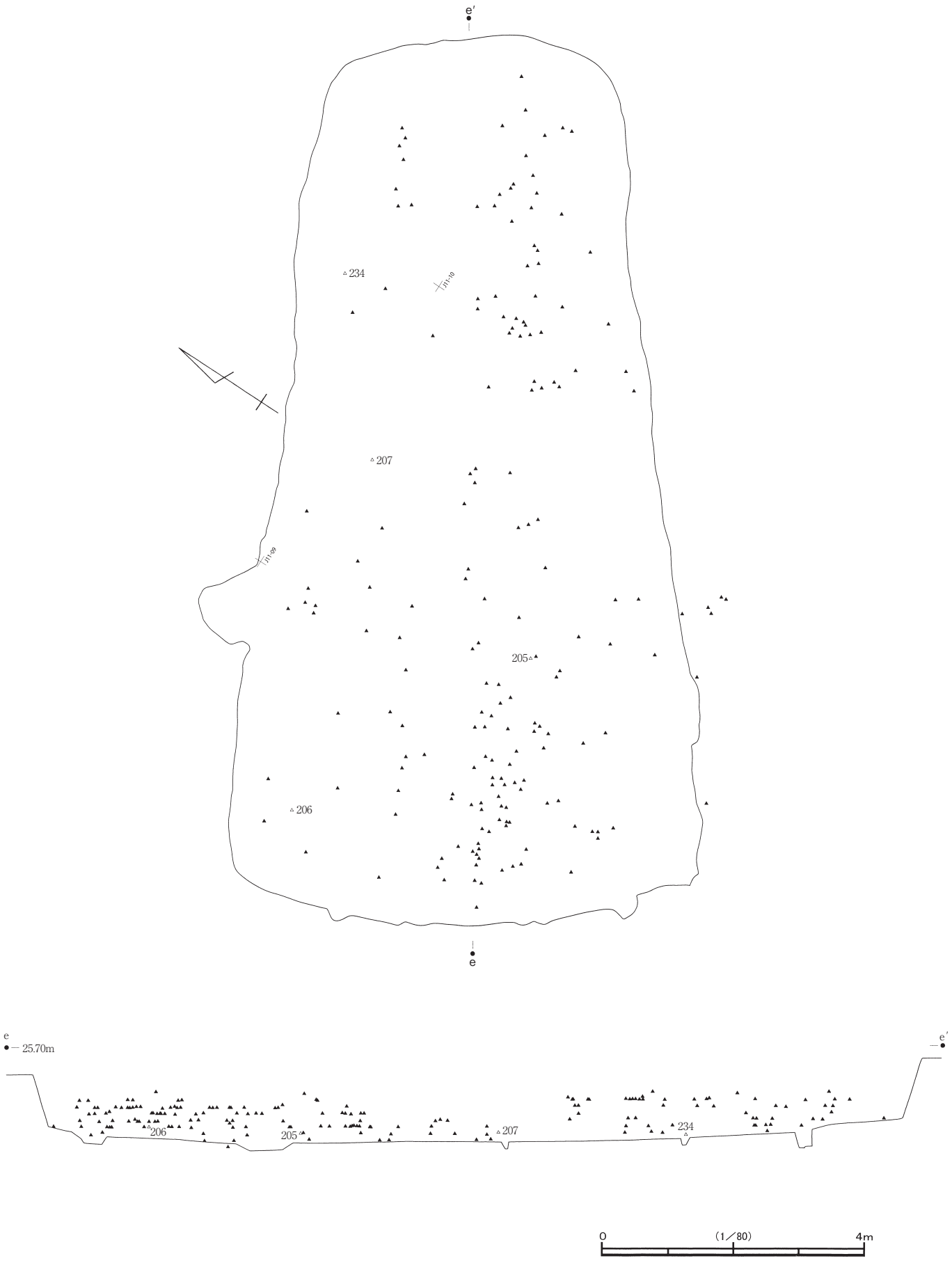
No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色	テフラブロック・ローム粒・黒色土ブロック			
2	暗黒褐色	褐色土ブロック・テフラブロック・ローム粒			
3	暗黒茶褐色	ローム粒・ロームブロック（小）・焼土塊			
9	暗茶褐色	ローム粒・ロームブロック（小）			
9B		暗褐色土ブロック			
10	暗黄色	ローム粒・ロームブロック・ロームブロック（大）・褐色土粒			
10B	暗褐色	ローム粒・若干のロームブロック			
11	(茶色）暗黄褐色	ローム粒・ロームブロック・褐色土粒			
13	暗褐色	ローム粒・ロームブロック（やや密）			
19	暗褐色	若干のローム粒			
20	暗褐色				
21	暗褐色	若干のロームブロック			
22	暗褐色		密		
23	暗褐色		密		
24	暗黄色	ロームブロック			
25	暗茶色				
26	褐色				
27	褐色				
28	暗黒褐色	ローム粒			
29	黒褐色	ローム粒			
30	黒褐色	ローム粒			
31	暗黒褐色	ローム粒			
32	黒褐色				
33	暗褐色	褐色土ブロック			
34	暗褐色	多量の褐色土粒			
35		焼土			
36	暗茶色	若干の焼土			



第121図　33号住居跡実測図(2)



第122図　33号住居跡遺物出土状況図(1)



第123図　33号住居跡遺物出土状況図(2)

される。内側に配列される柱穴には、規模のやや大きなものが８本あり、これらは等間隔に並び深さも他よりやや深い（第120図）。

【覆土】 暗褐色土・暗黒褐色土などを主体とする。ローム粒・ロームブロックを含む層も多い（第121図）。

【重複関係】 南側で炉穴群と重複する。新旧関係は、本住居跡が新。

【出土遺物】 2,069点・104,392ｇの礫および礫石器が出土している。このうち住居内集石は98.2%、覆土一括は93.2%に被熱のあとがみられる。石器は、37点出土している。うちわけは、石鏃４点、石鏃未製品１点、楔形石器３点、楔状石器１点、ＲＦ４点、石核３点、原石１点、敲石１点、磨石・敲石５点、磨石５点、砥石２点、石皿３点、軽石４点、このほか黒曜石・チャートなどの剥片30点がある。土器は、4,564点・74,737ｇ出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。遺物は、壁際を除く遺構全域に分布し、床面付近から覆土上層に至るまで多量に出土している。土器と礫類に分布上の差は認められない（第122・123図）。土器のうちわけは、撚糸文系、撚糸文系（無文）、条痕文系、一部に縄文の施文がみられる条痕・縄文、羽状縄文系、諸磯式、称名寺式、加曽利Ｂ式、安行式などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系の土器で全体の96.4%あり、当該時期を33号住居の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第124図１～19・第125図20～29・第126図30～48・第127図49～58・第128図59～63に、覆土一括扱いのものを第128図64～85・第129図86～103・第130図104～129・第131図130～153・第132図154～171・第133図172～204に示した。１～29・64～127は条痕文系深鉢形土器の口縁部、30～56・128～173は胴部、57～59・174～182は底部の破片である。27は、緩い波状口縁をもつ深鉢形土器の口縁部破片である。外面には、横・斜方向の条痕文の上に、縦・斜方向にフネガイ科貝類の腹縁圧痕文を施す。28は、推定口径434㎜・現存器高270㎜を測る平縁の深鉢形土器である。口縁部直下に一条の刺突文、口唇部の一部に縦位のキザミがみられる。内外面とも横および斜方向に条痕を施す。29は、推定口径292㎜・現存器高164㎜を測る緩い波状口縁の深鉢形土器である。外面は横方向に、内面は斜・横方向に条痕を施す。57は、現存器高190㎜・推定底径74㎜を測る平底の深鉢形土器である。59は、底径80㎜を測る平底の深鉢形土器である。底面はやや上げ底となる。26・125～127には一部に縄文の施文がみられる。60～63・183～191は、撚糸文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。192～201は、羽状縄文系深鉢形土器である。192～195は関山式、199～201は花積下層式とみられる。202・203は、諸磯式深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。204は、加曽利Ｂ式粗製深鉢形土器の口縁部破片とみられる。

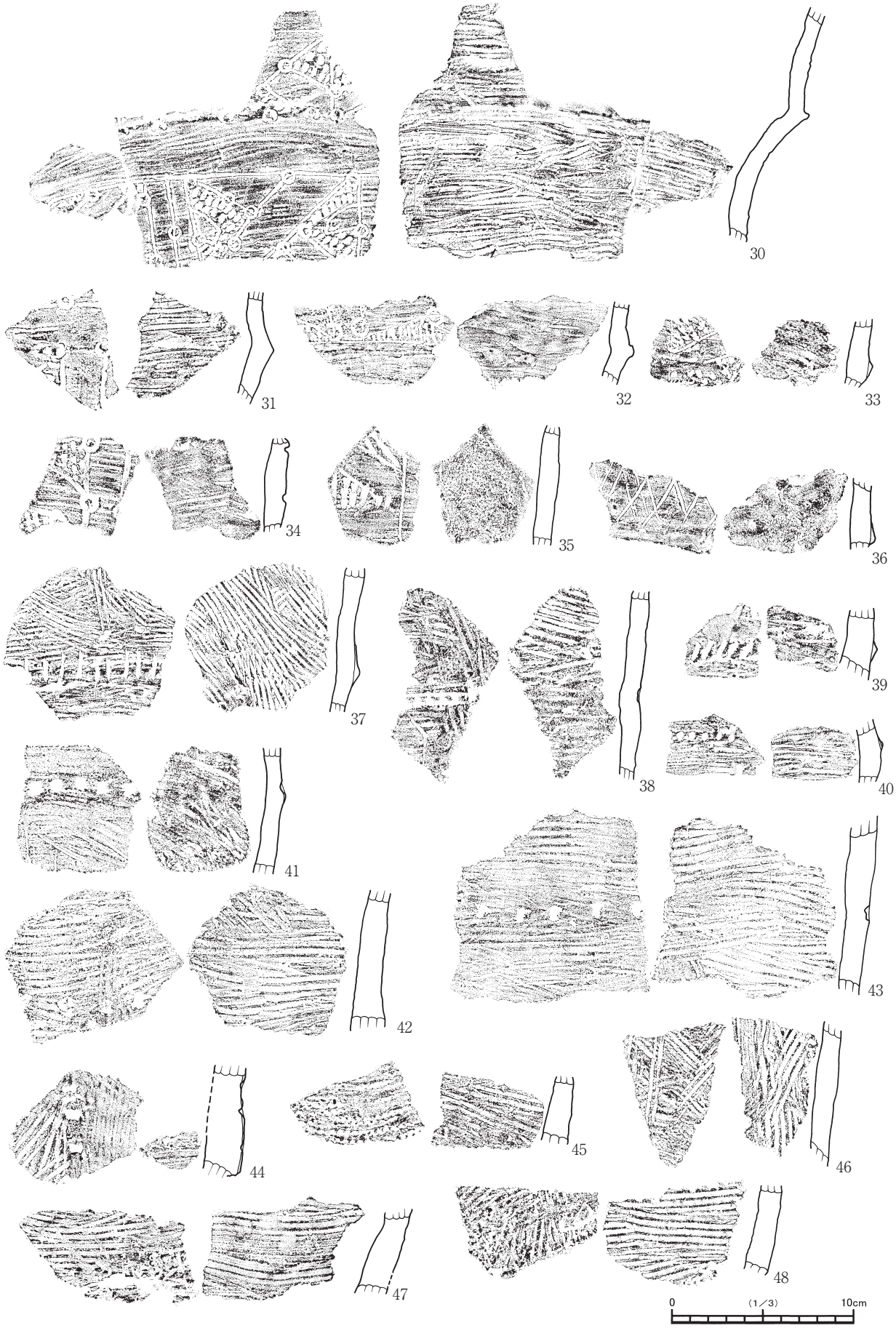
出土石器のうち主なものを、第134図205～220・第135図221～228・第136図229～236に示した。205～208は、黒曜石・安山岩・チャート製の石鏃である。このうち208は、最大長31.3㎜を測るチャート製のやや大型のもので、一部に自然面を残す。209は、最大長42.0㎜を測る無斑晶ガラス質安山岩製のもので、整形が十分ではなく未製品とみられる。210～212は、チャート・頁岩製の楔形石器である。213～216は、頁岩・黒色緻密質安山岩・無斑晶ガラス質安山岩・チャート製のＲＦである。217は、チャート製の楔状石器である。218・219は、無斑晶ガラス質安山岩・珪質頁岩製の石核である。220は、最大長50㎜・重さ8.0ｇを測る軽石製品である。穿孔・溝などの加工は施されていないが、周囲を研磨した整形痕が認められる。221・222は、砂質頁岩・菫青石ホルンフェルス製の砥石である。



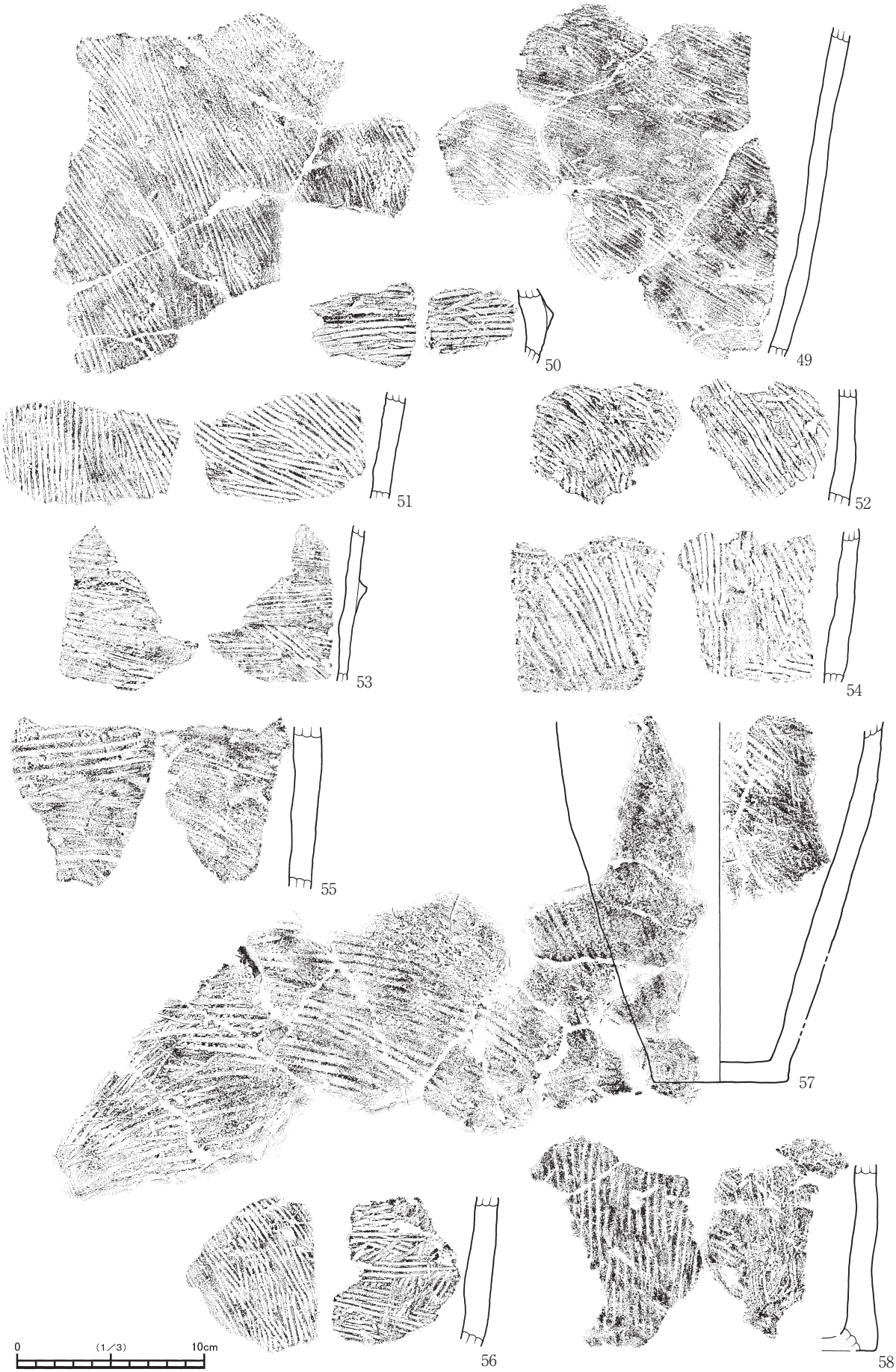
第124図　33号住居跡出土遺物実測図(1)



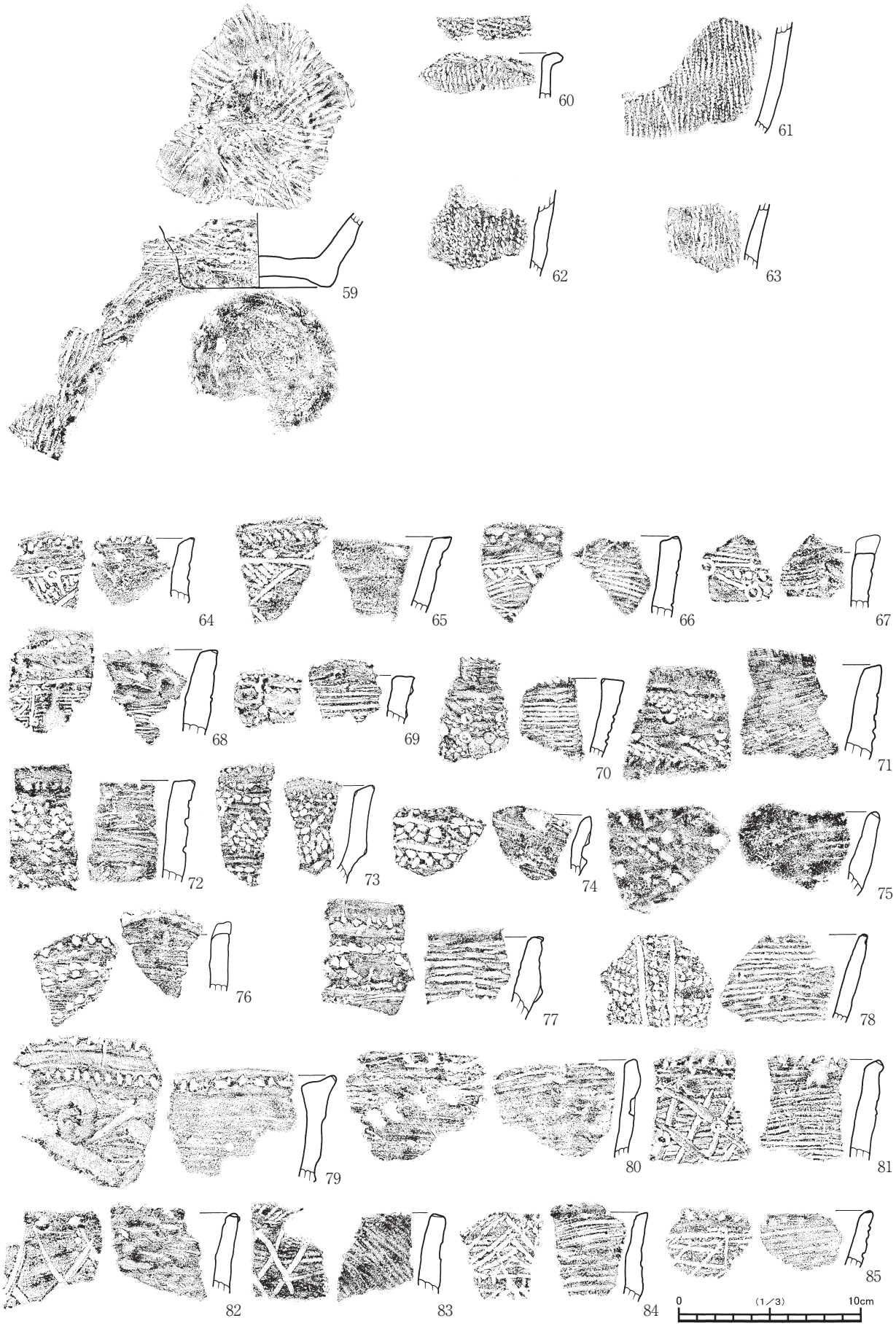
第125図　33号住居跡出土遺物実測図(2)



第126図　33号住居跡出土遺物実測図(3)



第127図　33号住居跡出土遺物実測図(4)



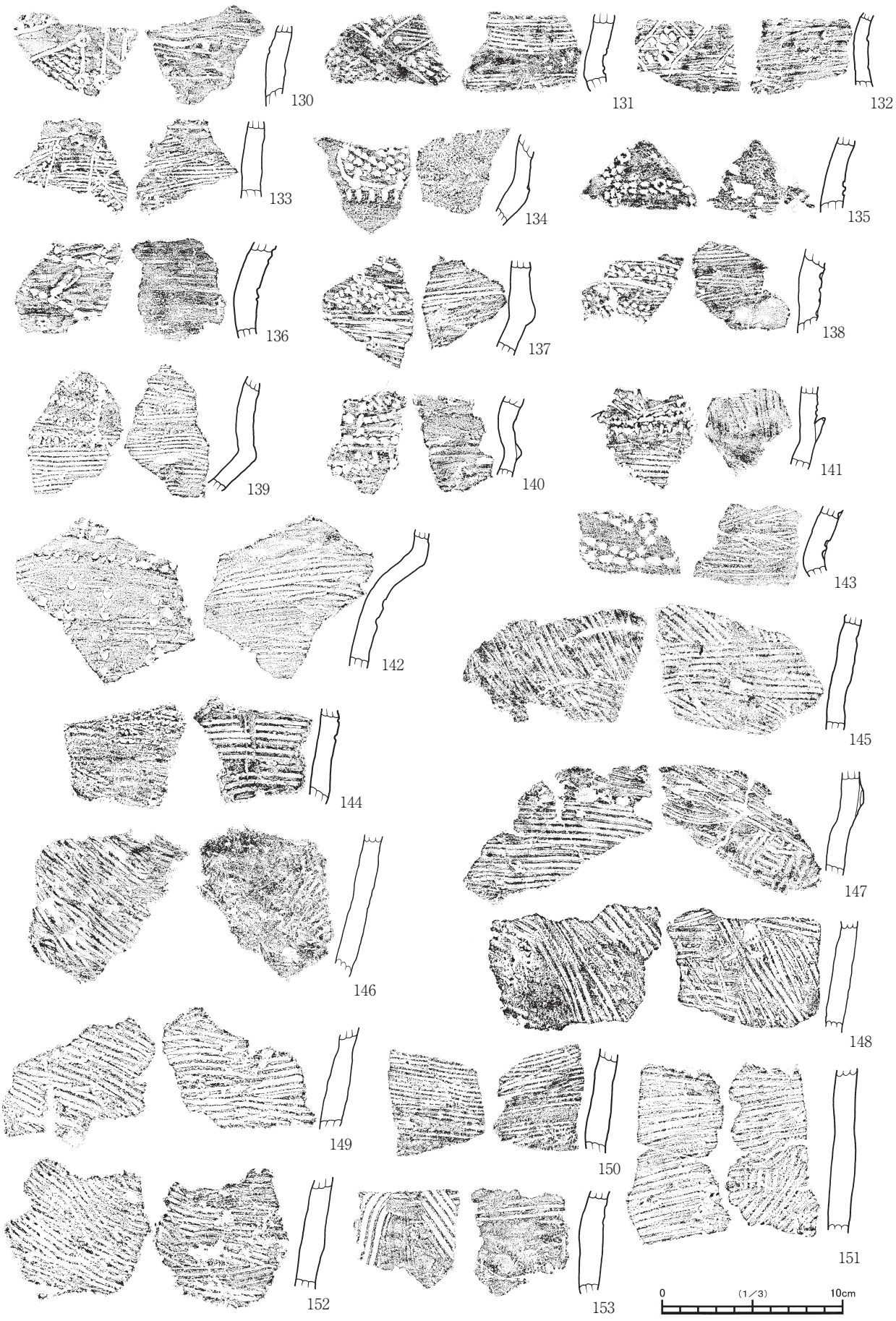
第128図　33号住居跡出土遺物実測図(5)



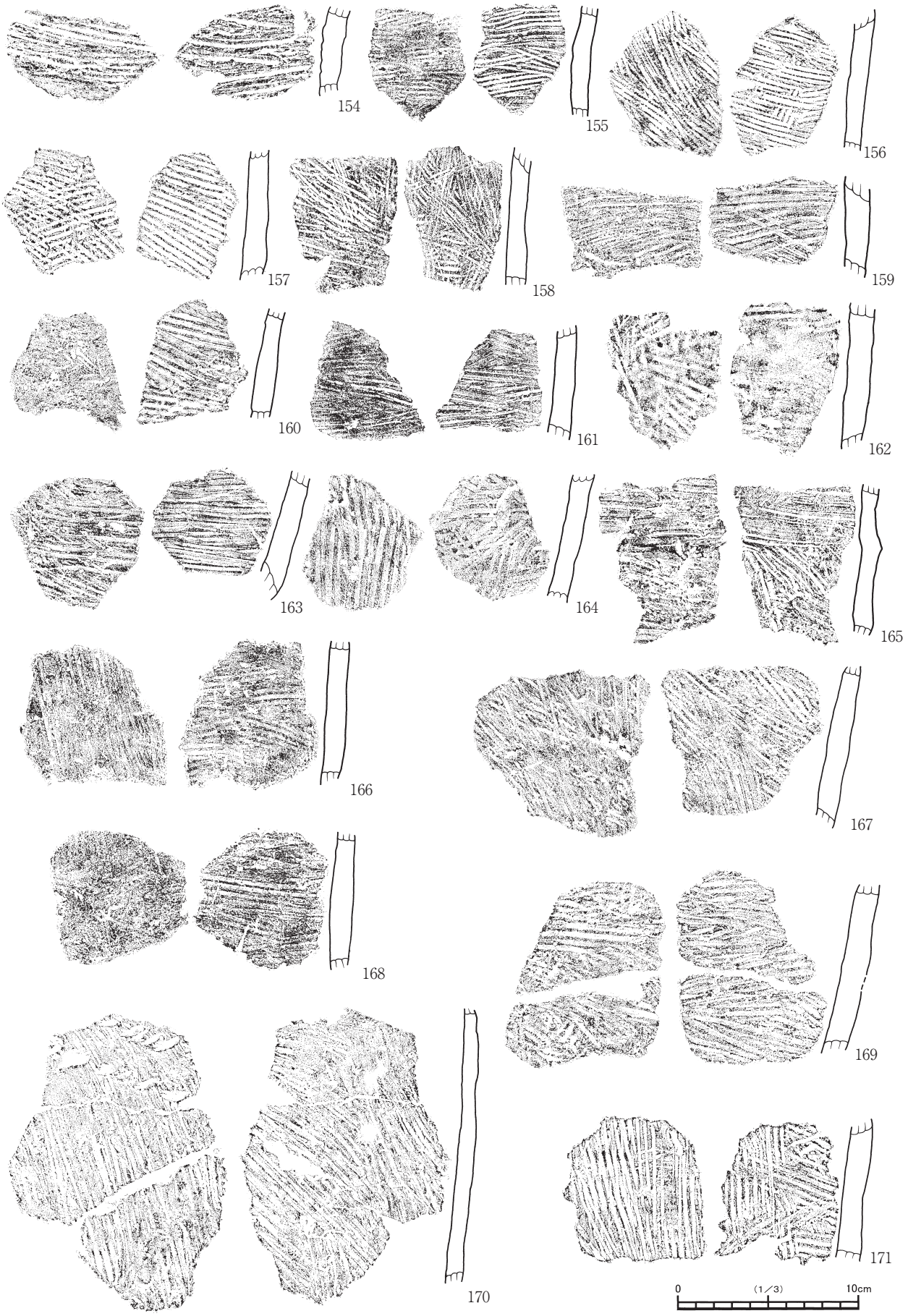
第129図　33号住居跡出土遺物実測図(6)



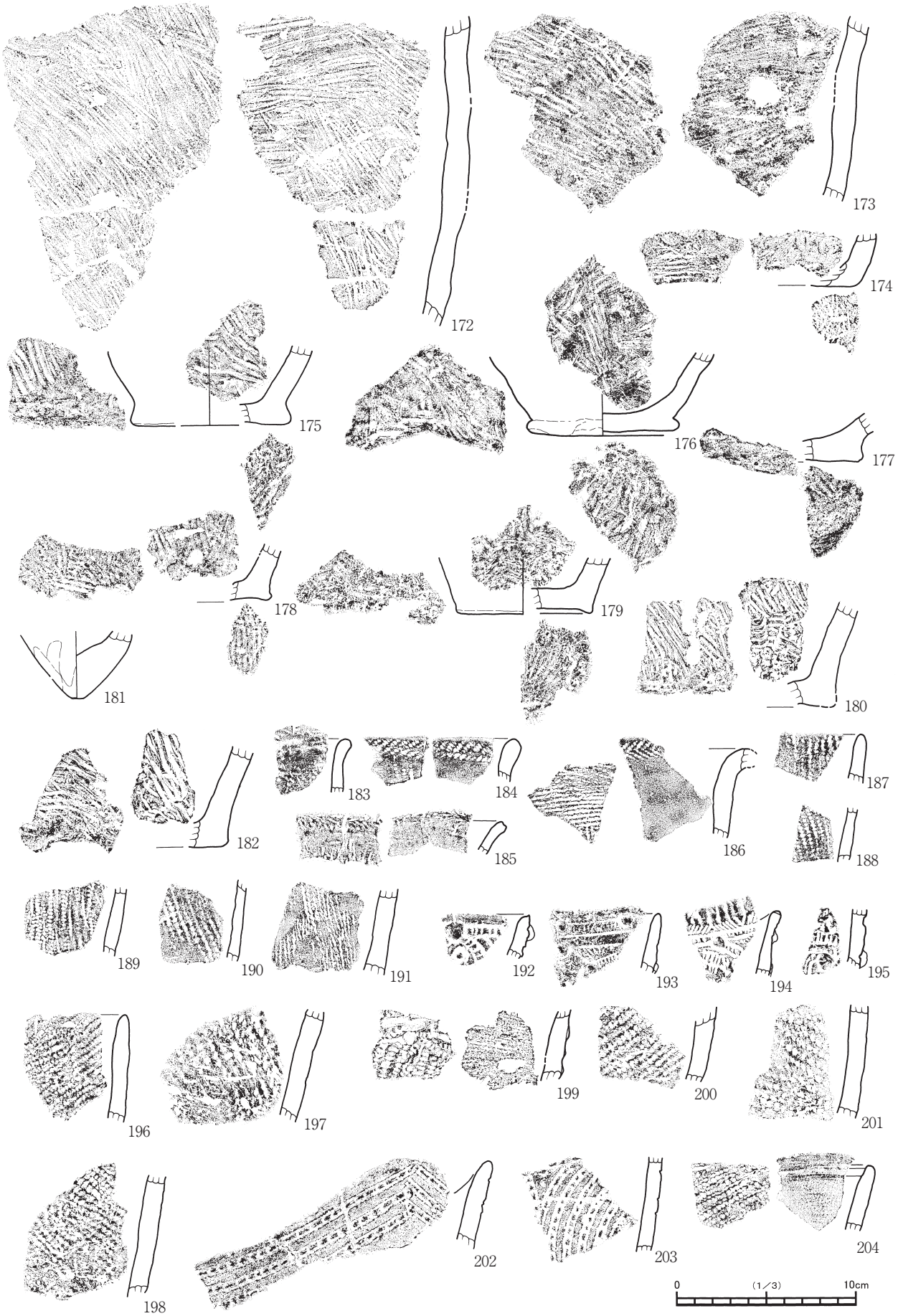
第130図　33号住居跡出土遺物実測図(7)



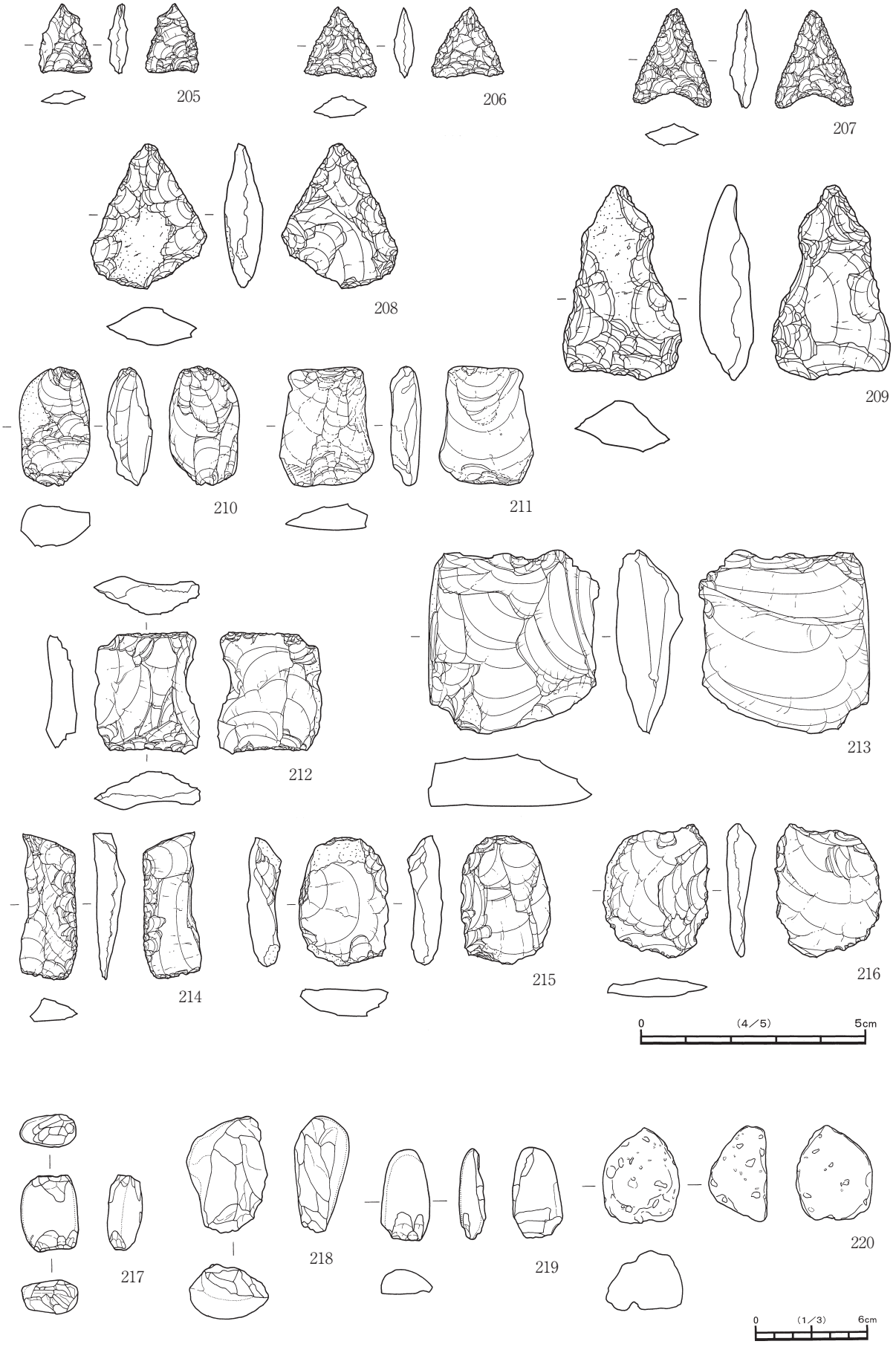
第131図　33号住居跡出土遺物実測図(8)



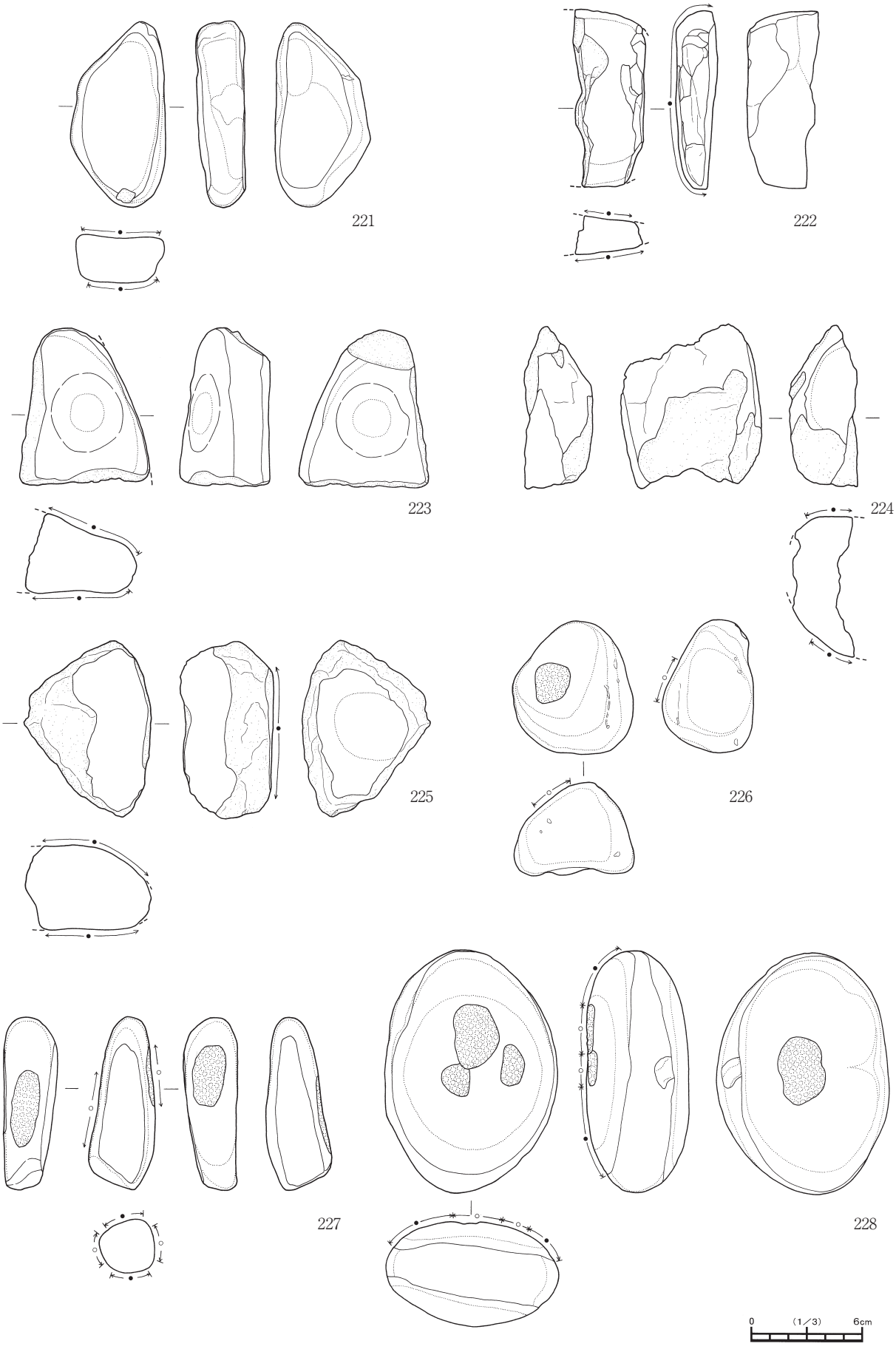
第132図　33号住居跡出土遺物実測図(9)



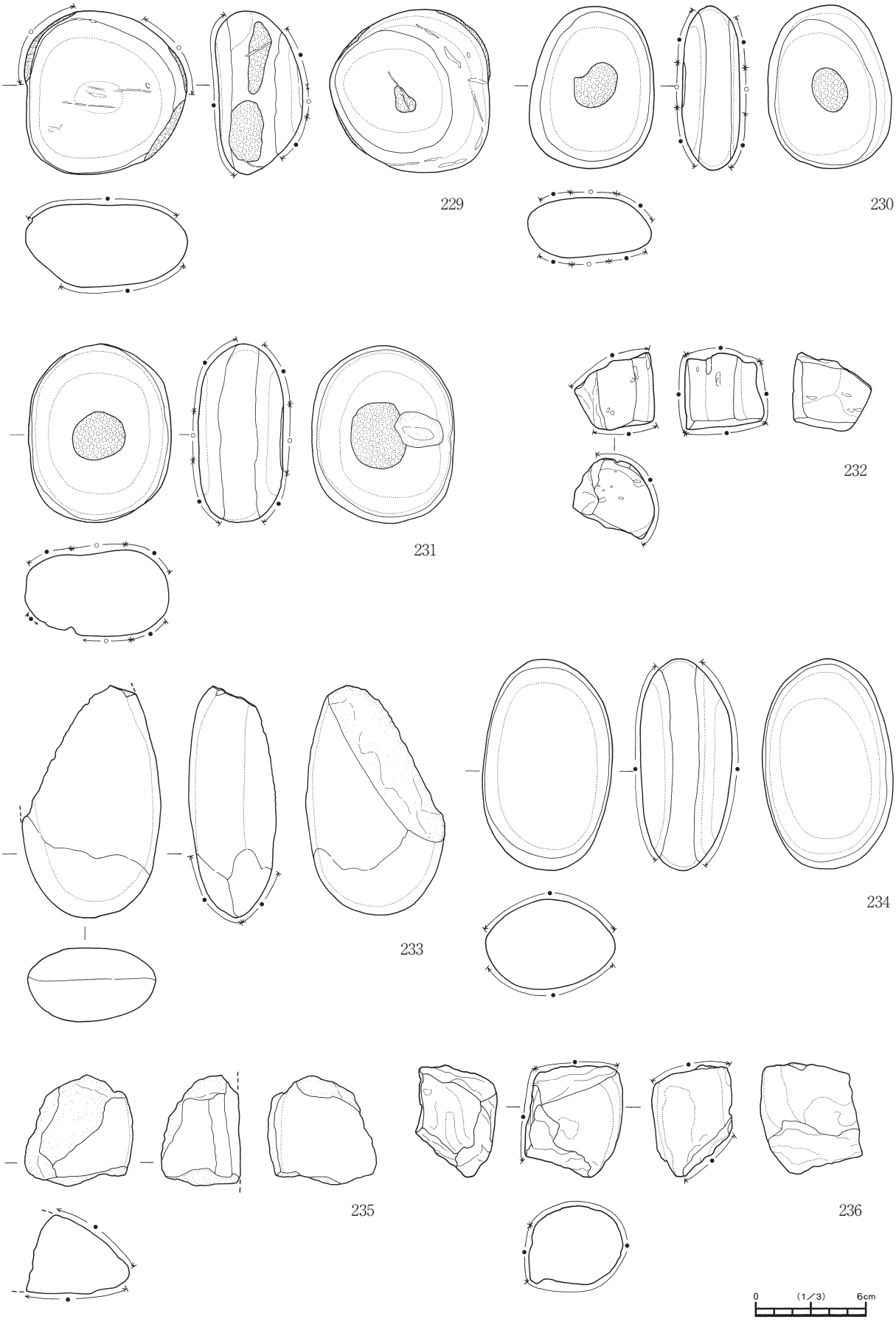
第133図　33号住居跡出土遺物実測図(10)



第134図　33号住居跡出土遺物実測図(11)



第135図　33号住居跡出土遺物実測図(12)



第136図　33号住居跡出土遺物実測図(13)

223～225は、花崗閃緑岩・輝石安山岩製石皿の破片である。226は、チャート製の敲石である。227～231は、砂岩・石英斑石・輝石安山岩製の磨石・敲石である。敲打面は表裏中央や側面にみられ、その周囲には磨面がある。232～236は、多孔質安山岩・輝石安山岩・砂岩製の磨石である。

34号住居跡

【検出位置】 セ28区J10-10・11・13・14・15、K10-02

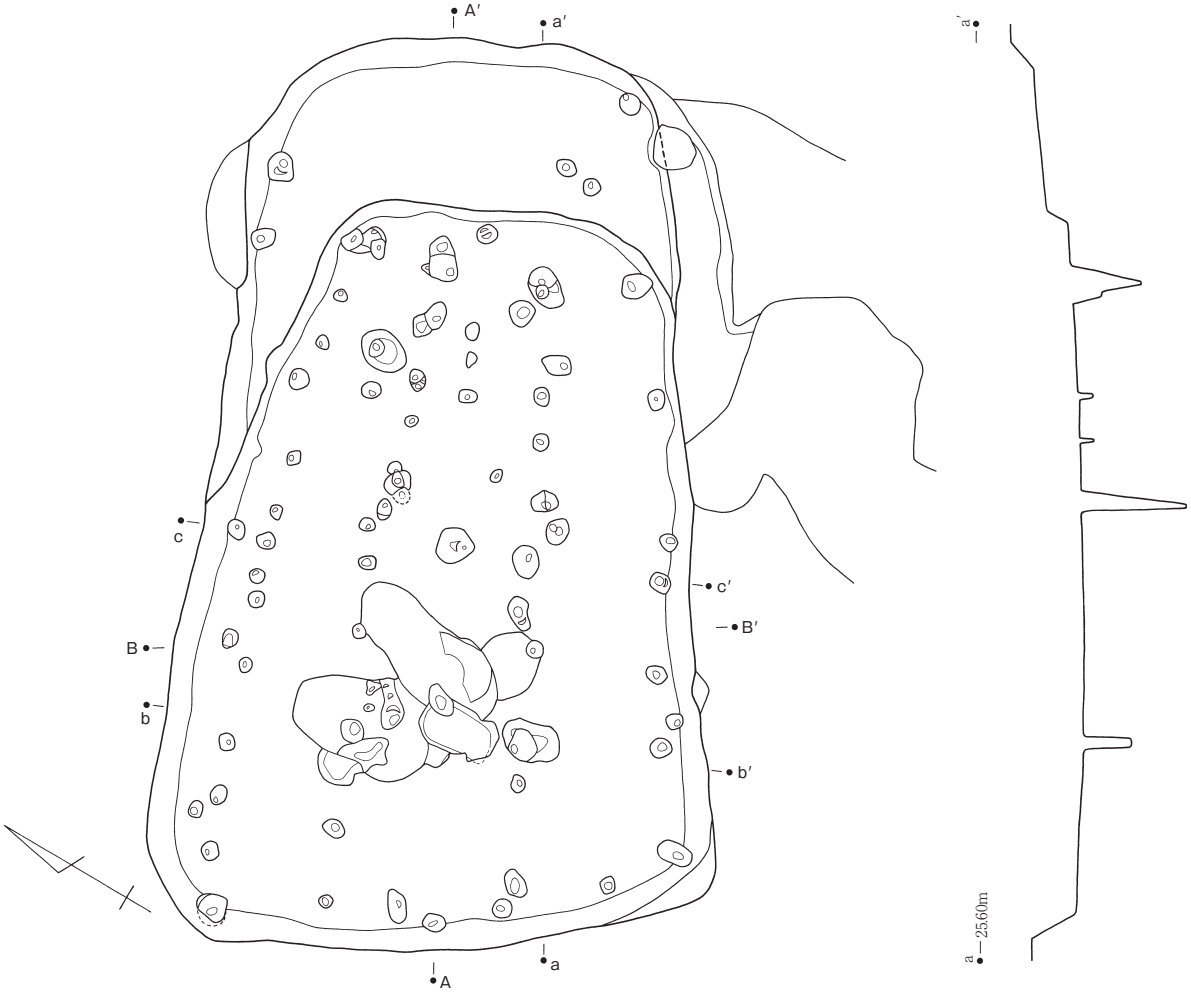
【規模ほか】 長軸7.86（9.64）m・短軸5.98m・深さ70cm。形状は長台形。主軸方向 61°。炉は検出されていない。柱穴は、壁際およびその内側に長方形に規則的に配置される（第137図）。

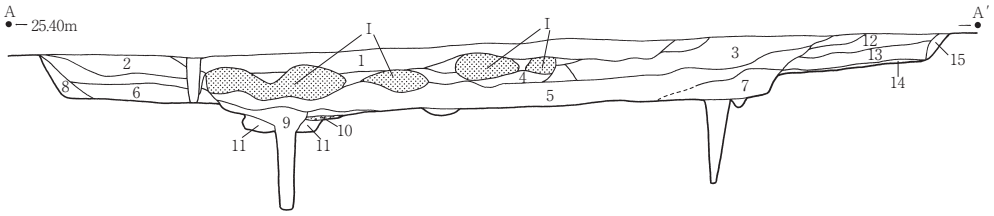
【覆土】 暗茶色土・暗黒茶色土などを主体とする。一部に貝層がみられる。貝層は住居跡覆土の中心部より西側８箇所のブロック状に分かれ、長軸400・短軸290・厚さ38cmほどの規模で形成されていた（第138図）。

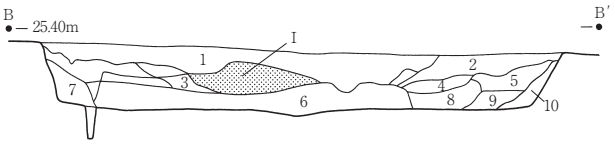
【重複関係】 平面的には、東側に張り出し状の部分がある。この箇所を含めると、本遺構の長軸は9.64mを測る。この箇所の床面の高さは、20cmほど高く、土層断面図によるとこの部分を切り込んでいる状況が読みとれるので、本遺構は本来の位置から西側に移動もしくは拡張し、この際に東側部分は埋め戻したうえで床面の深さを下げたものとみられる。

【出土遺物】 1,935点・80,487ｇの礫および礫石器が出土している。このうち92.9%に被熱のあとがみられる。石器は、50点出土している。うちわけは、尖頭器１点・石鏃９点・楔形石器１点・ＲＦ２点・打製石斧２点・ヘラ状石器１点・軽石製品11点・砥石１点・石皿５点・敲石12点・凹石１点・磨石４点、このほか黒曜石･チャートなどの剥片31点がある。土器は、720点･21,427ｇ出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。遺物は、壁際を除く遺構全域に分布し、床面付近から覆土上層に至るまで多量に出土している。土器と礫類に分布上の差は認められない（第139・140図）。土器のうちわけは、撚糸文系、撚糸文系（無文）、条痕文系、一部に縄文の施文がみられる条痕・縄文、羽状縄文系、堀之内式、加曽利Ｂ式、安行式などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系土器で全体の95.5%あり、当該時期を34号住居の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第140図１～９・第141図10～23・第142図24～35・第143図36～41・第144図42～62・第145図63～74・第146図75～88・第147図89～100・第148図101～121・第149図122～139に、覆土一括扱いのものを第149図140～154・第150図155～181・第151図182～216に示した。１～46・140～168は条痕文系深鉢形土器の口縁部、47・49～121・169～185は胴部、48・122～125・186～194は底部の破片である。13は、緩い波状口縁をもつ深鉢形土器の口縁部破片である。外面には、斜方向の条痕文の上に、縦・横方向にフネガイ科貝類の腹縁圧痕文を施す。18は、平縁の深鉢形土器の口縁部大型破片である。口縁直下に深い刺突文を一条横位にめぐらす。外面には横・斜・縦方向に、内面には横・斜方向に条痕文を施す。36は、推定口径134㎜・現存器高155㎜を測る胴部に屈曲の少ない平縁の深鉢形土器である。口縁直下に幅広工具角部による連続圧痕、その下に斜位に同様の連続圧痕を付す。外面は縦・斜方向、内面は斜・縦方向の条痕文を施す。41は、推定口径168㎜・現存器高150㎜を測る胴部に屈曲の少ない平縁の深鉢形土器である。外面は横・斜方向、内面は斜方向の条痕文を施す。46は、推定口径198㎜・現存器高199㎜を測る胴部に屈曲の少ない平縁の深鉢形土器である。口縁部横位の条痕文上に絡条体圧痕文を施す。74は、現存器高290㎜・胴部推定最大径268㎜を測る胴部から口縁部にかけての開きが強い深鉢形土器である。外面は斜・縦方向、







セクション位置：A−A′

No.	種別（土の混じり具合）	主体貝	その他の貝	備考
I	混土貝層			

セクション位置：B−B′

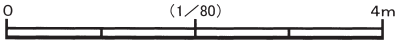
No.	種別（土の混じり具合）	主体貝	その他の貝	備考
I	混土貝層			

セクション位置：A−A′

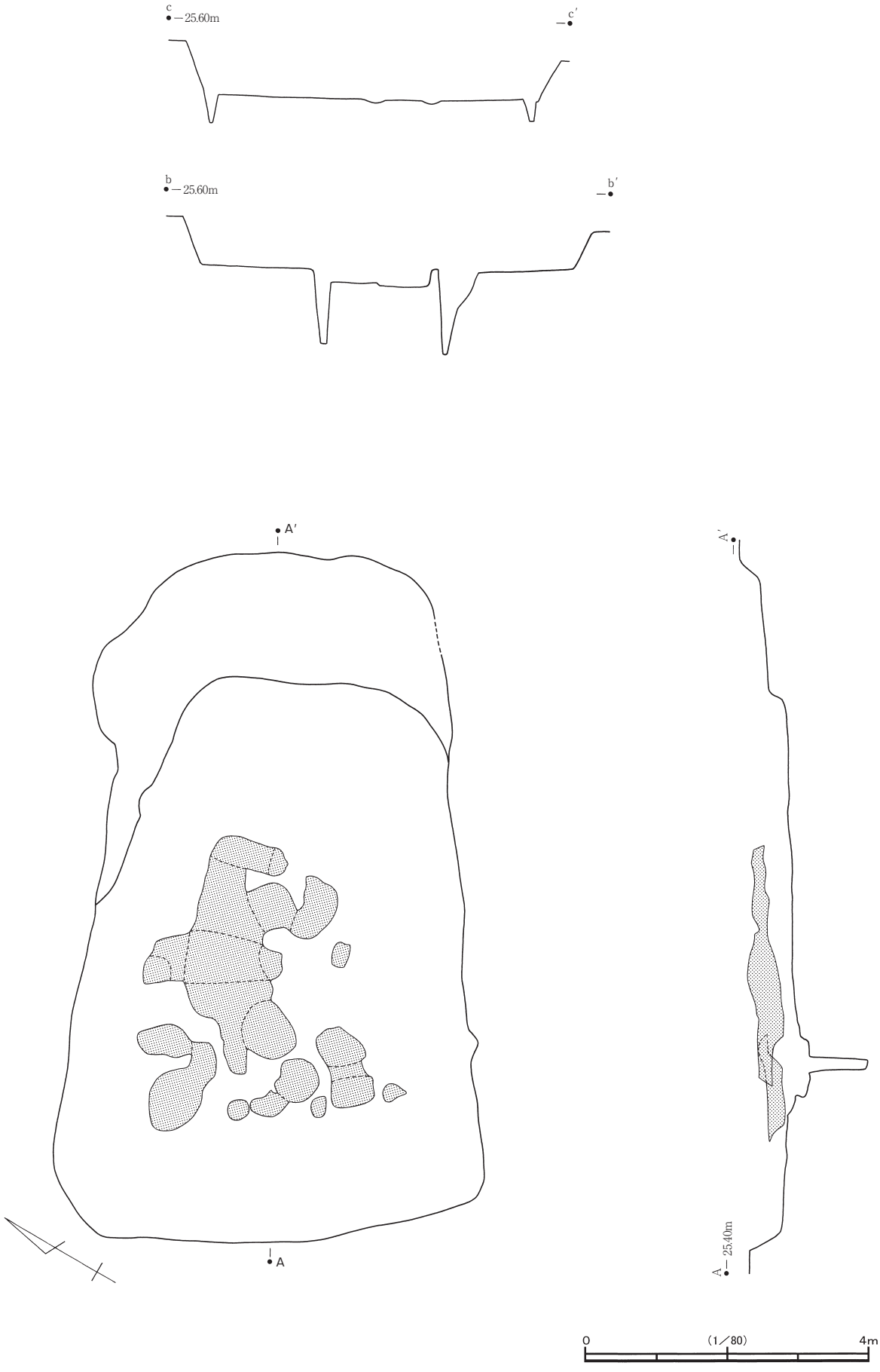
No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒色	黒色土ブロック・ローム粒・若干のテフラブロック			
2	暗褐色	黒褐色土ブロック・テフラブロック・ローム粒			
3	暗茶褐色	テフラブロック・ローム			
4		少量の貝			
5	暗黒茶	多量のローム粒・少量のロームブロック			
6	暗茶褐色	ロームブロック・ローム粒			
7	暗茶色	ロームブロック			
8	暗黒茶褐色	テフラ			
9	黒茶色	ローム粒・多量の焼土塊	軟質		
10					焼土
11	暗黒褐色	ローム粒・若干のロームブロック・灰			
12	やや暗い暗茶色				
13					
14	やや明るい暗茶色				
15	暗茶色	ローム粒			

セクション位置：B−B′

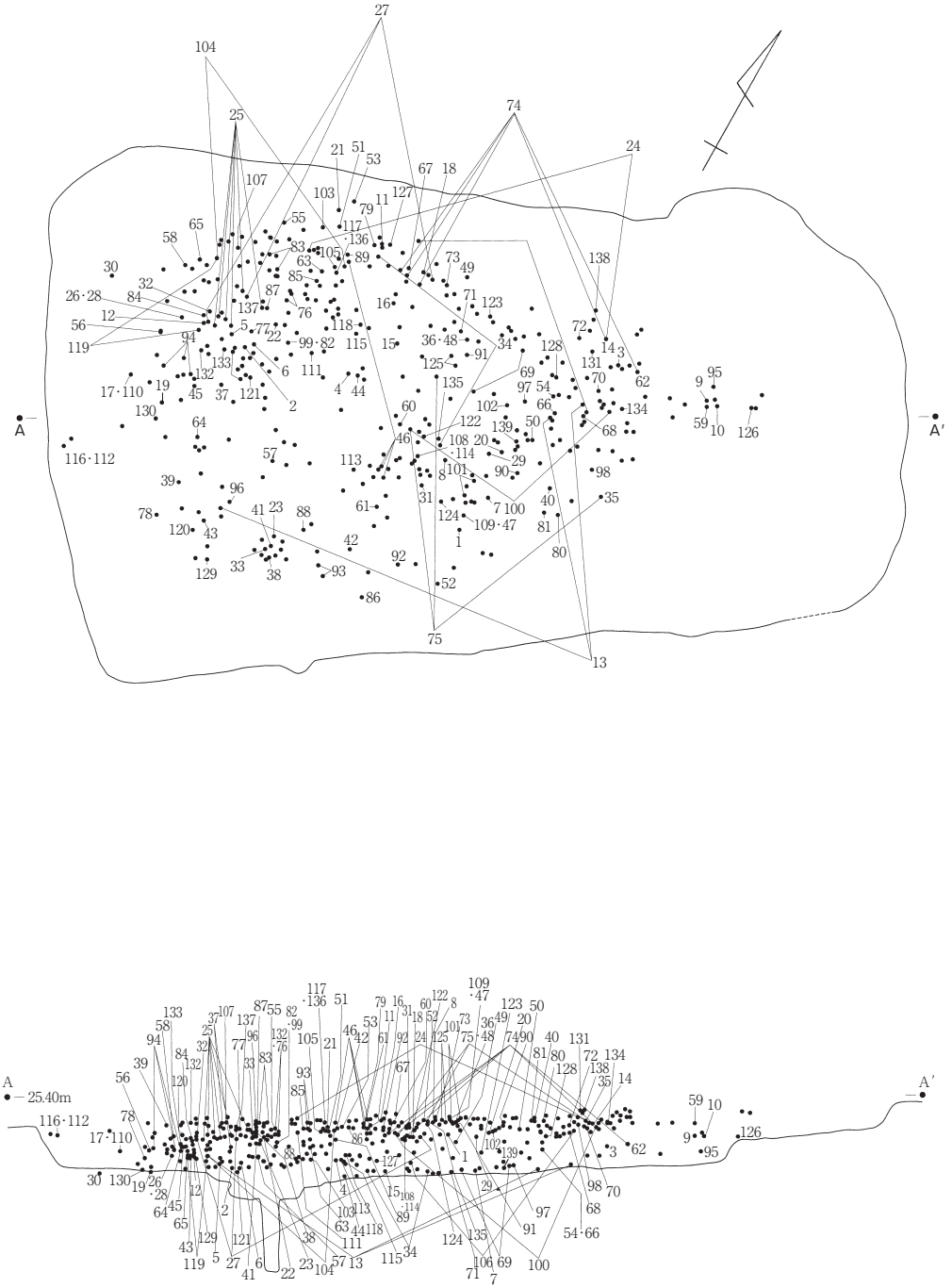
No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒色	黒色土ブロック・多量のローム粒・若干のテフラブロック			
2	暗黒茶色				
3	黒色	黒色土ブロック・テフラブロック・ローム粒			
4	暗黒茶色				
5	暗茶色	ローム粒			
6	暗黒茶色	多量のローム粒・少量のロームブロック・焼土塊			
7	暗茶色	ローム粒・ロームブロック			
8	やや暗い暗褐色	ローム粒・ブロック			
9	暗茶色	ローム粒・ロームブロック・焼土粒			
10	暗茶色	ローム粒・ブロック			



第137図　34号住居跡実測図(1)

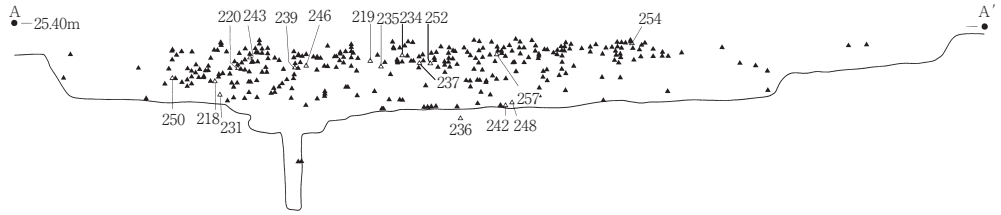


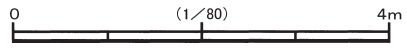
第138図　34号住居跡実測図(2)

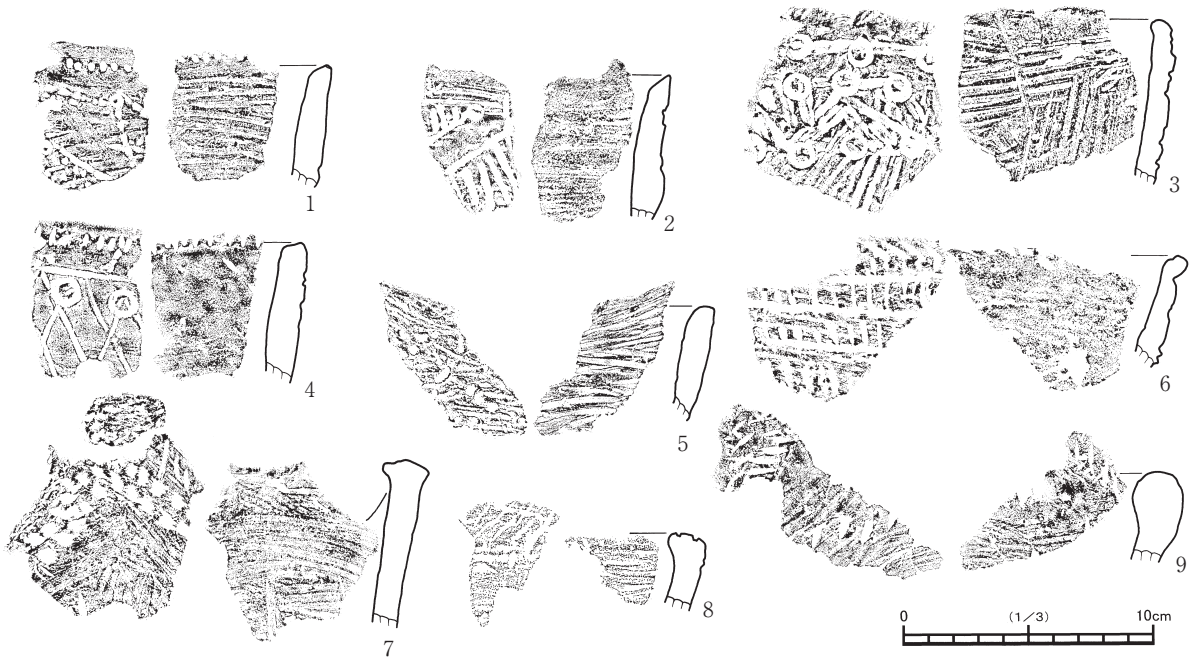


第139図　34号住居跡遺物出土状況図(1)









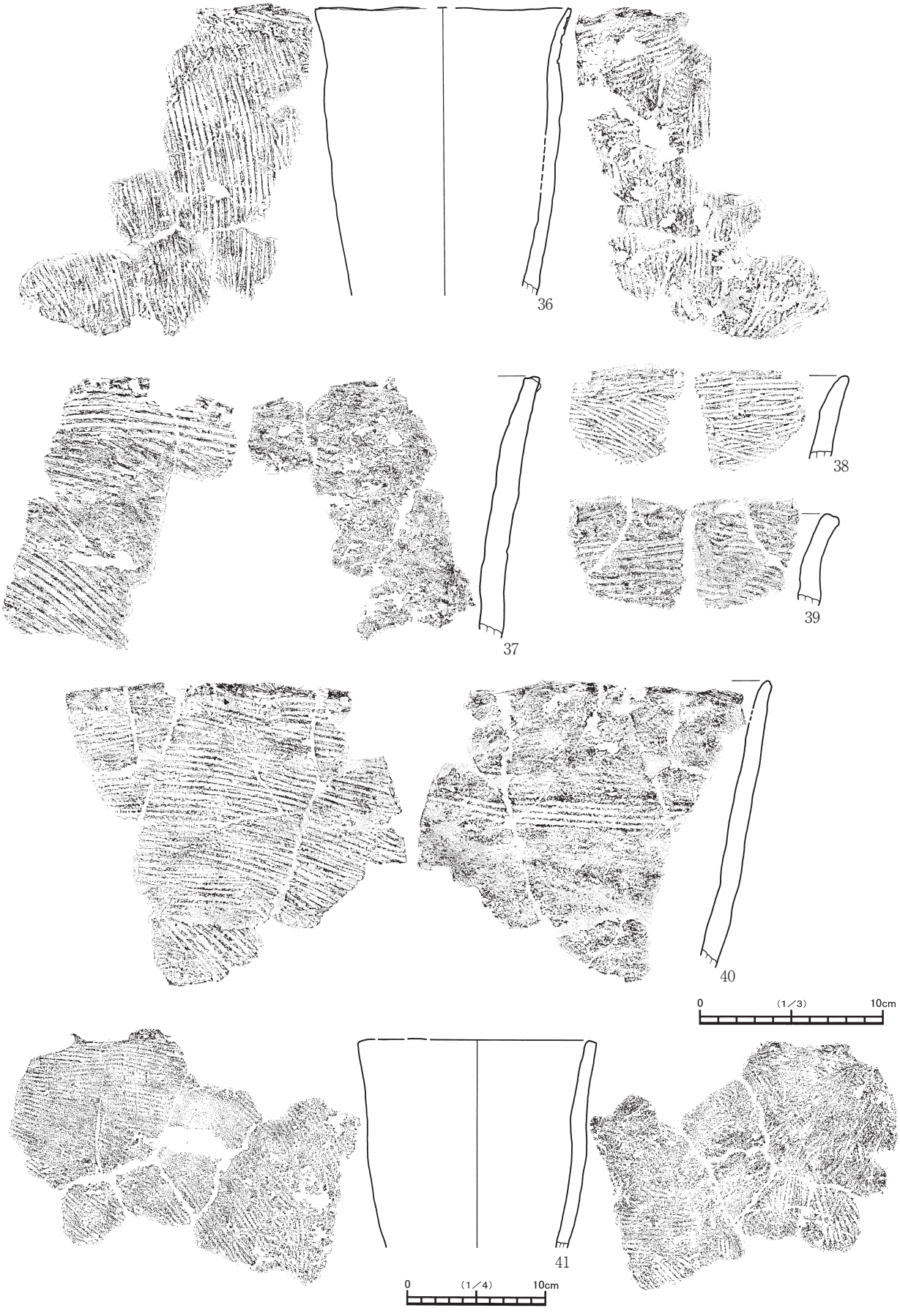
第140図　34号住居跡遺物出土状況図(2)および出土遺物実測図(1)



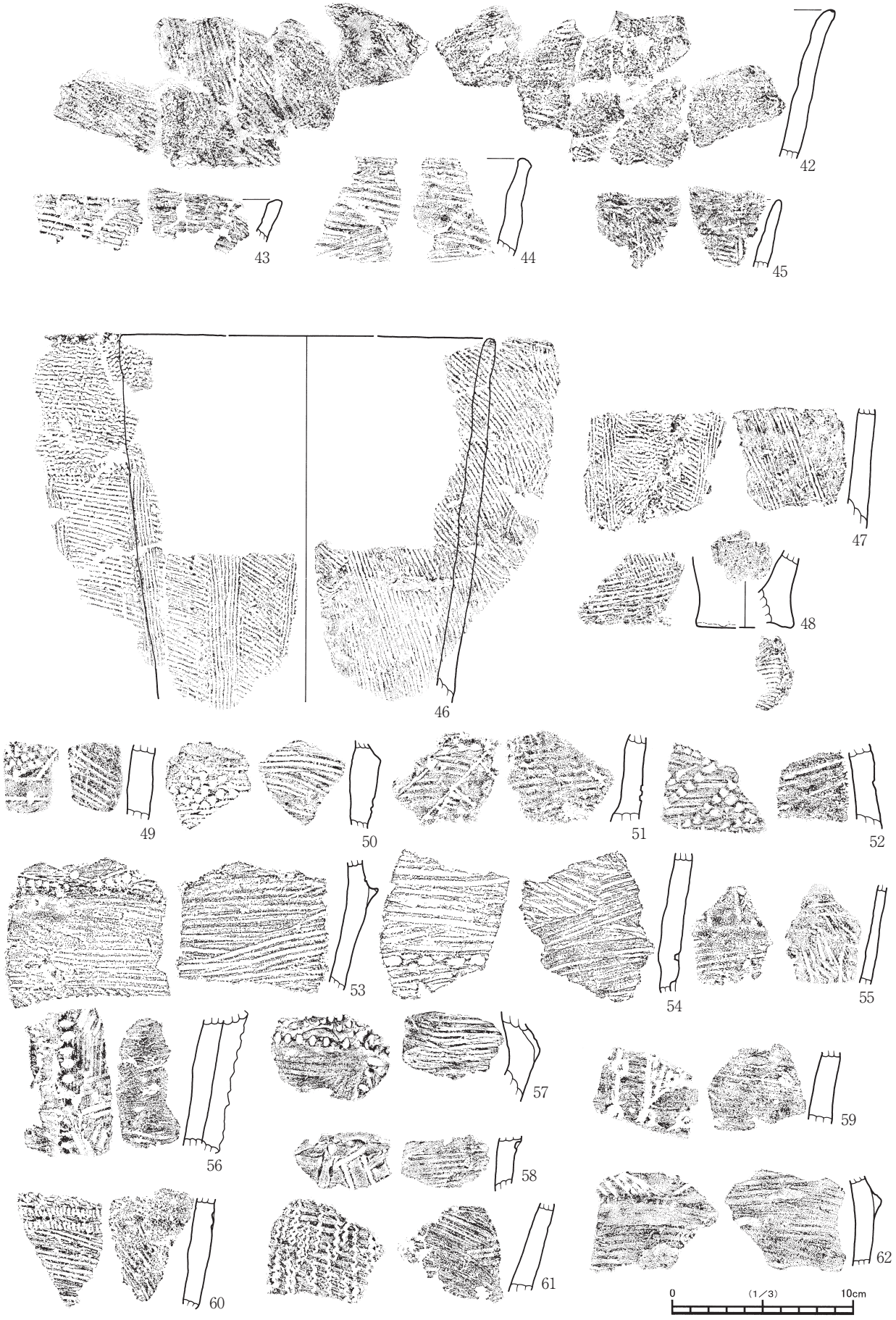
第141図　34号住居跡出土遺物実測図(2)



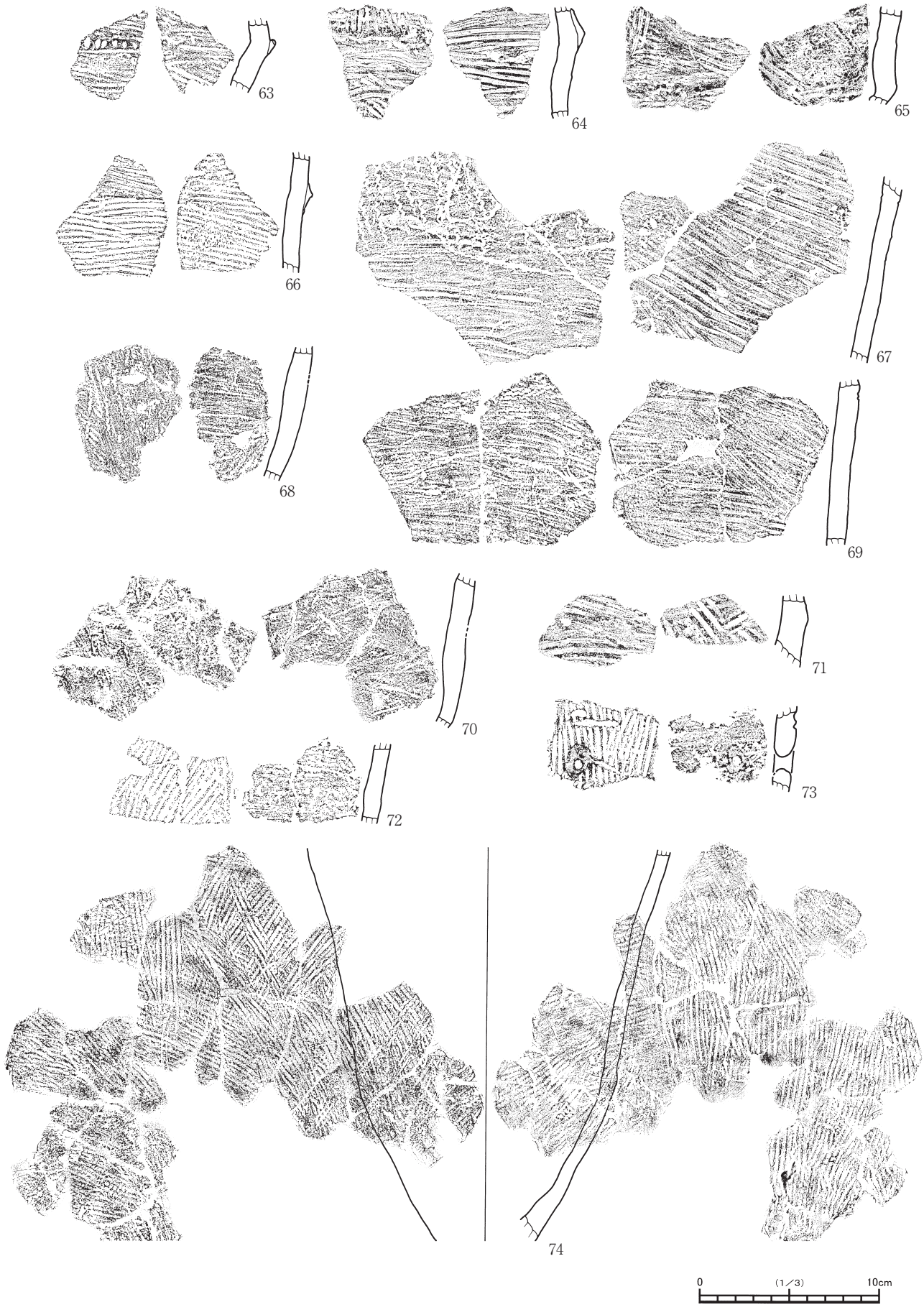
第142図　34号住居跡出土遺物実測図(3)



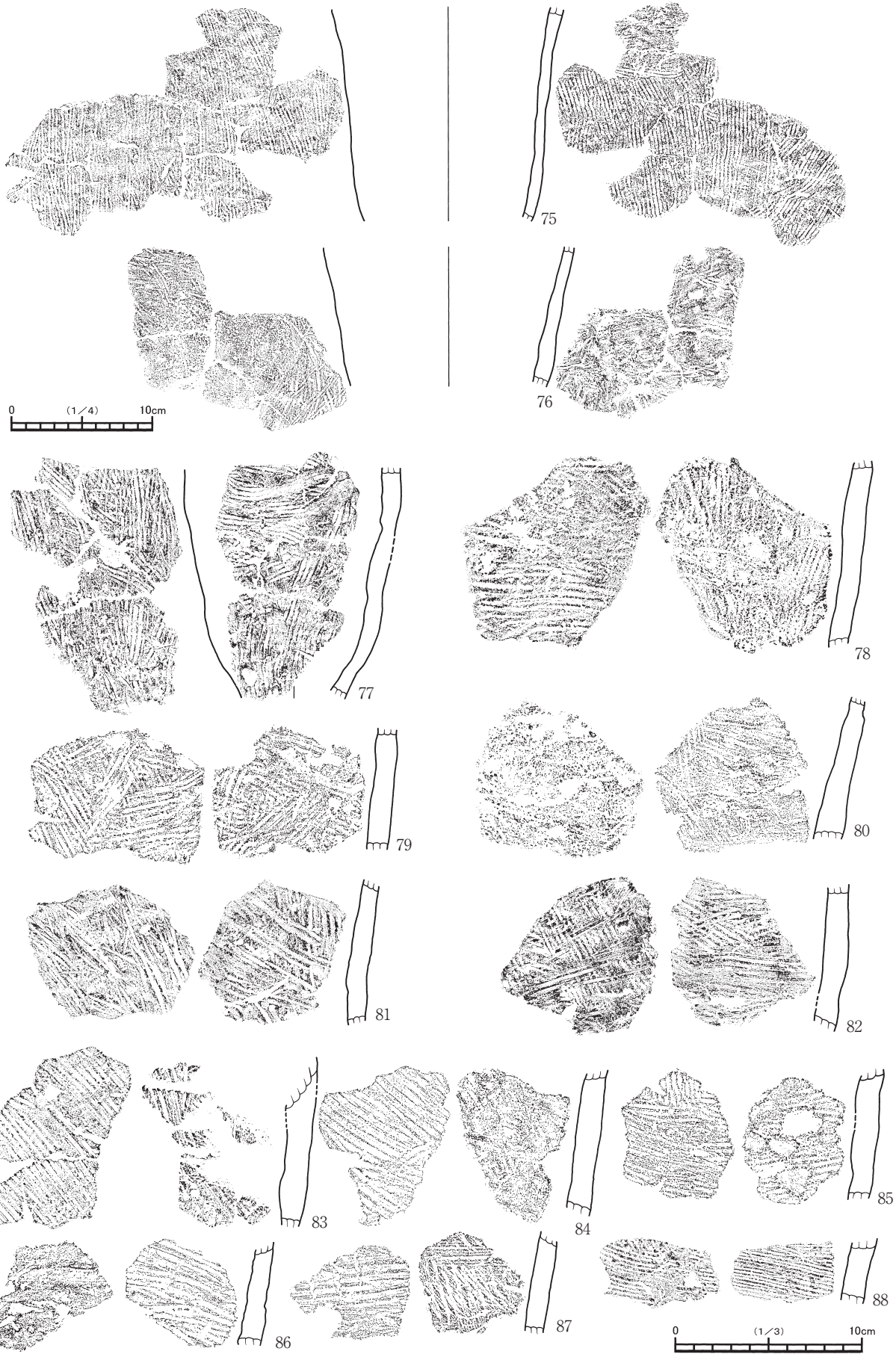
第143図　34号住居跡出土遺物実測図(4)



第144図　34号住居跡出土遺物実測図(5)



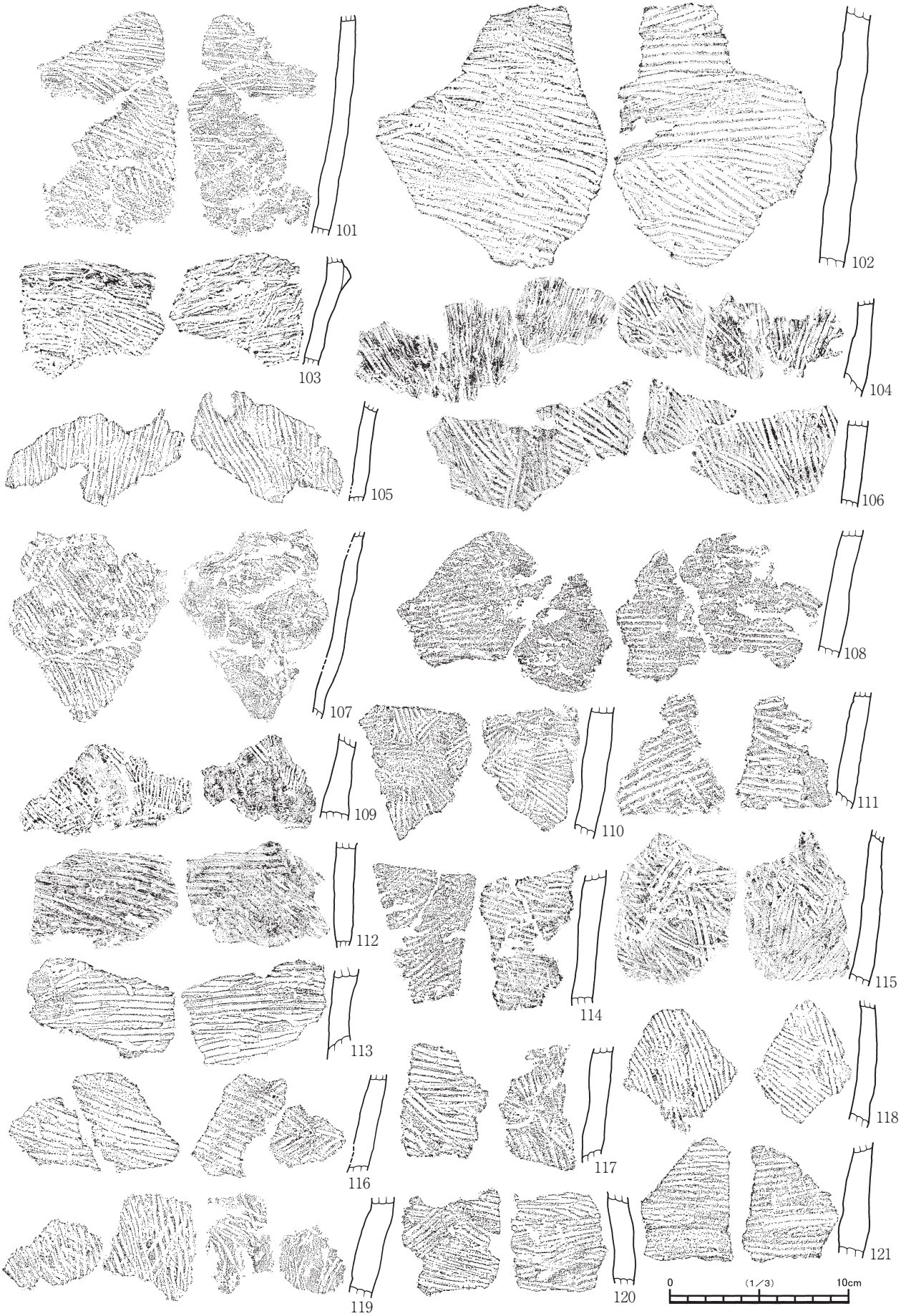
第145図　34号住居跡出土遺物実測図(6)



第146図　34号住居跡出土遺物実測図(7)



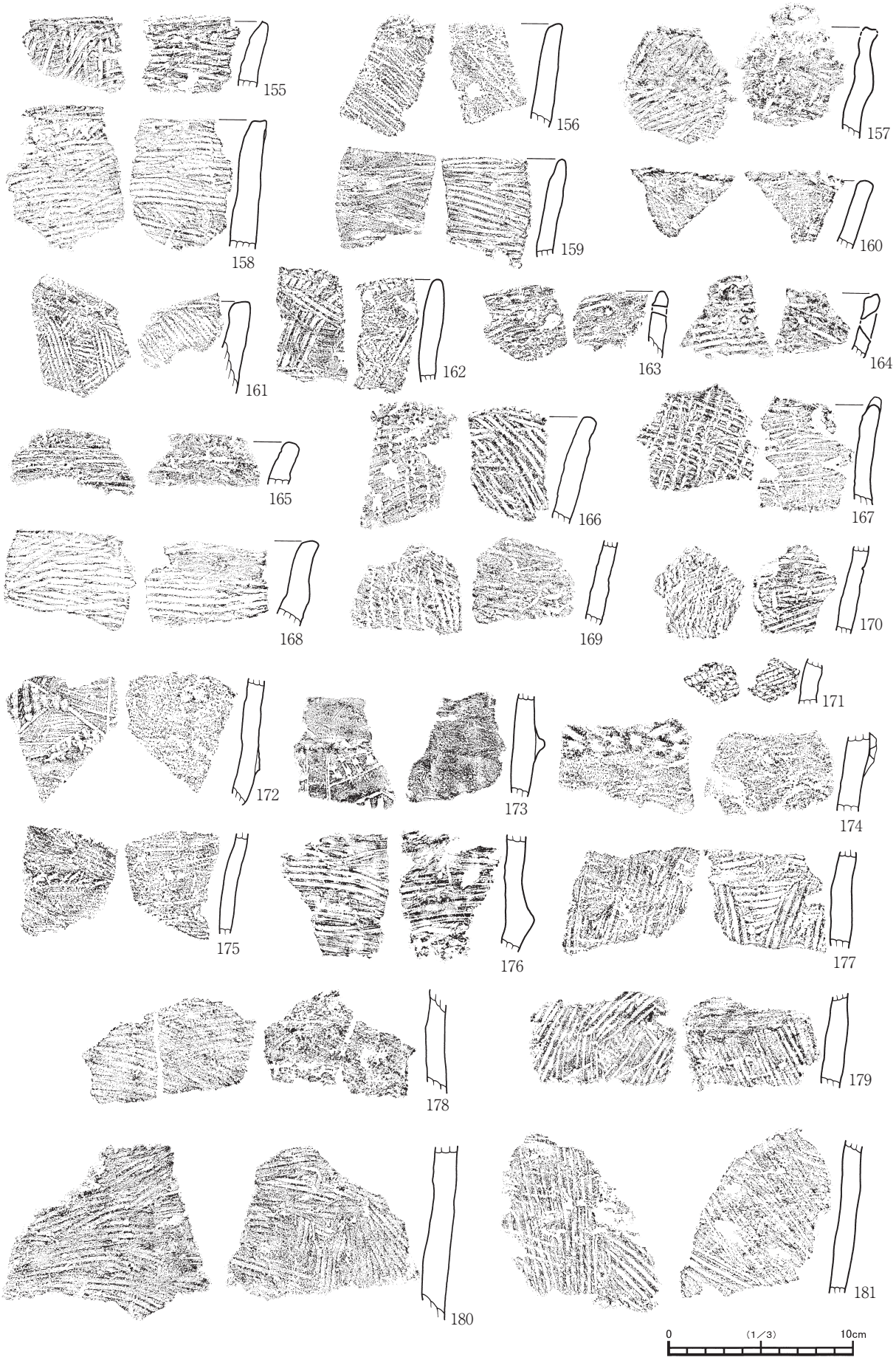
第147図　34号住居跡出土遺物実測図(8)



第148図　34号住居跡出土遺物実測図(9)



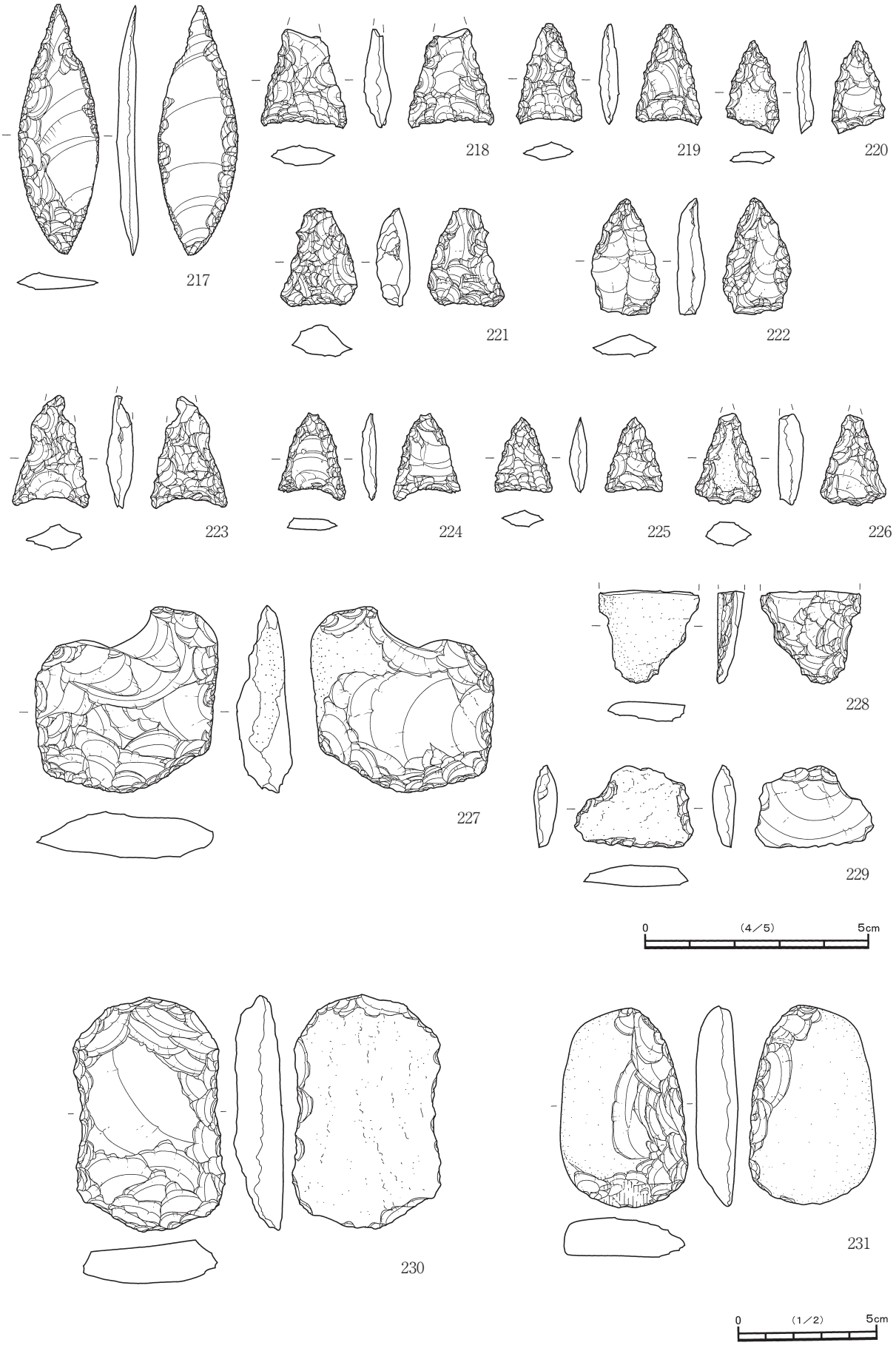
第149図　34号住居跡出土遺物実測図(10)



第150図　34号住居跡出土遺物実測図(11)



第151図　34号住居跡出土遺物実測図(12)



第152図　34号住居跡出土遺物実測図(13)



第153図　34号住居跡出土遺物実測図(14)